

崩り遺跡 I

第1分冊 繩文遺構編

二〇一八年一月

喜界町教育委員会

2018年1月

喜界町教育委員会

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（16）

- 畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

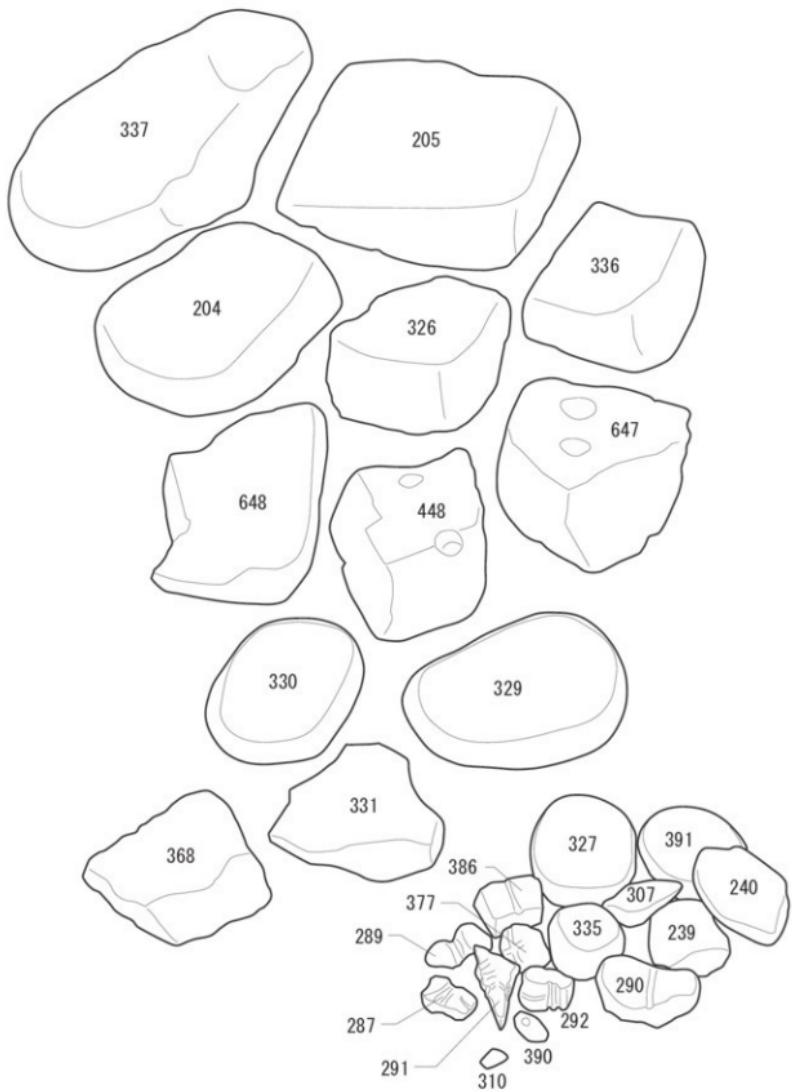
崩り遺跡 I

第1分冊 繩文遺構編

2018年1月

喜界町教育委員会





序 文

この報告書は、畠地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴い、平成23～24年度に実施した崩り遺跡の埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

本遺跡では、縄文時代の住居跡や中世の土坑墓、製鉄関連遺構など数々の重要な発見がありました。特に製鉄関連遺構は、南西諸島では初めての発見であり、喜界島のみならず奄美や沖縄の歴史を考えるうえで重要な遺構であることから、多くの関係者の御理解のもと現地保存する運びとなりました。また、縄文時代の住居跡から見つかった数多くの石器や土器などは、当時の島と島、人と人とのつながりを示すものであり、喜界島が古くから人々の交流が盛んであった島であることがわかつてきました。これらは、これまで行われてきた発掘調査と合わせ、喜界島の歴史的変遷を明らかにする貴重な成果になると考えられます。今回の発掘調査報告書によって、多くの方が崩り遺跡について御理解いただくと共に、今後とも広く文化財の保護に御理解と御協力をいただくことができましたら幸いです。

最後に、発掘調査や整理作業に従事していただいた町民の皆様をはじめ、発掘調査から報告書作成にいたるまで御指導・御協力いただきました鹿児島県教育庁文化財課、県立埋蔵文化財センター、御指導並びに玉稿を賜りました先生方、調査に御配慮くださいました大島支庁喜界事務所農村整備係、その他関係機関の方々に対し、深く感謝の意を表すとともにお礼申し上げます。

平成30年1月

喜界町教育委員会

教育長 積山 泰夫

例　　言

- 1 本報告書は、畠地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴う崩壊遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成 23 年度～24 年度に喜界町教育委員会が鹿児島県農政部農地整備課（大島支庁喜界事務所農村整備係）の受託事業として、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・支援のもと実施した。
- 3 整理作業及び報告書作成は、喜界町教育委員会が平成 27～29 年度事業として鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・支援のもと実施した。
- 4 本書に用いたレベル数値は絶対海拔高による。
- 5 遺構・遺物の縮尺はそれぞれの挿図内に提示してある。遺構は 40 分の 1 もしくは 80 分の 1、遺物は 3 分の 1 を基本とするが、一部 100 分の 1・250 分の 1 等で示しているものもある。
- 6 遺物番号は全て通し番号とし、本文及び挿図、図版番号とも一致する。
- 7 本報告書の遺構番号（掘立柱建物跡・土坑・溝など）は、報告書をまとめると付与した通し番号である。ただし、出土遺物の注記及び記録写真等は発掘調査中に付与した遺構番号（以下、旧名称）で行っている為、本報告書の遺構番号と旧名称の対応を第 1 表遺構名対応表にまとめることとする。
- 8 貿易陶磁器については、アジア水中考古学研究所理事田中克子氏の指導のもと分類を行った。また、次の論文等を参考にした。『太宰府奈良跡 XV』（太宰府市教育委員会 2000）、「沖縄における貿易陶磁研究」（瀬戸ほか 2007）、「14～16 世紀の白磁の形式分類と編年」（森田 1982）、「13～14 世紀の琉球と福建」（木下編 2009）。
- 9 石器の石材同定の一部は、山口大学教授今岡照喜氏のご教授による。また、貝の同定の一部は、千葉県立中央博物館黒住耐二氏のご教授による。
- 10 遺物の実測・トレースは、整理作業員の協力のもと松原信之・野崎拓司・安武憲史が行った。遺物写真撮影は、（公財）鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター吉岡康弘氏、鹿児島県立埋蔵文化財センター今村紀記氏及び松原が行った。
- 11 第 IV 章自然科学分析については、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長村上恭通氏、早稲田大学講師樋原岳二氏、国立歴史民俗学博物館特任助教渋谷綾子氏、奈良文化財研究所保存修復科学研究室研究員田村朋美氏、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター教授高宮広士氏に玉穂いただいた。
また、炭化物の年代測定及び樹種同定は（株）パレオ・ラボ、（株）加速器分析研究所、パリノ・サーヴェイ（株）に、琥珀の FT-IR（赤外分光）分析は（公財）元興寺に委託した。
- 12 発掘調査・整理作業（当時）にあたっては、次の方々に御指導・御助言をいただいた。記して感謝申し上げます。
- 東京大学総合研究博物館特別研究員覚張隆史氏、千葉県立博物館黒住耐二氏、早稲田大学非常勤講師樋原岳二氏、京都国立博物館名譽館員久保曾康氏、奈良大学教授坂井秀弥氏、奈良文化財研究所保存修復科学研究室研究員田村朋美氏、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長村上恭通氏、山口大学教授今岡照喜氏、西南学院大学准教授伊藤慎二氏、熊本大学教授木下尚子氏、鹿児島大学名誉教授西中川駿氏、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター助教新里貴之氏、鹿児島大学短期大学教授竹中正巳氏、ラ・サール高校教諭永山修一氏、奄美市立奄美博物館館長中山清美氏、琉球大学教授池田栄史氏、沖縄県教育庁文化財課主任専門員山本正昭氏
- 13 本書の編集は松原が担当した。また、主な執筆分担は以下のとおりである。なお、第 III 章 4 節(9)製鉄関連遺構については村上恭通氏のご厚意による。
第 I 章、第 III 章第 1・2 節・第 4 節(1)～(8)・(9)包含層、第 V 章、第 VI 章第 1・3 節……………松原信之
第 II 章……………安武憲史
第 III 章 4 節(9)掘立柱建物跡へ塗土跡・ピット、第 VI 章第 2 節……………野崎拓司
第 III 章 4 節(9)製鉄関連遺構……………愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長　村上恭通氏
- 14 出土した遺物は喜界町埋蔵文化財センターで保管し、展示・活用する計画である。



第1図 崩り遺跡位置図

第1表 遺構名対応表

報告書名	旧名称	区	報告書名	旧名称	区	報告書名	旧名称	区
SH01	SH10	J-2	SK01	SH20	L-3	SD01	SD17	P·Q-18
SH02	SH5	J-3	SK02	SH23	K·L-3	SD02	SD18	O-16
SH03	SH7	J-2·3	SK03	SH31	K-3	SD03	SD15	O·P-16
SH04	SH4	K-2	SK04	SH39	L-2	SD04	SD13	O-14
SH05	SH28·29	K-2	SK05	SH18	K·L-2	SD05	SD14	O-15
SH06	SH24	K-3	SK06	SH36	K-2	SD06	SD12	M-12
SH07	SH25	K-3	SK07	SH35	K-3·4	SD07	SD19	M-13
SH08	SH22	L-3	SK08	SH30	K-1	SD08	SD20	M-13
SH09	SH21	L-3	SK09	SH19	L-3	SD09	SD21	M-13
SH10	SH27	J-1·2	SK10	SK32	P-18	SD10	SD22	M-13
SH11	SH8	J-2	SK11	SK2	P-12	SD11	SD23	M-13
SH12	SH9	J·K-2	SK12	SK38	O-13	SD12	SD24	M-13
SH13	SH11	K-2	SK13	SK30	Q-13	SD13	SD25	N-13
SH14	SH12	K-2	SK14	SK34	P-17	SD14	SD26	N-12
SH15	SH34	L-1	SK15	SK33	O-15	SD15	SD27	N-12
SH16	SH40/41	K·L-2	SK16	SK35	N-12	SD16	SD3	M·N-13·14
SH17	SH15	K-2	SK17	SK17	Q-18	SD17	SD2	P-7
SH18	SH16	K-2	SK18	SK18	Q-18	款18	SD5	O-13
SH19	SH42	L-2	SK19	SK19	Q-18	款19-1	SD6	O-13
SH20	SH14	L-2	SK20	SK20	P-18	款19-2	SD7	O-13
SH21	SH13	L-2	SK21	SK21	Q-18			
SH22	SH17	K-1	SK22	SK22	Q-18	焼土跡01	焼35	K-3
SH23	SH37/38	K·L-1	SK23	SK23	P-18	焼土跡02	焼36	K-3
SH24	SH32	L-2	SK24	SK24	P-18	焼土跡03	焼55	S-20
SH25	SH33	L-2	SK25	SK27	P-18	焼土跡04	焼52	V-31
SH26	SH43	K·L-1	SK26	SK31	P-14	焼土跡05	焼53	V-31
SH27	SH26	K-2	SK27	SK51	V-26	焼土跡06	焼30	M-11
			SK28	SK39	K-2	焼土跡07	焼50	Q-20
			SK29	SK40	L-3	焼土跡08	焼56	U-30
			SK30	SK37	M-13	焼土跡09	焼07	M-13
			SK31	SK41	K-3			
			SK32	SK06	P-8			

全体目次

第1分冊

巻頭カラー

序文

例言

遺跡位置図

第I章 調査の経過

第1節 発掘調査に至るまでの経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 崩り遺跡調査の経過	5

第II章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7

第III章 調査の方法と成果

第1節 調査の概要	11
第2節 発見された縄文時代の遺構・遺物	19
(1) 縄文時代の石器の分類	19
(2) 縄文時代の土器の分類	22
(3) 積穴状遺構 (SH)	24
(4) 土坑 (SK)	52
(5) 溝状遺構 (SD)	66
(6) 縄文時代の遺構からの出土遺物	69
第3節 縄文時代の自然科学分析	
(1) 崩り遺跡から出土した石器の残存デン ブン粒分析	151
(2) 崩り遺跡出土遺物の科学分析	157
(3) 崩り遺跡出土炭化物の放射性炭素年代 測定 (AMS法) 及び樹種同定	161

第2分冊

第4節 発見された中世の遺構・遺物	1
(1) 挖立柱建物跡 (SB)	6
(2) 土坑墓	36
(3) 土坑 (SK)	38
(4) 燃土跡	42
(5) 溝状遺構 (SD)	44
(6) 敵状遺構	45
(7) 石列	47
(8) 製鉄関連遺構	48

(9) 遺構内・包含層出土遺物	50
-----------------	----

第IV章 自然科学分析

第1節 崩り遺跡の製鉄関連遺物について	83
第2節 崩り遺跡出土ガラス玉の調査	86
第3節 崩り遺跡の平成23~24年度調査で採取 された脊椎動物遺体出土の動物遺体	87
第4節 崩り遺跡出土の植物遺体分析	122
第5節 崩り遺跡出土炭化物の放射性炭素年代 測定 (AMS法) 及び樹種同定	
(1) 土坑墓1号	133
(2) 燃土跡05号 掘立柱建物跡6号P16 (P606)	137
(3) フローテーション出土炭化物の放射性 炭素年代測定	141

第V章 基礎資料

ピット内出土遺物一覧	147
包含層出土遺物一覧	152
1/200 詳細遺構配置図	153

第VI章 まとめ

第1節 縄文時代の遺構・遺物	163
第2節 中世の遺構・遺物	175
第3節 総括	181
写真図版	185
報告書抄録	221

挿図目次

第1図 崩り遺跡位置図

第2図 平成21年度確認調査位置図	6
第3図 南西諸島の諸島・群島・列島の名称と範囲	7
第4図 主な島内遺跡位置図	9
第5図 基本断面図	11
第6図 土層断面図	12
第7図 崩り遺跡調査区割図	13
第8図 崩り遺跡範囲	14
第9図 崩り遺跡調査区全体図	15
第10図 崩り遺跡北側詳細図	16
第11図 崩り遺跡中央部詳細図	17
第12図 崩り遺跡南側詳細図	18
第13図 崩り遺跡南側遺構詳細図	19
第14図 崩り遺跡中央部遺構詳細図	20
第15図 SH01 実測図	25
第16図 SH02 実測図	26
第17図 SH03 実測図	27
第18図 SH04 実測図	28
第19図 SH05 実測図	30
第20図 SH06・SH07 実測図	31
第21図 SH08・SH09 実測図	33
第22図 SH10 実測図	34
第23図 SH11・SH12 実測図	35
第24図 SH13 実測図	37
第25図 SH14 実測図	38
第26図 SH15 実測図	40
第27図 SH16～SH21 実測図	41
第28図 SH22・SH23 実測図	46
第29図 SH24・SH25 実測図	48
第30図 SH26 実測図	50
第31図 SH27 実測図	51
第32図 SK01 実測図	52
第33図 SK02 実測図	53
第34図 SK03 実測図	54
第35図 SK04 実測図	54
第36図 SK05 実測図	55
第37図 SK06 実測図	56
第38図 SK07 実測図	58
第39図 SK08 実測図	59
第40図 SK09 実測図	59
第41図 SK10 実測図	60
第42図 SK11 実測図	61
第43図 SK12 実測図	62
第44図 SK13 実測図	63
第45図 SK14 実測図	63

第46図 SK15 実測図	64
第47図 SK16 実測図	65
第48図 SD01 実測図	66
第49図 SD02・SD03 実測図	67
第50図 SD04 実測図	67
第51図 SD05 実測図	67
第52図 SD06 実測図	68
第53図 SD07～SD15 実測図	68
第54図 SH01 出土遺物 (1)	79
第55図 SH01 出土遺物 (2)	80
第56図 SH02 出土遺物	80
第57図 SH03 出土遺物 (1)	80
第58図 SH03 出土遺物 (2)	81
第59図 SH04 出土遺物 (1)	82
第60図 SH04 出土遺物 (2)	83
第61図 SH05 出土遺物 (1)	83
第62図 SH05 出土遺物 (2)	84
第63図 SH05 出土遺物 (3)	85
第64図 SH05 出土遺物 (4)	86
第65図 SH05 出土遺物 (5)	87
第66図 SH05 出土遺物 (6)	88
第67図 SH05 出土遺物 (7)	89
第68図 SH05 出土遺物 (8)	90
第69図 SH06 出土遺物	90
第70図 SH07 出土遺物	91
第71図 SH06・SH07 出土遺物	91
第72図 SH08 出土遺物	92
第73図 SH08・SH09 出土遺物	92
第74図 SH10 出土遺物 (1)	92
第75図 SH10 出土遺物 (2)	93
第76図 SH11 出土遺物 (1)	93
第77図 SH11 出土遺物 (2)	94
第78図 SH12 出土遺物 (1)	95
第79図 SH12 出土遺物 (2)	96
第80図 SH12 出土遺物 (3)	97
第81図 SH12 出土遺物 (4)	98
第82図 SH13 出土遺物 (1)	98
第83図 SH13 出土遺物 (2)	99
第84図 SH13 出土遺物 (3)	100
第85図 SH13 出土遺物 (4)	101
第86図 SH13 出土遺物 (5)	102
第87図 SH14 出土遺物 (1)	103
第88図 SH14 出土遺物 (2)	104
第89図 SH15 出土遺物 (1)	104
第90図 SH15 出土遺物 (2)	105
第91図 SH16 出土遺物	106
第92図 SH17 出土遺物 (1)	107

第93図 SH17出土遺物（2）	108
第94図 SH18出土遺物（1）	109
第95図 SH18出土遺物（2）	110
第96図 SH18出土遺物（3）	111
第97図 SH19出土遺物（1）	112
第98図 SH19出土遺物（2）	113
第99図 SH20出土遺物（1）	114
第100図 SH20出土遺物（2）	115
第101図 SH20出土遺物（3）	116
第102図 SH21出土遺物（1）	117
第103図 SH21出土遺物（2）	118
第104図 SH16～SH21出土遺物	119
第105図 SH22出土遺物	120
第106図 SH23出土遺物（1）	121
第107図 SH23出土遺物（2）	122
第108図 SH23出土遺物（3）	123
第109図 SH22・SH23出土遺物	124
第110図 SH24出土遺物	124
第111図 SH25出土遺物（1）	125
第112図 SH25出土遺物（2）	126
第113図 SH26出土遺物	127
第114図 SH27出土遺物	127
第115図 SH一括出土遺物	127
第116図 SK01出土遺物	131
第117図 SK02出土遺物	131
第118図 SK03出土遺物（1）	132
第119図 SK03出土遺物（2）	133
第120図 SK04出土遺物	134
第121図 SK05出土遺物	134
第122図 SK06出土遺物（1）	135
第123図 SK06出土遺物（2）	136
第124図 SK06出土遺物（3）	137
第125図 SK07出土遺物（1）	137
第126図 SK07出土遺物（2）	138
第127図 SK09出土遺物	138
第128図 SK10出土遺物	138
第129図 SK11出土遺物	139
第130図 SK12出土遺物	139
第131図 SK13出土遺物	139
第132図 SK14出土遺物	139
第133図 SK16出土遺物	140
第134図 SD01出土遺物	140
第135図 SD06出土遺物	140
第136図 分析した崩り遺跡の石器と検出された残存 デンブン粒（1）	155
第137図 分析した崩り遺跡の石器と検出された残存 デンブン粒（2）	156
第138図 琥珀分析資料	157
第139図 分析対象遺物の赤外吸収スペクトル	158
第140図 標準琥珀と分析対象遺物の赤外吸収 スペクトル	159
第141図 喜界町出土遺物の赤外吸収スペクトル	159
第142図 分析対象遺物の熱分析	159
第143図 標準琥珀の熱分析	159
第144図 標準琥珀と分析対象遺物の熱分析	160
第145図 喜界町内遺跡出土遺物の熱分析	160
第146図 曆年較正結果	163
第147図 崩り遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真	165

表目次

第1表 遺構名対応表	8
第2表 主な島内遺跡地名表	13
第3表 土層説明	21
第4表 崩り遺跡出土の石器の石材一覧	22
第5表 壺器分類表（1）	23
第6表 壺器分類表（2）	23
第7表 窓穴状遺構（SH）一覧	24
第8表 SH01出土土器集計表	25
第9表 SH01出土石器・骨製品集計表	25
第10表 SH02出土土器集計表	26
第11表 SH02出土石器・骨製品集計表	26
第12表 SH03出土土器集計表	27
第13表 SH03出土石器・骨製品集計表	27
第14表 SH04出土土器集計表	28
第15表 SH04出土石器・骨製品集計表	28
第16表 SH05出土土器集計表	30
第17表 SH05出土石器・骨製品集計表	30
第18表 SH06出土土器集計表	31
第19表 SH06出土石器・骨製品集計表	31
第20表 SH07出土土器集計表	32
第21表 SH07出土石器・骨製品集計表	32
第22表 SH08出土土器集計表	32
第23表 SH08出土石器・骨製品集計表	32
第24表 SH09出土土器集計表	32
第25表 SH09出土石器・骨製品集計表	32
第26表 SH10出土土器集計表	34
第27表 SH10出土石器・骨製品集計表	34
第28表 SH11出土土器集計表	36
第29表 SH11出土石器・骨製品集計表	36
第30表 SH12出土土器集計表	36
第31表 SH12出土石器・骨製品集計表	36

第32表 SH13出土土器集計表	37
第33表 SH13出土石器・骨製品集計表	37
第34表 SH14出土土器集計表	38
第35表 SH14出土石器・骨製品集計表	38
第36表 SH15出土土器集計表	40
第37表 SH15出土石器・骨製品集計表	40
第38表 SH16出土土器集計表	43
第39表 SH16出土石器・骨製品集計表	43
第40表 SH17出土土器集計表	43
第41表 SH17出土石器・骨製品集計表	43
第42表 SH18出土土器集計表	43
第43表 SH18出土石器・骨製品集計表	43
第44表 SH19出土土器集計表	44
第45表 SH19出土石器・骨製品集計表	44
第46表 SH20出土土器集計表	44
第47表 SH20出土石器・骨製品集計表	44
第48表 SH21出土土器集計表	44
第49表 SH21出土石器・骨製品集計表	44
第50表 SH22出土土器集計表	47
第51表 SH22出土石器・骨製品集計表	47
第52表 SH23出土土器集計表	47
第53表 SH23出土石器・骨製品集計表	47
第54表 SH24出土土器集計表	49
第55表 SH24出土石器・骨製品集計表	49
第56表 SH25出土土器集計表	49
第57表 SH25出土石器・骨製品集計表	49
第58表 SH26出土土器集計表	50
第59表 SH26出土石器・骨製品集計表	50
第60表 SH27出土土器集計表	51
第61表 SH27出土石器・骨製品集計表	51
第62表 土坑(SK)一覧	52
第63表 SK01出土土器集計表	53
第64表 SK01出土石器・骨製品集計表	53
第65表 SK02出土土器集計表	53
第66表 SK02出土石器・骨製品集計表	53
第67表 SK03出土土器集計表	54
第68表 SK03出土石器・骨製品集計表	54
第69表 SK04出土土器集計表	54
第70表 SK04出土石器・骨製品集計表	54
第71表 SK05出土土器集計表	55
第72表 SK05出土石器・骨製品集計表	55
第73表 SK06出土土器集計表	56
第74表 SK06出土石器・骨製品集計表	56
第75表 SK07出土土器集計表	58
第76表 SK07出土石器・骨製品集計表	58
第77表 SK07出土貝集計表	58
第78表 SK08出土土器集計表	59
第79表 SK08出土石器・骨製品集計表	59
第80表 SK09出土土器集計表	59
第81表 SK09出土石器・骨製品集計表	59
第82表 SK10出土土器集計表	60
第83表 SK10出土石器・骨製品集計表	60
第84表 SK11出土土器集計表	61
第85表 SK11出土石器・骨製品集計表	61
第86表 SK12出土土器集計表	62
第87表 SK12出土石器・骨製品集計表	62
第88表 SK13出土土器集計表	63
第89表 SK13出土石器・骨製品集計表	63
第90表 SK14出土土器集計表	63
第91表 SK14出土石器・骨製品集計表	63
第92表 SK15出土土器集計表	64
第93表 SK15出土石器・骨製品集計表	64
第94表 SK16出土土器集計表	65
第95表 SK16出土石器・骨製品集計表	65
第96表 溝状遺構(SD)一覧	67
第97表 崩リ遺跡出土遺物観察表(1)	141
第98表 崩リ遺跡出土遺物観察表(2)	142
第99表 崩リ遺跡出土遺物観察表(3)	143
第100表 崩リ遺跡出土遺物観察表(4)	144
第101表 崩リ遺跡出土遺物観察表(5)	145
第102表 崩リ遺跡出土遺物観察表(6)	146
第103表 崩リ遺跡出土遺物観察表(7)	147
第104表 崩リ遺跡出土遺物観察表(8)	148
第105表 崩リ遺跡出土遺物観察表(9)	149
第106表 崩リ遺跡出土遺物観察表(10)	150
第107表 石器の分析資料と残存デンブン粒の 出土個数	153
第108表 石器から検出した残存デンブン粒	154
第109表 放射性炭素年代測定資料及び処理	161
第110表 放射性炭素年代測定および曆年校正の結果	162
第111表 出土炭化材の樹種同定結果一覧	164

第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経緯

鹿児島県農政部農地整備課（大島支庁喜界事務所農村整備係、以下県農政部）は、大島郡喜界町手久津久池内において、畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区を計画し事業区域内の埋蔵文化財の有無について、喜界町教育委員会（以下、町教育委員会）に照会した。

これを受け、鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下、県埋蔵文化財センター）と町教育委員会が平成19・21年度に分布調査を実施したこと、事業区域内に5つの遺物散布地（崩り遺跡・中壇遺跡・川尻遺跡・川寺遺跡・水洗遺跡^{※1}）が確認された。

この分布調査の結果をもとに、県農政部、鹿児島県教育厅文化財課（以下、県文化財課）、町教育委員会は、埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るために協議を行った結果、事業着手前に埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施することとなった。崩り遺跡の確認調査は、町教育委員会が調査主体となり、平成21年6月～11月に実施した（第2図）。調査の結果、約13,806m²の範囲で古代・中世の時期のものと考えられる遺構・遺物を確認した。

この結果をもとに、再度県農政部、県文化財課、町教育委員会は、埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るために協議を行い、記録保存を目的とした本調査を実施することとなった。

本調査は、町教育委員会が調査主体となり、県埋蔵文化財センターの支援を受け平成23～24年度にかけて実施した。この調査を進める中で、南西諸島では初見となる重要な製鉄窯連遺構が見つかり、この遺構の取り扱いについて保存と開発との調整を図る必要が生じた。平成24年10月に町教育委員会と県農政部、県文化財課は遺構の保存について検討した結果、遺構の広がる879m²の範囲を非農業地に変更し、町保有地として保存することとなった。

第2節 調査の組織

平成21年度 確認調査

事業主体者 鹿児島県農政部農地整備課
(大島支庁喜界事務所農村整備係)
調査等主体者 喜界町教育委員会
企画・調整 喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者 喜界町教育委員会 教育長 晴水 清道
調査等企画者 喜界町教育委員会生涯学習課長 益 一幸
" 課長補佐 岩松 利和
調査等担当者 喜界町教育委員会生涯学習課
埋蔵文化財係長 澄田 直敏
喜界町教育委員会生涯学習課主事 野崎 拓司
" 埋蔵文化財調査員 後藤 法宣
事務担当者 喜界町教育委員会生涯学習課主事 竹内 功
調査等指導者 鹿児島大学農学部名誉教授 西中川 駿
鹿児島県教育厅文化財課
文化財主事 川口 雅之

平成23年度 本調査

事業主体者 鹿児島県農政部農地整備課
(大島支庁喜界事務所農村整備係)
調査等主体者 喜界町教育委員会
企画・調整 喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者 喜界町教育委員会 教育長 晴水 清道
調査等企画者 喜界町教育委員会生涯学習課長 吉本 実
" 課長補佐 岩松 利和
調査等担当者 喜界町教育委員会生涯学習課
埋蔵文化財係長 澄田 直敏
喜界町教育委員会生涯学習課主事 野崎 拓司
" 埋蔵文化財調査員 宮城 良真
" 埋蔵文化財調査員 亀島 慎吾
事務担当者 喜界町教育委員会生涯学習課主事 竹内 功

※1：水洗遺跡は、川寺遺跡に隣接している中世の時期と考える遺跡であったが、平成23年度に範囲・名称変更を行ない寺御跡の一部として捉えることとなった。

調査指導者			
熊本大学教授	木下 尚子	鹿児島県立埋蔵文化財センター	富田 逸郎
鹿児島女子短期大学教授	竹中 正巳	第二調査課長	
奄美市立奄美博物館館長	中山 清美	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
琉球大学教授	池田 栄史	第一調査係長	東 和幸
鹿児島県教育庁文化財課		鹿児島県立埋蔵文化財センター	
文化財主事	中村 和美	文化財主事	中村 幸一郎
鹿児島県立埋蔵文化財センター		鹿児島県立埋蔵文化財センター	
第一調査課長	堂込 秀人	文化財主事	有馬 孝一
鹿児島県立埋蔵文化財センター		鹿児島県立埋蔵文化財センター	
文化財主事	長野 真一	文化財研究員	川口 雅之
鹿児島県立埋蔵文化財センター		鹿児島県立埋蔵文化財センター	
文化財研究員	岩永 勇亮	文化財研究員	岩永 勇亮

平成24年度 本調査

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課 (大島支厅宮界事務所農村整備係)
調査等主体者	喜界町教育委員会
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者	
喜界町教育委員会 教育長	晴永 清道
調査等企画者	
喜界町教育委員会生涯学習課長	吉本 実
〃 課長補佐	岩松 利和
調査等担当者	
喜界町教育委員会生涯学習課	
埋蔵文化財係長	澄田 直敏
喜界町教育委員会生涯学習課主事	野崎 拓司
〃	松原 信之
事務担当者	
喜界町教育委員会生涯学習課主事	竹内 功
調査等指導者	
東京大学総合研究博物館研究部	
放射性炭素年代測定室物別研究員	覚張 隆史
奈良大学教授	坂井 秀弥
早稲田大学非常勤講師	樋泉 岳二
愛媛大学東アジア古代史文化	
研究センター長	村上 茂通
琉球大学教授	池田 栄史
鹿児島県教育庁文化財課	
文化財主事	馬龍 亮道
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
所長	寺田 仁志
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
第一調査課長	堂込 秀人

平成25年度 整理作業

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課 (大島支厅宮界事務所農村整備係)
調査等主体者	喜界町教育委員会
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者	
喜界町教育委員会 教育長	
(～1月5日)	晴永 清道
喜界町教育委員会 教育長	
(1月6日～)	穠山 泰夫
調査等企画者	
喜界町教育委員会生涯学習課長	吉本 実
〃 課長補佐	岩松 利和
調査等担当者	
喜界町教育委員会生涯学習課	
主幹兼埋蔵文化財係長	澄田 直敏
喜界町教育委員会生涯学習課主事	野崎 拓司
〃 生涯学習課主事	松原 信之
〃 生涯学習課主事	早田 晴樹
〃 埋蔵文化財調査員	岩元さつき
〃 埋蔵文化財調査員	安武 憲史
〃 埋蔵文化財調査員	安柄 祐樹
〃 埋蔵文化財調査員	横山 幸平
〃 埋蔵文化財調査員	星屋 真澄
事務担当者	
喜界町教育委員会生涯学習課	
主幹兼埋蔵文化財係長	澄田 直敏
調査等指導者	
札幌大学教授	高宮 広士
大学共同利用施設法人	
人間文化研究機構理事	
早稲田大学非常勤講師	石上 英一
樋泉 岳二	

(独法)国立文化財機構奈良文化財研究所		愛媛大学東アジア古代鉄文化	
都城発掘調査部考古第一研究室長 小池 伸彦		研究センター長	村上 恭通
愛媛大学東アジア古代鉄文化		アジア水中考古学研究所	
研究センター長 村上 恭通		理事	田中 克子
西南学院大学教授 高倉 洋彰		熊本大学名誉教授	甲本 真之
熊本大学教授 甲元 真之		鹿児島県教育局文化財課	
ラ・サール高校教諭 永山 修一		文化財主事	馬龍 亮道
沖縄県教育文化財課		鹿児島県教育局文化財課	
主任専門員 山本 正昭		文化財主事	黒川 忠広
鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 井ノ上秀文		鹿児島県立埋蔵文化財センター	
鹿児島県立埋蔵文化財センター 第一調査課長 堂込 秀人		第一調査係長	大久保浩二
鹿児島県立埋蔵文化財センター 第一調査係長 東 和幸		鹿児島県立埋蔵文化財センター	
鹿児島県立埋蔵文化財センター 第二調査係長 大久保浩二		文化財研究員	今村 結記
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財研究員 今村 結記			
平成26年度 整理作業			
事業主体者 鹿児島県農政部農地整備課 (大島支厅喜界事務所農村整備係)		事業主体者 鹿児島県農政部農地整備課 (大島支厅喜界事務所農村整備係)	
調査等主体者 喜界町教育委員会		調査等主体者 喜界町教育委員会	
企画・調整 喜界町教育委員会生涯学習課		企画・調整 喜界町教育委員会生涯学習課	
調査等責任者		調査等責任者	
喜界町教育委員会 教育長 稲山 泰夫		喜界町教育委員会 教育長 稲山 泰夫	
調査等企画者		調査等企画者	
喜界町教育委員会生涯学習課長 岩松 利和		喜界町教育委員会生涯学習課長 岩松 利和	
" 調査補佐 中山 佳也		" 調査補佐 中山 佳也	
調査等担当者		調査等担当者	
喜界町埋蔵文化財センター		喜界町埋蔵文化財センター	
主幹兼埋蔵文化財係長 渡田 直敏		主幹兼埋蔵文化財係長 渡田 直敏	
喜界町埋蔵文化財センター主事 野崎 拓司		喜界町埋蔵文化財センター主事 野崎 拓司	
" 主事 松原 信之		" 主事 松原 信之	
" 主事 早田 晴樹		" 主事 早田 晴樹	
" 埋蔵文化財調査員 岩元さつき		" 埋蔵文化財調査員 岩元さつき	
" 埋蔵文化財調査員 安武 憲史		" 埋蔵文化財調査員 安武 憲史	
" 埋蔵文化財調査員 安柄 祐樹		" 埋蔵文化財調査員 安柄 祐樹	
" 埋蔵文化財調査員 黒屋 真澄		" 埋蔵文化財調査員 黒屋 真澄	
事務担当者		事務担当者	
喜界町埋蔵文化財センター		喜界町埋蔵文化財センター	
主幹兼埋蔵文化財係長 渡田 直敏		主幹兼埋蔵文化財係長 渡田 直敏	
喜界町埋蔵文化財センター主事 松原 信之		喜界町埋蔵文化財センター主事 松原 信之	
調査等指導者		調査等指導者	
早稲田大学非常勤講師 桶井 岳二		京都国立博物館名譽館員 久保 智康	
		元興寺文化財研究所 植田 直見	
		奈良文化財研究所 田村 明美	
		保存修復科学研究所 研究員 伊藤 慎二	
		西洋美術大学准教授 永山 修一	
		ラ・サール高校教諭	

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター		鹿児島県立埋蔵文化財センター	
助教	新里 貴之	主事	今村 結記
鹿児島県立埋蔵文化財センター		(公財) 鹿児島県文化振興財團	
第一調査係長	大久保浩二	埋蔵文化財調査センター	
鹿児島県立埋蔵文化財センター		文化財専門員	岩水 勇亮
文化財研究員	今村 結記	沖縄県立埋蔵文化財センター	
鹿児島県立埋蔵文化財センター		専門員	亀島 慎吾
文化探査研究員	眞邊 彩	瀬戸内町教育委員会	
(公財) 鹿児島県文化振興財團		瀬戸内町立図書館・郷土館学芸員	鼎 太郎
埋蔵文化財調査センター		天城町教育委員会社会教育課主事	具志堅 亮
文化財専門員	岩水 勇亮	平成29年度 整理作業・報告書刊行	
沖縄県立埋蔵文化財センター		事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課
主任専門員	山本 正昭	(大島支庁) 喜界事務所農村整備係	
沖縄県立埋蔵文化財センター		調査等主体者	喜界町教育委員会
専門員	亀島 慎吾	企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
伊仙町教育委員会 学芸員	新里 亮人	調査等責任者	
天城町教育委員会社会教育課主事	具志堅 亮	喜界町教育委員会 教育長	積山 泰夫
平成28年度 整理作業		調査等企画者	
事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課	喜界町教育委員会生涯学習課長	岩松 利和
(大島支庁) 喜界事務所農村整備係		" 課長補佐	中山 佳也
調査等主体者	喜界町教育委員会	調査等担当者	
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課	喜界町埋蔵文化財センター	
調査等責任者		埋蔵文化財係長	壽 満夫
喜界町教育委員会 教育長	積山 泰夫	喜界町埋蔵文化財センター主査	野崎 拓司
調査等企画者		" 主事	松原 信之
喜界町教育委員会生涯学習課長	岩松 利和	" 主事	岩元さつき
" 課長補佐	中山 佳也	" 主事	安武 憲史
調査等担当者		" 埋蔵文化財調査員	島袋 末樹
喜界町埋蔵文化財センター		" 埋蔵文化財調査員	安柄 祐樹
主幹兼埋蔵文化財係長	澄田 直敏	事務担当者	
喜界町埋蔵文化財センター主査	野崎 拓司	喜界町埋蔵文化財センター	
" 主事	松原 信之	埋蔵文化財係長	壽 満夫
" 主事	早田 晴樹	喜界町埋蔵文化財センター主査	松原 信之
" 主事	岩元さつき	調査等指導者	
" 主事	安武 憲史	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
" 埋蔵文化財調査員	島崎 連也	主事	今村 結記
" 埋蔵文化財調査員	島袋 末樹		
" 埋蔵文化財調査員	安柄 祐樹		
事務担当者			
喜界町埋蔵文化財センター			
主幹兼埋蔵文化財係長	澄田 直敏		
喜界町埋蔵文化財センター主査	松原 信之		
調査等指導者			
琉球大学教授	池田 栄史		

第3節 崩り遺跡調査の経過

1 確認調査（平成21年度）

平成21年6月～11月まで喜界町教育委員会が調査主体となって確認調査を実施した。調査は3m×6mのトレンチを基本として実施した。その結果、複数のトレンチで中世と考えられる遺構・遺物を確認し、遺構・遺物の出土状況から約13,806m²の範囲に遺跡が残存していると判断した。

2 本調査（平成23～24年度）

平成21年度の確認調査の結果を受けて平成23年6月～3月、平成24年4月～3月まで本調査を実施した。

調査では、調査区内に10m×10mのグリッドを任意の方角で設定し実施した（第9図）。グリッドは東側から西側方向にアルファベットのI～Wとし、それに直行する南側から北側方向へI～SIと設定した。発掘調査は、確認調査で得られた資料をもとに、遺構検出面直上で（一部の遺物包含層が残る部分はそのまままで）重機により除去し、その後、作業員を投入して遺物及び遺構の検出作業を行った。

以下、調査の経過については日記抄にて記載する。

平成23年度

6月23日 調査開始。機械運搬・伐採などの環境整備を行う。

6月24～31日 重機による表土剥ぎ、グリッドの設定、杭打ちなどを行う。

7月～8月 下層確認トレンチで層を確認後、包含層掘り下げ、遺構検出などをを行う。

9月～10月 土坑墓・竪穴状遺構・包含層掘り下げ、遺構の写真撮影、1/20 遺構配図作成、1/10 遺構個別図面作成などをを行う。

9月2～4日 鹿児島女子短期大学教授竹中正巳氏による発掘調査現地指導。

9月9～10日 鹿児島女子短期大学教授竹中正巳氏による発掘調査現地指導。

10月13～14日 熊本大学教授木下尚子氏による発掘調査現地指導。

10月29～30日 奄美市立奄美博物館長中山清美氏による発掘調査現地指導。

11月～12月 竪穴状遺構等の遺構掘り下げ、遺構の写真撮影、

1/20 遺構配図作成、1/10 遺構個別図面作成などを引き続き行う。

11月12日 崩り遺跡現地説明会を行う。

11月16日 製鉄窯跡遺構検出（検出位置は、製鉄窯跡遺構ではなく通常の溝状遺構と土坑と判断していた）。検出写真を撮影後、遺構と判定するために5cm程度の掘り下げ開始。

12月3～4日琉球大学教授池田榮史氏による発掘調査現地指導。

1月～3月 竪穴状遺構・製鉄窯跡遺構等の遺構掘り下げ、遺構の写真撮影、1/20 遺構配図作成、1/10 遺構個別図面作成などを引き続き行う。

1月13日 製鉄窯跡遺構の掘り下げ中、通常でない量の鉄滓と焼土面を検出する。遺構の取り扱いに検討が必要と判断し、掘り下げを中断する。

2月26日 別件で来島中であった愛媛大学東アジア古代文化研究センター長村上恭通氏と九州テクノリサーチ・TACセンター大澤正巳氏による製鉄窯跡遺構の実見。製鉄窯跡遺構であると判断。掘り下げを中止。

3月19日 23年度発掘調査最終日。プレハブ等機材撤収。

平成24年度

4月3日 調査開始。機械運搬などの環境整備を行う。

4月6日～ 竪穴状遺構等遺構・包含層掘り下げ、1/10 遺構個別図面作成などをを行う。

5月～6月 遺構・包含層掘り下げ、遺構の写真撮影、1/20 遺構配図作成、1/10 遺構個別図面・土層断面図作成などを行う。

5月30日～6月2日 早稲田大学非常勤講師泉岳二氏による発掘調査現地指導。

6月29・30日 奈良大学教授坂井秀介氏による発掘調査現地指導。

7月～8月 遺構の掘り下げ、1/10 遺構個別図面作成、写真撮影などを引き続き行う。気温35℃以上・湿度約70%の猛暑日が続き、作業員の休調管理が非常に難しい時期であった。

7月8～10日 愛媛大学東アジア古代文化研究センター長村上恭通氏による発掘調査現地指導。製鉄窯跡遺構の取り扱いについて指導をいただだく。

9月～12月 竪穴状遺構平面図作成、ピット掘り、包含層掘り、1/100 コンター図作成などをを行う。

9月14日 遺跡の空撮を行う。

10月18日 町教育委員会と県農政部、県文化芸術課との協議により、製鉄窯跡遺構の範囲を非農用地区として保存するため大島支庁各界事務所長へ申請。

12月1・2日 琉球大学教授池田榮史氏による発掘調査現地指導。

1月～3月 ピット掘り、包含層掘り、写真撮影、1/20 遺構配図作成、1/10 遺構個別図面作成などをを行う。

3月1日 調査終了。機材撤収を行う。

3 整理作業・報告書刊行(平成25~29年度)

整理作業は、平成25年～29年度に出土物などの科学分析、出土歯骨分析、土壌サンプルのフローテーション及び出土植物遺体分析、出土遺物の注記・接合・拓本、実測・図面整理・トレイスなどの作業を行い、報告書を刊行した。

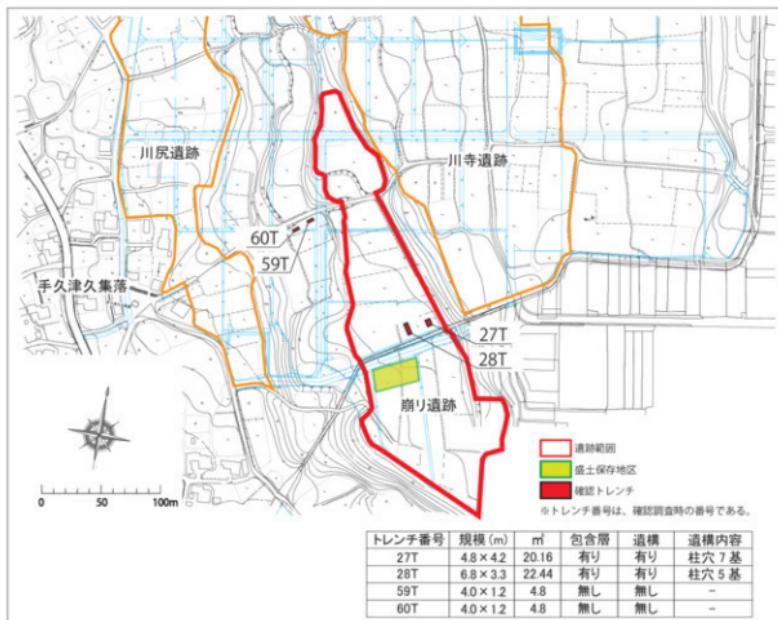


平成23年11月12日現地説明会風景



製鉄関連遺構保存地区活用風景

製鉄炉復元・製鉄実験操業(平成27年11月14日国民文化祭)



第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

九州島の南端、薩南半島と台湾の間、1,200kmにわたり弧状に連なり点在する島々を南西諸島と呼ぶ。

南西諸島は、北から薩南諸島（大隅諸島、吐噶喇列島、奄美群島）と琉球諸島（沖縄諸島、先島諸島）、大東島（北大東島（東・北）へ仲大東島（西・南））の大きく3つの島嶼群に分けられる（第3図）。喜界島は薩南諸島の奄美群島の中に位置づけられる。

喜界島は、鹿児島本土から南へ380km、沖縄本島から北へ約330km、奄美大島から東へ25kmの北緯28度19分、東経130度線上の太平洋と東シナ海の洋上に浮かぶ島である。1島で1町をなし、北東～南西方向を長軸に14km、北東部から南西部に向けて次第に島幅を広げ最大幅6.5km、周囲48.6km、面積56.9km²の島である。

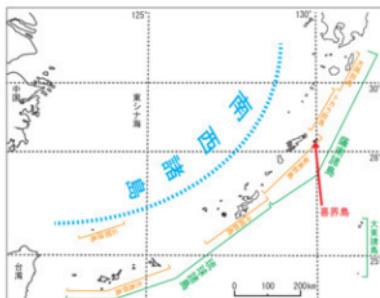
概して平坦な隆起サンゴ礁の島であり、巨視的に見て4段の海岸段丘が形成されている。島内最高所は中央東側にある百之台であり、標高は211mを測る。この百之台を中心にも北西側へは緩やかに傾斜し、広い段丘地形が見られる。これに対して南東部には急峻な200mあまりの崖が切り立ち、海岸線に沿ってオホカナ平原地帯が見られる。

本島の基盤をなしているのは、新生代新第三紀鮮新世の島尻層群で、琉球石灰岩や志戸桶層、隆起サンゴ石灰岩、砂丘が上層を形成している。石灰岩の上にはそれが風化したマージと呼びれる暗赤褐色土系が堆積し、島の大部分を覆っている。島の大部分が多孔質のサンゴ礁石灰岩に厚く覆われておらず、河川の発達乏しく流水のほとんどは地下水や湧水に依存している。また、隣接する奄美大島にはハブが生息するが、喜界島にはハブは生息していない。奄美群島内では他に冲永良部島、与論島にも生息していないが、これらの島はいずれも隆起石灰岩に覆われている標高の低い低島である。

海岸線は複雑からなっており、砂浜が広がる場所は少なく、また、港として利用できる場所も限られている。清・早町・志戸桶・小野津の4箇所が代表的な港として挙げられ、各港の後背地には砂丘が形成されている。砂丘上では、縄文時代から近世までの遺物が採取でき、古くから人々の生活が営まれていたことをうかがわえることができる。

気候は亜熱帯気候で年平均気温21.9℃と、年間を通じて温暖であり、年間の降水量は1,900mmに達する。全島にガジュマルをはじめとする亜熱帯性植物が自生し、島の基幹作物であるサトウキビ畑が広がっている。12月後半から2月にかけては冬の季節風が吹きつけ、最大風速が秒速10mを超えることがある。この時期は悪天候が続き、海上交通が途絶えやすい。

崩リ遺跡は、喜界島南西部の手久津久集落付近に位置する。



第3図 南西諸島の諸島・群島・列島の名称と範囲

(安城・割田 2009 第11図を改変)

標高約23mの海岸段丘上に立地し、周辺には、中増遺跡・川寺遺跡・川尻遺跡が広がっている。崩リ遺跡から海岸までは約500mの距離がある。

第2節 歴史的環境

喜界島における考古学的研究は、戦前は昭和6年の重野豊吉による荒木貝塚の発見に始まり、三宅宗悦による湾貝塚・手久津久貝塚の報告がある。戦後においては、昭和30年代に九学会連共同調査委員会考古学班による分布調査が行われ、荒木農道遺跡、荒木小学校遺跡、湾天神貝塚、伊実久巖島神社貝塚、七城などが紹介されている。

島内で一番古い遺跡は縄文時代のものであり、大多数の遺跡が古代・中世に属している。また、中世における源氏や平家にまつわる伝承や地名が数多く残っており、それに関する史跡もいくつかみられる。

以下、島内における主な遺跡について研究史を踏まえながら述べることとする。

1. 縄文時代

島内における縄文時代早期～前期の遺跡としては、総合グランド遺跡と赤連遺跡がある。総合グランド遺跡では3層の貝層が確認されており、土器や石器が出土している。土器は口縁部に刻目があり、両端の尖った施文具による連鎖刻突文と4～6条の横条線が交互に施された砲弾型の器形をなす大型の深鉢や、4条程度を1単位として押し引き条線が施される砲弾型の小型のものがある。大型土器に付着していた煤を放射性炭素年代測定にかけたところ、約7,000年前の数値が出ている。また、県立喜界高等学校校庭拡張工事に伴い出土した土器は河口貞徳により赤連系土器と命名されている。

つづく縄文時代中期であるが、この時期にあたる遺跡は少ない。
喜界島における当該期の標指土はよくわからっていない。

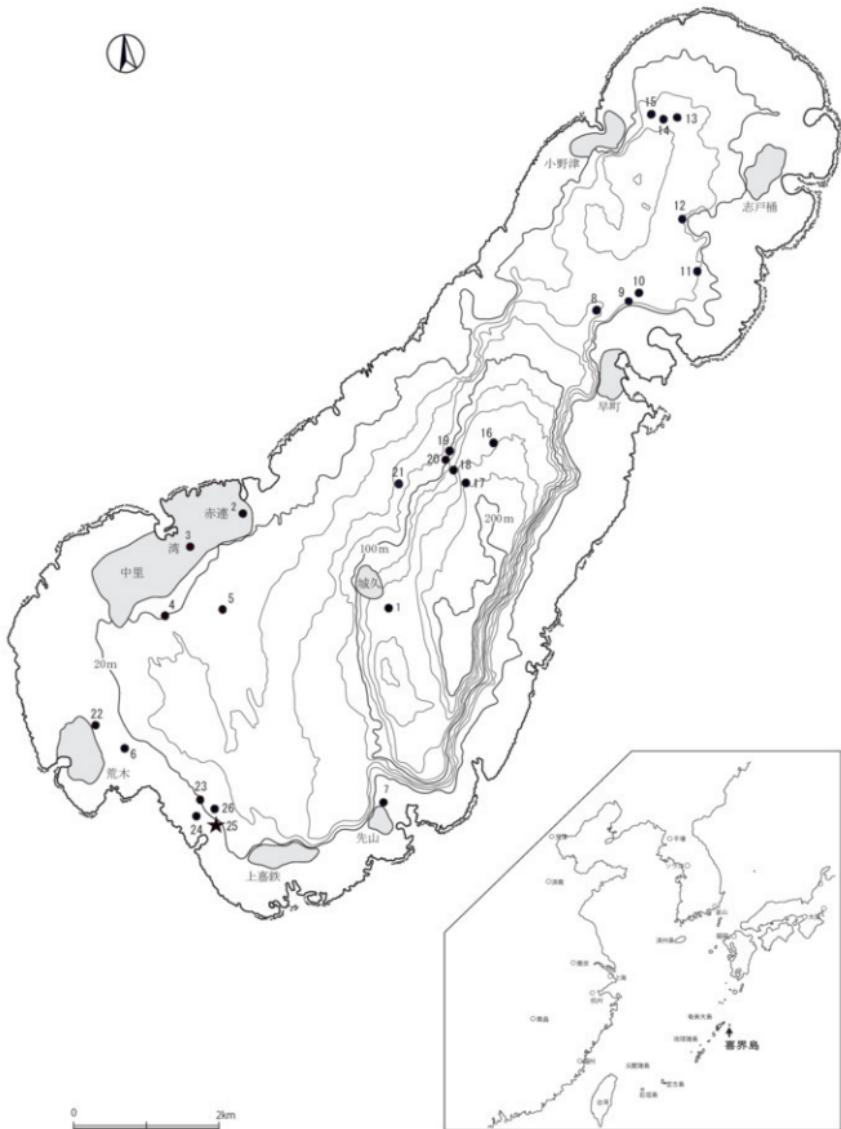
縄文時代後期～晩期の遺跡としては、宇宿上層式期の住居跡群が確認されたシンダ遺跡がある。遺物は面西洞式・高念I式・宇宿上層式などの土器と、石斧・敲石などの石器がある。また、平成16年には喜界町役場新宁舎工事に伴い、見付山遺跡の発掘調査が行われた。縄文時代晩期の土器・石器・磨礫石の剥片などが出土している。

縄文時代の遺跡からは多量の石器が出土しており、その多くが砂岩や花崗岩を石材として使用している。喜界島は隆起サンゴ礁の島で、島内には石器としての使用に耐えうる石材は産出せず、これらの石器や石材は他地域から持ち込まれたものと推察される。

これらの遺跡のほか、縄文時代後期～晩期の遺跡として最近調査が行われている次の遺跡がある。島の南西部に位置する荒木町中央区では、上才遺跡・カ子ンテB遺跡・クマテ遺跡があり、手久津久地区では崩リ遺跡（本報告書）と中脇遺跡がある。崩リ遺跡を除くいずれの遺跡も未整理のため、現時点では概要にとどめることにするが、次の遺構や遺物が見つかっている。

第2表 主な島内遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	主な遺構・遺物	備考
1	城久遺跡群	喜界町城久ほか	海岸段丘	古代～中世	墳丘柱建物跡、土坑墓、炉跡、土師器、須恵器、越州窯系青磁、布目庄土器、灰陶陶器、白磁、初期高麗陶器、朝鮮瓦瓶、鐵器群、カム・ヤキ、滑石製石器、青磁、銅製品、鉄製品、織羽口、ガラス玉ほか	平成14・15・17・18・19・20年度復調 調査、平成14・15・16・17・18・19・20年 年次木学校調査
2	赤道	喜界町赤道	海岸段丘	縄文	赤道系土器	現喜界高校
3	流天神	喜界町流	海岸段丘	縄文	土器、石器、貝製品、獸骨	
4	鮑合グランンド	喜界町流	砂丘	縄文	土器、石器、貝、獸骨	
5	竿ク	喜界町流	海岸段丘	縄文	石器、貝	削平により消失した可能性
6	荒木貢塚	喜界町荒木	低地	縄文	石器、石器、貝、獸骨	削平により消失した可能性
7	先山	喜界町浦原	海岸段丘	縄文～近世	面鏡前庭式・兼久式土器、石器、貝、獸骨	昭和61年度調査
8	平家森	喜界町早野	山頂	中世	模様・形状 200×200、複郭	
9	後田	喜界町塩造	海岸段丘	古墳		削平により消失した可能性
10	水口	喜界町塩造	海岸段丘	古墳		削平により消失した可能性
11	堤り	喜界町塩造	海岸段丘	古代～中世	須恵器、カム・ヤキ、白磁、青磁、滑石製石器、石器、獸骨、	平成6年度調査
12	七城	喜界町志戸場	台地	中世	規模・形状 200×200、複郭	
13	オン畠	喜界町小野津	海岸段丘	古代～近世	墳丘柱建物跡、炉跡、溝状遺構、カム・ヤキ、铁津	平成4年度調査
14	巻煙C	喜界町小野津	海岸段丘	古代～中世	土師器、カム・ヤキ、滑石製石器	平成4年度調査
15	巻煙B	喜界町小野津	海岸段丘	古代～中世	土師器、須恵器、滑石製石器、織羽口、铁津	平成4年度調査
16	ハンタ	喜界町西日	海岸段丘	縄文	土器、須恵器、カム・ヤキ、青磁、滑石製石器、石器、獸骨、	昭和61年度調査
17	前ヤ	喜界町島中	海岸段丘	古墳～中世	青磁、カム・ヤキ	平成5年度調査
18	ウ川田	喜界町島中	海岸段丘	縄文～中世	土器、土師器、白磁、青磁、カム・ヤキ、滑石製石器	平成5年度調査
19	上田	喜界町島中	海岸段丘	縄文～中世	柱穴、土器、青磁、カム・ヤキ	平成5年度調査
20	向田	喜界町島中	海岸段丘	縄文～中世	土器、土師器、白磁、青磁、カム・ヤキ、滑石製石器	平成5年度調査
21	島中B	喜界町島中	海岸段丘	古代～近世	土器、内裏土師器、須恵器、白磁、青磁、織羽口、铁津、石器、甕付	昭和61年度調査
22	和早地	喜界町荒木	海岸段丘	縄文～近代	土器、白磁、青磁、鉄製品、織羽口、铁津、石器、魚骨、獸骨、甕付、壺蓋破	平成10年度調査
23	中増	喜界町手久津久	海岸段丘	縄文～中世	墳丘柱建物跡、土坑、燒土跡、青磁、石器、鐵製品、銅製品、鐵津、織羽口	平成20・24・26年度本調査
24	川尻	喜界町手久津久	低地	縄文～近世	大型円形土坑、土坑、溝状遺構、土器、土師器、須恵器、貝ほか	平成23～26年度本調査
25	廢リ	喜界町手久津久	海岸段丘	縄文～中世	竪穴状建物跡、掘立柱建物跡、土坑墓、土坑、佛土跡、土器、白磁、カム・ヤキ、石器、鐵製品、铁津、織羽口ほか	平成23・24年度本調査
26	川寺	喜界町手久津久	海岸段丘	縄文～中世	竪穴状建物跡、掘立柱建物跡、土坑墓、土坑、佛土跡、白磁、青磁、石器、鐵製品、鐵製品、鐵津、織羽口、ガラス玉、玻璃ほか	平成24～26年度本調査



第4図 主な島内遺跡位置図

古墳時代併行期の遺跡には昭和 61 年に調査が行われ、兼久式土器や貝斧などが出土した先山遺跡などがある。

しかし、この時期については確認されている遺跡が少ないことと、本格的な調査が行われていないこともあり、弥生～古墳時代併行期の喜界島の様相は判然としない。

3. 古代・中世

古代・中世の発掘調査が実施された遺跡は、昭和 63 年に島中B遺跡が、平成 4 年にオン・巻烟・巻烟B・巻烟C遺跡、平成 5 年に前ヤ遺跡、平成 6 年に提リ遺跡、平成 18 年に和早地遺跡などがある。いずれも小規模な調査面積ではあるが、土師器・須恵器・カムイヤキ・龍泉窯系青磁・白磁・滑石製石鍋などが出土している。これらの遺跡からは奄美在地の土器である兼久式土器ほとんど出土していない。

平成 14 年～20 年にかけて調査が行われた城久遺跡（山田中西遺跡・山田半田遺跡・半田口遺跡・小ハネ遺跡・前郷遺跡・大ウツ遺跡・半田遺跡・赤運遺跡）では、450 棟を超える掘立柱建物跡や製鉄・鍛冶関連遺構、土坑墓などが見つかった。出土遺物は、越州窯系青磁や白磁、朝鮮系無釉陶器、滑石製石鍋といった島外産の遺物がほとんどである。

城久遺跡は、古代日本国家とのかかわりの中で交易拠点として成立し、古代から中世にかけて奄美地域の交易圈において中心的な役割を果たしていたと評価され、平成 29 年度に国指定史跡として答申された。

平成 21 年度からは、県営畑地帶総合整備事業（手久津久地区）に伴う調査を行っており、本報告書の崩リ遺跡のほか、川尻遺跡・中増遺跡・川寺遺跡によってこの時期の掘立柱建物跡や土坑墓などを確認している。これらは、城久遺跡の前後段階に相当する遺跡群であり、喜界島の歴史的変遷を考える上で重要であると考えられる。

参考・引用文献

- 安城たひこ・荆田育生 2009 「我が国の広域な地名及びその範囲についての調査研究」『海洋情報部技報』Vol. 27 岩元さつき 2016 「喜界町の発掘調査近況～主に織文時代遺跡について～」『南西諸島の織文時代後晚期の南北交流』第 7 回沖縄考古学会・鹿児島県考古学会合同学会研究発表会資料集
太田陽子 1978 『奄美列島喜界島の完新世海成段丘』 地理学評論
澄田直敏・堂込秀人・池畠耕一 2003 「喜界町総合グラウンド遺跡（弓道場）出土の土器」『鹿児島考古』第 37 号 鹿児島県考古学会
町田洋・江波戸照 1969 『薩摩諸島の総合的研究』平山輝男編 第 1 編 地理的環境 明治書院
貝塚爽平ほか編 4、「西南諸島」『日本の地理』
喜界町 2000 『喜界町誌』
鹿児島県埋蔵文化財センター 2008 『荒木貝塚・和早地遺跡』鹿児島県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (119)
喜界町教育委員会 1987 『先山遺跡』 喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (1)
喜界町教育委員会 1987 『ハンタ遺跡』 喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (2)
喜界町教育委員会 1989 『島中B遺跡』 喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (3)
喜界町教育委員会 1987 『島中B遺跡 II』 喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (4)
喜界町教育委員会 1993 『オン・巻烟・巻烟B・巻烟C・池ノ底散布地』 喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (5)
喜界町教育委員会 2015 『城久遺跡群』総括報告書 喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (14)
喜界町教育委員会 2015 『中増遺跡 I』 畑地帶総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 喜界町埋蔵文化財発掘報告書 (15)

第III章 調査の方法と成果

第1節 調査の概要

(1) 発掘調査の方法

平成23年度からの本調査開始にあたり、まず重機によってその一部の表土（I層）を除去し、10m間隔の調査用グリッドを調査区に合わせ任意の方角で設定した。また、プレハブやテント等の設置などの環境整備を実施した。

調査箇所の表土下はマージと呼ばれる暗赤褐色土の地山が露出する箇所もあったが、大部分は包含層が残っている状況であった。まず、表土下に広がっていた近世包含層（II層）上面で遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかつたためこの層の掘り下げは重機で行い、遺物は一括で取り上げた。以降、包含層ごとに遺構検出を行い、遺構を検出した際は遺構を完掘したのちに人力で包含層の掘り下げを行った。最終的には地山面（Ⅸ層）での遺構検出を行い、遺構を完掘した。

検出した遺構に関しては、掘り下げを開始する前に検出状況の写真撮影を行い、半裁状況や完掘状況の写真撮影、10分の1個別図や遺構配置図などを作成した。なお、掘立柱建物跡の復元は、調査現場での復元と整理作業段階での図上復元の両方で行った。

南西諸島では初見となる製鉄関連遺構が見つかり、町保有地として保存することとなった場所については、盛土保存を行った。

調査終了後は、設営していたテントや仮設トイレなどを撤収したのち、県農政部へ現場を引き渡した。

(2) 発見された遺構・遺物

調査では、主に縄文時代後期～晩期と中世（11世紀末～15世紀前半）の遺構・遺物が発見された。縄文時代の遺構は、堅穴状遺構27基、土坑16基、溝状遺構15基を検出し、土器や石器などの遺物が出土した。

中世の遺構では、掘立柱建物跡41棟、土坑墓2基、土坑15基、溝状遺構1基、竪状遺構35条、焼土跡9基、石列1基、製鉄関連遺構（構造遺構1基、土坑1基）などを検出し、遺物は龍泉窯系青磁や白磁、滑石混入土器、滑石製品、輪の羽口、鉄製品、鉄針などが出土した。

遺跡から出土した遺物は、総計46,929点出土であった。そのうち炭化したものは、1,112点である。

堅穴状建物跡や掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構、ピットなどから土壤サンプルを計683袋採取した。そのうち、232袋（総量1632g）をフローテーションによって処理を行った。サンプルからは、タブノキ子葉やオオムギなどの炭化種子が検出されている（第IV章第4節参照）。

堅穴状遺構5号、12号14号、及び土坑10号から出土した炭化材は、放射性炭素年代測定と樹種同定を行い、それぞれ¹⁴C年代（yrBP）3940±20、3565±20、3535±20、3215±20の値を得た（第III章第3節(3)参照）。また、土坑墓1号、焼土跡05号、掘立柱建物跡6号（P606）から出土した炭化材も放射性炭素年代測定と樹種同定を行い、それぞれ¹⁴C年代（yrBP）910±20、340±20、900±30の値を得た（第IV章第5節（1）・（2）参照）。

(3) 基本層位

出土遺物から大きくI層～IX層に大別し、土色や土質等の違いで縁分を行った（第6・7図・第3表）。また、調査区北側、中央部、南側でそれぞれ堆積が異なっていることを確認した。

I層：表土。現在の耕作土である。

II層：近世の層。調査区中央付近に堆積が見られた。

III層：龍泉窯系青磁やビロースクタイプレ白磁が出土する中世の層（14～15C）。主に調査区北側に堆積が見られた。

IV層：滑石やカミイマヤキが出土する中世の層（11～12C）。主に調査区中央付近に堆積が見られた。

V層：カミイマヤキや滑石、兼久式土器、面輪西洞式土器、などが出土する層。IV層とVI層の漸移層と考えられる。

VI層：面輪西洞式や大田布式などの突帶を有する泥質土器が出土する縄文時代後期～晩期の層。

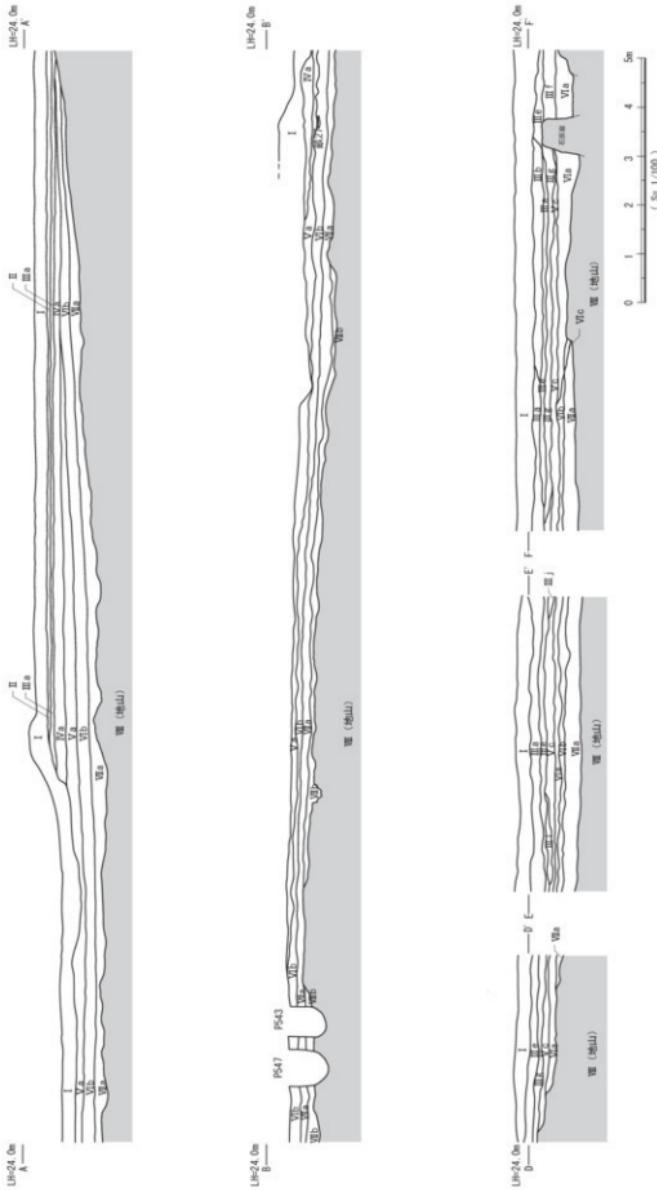
VII層：面輪西洞式などの泥質土器が出土する縄文時代後期～晩期の層。

VIII層：地山。マージと呼ばれる石灰岩の風化土。

IX層：島の基盤岩である琉球石灰岩や隆起サンゴ石灰岩。

層	層名
I層	表土
II層	近世
III層	中世（14～15C）
IV層	中世（11～12C）
V層	IV～VI層の漸移層
VI層	縄文（後～晩期）
VII層	縄文（後～晩期）
VIII層	マージ（地山）
IX層	基盤岩

第5図 基本層位略図



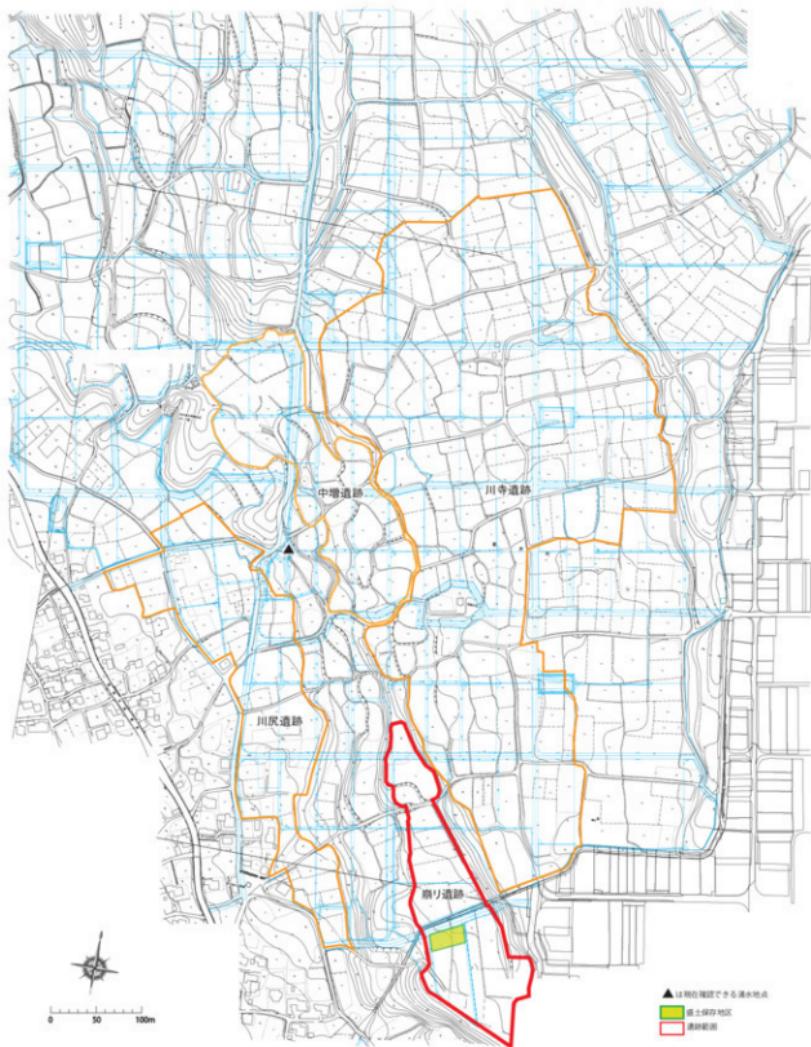
第61図 土層断面図(実測場所は第7・10・11図参照)

第3表 土層説明

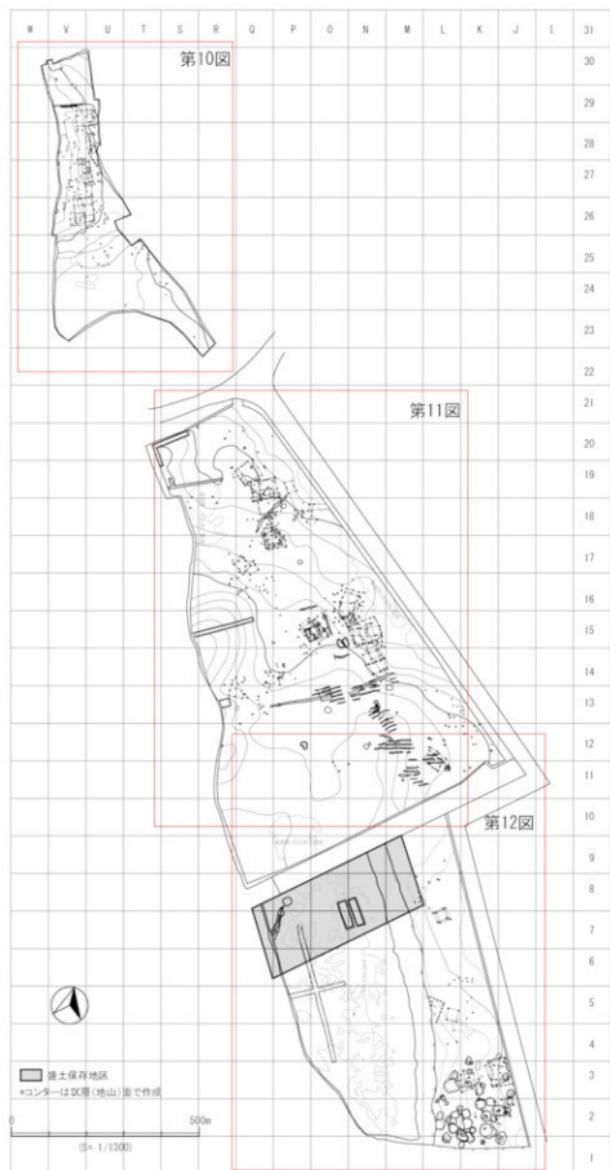
時期	層	土質
現代耕作土	I	暗褐色粘質土(10YR3/4)に貝片やサンゴ片が混入
近世	II	褐色砂質土(10YR4/4)に石灰岩の礫が混入
中世 (14～15C)	a	暗褐色砂質土(10YR3/4)に石灰岩の礫が混入
	b	褐色砂質土(10YR4/6)
	c	黒褐色砂質土(10YR3/2)に焼土粒や小さな貝片、サンゴ片が混入
	d	暗褐色砂質土(10YR3/4)に焼土粒や小さな貝片、サンゴ片が混入
	e	暗褐色粘質土(10YR3/4)に焼土粒や小さな貝片、サンゴ片が混入
	f	黒褐色粘質土(10YR3/2)に焼土粒や炭化物小片が混入
	g	暗褐色粘質土(10YR3/3)に焼土粒や小さな貝片、サンゴ片、砂が混入
	i	オリーブ褐色砂質土(10YR3/4)。小さな貝片、サンゴ片が混入する粗い砂
	j	暗褐色粘質土(10YR3/4)に焼土粒や炭化物、小さな貝片、サンゴ片が混入
	k	黄褐色土
中世 (11～12)	IV	a 暗赤褐色粘質土(5YR3/4) b 褐色砂質土
	V	a 暗赤褐色粘質土(7.5YR3/3)に褐色土の粒が混入 b 褐色土 c 暗褐色粘質土(10YR3/4)に焼土粒や炭化物が混入
縄文 (後期～晩期)	VI	a 褐色粘質土(10YR4/6)に焼土小粒・炭化物が混入 b 黑褐色粘質土(7.5YR3/3)に焼土粒や炭化物小片が混入 c 褐色粘質土(10YR4/6)
	VII	a 褐色粘質土(7.5YR4/3)に明褐色粘質土(7.5YR3/3)がブロック状に混入し、まだらを呈する b 暗赤褐色粘質土(5YR3/3)
	VIII	マージ(地山)。褐色～明褐色(7.5YR3/3～7.5YR5/6)を呈する粘質土
	IX	島の基盤岩である琉球石灰岩や隆起サンゴ石灰岩



第7図 崩り遺跡調査区略図



第8図 崩り遺跡範囲



第9図 崩り遺跡調査区全体図



第10図 崩り遺跡北側詳細図



第11図 崩り遺跡中央部詳細図



第12図 崩り遺跡南側詳細図

第2節 発見された縄文時代の遺構・遺物

確認された縄文時代の遺構は、堅穴状遺構 27 基、土坑 16 基、溝状遺構 15 基である。これらの遺構のうち、堅穴状遺構と土坑については、調査区の南側 (J-K-L-1-2-3 区) に集中して見つかる傾向があった (第 12 図)。また、土坑と溝状遺構については遺跡中央付近に点在していた (M～R-11～19 区) (第 11 図)。遺構が集中していた南側は、表土下は地山が広がっており、堅穴状遺構や土坑はこの地山面で検出した。遺構が点在していた中央部については、近世～中世の遺構を検出した層 (II 層～V 層) を調査後に掘り下げた後、縄文時代の遺物包含層である VI 層をさらに掘り下げた VI 層面で検出した。また、さらにその下層である地山面 (III 層) でも検出した。

これら遺構からは、縄文時代後期～晩期と考えられる土器 17,859 点、土製品 20 点、石器 678 点、石製品 8 点、未加工の琥珀 1 点、骨製品 1 点が出土した。

土器と石器については、次に説明する分類方法によって区分した (第 2 節 (1)・(2))。

(1) 縄文時代の石器の分類

縄文時代の遺構及び包含層から土器と共に石器が 1,133 点、総重量 324.3 kg 出土した。本報告書では、出土した縄文時代の石器を次頁のように分類を行った。石器の石材については第 4 表にまとめた。石材は、喜界島では産出しないとされるものばかりである。



第13図 崩り遺跡南側遺構詳細図



第14図 崩り遺跡中央部遺構詳細図

磨石

河原の円礫等を利用した道具で、両平坦面及び側面に擦痕が見られるもの。

敲石

河原等の円礫等を使用した道具で敲打痕が見られるもの。

磨敲石

磨石と敲石の両方を併せ持つ道具。多くのものが両平坦面中央部に凹みを持つ。

円形状石器

(ほぼ)円形を呈する道具で、片面は平坦な磨面(磨製)で、裏面は敲打によって剥離されているもの。当初は磨敲石の一種としてとらえていたが、同様の特徴を持つ石器が数点出土していることや使用石材が緑色岩に限定されていることから磨敲石とは別に分類した。

凹石

大きな範疇では敲石や台石に含まれるが、台石としては不安定な形であり、また、通常の敲石としても局部的な凹みを有する物を総称した。意図的に凹みを形成したものなのか、使用によるものは不明である。

台石

通常の男性が片手で持つことが難しい寸法や重さで、敲打痕や擦痕が観察できる石器。遺構別の集計表では、石皿や砥石、敲石など複合的な用途を持つものについては、「台石系」としてまとめて集計している。

石皿

大型の製品で、平滑面や使用による皿状の凹み等が確認できるもの。本遺跡出土の石皿はほとんどが破片であり、敲打具などに転用されている。

磨製石縁

全体あるいは刃部を磨製により形成した縁。

石斧

全体あるいは刃部を磨製により形成した斧。胸部に敲打痕等も観察され2次利用が見られるものもある。

砥石

道具等を研いだ跡痕(擦痕)が残る道具。溝状の凹みを有する道具を「有溝砥石」として分類した。また、敲石の用途を併せ持つものを「敲石・砥石」と分類した。

スクレイパー状石器

形態や石材に多様性があるが、剥片の断面に2次加工を施して刃部としたものを総称した。

棒状石製品

形状が棒状で用途が不確定などを総称した。

石製品

装飾具やその可能性のあるもの、また用途不明な石製品を総称した。

磨製石器

用途不明の磨製石器を総称した。

打製石器

用途不明の打製石器を総称した。

不明石器

人為的な加工痕があるが、不明な石器を総称した。

第4表 崩り遺跡出土石器の石材一覧

花崗岩	マグマが地下で固結してできる深成岩で、石英などの無色鉱物と黒雲母などの有色鉱物からなる全体的に白っぽく見える石。
閃綠岩	マグマが地下で固結してできる安山岩質の深成岩で、斜長石などの無色鉱物と角閃石などの有色鉱物からなるまだら色を呈する石。
安山岩	マグマが地表に噴出してできる火山岩で、斜長石などの無色鉱物や輝石などの有色鉱物の斑晶を多く含む石。一般的に灰色を呈する。
玄武岩	マグマが地表に噴出してできる火山岩で、一般的に濃い灰色～黒色を呈する石。安山岩ほど顕著ではないが、斑晶が見られる玄武岩を斑状玄武岩と総称した。
黒曜石	緻密なガラス質の火山岩。九州本土では、佐賀県腰岳産が大きな産地となっている。
斑岩系	岩石の種類が不明のもので、斑状組織が見られる岩石を総称した。
火山骨層岩	凝灰岩：火山灰が堆積・固結してきた岩石。
凝灰岩	火山灰が堆積・固結してきた岩石。
燧石	噴火の際に、マグマの中のガスが抜け出した穴が残ったまま固まつた多孔質で流紋岩質の石。
砂岩	砂粒と砂粒の間をより細かい泥で埋められた堆積岩。砂の粒子は一般的に丸みを帯び、粒子の大きさにより区分されている。 粗粒砂岩：1 ~ 0.5mm 中粒砂岩：0.5 ~ 0.25mm 細粒砂岩：0.25 ~ 0.13mm
堆積岩	泥岩：一般的に灰色～黒色を呈する1/16mm以下の細かな粒子が集まつた堆積岩。
頁岩	泥岩のうち、堆積面に沿って薄く剥がられる性質が見られる堆積岩。変成作用の度合いにより粘板岩と名称が変わるが、その境が曖昧なため本報告書では一括して頁岩として取り扱つた。
チャート	ほとんどが細粒の石英で構成される透明感のある堆積岩。放散虫の殻など石英質の殻を持つ生物が起源とされる。堆積岩中では最も固い岩石。
変成岩	黒色泥質片岩：泥岩を起源とした広域変成岩。片理が発達し堆積面に沿つて薄く割れやすく、表面が網状の光沢を有する黒色の変成岩。
變成岩	綠色岩：玄武岩や玄武岩質の凝灰岩を起源とする比較的弱い変成作用をうけた変成岩。緑色～深緑色を呈し、以前は輝緑岩と呼ばれることもあった。
綠色片岩	玄武岩質の岩石を起源とし、変成作用で片理が発達した緑色を呈する変成岩を総称した。
ホルンフェルス	接触変成作用を受けた岩石を一般的にホルンフェルスと総称するが、本遺跡で見つかったものはすべて泥岩を起源とする接触変成岩である。

(2) 繩文時代の土器の分類（第5・6表）

出土した土器を口縁・口唇形状と文様形態により、I～VII類に分類した（第5・6表）。本報告書分類と現行土器形式の対応は右記の通りである。なお、口唇形状が付かない胴部片についてはこの分類にあてはめず、胴部の文様から押引文系・凹線文系・織文線文系の3種類に分けた。押引文系は、III-c類・III-d類・IV-a類のいずれかに該当し、凹線文系はIII-e類かIV-b類、沈線文系はIV-c類に該当する。

I類…面縄前庭式

II類…松山式／松山式（在地内）

III類…市来式／面縄東洞式／嘉徳式

IV類…面縄東洞式／嘉徳式

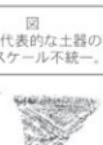
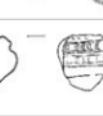
V類…面縄西洞式

VI類…大田布式／喜念式

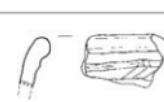
VII類…糸原式

VIII類…その他

第5表 土器分類表(1)

大分類	小分類	口縁 唇／	文様	図 (崩り遺跡出土の代表的な土器の実測図・拓本を掲載する。スケール不統一。)
I類	I	外反／丸形	刻み目や連点を施した突帯を貼り付け、その上部、または下部に織沈線文を施す。 胎土：砂質 現行土器形式： 面縄前庭式	 
II類	II-a	断面三角形／舌状	口唇に刻み目などにより文様を施すもの。 胎土：砂質 現行土器形式： 松山式	 
	II-b		II-aと同様であるが、胴部にも沈線や2枚貝押し当てなどで文様を施すもの。 胎土：砂質 現行土器形式： 松山式（奄美的）	 
	II-c		口唇部に、押引きで文様を施すもの。 胎土：砂質 現行土器形式： 松山式（奄美的）	 
III類	III-a	断面三角形厚文様帶／舌状	口縁部を断面三角形に幅広く肥厚させて構成した文様帶に、凹線文と爪型連続文による施文。 胎土：砂質 現行土器形式： 市来式	 
	III-b		口縁部を断面三角形に幅広く肥厚させて構成した文様帶に、凹線文と押引きによる施文。 胎土：砂質 現行土器形式： 市来式／面縄東洞式	 
	III-c		口縁部を断面三角形に幅広く肥厚させて構成した文様帶に、押引きによる施文。 胎土：砂質 現行土器形式： 面縄東洞式	 
	III-d		III-cと同様だが、押引きによる文様が籠目で構成されるもの。 胎土：砂質 現行土器形式： 面縄東洞式	 
	III-e		III-dと同様だが、籠目文様を凹線で施すもの。 胎土：砂質 現行土器形式： 面縄東洞式／嘉徳式	 

第6表 土器分類表(2)

大分類	小分類	口縁 □	文様	図 (崩り遺跡出土の代表的な土器の実測図・拓本を掲載する。スケール不統一。)
IV 類	IV-a	外反 ／ 方形	押引きによる施文。口唇部に連点や刻目文が施されるものもある。 胎土：砂質 現行土器形式： 面縄東洞式	
	IV-b		凹線による施文。口唇部に連点や刻目文が施されるものもある。 胎土：砂質 現行土器形式： 嘉徳Ⅱ式	
	IV-c		細沈線による施文。口唇部に連点や刻目文が施されるものもある。 胎土：砂質 現行土器形式： 嘉徳Ⅱ式	
	IV-d		平行細沈線で区画を施し、その内部を連点・押引きなどにて施文。 胎土：砂質 現行土器形式： 嘉徳ⅠA式	
	IV-e		並行細沈線で区画を施し、その内部を連続爪型文で施文。 胎土：砂質 現行土器形式： 嘉徳ⅠB式	
V 類	V-a	直口 ／ 丸 ／ 方形	連点文等の貼付突帯を施したもの。突帯に文様を施さないものもある。 胎土が砂質のもの：V-a 胎土が泥質のもの：V-a' 現行土器形式： -	
	V-b		刻目・連点貼付突帯と細沈線による施文。 胎土が砂質のもの：V-b 胎土が泥質のもの：V-b' 現行土器形式： 面縄西洞式	
VI 類	VI-a	／直 肥口 厚 丸外 形反	刻目・連点貼付突帯と細沈線による施文。 胎土が砂質のもの：VI-a 胎土が泥質のもの：VI-a' 現行土器形式： 犬田布式	
VII 類	VII-a	／直 頭部 有内 段薄	口縁部から胴部にかけてに幅広く肥厚させ頭部を有段にするもの。 胎土が砂質のもの：VII-a 胎土が泥質のもの：VII-a' 現行土器形式： 仲原式	
VIII 類	VIII	-	その他、上記分類に当てはまらないもの。 胎土が砂質のもの：VIII 胎土が泥質のもの：VIII' 現行土器形式： -	-

(3) 壺穴状遺構 (SH)

縄文時代と考えられる壺穴状遺構（以下「SH」）は、27基検出した。平面形状は、円形・椭円形・橢丸長方形・不定形の4種類を確認し、また、床面については、1段掘りと2段掘りの2種類を確認した。検出したSHは、一覧を第7表にまとめることとする。

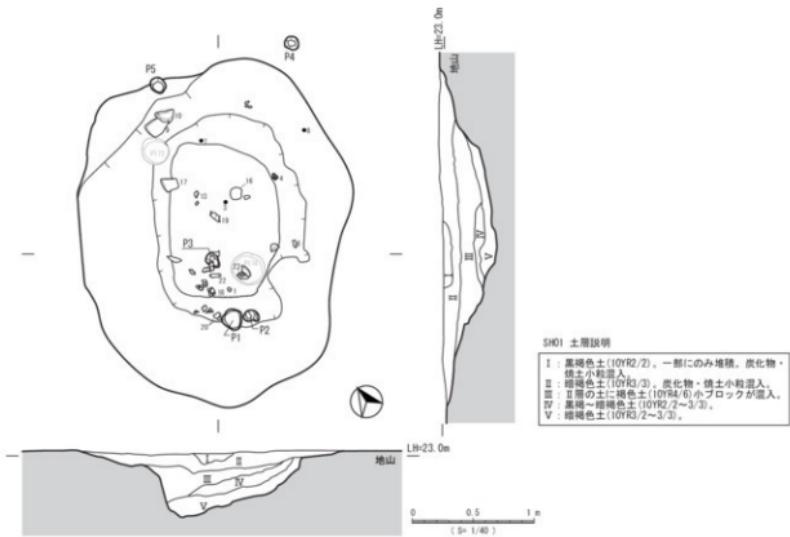
遺構内・外にピットをいくつか確認したが、ピット埋土が地山の土色と酷似している為、精査したにもかかわらず検出できなかつたものがある可能性がある。

出土した遺物は、縄文時代後期～晩期と考えられる土器15,892点、土製品17点、石器603点、石製品8点、骨製品1点である。各SHには個別にカウントした表を作成した。土器の分類は前項による。なお、文様のなかつた土器については、専士によって砂質と泥質に分けて集計している。

SH01、SH12、SH13、SH25から出土した石器を用い、残存デンプン粒分析を行った。円形や四角形のデンブンが検出されたが、分解が進んでいるものが多く、植物種の同定や石器の用途の検証までは至らなかつた。残存デンプン粒分析の詳細については、第三章第3節(1)を参照されたい。

第7表 壺穴状遺構(SH)一覧

遺構名	検出区	平面形状	床面形状	短軸(m)	長軸(m)	深さ(m)	備考
SH01	J-2	椭円形	2段	2.26	2.86	0.44	
SH02	J-3	橢丸長方形	1段	1.78	2.94	0.1	
SH03	J-2・3	円形	1段	1.96	2	0.2	
SH04	K-2	円形	2段	2.62	2.82	0.3	
SH05	K-2	椭円形	2段	3.64	4.4	0.58	3.940 ± 20 (yrBP)
SH06	K-3	椭円形	2段	1.8	2.1	0.1	
SH07	K-3	椭円形	1段	1.9	2.26	0.28	
SH08	L-3	椭円形	1段	2.1	(2.22)	0.22	長軸は残存部
SH09	L-3	椭円形	1段	3.9	4.28	0.16	
SH10	J-1・2	椭円形	2段	2.8	3.2	0.16	
SH11	J-2	橢丸長方形	2段	1.62	2.08	0.3	
SH12	J・K-2	橢丸長方形	1段	2.54	3	0.38	3.565 ± 20 (yrBP), 3.380 ± 20 (yrBP)
SH13	K-2	円形	1段	2.16	2.64	0.16	
SH14	K-2	円形	1段	2.56	2.82	0.38	3.535 ± 200 (yrBP)
SH15	L-1	不定形	2段	2.32	2.58	0.47	
SH16	K・L-2	不定形	1段	4.34	4.36	0.34	
SH17	K-2	円形	1段	2.26	2.42	0.46	
SH18	K-2	円形	1段	2.3	3.04	0.36	
SH19	L-2	円形	1段	(1.68)	1.84	0.4	短軸は残存部
SH20	L-2	橢丸長方形	1段	(2.86)	2.72	0.48	短軸は残存部
SH21	L-2	橢丸長方形	1段	1.8	2.2	0.28	
SH22	K-1	椭円形	1段	(1.16)	2.58	0.32	短軸は残存部
SH23	K・L-1	橢丸長方形	2段	2.68	3.1	0.52	
SH24	L-2	椭円形	1段	1.64	(2.4)	0.14	長軸は残存部
SH25	L-2	橢丸長方形	1段	2.42	2.82	0.29	
SH26	K・L-1	椭円形	1段	1.72	2.02	0.3	
SH27	K-2	橢丸長方形	1段	1.6	(1.8)	0.24	長軸は残存部



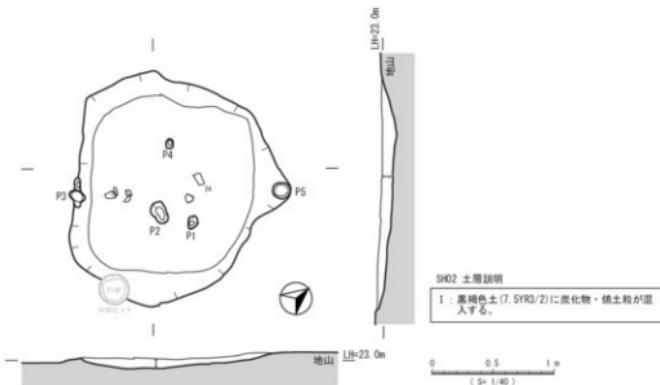
第15図 SH01 実測図

第8表 SH01出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類			III類			IV類			V類			VI	VII	計
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'		
SH01	横円形 2段	内訳	総数	-	-	1	1	1	7	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	12	
			I層							2											
			II層				1			2											
			III層							2											
			IV層																		
			V層								1										
			床直																		
			一括																		
			分類外																		
			総数									3								343	
			I層																		
			II層																		
			II・III層																		
			III層									2									
			IV層																		
			V層									1									
			床直																		
			一括																		
			内訳																		
			押引文系																		
			凹線文系																		
			細次線文系																		
			砂質土器																		
			泥質土器																		
			不明																		
			計																		

第9表 SH01出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石レイバ	石製品	棒状石製品	磨石器	石核	琥珀	縫片	骨製品	計
		総計	-	3	-	2	-	-	-	4	1	-	2	-	-	2	1	-	9	90	-
SH01	内訳	I層		1						1									6	25	
		II層		1						1								1			
		II・III層		1															5		
		III層								2								81	2		
		IV層																18			
		V層								1								8			
		床直																7			
		一括																41	1		
		内訳																			
		磨石を除く																			
		縫片																			
		骨製品																			



第16図 SH02 実測図

第10表 SH02出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類			III類			IV類			V類			種	種'	計
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'		
SH02	調丸長方形	1段	総数	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	3	
			I層											2							
			P2-2																		
			P2-5																		
			内訳 ビット一括																		
			一括																		
			分類外																		
			総数																	48	
			I層																		
			P2-2																		
			P2-5																		
			内訳 ビット一括																		
			一括																		

第11表 SH02出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石斧	石片	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	砥	剥片	(破片を除く)	骨製品	計
		-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	18	58	-	79	
SH02	総計	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	18	58	-	79	
	内訳									1		1									18	42		16	

堆積状況等：V層上面（III層・IV層）より石皿等が出土する状況や堆積状況などから、V層を床面としてとらえた。

出土遺物：砂質土器348点、泥質土器6点、石器15点（5.044g）、鍵90点（2.194g）が出土した。このうち、砂質土器13点、石器10点を実測した。

土器は、III-a類が7点出土し、II-c類、III-a-b類、IV-a-b類が1点ずつ出土している。ただし、II類とIV類はいずれもI層からの出土であり、II層以下では出土していない。

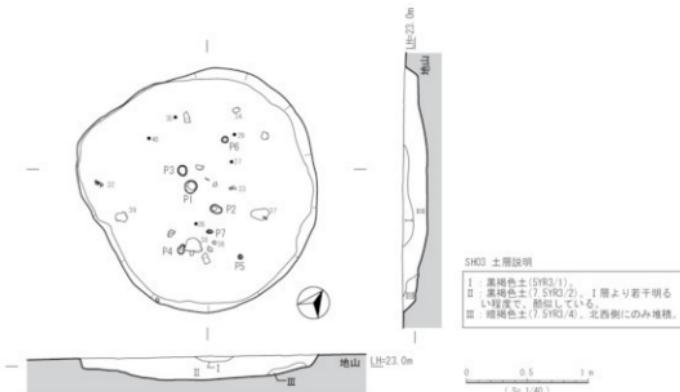
出土した石器のうち、磨歯石1点（16）と石皿2点（9・17）の現存デンブン粒の分析を行ったが、デンブン粒は検出されなかつた。

その他、ダイ科やニザダイ科などの魚骨とイノシシやクジラ類などの歯骨が出土している。

堅穴大遺構2号（SH02）（第16図・第10・11表）

検出状況：J-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他のSHと重複は見られず、単独で検出された。遺構は、中世のビット1基に切られている。

形状と規模：短軸1.78m×長軸2.94m×深さ0.1mで調丸長方形を呈する。床面は1段掘りで、遺構内に柱穴と考えられるビットを計5基検出した。ビットの配置に規則性は見られなかつた。



第17図 SH03 実測図

第12表 SH03出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類		Ⅱ類			Ⅲ類			Ⅳ類			Ⅴ類			Ⅶ	Ⅷ'	計	
			Ⅰ類		a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'
			総数	-	-	-	-	3	-	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	
SH03	円形 1段	内訳	I層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
			I・II層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			II層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			III層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			分類外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			押引文	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			凹線文	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			細沈線文	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			砂質土器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			泥質土器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	253
			I層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			I・II層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			II層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			III層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第13表 SH03出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石斧	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー	石製品	梯状石製品	磨石	不明石器	石核	琥珀	剥片	(縫合を除く)	骨製品	計
SH03	内訳	総計	-	4	-	4	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	44	184	-	251
		I層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	
		I・II層	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	96	-	
		II層	-	1	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	-	
		III層	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	18	-	
		一括	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	64	-	

堆積状況等:他の遺構に比べ堆積が浅く、単一層であることから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

出土遺物:砂質土器 46 点、泥質土器 5 点、石器 3 点 (120 g), 縄 58 点 (1,679 g) が出土した。このうち、砂質土器 1 点、石器 1 点を実測した。

土器は、埋土から IVc 類が 2 点出土し、遺構内のビットから IIIc 類 1 点と押引文を持つ脚部が出土している。

堅穴状遺構 3 号 (SH03) (第17図・第12・13表)

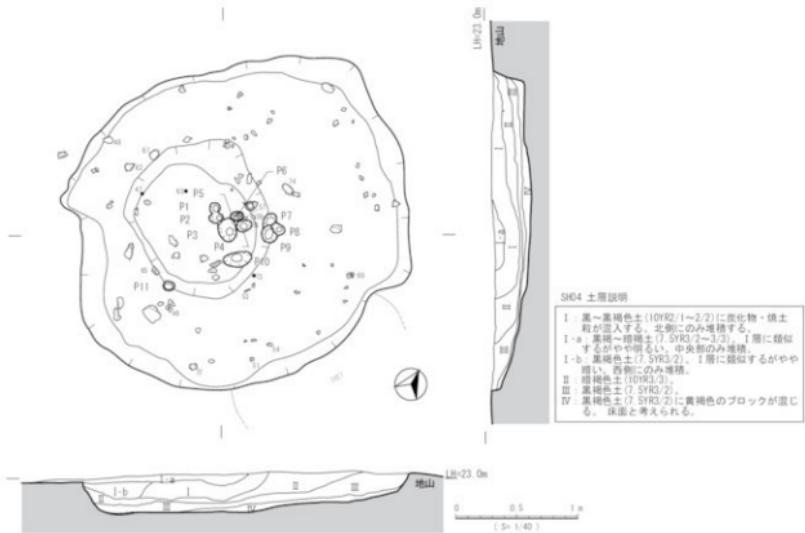
検出状況: J-2・3 区で検出された。検出面は表土直下の地山面

である。他の SH と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模:短幅 1.96m × 長軸 2.00m × 深さ 0.2m で円形を呈する。床面は 1 段振りで、遺構内・外に柱穴と考えられるビットを計 7 基検出した。ビットの配置に規則性は見られない。

堆積状況等:ビットは II 層を掘り下ろした後の地山面での検出であった。床面については、踏み固めたというような明瞭な痕跡は検出できなかった。

出土遺物:砂質土器 246 点、泥質土器 12 点、石器 23 点 (4,324 g), 縄 184 点 (1,670 g) が出土した。このうち、砂質土器 6 点、石器 14 点を実測した。



第18図 SH04 実測図

第14表 SH04出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類					II類					III類					IV類					Ⅵ	Ⅶ'	計	
				a	b	c	a'	b	a	b	c	d	e	a'	b	b'											
SH04	円形 2段	内観	総数	-	2	-	-	-	2	-	-	6	2	5	2	-	-	-	1	1	21						
			I層	1					1			5	2	2										1	1		
			I-a層		1					1			1	1													
			II層	1					1																		
			III層																								
			床直																								
			一括																2	2							
			分類外																								
			絶数							24	16	22	696	43												801	
			I層		9	7						9	288	7													
			I-a層										2	1													
			II層		4	4						3	210	4													
			III層										5	1													
			床直		1	1						15															
			一括			10	4					10	176	30													

第15表 SH04出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨擦石・砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(縦 横 幅を除く)	骨製品	計			
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	u	u	u		
SH04	内観	総計	4	1	-	15	-	2	-	7	5	-	12	-	-	-	-	-	-	59	365	-	470				
		I層	1			7				2			6							22	146						
		I-a層	1							1			1								4						
		I-b層	1																								
		II層			6	1	5	1	2										18	106							
		III層																		3	23						
		IV層																		3							
		床直	1	2						1	1									9	22						
		一括	1					1		2	2									7	61						

土器は、III-a類が3点とIII-c類が2点出土し、IV-b-cも1

点ずつ出土している。胸窓についてても、押引文系土器が10点

出土し、凹線文・細沈線文に比べ比率が高い。

その他、モンガラカワハギの鱗が出土した。

竪穴状遺構4号(SH04)(第18図・第14・15表)

検出状況: K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH27と重複しており、SH04がSH27を切っている(古SH27<SH04新)。

形状と規模：短軸 2.62m×長軸 2.82m×深さ 0.3mで円形を呈する。床面は2段掘りで、遺構内・外の柱穴と考えられるピットを計 5 基検出した。ピットは中央に集中して見られた。

堆積状況等： I 層の埋土は、他の層でみられる土に比べ小骨や焼土粒などが多く混入（10～20%程度）しており、堆積状況などから、遺構廃棄後に廃棄土坑として再利用した可能性が考えられる。

骨跡等は確認できなかったが、堆積状況からIV層が床面と考えられる。

なお、整理作業の接合部に、I-a 層と I 层、また I 层と II 層出土の遺物がそれぞれ接合した。このことから、これらの層が堆積する過程に大きな時期差がないと考える。

出土遺物：砂質土器 778 点、泥質土器 44 点、石器 46 点（9.248 g）、礫 365 点（6.033 g）が出土した。このうち、砂質土器 21 点、泥質土器 5 点、石器 10 点を実測した。

土器は、IV'a 類が 5 点と IV'c 類が 6 点出土し、II'a 類、III 類 c-d、IV'b-d 類が 1～2 点ずつ出土している。胴部については押引文と細弦文を施したもののが圧倒的に多く出土している。出土土器の多くは、遺構内上層（I 层・I-a 層・II 層）からの出土である。

石器については、有溝砥石が 12 点出土しており、他の SH と比べ多く出土している。

動物遺体に関しては、サメ類の歯、ウツボ科、アオブダイ属、ニザギなどの魚骨が出土し、植物遺体については堅果類の子葉？や皮？などが出土した。

竪穴状遺構 5 号（SH05）（第 19 図・第 16・17 表）

検出状況：K-2 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の SH と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模：短軸 3.64m×長軸 4.4m×深さ 0.58mで円形を呈する。床面は 2 段掘りで、遺構内・外に柱穴と考えられるピットを計 13 基検出した。ピットの配置に規則性は見られなかつた。遺構は、中世のピット 1 基に切られている。

堆積状況等： I・II 層を掘り下げた後の III 層上面で、赤色化した被熱面を確認した。III 層堆積後に進行した遺構の 2 次利用の痕跡と考えられる。

出土遺物：砂質土器 2,156 点、泥質土器 125 点、石器 69 点（15.324 g）、石製品 2 点（18.893 g）、礫 1,529 点（8.945 g）が出土した。このうち、砂質土器 90 点、石器 32 点、石製品 2 点を実測した。

土器は、IV'b 類の出土点数が目立つが、II 類・III 類・IV 類も出土している。ただし、遺物のほとんどが I・II 層からの出土である。他の SH と比べ、出土遺物の全体量が多い。

動物遺体に関しては、サメ類の歯、ハリセンボン科やフグ科、ダイ科などの魚骨、植物遺体についてはタブノキの子

葉や堅果皮？などが出土した。

V 層（ドット 201）から採取した炭化物の放射性炭素年代測定と樹輪同定を行った。放射性年代測定では、¹⁴C 年代（yrBP）3940±20 の値と、樹輪についてはツツジ属と同定された。

竪穴状遺構 6 号（SH06）（第 20 図・第 18・19 表）

検出状況：K-3 区で検出された。検出面は表土直下の地山面で、SH07 と重複関係がある。精査を行ったが、重複関係をつかむことができなかつた。

形状と規模：短軸 1.8m（推定）×長軸 2.1m×深さ 0.1m で梢円形を呈する。床面は 1 段掘りである。

堆積状況等：他の遺構に比べ遺構が浅いことから、遺構上面が耕作などにより削削された可能性が考えられる。

出土遺物：砂質土器 109 点、泥質土器 5 点、石器 1 点（1,800 g）、石製品 1 点、礫 41 点（3.22 g）が出土した。このうち、砂質土器 6 点、石器 1 点、石製品 1 点を実測した。なお、SH06 か SH07 か所属が不明のものは SH06 の集計に入れていない。

土器は、II-a-b 類と IV'a-c-d 類がそれぞれ 1 点ずつ出土している。胴部については、押引文系と細弦文系が圧倒的に多く同量出土している。

その他、サメ類の歯、アオブダイ属、ハリセンボン科などの魚骨やイノシシの骨が出土している。

竪穴状遺構 7 号（SH07）（第 20 図・第 20・21 表）

検出状況：K-3 区で検出された。検出面は表土直下の地山面で、SH06 と重複関係がある。精査を行ったが、重複関係をつかむことができなかつた。また、遺構は、中世の土坑（SK31）に切られている。

形状と規模：短軸 1.9m（推定）×長軸 2.26m×深さ 0.28m で梢円形を呈する。床面は 2 段掘りである。

堆積状況等：他の遺構に比べ遺構が浅いことから、遺構上面が耕作などにより削削された可能性が考えられる。

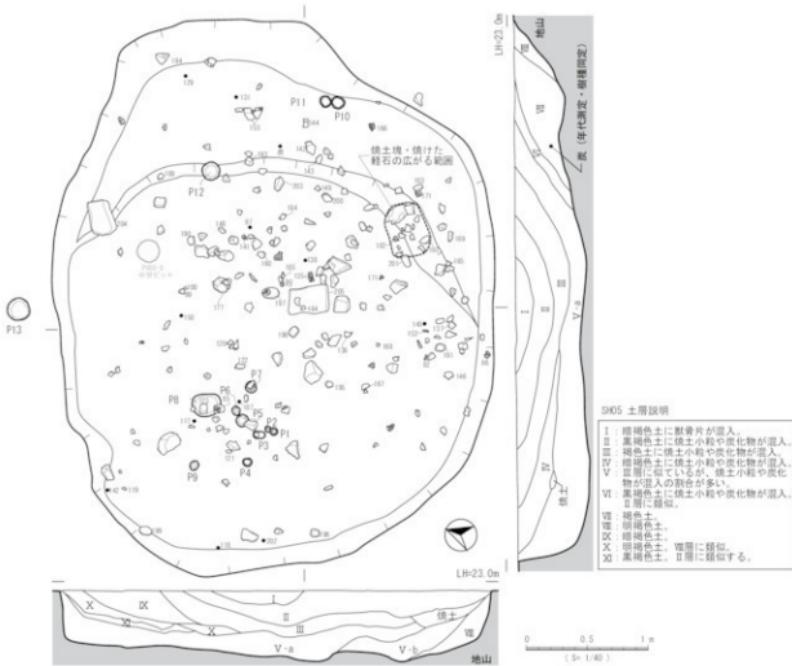
出土遺物：砂質土器 203 点、泥質土器 19 点、石器 7 点（3.572 g）、礫 54 点（268 g）が出土した。このうち、砂質土器 7 点、石器 7 点を実測した。なお、SH06 か SH07 か所属が不明のものは SH07 の集計に入れていない。

土器は、IV-d 類が 3 点出土し、その他に III-c 類、IV-a-b 類もそれぞれ 1 点ずつ出土している。胴部に関しても、細弦文系土器の比率が高く、押引文系、四縫文系も出土している。

竪穴状遺構 8 号（SH08）（第 21 図・第 22・23 表）

検出状況：L-3 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH09 と重複関係がある。明確な切り合い関係が確認できなかつたが、SH09 に切られている可能性が高い。

形状と規模：短軸 2.1m×長軸 2.22m（残存部・推定）×深さ 0.22m で梢円形を呈する。床面は 1 段掘りである。



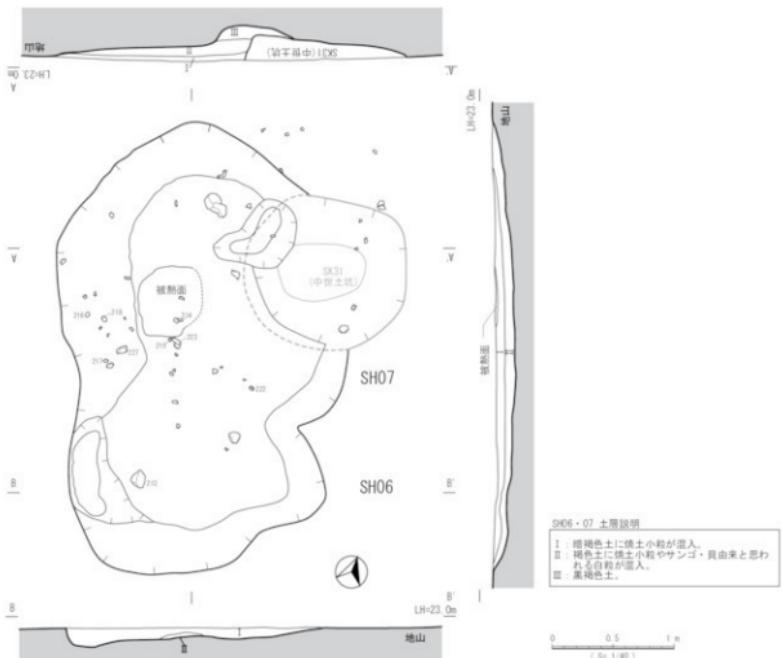
第19図 SH05 実測図

第16表 SH05出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類		II類		III類		IV類		V類		VI	VII	計					
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e					
SH05	横円形	2段	総数	1	5	4	2	2	-	2	1	1	6	19	5	3	-	-	11	-	62
			I層	3	1					1	1		1	3	2				2		
			II層										1	3	1						
			III層										1								1
			IV層																		
			V層																		
			一括	4	2	2	1			1	1	4	12	2	3				8		
			分類外																		
			押引文																		
			内訳																		
			I層																		
			II層																		
			III層																		
			IV層																		
			床面																		
			一括										27	19	50	795	61	43			
			分類外																		
			内訳																		
			I層																		
			II層																		
			III層																		
			IV層																		
			床面																		
			一括																		

第17表 SH05出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形石器	凹形石器	凸形石器	台石	石斧	砥石	有溝砥石	状臼石	スクレイパー	石製品	棒状石器	磨製骨器	不明石器	石核	玻璃	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SH05	総計	9	7	-	22	-	2	2	-	6	2	-	17	-	2	-	1	-	-	21	1529	-	1620	
	I層	2	1		4		1	1		6			6		1						14	392		
	II層	1			1																1	230		
	III層	1	1		3					1			2									141		
	IV層																				1	8		
	一括	5	5		14		2	1		4	2		9		1		1			5	758			



第20図 SH06・SH07 実測図

第18表 SH06出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類			I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅵ類	Ⅶ類	計
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'					
SH06	横円形 2段	内訳一括	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	1	-	6		
			分類外									押引文		凹線文		細沈線文		砂質土器		泥質土器	不明	計	
			总数									3		-		2		98	5	-	108		
			内訳一括									3				2		98	5				
			内訳一括																				
			内訳一括																				

第19表 SH06出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	器種										石製品	棒状石器製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
		磨石	敲石	敲打石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	苔石系	石皿	石斧										
SH06	总数	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	41	-	45	
	内訳一括											1						2	41		

堆積状況等：他の遺構に比べて遺構が浅く、単一層であることから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

出土遺物：砂質土器 54 点、泥質土器 2 点。石器 7 点 (919 g)、鍵 31 点 (1,838 g) が出土した。このうち、石器 1 点を実測した。

分類可能な土器口縁部土、II-a 類 1 点のみ出土した。その

他は無文の砂質土器断面であった。

その他、ブダイ科などの魚骨やクジラ類の骨が出土した。

第20表 SH07出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類		I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅵ	Ⅶ	計
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'					
SH07	横円形	1段	総数	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
			I層								1											
			内訳																			
			一括								1											
			分類外								押引文			凹線文			細沈線文		砂質土器	泥質土器	不明	計
			総数								3			2			9		184	19	-	217
			I層								1			2			7		127	16		
			内訳											2			2		57	3		
			一括																			

第21表 SH07出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクリレイバー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	縞(琥珀を除く)	骨製品	計
SH07	1段	総計	-	1	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	-	-	1	-	7	54	-	68	
		I層		1									3							1	1	1	39		
		内訳																					6	15	
		一括							1		1														

第22表 SH08出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類		I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅵ	Ⅶ	計
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'					
SH08	横円形	1段	総数	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
			I層		1																	
			内訳																			
			一括																			
			分類外								押引文			凹線文			細沈線文		砂質土器	泥質土器	不明	計
			総数								-			-			53	-	-	-	53	
			I層														36					
			内訳														17					
			一括																			

第23表 SH08出土石器・骨製品集計表

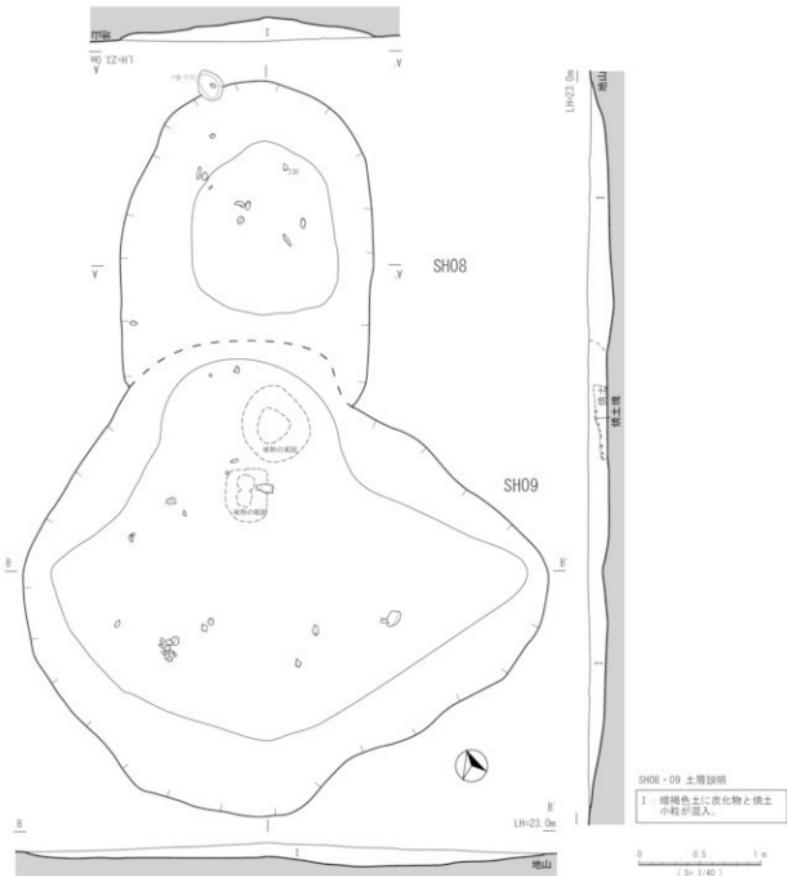
遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクリレイバー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	縞(琥珀を除く)	骨製品	計
SH08	1段	総計	-	1	2	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	31	-	38
		I層		1															1				16		
		内訳																					15		
		一括		1	1	2				1															

第24表 SH09出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類		I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅵ	Ⅶ	計		
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'							
SH09	横円形	1段	総数	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	12	-	20
			I層		1																4	5		
			内訳																		7			
			一括		1	3																		
			分類外								押引文			凹線文			細沈線文		砂質土器	泥質土器	不明	計		
			総数								1			1			57	2	-	-	61			
			I層											1			51	2						
			内訳														6							
			一括																					

第25表 SH09出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクリレイバー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	縞(琥珀を除く)	骨製品	計
SH09	1段	総計	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	12	-	20	
		I層		1	3																4	5			
		内訳																			7				
		一括																							



第21図 SH08・SH09 実測図

竪穴状遺構9号(SH09) (第21図・第24・25表)

検出状況: L3区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH08と重複関係がある。明確な切り合い関係が確認できなかったが、SH09がSH08を切っている可能性が高い。

形状と規模: 短軸3.9m(推定)×長軸4.28m×深さ0.16mで梢円形を呈する。床面は1層掘りである。

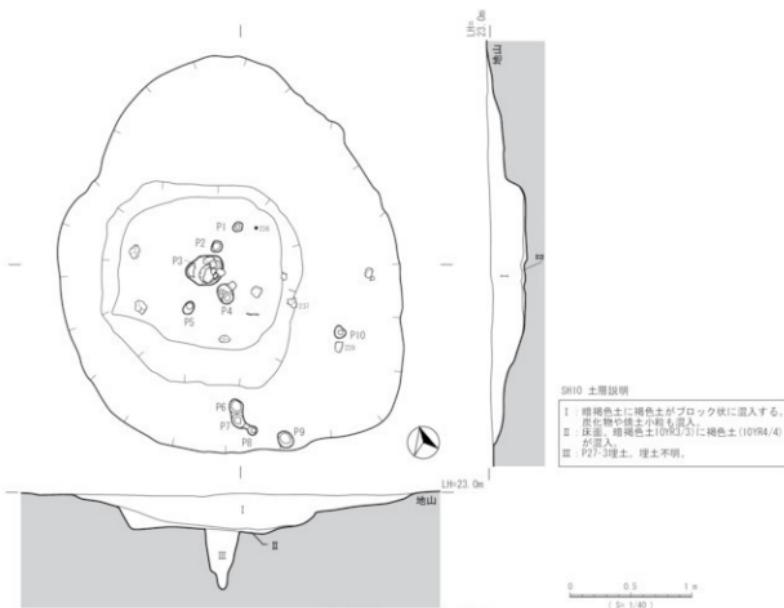
堆積状況等: 遺構内北側で1層掘り下に堅こ、赤色化した被石面を2か所検出した。

他の遺構に比べて遺構が浅く、単一層であることから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

出土遺物: 砂質土器60点、泥質土器2点、石器4点(536g)、礫12点(839g)が出土した。すべて小片であることから、実測はしていない。

土器は、II-a類1点と、腹部片では、押印文系と網状線文系がそれぞれ1点ずつ出土している。

動物遺体に関しては、サメ類の歯やウツボ科、ブダイ科などの魚骨が出土した。植物遺体については堅果皮?などが出土した。



第22図 SH10 実測図

第26表 SH10出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類		I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅵ	Ⅶ	計	
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'						
SH10	横円形 2段	内訳	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	5			
			I層			床直			一括			押引文			凹線文			細沈線文			1		
			分類外			内訳			押引文			凹線文			細沈線文			砂質土器			1		
			総数			内訳			14			8			6			246			3	-	277
		内訳	I層			床直			一括			7			4			92			1		
			II類			内訳			7			8			2			152			2		
			III類			内訳			7			8			2			152					

第27表 SH10出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・磨石	磨敲石	圓形石器	凹石	台石	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレーバー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(標本を除く)	骨製品	計
		総計	-	5	-	5	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	8	98	-	118		
SH10	内訳	I層			4	4	P10-3			1			1			1			8			8	45	
		II類			内訳			床直			1			1			1			52				
		III類			内訳			一括			1			1			1			52				
		IV類			内訳			床直			1			1			1			52				

堅穴式遺構 10号 (SH10) (第22図・第26・27表)

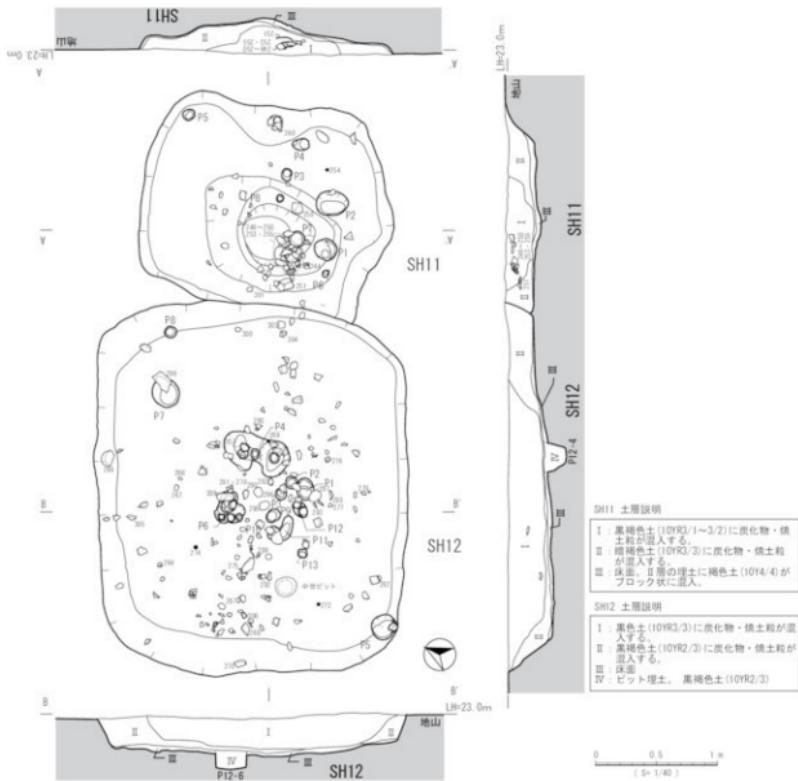
検出状況: J-1・2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他のSHと重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模: 短軸2.8m×長軸3.2m×深さ0.16mで椭円形を呈する。床面は2段組りで、遺構内に柱穴と考えられるピットを計10基検出した。ピットの配置に規則性は見られないかなった。

堆積状況等: 堆積状況からII層が床面と考えられる。

出土遺物: 砂質土器279点、泥質土器3点、石器12点(6,560g)、琥珀98点(763g)が出土した。このうち、砂質土器4点、石器5点を実測した。

石器は、III-d類が2点とII-e類が1点出土している。また、V類に分類した土器が2点出土している。胴部に関しては、



第23図 SH11・SH12 実測図

押引文系の出土の比率が高く、次いで凹線文系、細光線文系である。

動物遺体に関しては、サメ類・ブダイ類の歯やモンガラカワハギ科の鱗などが出土した。植物遺体についてはシマサルナシベニ果皮などが出土した。

竪穴状遺構11号 (SH11) (第23図・第28・29表)

検出状況: J-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH12と重複しており、SH12に切られている(古SH11<SH12新)。

形状と規模: 短軸1.62m(残存部・推定)×長軸2.08m×深さ0.3mで橢丸長方形を呈する。床面は2段掘りで、遺構内に柱穴と考えられるピットを計8基検出した。ピットはIII

層上面で検出されている。ピットの配置に規則性は見られなかった。

堆積状況等: ピットがIII層上面で検出されることや堆積状況からIII層が末面と捉えた。

I層の堆積形態は、立ち上がりがしっかりとしており人為的に掘り返された痕跡の可逆性が弱い。遺構発発後の2次利用と考えられる。

出土遺物: 砂質土器183点。泥質土器2点。石器10点(2,191g)、鍬55点(629g)が出土した。このうち、砂質土器16点、石器4点を実測した。

土器は、IV-b類が8点出土し、III-c類、IV-c-d類が1~2点出土している。遺物は、ほとんどが上層に堆積するI層からの出土である。

第28表 SH11出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅵ類	Ⅶ類	計
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'			
SH11	隅丸長方形	2段	総数	-	-	-	-	-	-	1	-	-	7	2	2	-	-	-	-	12	
			I層							1			7	2							
			II層																		
			P11-7																		
			床直																		
			一括																		
			分類外																		
			総数																	2	
			I層																		
			II層																		
			P11-7																		
			床直																		
			一括																		

第29表 SH11出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨敲石	円形状状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイバ	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	（琥珀を除く）	骨製品	計	
SH11	内訳	総計	-	4	-	2	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	13	55	-	78			
		I層		4		2													12	39					
		床直																	1	3					
		一括																		13					
		分類外																							
		総数																							
		I層																		1	-	3	-	19	
		I・II層																							2
		II層																							
		P6																							
		P11																							
		P12																							
		床直																							
		一括																							

第30表 SH12出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅵ類	Ⅶ類	計		
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'					
SH12	隅丸長方形	1段	総数	-	2	-	-	-	-	-	-	5	3	2	3	-	-	1	-	3	-	19	
			I層				2					4	3	2	3								
			I・II層																				
			II層									1											
			P6																				
			P11																				
			P12																				
			床直																				
			一括																				
			分類外																				
			総数																				
			I層									28	-	47	974	113	-	-					1162
			I・II層									22		33	672	103							
			II層									1		4	24	2							
			P6																				
			P12-11																				
			P12																				
			床直																				
			一括									2		2	166	5							

第31表 SH12出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨敲石	円形状状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイバ	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	（琥珀を除く）	骨製品	計	
SH12	内訳	総計	2	15	-	15	1	-	2	1	8	-	1	26	-	1	-	-	-	77	402	-	551		
		I層	2	13	11				1	7	1	16								26	276				
		I・II層																		4					
		II層		1					2					1						4	20				
		P2																			1				
		P4																			1				
		P6																			1				
		P9																			3	15			
		床直	1	3	1					1		3								39	88				
		一括																							
		分類外																							
		総数																							
		I層																							
		I・II層																							
		II層																							

動物遺体に関しては、ウツボ科やアオダイ属、ニザダイ科の魚骨が出土した。植物遺体についてはシマサルナシや堅果皮?などが出土した。

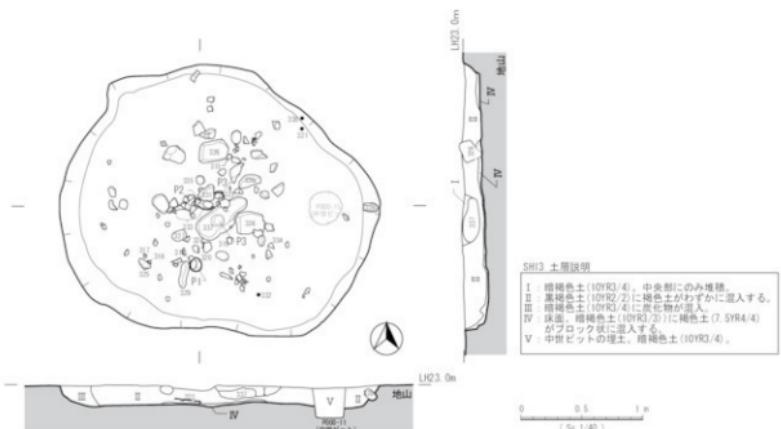
堅穴状遺構 12号 (SH12) (第23図・第30・31表)

検出状況：J・K・Z 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH11 と重複関係があり、SH12 がSH11 を切っている。(古 SH11 < SH12 新)。また、遺構は中世のビット

1基に切られている。

形状と規模：短軸 2.54m×長軸 3.0m (推定) ×深さ 0.38m で隅丸長方形を呈する。床面は1段掘りで、遺構内に柱穴と考えられるビットを計13基検出した。ビットの配置に規則性は見られなかった。

堆積状況等：ビットがⅢ層上面で検出されることからⅢ層を床面と捉えた。



第24図 SH13 実測図

第32表 SH13出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類			III類			IV類			V類				
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'	計	
SH13	内訳	1段	総数	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	?
			II層									1						3		
			床直									1								
			P1																	
			P3																	
			一括	1								1								
			分類外																不明	計
			総数				7		2		31		365		101		-		506	
			II層				5		1		4		258		63					
			床直				2		1		2		4		11					
			P1								2		22		6					
			P3									1								
			一括								3		80		21					

第33表 SH13出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨石	圓形石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状器	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	骨 製品	計	
		3	5	1	10	-	-	6	2	4	1	-	10	-	-	-	-	-	12	112	-	166
SH13	総計	1	4	1	8			5	1	2	1		6						9	55		
	II層												1							4		
	P1																					
	P3																					
	内訳																					
	床直																					
	一括	2	1	2					2		3							3	50			

I層の堆積形態は、立ち上がりのしっかりした浅鉢形であり、遺構廃棄後の2次利用として再び掘り返された痕跡の可能性が高い。

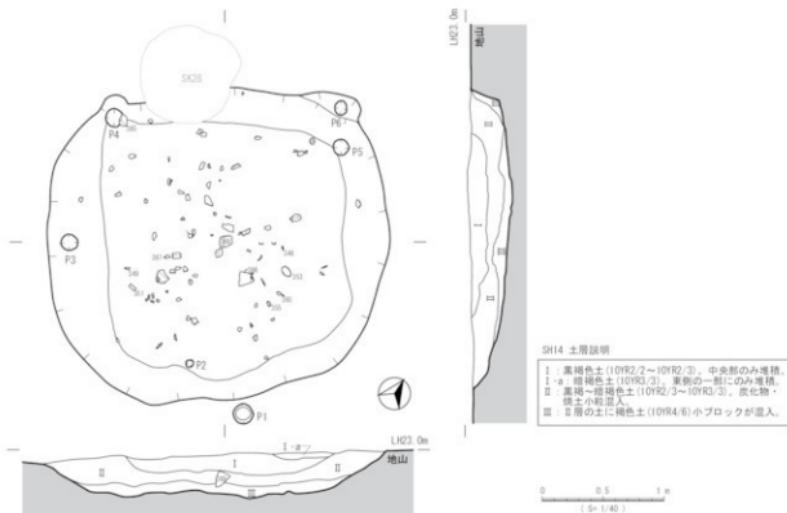
出土遺物：砂質土器1,068点、泥質土器113点、土製品1点、石器74点(13,333g)、石製品1点、繩402点(3,837g)が出土した。このうち、砂質土器23点、泥質土器1点、石器25点、石製品1点を実測した。

土器は、IV-e類以外のIV類とII-a類、V-b類が出土する。胴部に関しては、押引文系が比率として高いが、細沈線文系も出土している。ただし、ほとんどの土器がI層からの出土である。

土器・石器ともに他の遺構と比べて多く出土しているが、中でも有溝砥石が26点と多い。

出土した石器のうち、磨礫石4点(295~297・309)の残存デンブン粒の分析を行い、295と297からデンブン粒が検出された。しかし、デンブン粒の分解が進んでいることや形状からは植物種の同定まで至ることができなかった。

動物遺体に関しては、サメ類の歯、ペラ科、オオブダイ属、ブダイ科、ニザダイ科の魚骨やヘビイノシシなどの歯骨が出土した。植物遺体については、床面上のII層の土壌サンプルからシマサルナシやタブノキ?、堅果類子葉?などが出土した。このうち、タブノキ?1片の放射性炭素年代測定を



第25図 SH14 実測図

第34表 SH14出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類		I類			II類			III類			IV類			V類			VI	VII'	計
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'				
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	
			I層																1			
			I・II層																			
			II層																			
			内訳																			
			II・III層																			
			III層																			
			床直																			
			一括																			
SH14	円形 1段		分類外		押引文			凹線文			細沈線文			砂質土器			泥質土器			不明	計	592
			総数			7						3			519	60		3				
			I層			1						1			72	15						
			I・II層			2						1			147	14						
			II層												139	18		3				
			内訳												23	3						
			II・III層			3						1			14	5						
			III層			1									11	1						
			床直												113	4						
			一括																			

第35表 SH14出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器イバ	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	珪塙	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
		1	2	-	3	-	-	4	-	2	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	23	182	-	226
SH14																								

古い、 ^{14}C 年代 (yrBP) 3,380±20の値を得た。

このほか、床面上で採取した炭化物から放射性炭素年代測定と樹輪同定も古い、 ^{14}C 年代 (yrBP) 3,565±20の値とツヅジ属と同定された。

竪穴状構造13号 (SH13) (第24図・第32・33表)

検出状況: K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他のSHと重複は見られないが、中世のピット1基に切られている。

呈する。床面は1段掘りで、遺構内に柱穴と考えられるピットを計4基検出した。ピットは、中央付近に集中して検出した。

堆積状況等：堆積状況からIV層が床面と考えられる。

出土遺物：砂質土器412点、泥質土器101点、石器42点（58,243g）、礫112点（4,960g）が出土した。このうち、砂質土器12点、泥質土器2点、石器20点を実測した。

土器は、IVc類が2点出土し、II-a類とIV-a類が1点ずつ出土している。また、VII類に分類した土器も3点ある。胴部については、細沈線文系が出土の比率が高く、押引文系や回線文系が少なかった。

石器についても、遺構中央部より崩壊最大の台石（338g）が出土しており、他にも台石や石皿（326・336）など大型の石器が出土している。

出土した石器のうち、石皿1点（326）と磨礪石1点（328）、台石1点（329）、台石・石皿1点（336）の計4点の残存デンブン粒の分析を行ったがデンブン粒は検出されなかつた。

動物遺体については、ブダイ科の歯が出土している。また、植物遺体についてはタブノキが出土した。

竪穴状遺構14号（SH14）（第25図・第34・35表）

検出状況：K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他のSHと重複は見られないが、中世の土坑1基（SK28）に切られている。

形状と規模：短軸2.56m×長軸2.82m×深さ0.38mで隅丸長方形を呈する。床面は1段掘りで、遺構内・外に柱穴と考えられるピットを計6基検出した。ピットの配置に規則性は見られなかつた。

堆積状況等：ピットは、III層を掘り下げた地山面で検出された。地山面では、明瞭な床面の痕跡は検出できなかつた。

出土遺物：砂質土器538点、泥質土器60点、石器21点（8,456g）、礫182点（2,469g）が出土した。このうち、砂質土器12点、石器14点を実測した。

土器は、IV-b-c-d類と、III-a-e類が出土している。また、VII類に分類した土器も2点ある。最下層（III層）からの出土遺物は少量であるが、押引文系土器や細沈線文系土器と共に泥質土器も出土している。

動物遺体については、ハリセンボン科、アオブダイ属などの魚骨やクジラ類の骨が出土した。植物遺体については堅果皮？などが出土した。

その他、III層の地山直上から採取した炭化物から放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。放射性炭素年代測定では、¹⁴C年代（yrBP）3,535±20の値と、樹種はイヌノキと同定された。

竪穴状遺構15号（SH15）（第26図・第36・37表）

検出状況：L-1区で検出された。検出面は表土直下の地山面

である。他のSHと重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模：短軸2.32m×長軸2.58m×深さ0.47mで方形に近い不定形を呈する。床面は2段掘りで、遺構内に柱穴と考えられるピットを計2基検出した。ピットは遺構中央部付近までとまって検出された。

堆積状況等：ピットは、V層を掘り下げた地山面で検出された。地山面では、踏み固めたというような明瞭な床面の痕跡は検出できなかつた。

出土遺物：砂質土器490点、泥質土器88点、石器17点（3,466g）、石製品1点、礫205点（9,185g）が出土した。このうち、砂質土器8点、泥質土器1点、石器9点、石製品1点を実測した。

土器は、IV-d類が3点出土し、II-b類とIII-e類が1点ずつ出土している。胴部については、細沈線文系土器の比率が高く、押引文系が少なかった。

動物遺体については、ウツボ科、アオブダイ属、ブダイ科、ニザダイ科などの魚骨とクジラ類の骨が出土した。植物遺体についても堅果皮？などが出土した。

竪穴状遺構16号（SH16）（第27図・第38・39表）

検出状況：K-L-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH17～21と重複関係があり、SH16はSH17～21に切られている（古 SH16<SH17～21 新）。本遺跡中、SHが一番重複する遺構であり、これらの重複関係を持つSHの埋土が似似している事や各SHの深さ、底面形状が似似している事から、調査中はその新旧関係を判断するのに困難を要した。

形状と規模：短軸4.34m×長軸4.36m×深さ0.34mで不定形である。床面は1段掘りである。

堆積状況等：地山面で精査を行ったが、ピットは確認できず、また、明瞭な床面の痕跡は検出できなかつた。

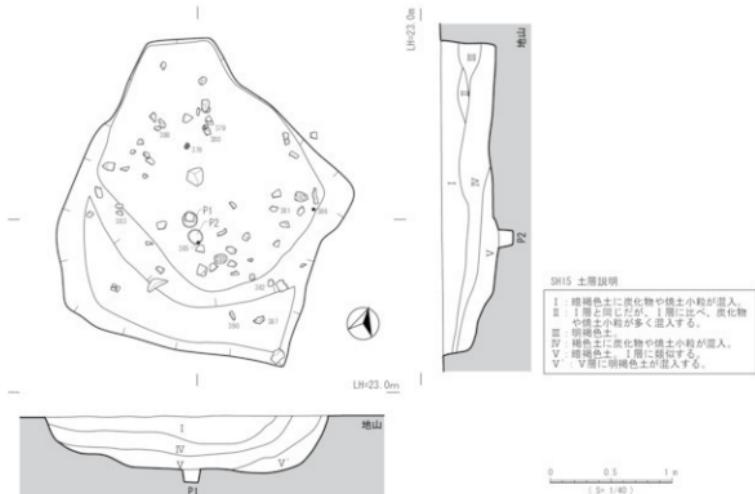
出土遺物：砂質土器94点、土製品1点、石器14点（3,691g）、礫52点（2,368g）が出土した。このうち、砂質土器5点、土製品1点、石器7点を実測した。

土器は、IV-a類が2点出土したほか、III-a-c類、IV-b類がそれぞれ1点ずつ出土した。胴部については細沈線文系と押引文系がほぼ同数出土し、回線文系は少なかった。

竪穴状遺構17号（SH17）（第27図・第40・41表）

検出状況：K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH16・SH18と重複関係があり、SH17は、SH16を切っている。また、SH18に切られている（古 SH16<SH17<SH18 新）。

形状と規模：短軸2.26m×長軸2.42m（残存部）×深さ0.46mで円形を呈する。床面は1段掘りである。



第26図 SH15 実測図

第36表 SH15出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類		I類		II類		III類		IV類		V類		VI類		VII類		計
			总数		a	b	c	d	a	b	c	d	e	a'	b	b'	計		
SH 15	不 定 形	2段	内訳	I層	1				1				3	-	-	-	1	-	6
			V・VI層	一括									1					1	
			分類外	総数					押引文		凹線文		細次線文		砂質土器		泥質土器	不明	計
												31	451	88	-			572	
			I層						1			16	230	47					
			V・VI層	一括								2	67	9					
									1			13	154	32					

第37表 SH15出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石斧	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	ストライバー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	(琥珀を除く)	骨製品	計
SH15	内訳	I層																				2	94	
			V・VI層	一括	3	2	1	1	1	1	6	1	2	12	12	94						1	17	

堆積状況等: 地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。堆積状況からIV層が床面と考えられる。IV層上面では被熱面は確認できなかった。被熱面を確認したのは、上層に堆積するI-a・b層を掘り下げた後のIII層上面であることから、III層がある程度埋まった時点で火を使った何かしらの行為が付されたと考えられ、SH17は2度にわたり利用されたものと考えられる。

出土遺物: 砂質土器544点、泥質土器49点、石器15点(2,688g)、棒状石製品1点、礫172点(8,450g)が出土した。こ

のうち、砂質土器7点、泥質土器3点、石器7点、棒状石製

品1点を実測した。

土器は、II-e類が3点出土し、その他II-a類、III-a・c類がそれぞれ1点ずつ出土した。刷毛では、凹線文系と細次線文系が同数量出土し、凹線文系がオザカ文化に出土している。ただし、下層であるIII層以下からは押引文系土器のみが出土している。

動物遺体に関しては、サメ類の歯やアオブダイ属やブダイ科の魚骨が出土した。植物遺体については堅果皮?などが出土した。



第27図 SH16~SH21実測図

第38表 SH16出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類			Ⅱ類					Ⅲ類					Ⅳ類					面	裏	計	
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'						
SH16	不定形	1段	總数	-	-	-	1	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5			
			I層				1		1		1	1												
			II層																					
			一括							1														
			分類外																					
			起数				4			1		5		79		-	1		90					
			I層							1				3										
			II層										1											
			一括				4				5		75											
			内訳																					

第39表 SH16出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝磁石	バスクレイ	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計		
SH16	内訳	総計	3	-	-	1	-	1	1	-	1	1	5	-	-	-	-	-	1	-	-	52	-	66		
		I層	3					1	1				1													
		一括	1					1	1				1										18		34	
		分類外																								
		起数																								
		I層																								
		II層																								
		一括																								
		内訳																								
		一括																								

第40表 SH17出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類			Ⅱ類					Ⅲ類					Ⅳ類					面	裏	計		
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'							
SH17	内訳	1段	總数	-	1	-	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	9		
			I層				1																		
			I・II層				2	1																	
			III層																						
			床直				1																		
			一括							1															
			分類外																						
			起数				23		7		23		484		47										584
			I層				8		3		6		218		19										
			II・III層				5		2		15		100		9										
			内訳				7						60		1										
			一括				3				2		105		18										

第41表 SH17出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝磁石	バスクレイ	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	(琥珀を除く)	骨製品	計		
SH17	内訳	総計	2	3	-	2	-	1	-	1	-	-	3	-	-	1	-	3	-	-	13	172	-	201	
		I層	1	2				1					1			1		3				8	94		
		I・II層											2									1	31		
		II層																				2	16		3
		III層																				2	28		
		床直				1		2		1															
		一括																							
		内訳																							
		一括																							
		内訳																							

第42表 SH18出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類			Ⅱ類					Ⅲ類					Ⅳ類					面	裏	計		
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'							
SH18	内訳	1段	總数	-	-	-	4	2	-	-	1	-	3	-	4	-	-	-	1	-	-	17	181	-	213
			I層				1	2			1		1		3				1			4	67		
			II層																				3		
			床直																						
			一括																						
			内訳																						
			一括																						
			内訳																						
			一括																						
			内訳																						

第44表 SH19出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類			II類			III類			IV類			V類			VI	VII'	計
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'			
SH19	円形	1段	總數	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0		
			I層																	
			II層																	
			一括																	
			分類外																	
			總數																	
			I層																	
			II層																	
			一括																	
			内訳																	
SH19	内訳		押引文																	
			凹線文																	
			細沈線文																	
			砂質土器																	
			泥質土器																	
SH19	内訳		不明																	
			計																	
			191																	
			6																	
			7																	

第45表 SH19出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	バーチ石レイ	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計		
SH19	内訳		總數	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	21		
			I層																							
			II層																							
			III層																							
			IV層																							
			一括																							
			分類外																							
			總數																							
			I層	2	2	-	3	-	1	1	-	1	-	6	-	-	-	-	-	4	68	-	88			
			II層	1	1																	15				
SH19	内訳		一括	1	1	3	1		1					6								4	53			

第46表 SH20出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類			II類			III類			IV類			V類			VI	VII'	計	
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'				
SH20	隅丸長方形	1段	總數	-	-	1	-	-	-	-	1	3	1	8	1	-	-	6	-	21	
			I層																		
			II層																		
			III層																	1	
			IV層																	2	
			一括																	3	
			分類外																		
			總數																		
			I層	24	-		7				71	949	153	-							1204
			II層	2			2				34	509	52								
SH20	内訳		III層								9	43	22								
			IV層				3				7	187	26								
			一括				6				21	210	53								

第47表 SH20出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	バーチ石レイ	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計			
SH20	内訳		總數	-	-	2	1	1	-	1	14	-	1	-	-	-	-	-	-	-	29	385	-	436			
			I層	2	1						6		1								19	189					
			II層																			21					
			IV層								1										1	30					
			一括								1											9	145				
			分類外																								
			總數																								
			I層	2	1																						
			II層																								
			IV層																								
SH21	内訳		一括								5	3	19	372	16	-	-	-	-	-	12	133	1	154			

第48表 SH21出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類			II類			III類			IV類			V類			VI	VII'	計					
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'								
SH21	隅丸長方形	1段	總數	-	-	3	1	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	0				
			I層																						
			II層																						
			III層</																						

竪穴状遺構 18 号 (SH18) (第 27 図・第 42・43 表)

検出状況：K-2 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH16・SH17 と重複関係にあり、SH18 は、SH16・SH17 を切っている（古 SH16<SH17<SH18 新）。

形状と規模：短軸約 2.3m×長軸 3.04m×深さ 0.36m で円形を呈する。床面は 1 段掘りである。

堆積状況等：地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。また、明顯な床面の痕跡は検出できなかった。

出土遺物：砂質土器 489 点、泥質土器 99 点、土製品 4 点、石器 15 点 (8,833 g)、礫 181 点 (1,320 g) が出土した。このうち、砂質土器 16 点、泥質土器 1 点、土製品 4 点、石器 15 点を実測した。

土器は、IV-d 類が 16 点出土し、その他 IV-e 類以外の IV 類が全般に出土している。出土遺物の大部分が遺構上部に堆積する 1 層からの出土である。

動物遺体に関しては、ブダイ科、ニザダイ科、ハリセンボン科などの魚骨とイノシシの骨が出土した。植物遺体は、シマサルナシペラコ果皮？が出土した。

竪穴状遺構 19 号 (SH19) (第 27 図・第 44・45 表)

検出状況：L-2 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH16・SH20・SH21 と重複関係にあり、SH16 を切っている。また、SH20・SH21 に切られている（古 SH16<SH19<SH20・21 新）。SH18 の西侧部分について、断面では SH16 との切り合いを確認できたが、平面は不明瞭であったため、想定されるラインを太破線で表記した。

形状と規模：短軸 1.68m (現存部・推定) ×長軸 1.84m ×深さ 0.4m で円形を呈する。床面は 1 段掘りである。

堆積状況等：地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。また、明顯な床面の痕跡は検出できなかった。

出土遺物：砂質土器 184 点、泥質土器 7 点、石器 16 点 (6,243 g)、礫 68 点 (4,948 g) が出土した。このうち、石器 9 点を実測した。

分類可能な土器口縁部は出土していないが、胴部は、押引文や彫刻文を施したものが出土地していている。

竪穴状遺構 20 号 (SH20) (第 27 図・第 46・47 表)

検出状況：L-2 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH16・SH19 と重複関係にあり、SH20 は、この 2 つを切っている（古 SH16<SH19<SH20 新）。

SH20 の北側部分には、断面では SH19 との切り合いを確認できたが、平面は不明瞭であったため、想定されるラインを太破線で表記した。

形状と規模：短軸約 2.86m ×長軸 2.72m ×深さ 0.48m で隅丸長方形を呈する。床面は 1 段掘りである。

堆積状況等：地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。また、明顯な床面の痕跡は検出できなかった。

出土遺物：砂質土器 1,073 点、泥質土器 153 点、土製品 3 点、石器 21 点 (5,226 g)、石製品 1 点、礫 385 点 (3,946 g) が出土した。このうち、砂質土器 30 点、泥質土器 1 点、土製品 3 点、石器 21 点、石製品 1 点を実測した。

土器は、IV-d 類が 9 点出土し、IV-e 類全般や II-b 類、III-c 類が 1~3 点出土した。また、VII 類に分類した土器も 6 点ある。胴部については、細丸線文系が主体となるが、押引文系や凹線文系も出土している。

石器については、有溝砥石が 14 点出土している。

竪穴状遺構 21 号 (SH21) (第 27 図・第 48・49 表)

検出状況：L-2 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH16・SH19 と重複関係にあり、SH21 は、この 2 つの遺構を切っている（古 SH16<SH19<SH21 新）。

形状と規模：短軸 1.8m ×長軸 2.2m ×深さ 0.28m で隅丸長方形を呈する。床面は 1 段掘りである。

堆積状況等：地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。また、明顯な床面の痕跡は検出できなかった。

出土遺物：砂質土器 405 点、泥質土器 16 点、石器 6 点 (1,38 g)、石製品 1 点、棒状石製品 1 点、礫 133 点 (863 g)、骨製品 1 点が出土した。このうち、砂質土器 6 点、石器 6 点、石製品 1 点、棒状石製品 1 点、骨製品 1 点を実測した。骨製品は装飾品と考えられ、本遺跡ではこの 1 点のみである。

土器は、IV-e 類が 3 点のほか、IV-b 類が 2 点、IV-d 類が 1 点出土している。

動物遺体については、ブダイ科の歯が出土している。植物遺体については、堅果皮？が出土した。



第28図 SH22・SH23 実測図

堅穴状遺構22号 (SH22) (第28図・第50・51表)

検出状況: K-1区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH23と重複開削あり、SH23に切られている。

(古 SH22<SH23 新)。断面では SH23との切り合いを確認できたが、平面は不明瞭であったため、想定されるラインを太破線で表記している。

形状と規模: 短軸 1.16m(残存部・推定)×長軸 2.58m×深さ 0.32mで梢円形を呈する。床面は1段掘りである。

堆積状況等: 地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかつた。また、明瞭な床面の痕跡は検出できなかつた。

出土遺物: 砂質土器 418点。泥質土器 90点。土製品 1点。石器 13点 (2,802g)、礫 100点 (2,101g) が出土した。このうち、砂質土器 2点。土製品 1点。石器 6点を実測した。

土器は、IV-a類とIV-d類が1点ずつ出土した。胴部は、細沈線文系の土器の出土比率が高いが、押立文系や凹線文系もわずかに出土している。

動物性遺体土、ブダイ科やニザダイ科などの魚骨が出土した。植物遺体土、シマサルナシゼ堅果皮?が出土した。

第50表 SH22出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	Ⅰ類			Ⅱ類				Ⅲ類				Ⅳ類			Ⅴ類			Ⅵ	Ⅶ	計
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'					
SH22	横円形	1段	总数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
			I層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			内訳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			分類外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			总数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	507	
			I層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			内訳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

第51表 SH22出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝磁石	スクライバー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	種	骨製品	計
SH22	内訳	-	-	-	5	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	12	100	-	125
		-	-	-	4	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	6	81	-	
		-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	6	19	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第52表 SH23出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	Ⅰ類			Ⅱ類				Ⅲ類				Ⅳ類			Ⅴ類			Ⅵ	Ⅶ	計		
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'							
SH23	横丸長方形	2段	总数	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	14	-	-	-	-	3	2	24			
			I層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3			
			II層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
			III層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
			一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2		
			分類外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
			总数	-	-	-	2	-	-	6	-	60	-	547	-	222	-	-	-	-	-	-	-	837	
			I層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			II層	-	-	-	-	-	-	6	-	28	-	363	-	134	-	-	-	-	-	-	-	-	
			III層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

第53表 SH23出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝磁石	スクライバー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	種	骨製品	計
SH23	内訳	4	2	-	4	-	-	1	-	1	-	6	1	-	-	1	3	-	-	17	165	-	205	
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	8	105	-		
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	9	-	-	9	22	-		
		-	-	-	3	1	-	4	-	1	-	5	1	-	-	1	2	-	-	-	37	-	-	

堅穴式遺構23号 (SH23) (第28図・第52・53表)

検出状況：K-L1 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH22と重複関係にあり、SH23はSH22を切っている。(古 SH22<SH23 新)。断面ではSH22との切り合いで確認できたが、平面は不明瞭であったため、想定されるラインを太破線で表記した(第28図)。

形状と規模：矩軸2.68m×長軸3.1m(推定)×深さ0.52mで横丸長方形を呈する。床面は1段掘りである。中央付近にくぼみがあり、V層が堆積している。

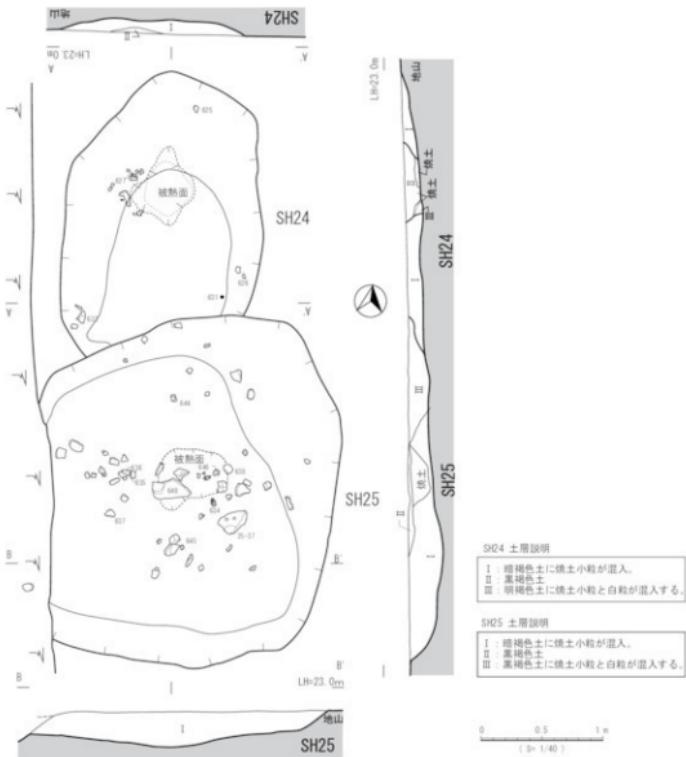
堆積状況等：地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。また、踏み固めたといいうような明瞭な床面の痕跡は検出できなかった。

出土遺物：砂質土器636点、泥質土器224点、石器23点(8,428g)、礫165点(3,535g)が出土した。このうち、砂質土器34点、泥質土器2点、石器14点、礫1点を実測した。

土器は、IV-d類が13点出土し、IV-e類が5点出土している。また、Ⅴ類に分類したものが3点、Ⅵ類が2点ある。

胸部に關しては、細紋線文系の土器の出土比率が高いが、四線文系や押引文系もわずかに出土している。

その他、ウツボ科、ブダイ科、モンガラカワハギ科などの魚骨や小型鳥類の骨が出土した。



第29図 SH24・SH25 実測図

堅穴状遺構24号 (SH24) (第29図・第54・55表)

検出状況: L-2 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH25 と重複開削あり、SH25 に切られている。(古SH24<SH25 新)。

形状と規模: 短軸 1.64m × 長軸 2.4m (残存部) × 深さ 0.14 m で梢円形を呈する。床面は 1段掘りである。

堆積状況: 地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかつた。また、明顯な床面の痕跡も検出できなかつた。

中央部に掘り込まれていた II 層除去後、赤色化した被熱面を確認した。I 層堆積後にに行われた遺構の 2 次利用の痕跡と考えられる。

SH24 は他の遺構に比べ浅ことから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

出土遺物: 砂質土器 201 点、泥質土器 63 点、石器 3 点 (531 g)、礫 29 点 (404 g) が出土した。このうち、砂質土器 7 点、石器 2 点を実測した。

土器は、IV-d 類が 5 点出土し、IIIc 類が 1 点、IV-a 類が 2 点出土している。胴部に関しては、沈線文系の土器のみが出土した。

その他、ウツボ科やブダイ科の骨が出土した。

第54表 SH24出土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類			Ⅱ類					Ⅲ類					Ⅳ類					Ⅴ類					Ⅶ類	Ⅷ類	計
			I	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'	a'	b	b'						
SH 24	横 円 形	1段	総数	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7		
			内訳	I層			一括			1			1			4			1			-			-			
			分類外	押引文			凹線文			細沈線文			砂質土器			泥質土器			不明			計			257			
			総数	-			-			34			160			63			-			-			257			
			I層	-			-			11			42			19			-			-			-			
			一括	-			-			23			118			44			-			-			-			

第55表 SH24出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計			
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅹ	Ⅺ	Ⅻ	Ⅼ	Ⅽ	Ⅾ	Ⅿ	ⅰ	ⅲ	ⅰ	ⅱ	ⅳ	ⅴ	ⅶ	ⅷ			
SH 24	内訳	I層			-			-			-			-			-			-			-			38		
		一括			-			1			-			-			-			-			2			8		
内訳																												

第56表 SH25出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類			Ⅱ類					Ⅲ類					Ⅳ類					Ⅴ類					Ⅶ類	Ⅷ類	計
			I	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'	a'	b	b'						
SH 25	隅丸長方形	1段	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	6		
			内訳	I層			-			-			-			-			-			-			-			
			分類外	押引文			凹線文			細沈線文			砂質土器			泥質土器			不明			計			153			
			総数	-			1			-			12			127			13			-			-			
			I層	-			-			-			2			6			1			-			-			
			一括	-			1			-			10			121			12			-			-			

第57表 SH25出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計			
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅹ	Ⅺ	Ⅻ	Ⅼ	Ⅽ	Ⅾ	Ⅿ	ⅰ	ⅲ	ⅰ	ⅱ	ⅳ	ⅴ	ⅶ	ⅷ			
SH 25	内訳	I層			2			1			-			2			-			-			-			84		
		I～Ⅲ層			1			-			-			2			-			-			1			8		
内訳																												

堅穴状遺構 25 号 (SH25) (第29図・第56・57表)

検出状況：L2 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH24 と重複開拓にあり、SH25 は、SH24 を切っている。(古 SH24<SH25 新)。

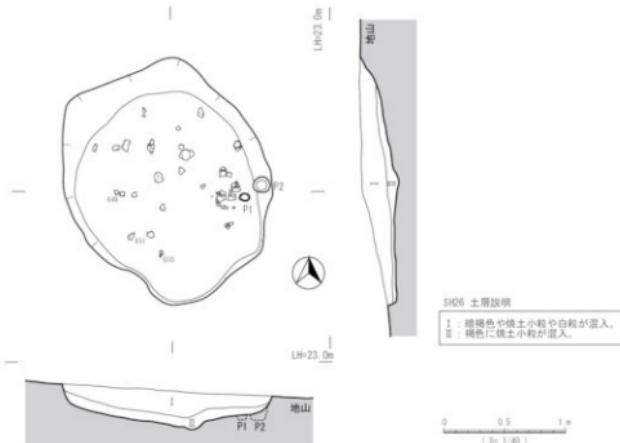
形状と規模：傾斜 2.42m × 長軸 2.82m × 深さ 0.29m で隅丸方形を呈する。床面は 1 段掘りである。
堆積状況等：地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。また、明瞭な床面の痕跡も検出できなかった。
中央部のみに堆積していた II 層除去後、炉跡と考えられる被熱で赤色化した掘り込みを確認した。I・III 層堆積後に行われた遺構の 2 次利用の痕跡と考えられる。SH24 と SH25 は、ともに理歴後少し掘り込んで凹みを作り、火を使った何かしらの行為が行なわれている。

SH25 は他の遺構に比べ堆積が浅いことから、遺構上面が耕作などにより削削された可能性が考えられる。

出土遺物：砂質土器 145 点、泥質土器 14 点、石器 25 点 (11,800 g)、珪 39 点 (1,278 g) が出土した。このうち、砂質土器 6 点、泥質土器 2 点、石器 7 点を実測した。

上器は、IV～類とIV-d 類が 2 点ずつ出土している。また、VII類に分類したものが 2 点と VIII類に分類したものが 1 点ある。胸窓については枕線文系が 11 点、押引文が 1 点のみ出土した。

出土した石器のうち、台石・石皿 2 点 (647・648) の残存デンプン粒の分析を行い、647 からデンプン粒が 4 点検出された。損傷のないデンプンは 1 点のみで、植物種主では同定できなかったが、鱗茎・根茎類由来するもの可能性が高いと分析された。



第30図 SH26 実測図

第58表 SH26出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類		II類					III類					IV類					V類				
			I類		a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'	Ⅵ	Ⅶ'	計	
			総数	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
SH 26	横円形	1段	内訳一括		押引文					凹線文					細沈線文					砂質土器				
			分類外												泥質土器					不明				
		総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	156	
		内訳一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第59表 SH26出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクエイヤー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	蝶形	骨製品	計
		SH26	総計	-	1	-	1	-	-	-	-	4	-	-	-	-	2	-	-	1	22	-	31
内訳一括	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	2	-	-	1	22	-	-	

堅穴状遺構 26 号 (SH26) (第30図・第58・59表)

検出状況：K・L・1 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の SH と重複は見られず、単独で検出された。

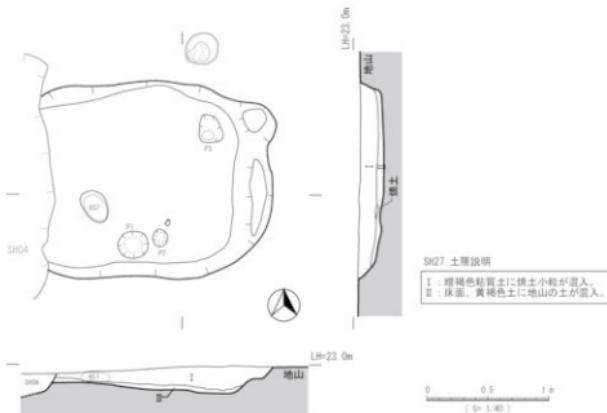
形状と規模：短軸 1.72m × 長軸 2.02m × 深さ 0.3m で横円形を呈する。床面は 1 段掘りで、中央部に向かって緩やかに傾斜しており、中央部がややくぼんでいる。遺構内に柱穴と考えられるビットを計 2 基検出した。ビットは東側にまとまつて見つかっている。

堆積状況：ビットは、II 層除去後の地山面での検出であった。地山面では踏み固めたというような明瞭な床面の痕跡は検出できなかった。

出土遺物：砂質土器 89 点、泥質土器 69 点、石器 8 点 (1,054 g)、礫 22 点 (384 g) が出土した。このうち、砂質土器 2 点、泥質土器 2 点、石器 4 点を実測した。

VII類と VIII類に分類したもの以外分類可能な土器口縁部は出土しなかつたが、細沈線文系の胴部が数点出土した。

その他、サメ類の歯やアオブダイ属の骨などが出土した。



第31図 SH27 実測図

第60表 SH27出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類			Ⅱ類			Ⅲ類			Ⅳ類			Ⅴ類			Ⅵ類	Ⅶ類	計
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'			
SH27	隅丸長方形	1段	内訳	I層														-	-	0
			分類外																	計
			内訳	I層														3	4	-
			総数															3	4	7

第61表 SH27出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨石・砥石	磨石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	弦石	石製品	棒状石石器	磨石製品	不明石器	石核	琥珀	縫合	骨製品	計
		総計	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	9	-	13
SH27	内訳	1層		1						1										2	9		

堅穴状遺構27号 (SH27) (第31図・第60・61表)

検出状況: K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH04と重複しており、SH04に切られれている(古SH27<SH04新)。

形状と規模: 短軸1.6m×長軸1.8m(残存部)×深さ0.24mで隅丸形を呈する。遺構の東側にはステップ状の高まりが見られる。床面は1段掘りで、西側から東側に向かって緩やかに傾斜している。また、遺構内に柱穴と考えられるビットを計3基検出した。ビットの配置に規則性は見られなかつた。

堆積状況等: II層直上に台石などの石器や赤色化した被熱面が認められることから、II層を床面としてとらえた。なお、ビットはII層を掘り下げた地山面で検出している。

出土遺物: 砂質土器3点、泥質土器4点、石器2点(7300g),

礫9点(215g)が出土した。このうち、石器1点を実測した。

分類可能な文様を持つ土器は出土しなかつたが、わずかに出土している砂質土器や泥質土器は、他のSHで出土しているものと胎土や焼成が同じであることから同時期の遺構と捉えている。

動物遺体に関しては、サメ類ペラダイ科の歯が出土した。植物遺体については堅果皮?や裸果類子葉?が出土した。

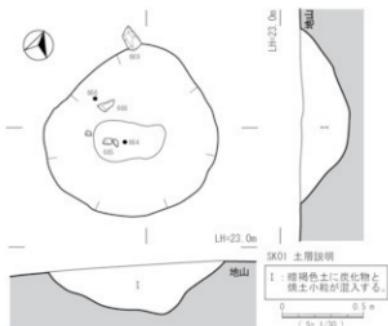
(4) 土坑 (SK)

縄文時代と考えられる土坑(以下「SK」)は、16基検出した。出土した遺物は、縄文時代後期～晩期と考えられる土器2,150点、石製品3点、石器68点、未加工の琥珀1点である。

平面形状は、円形・楕円形・方形・不定形の4種類を確認した。廃棄土坑の要素を持つ土坑もあるが、用途不明のものが多い。検出した遺構の一覧を第62表にまとめた。

自然科学分析については、SK10の最下層から採取した炭化物を用い、放熱性炭素年代測定と樹種同定を実施した。放射性年代測定については、¹⁴C年代(yrBP) 3,215±20の値を得た。樹種については、クスノキ科と同定された。

また、SK06のⅢ層より出土した未加工の琥珀は、産地を同定するためにFTIR(赤外分光)分析を行った。瑞浪市や奈義市、高梁市、三次市産の琥珀に近い値を得たが、同定には検討を要する結果を得た。分析結果については第Ⅲ章第3節(2)を参照されたい。以下、各SKの詳細を述べることとする。



第32図 SK01 実測図

第62表 土坑(SK)一覧

遺構名	棟出区	検出面	平面形状	短軸(m)	長軸(m)	深さ(m)	備考
SK01	L-3	VII層(地山)	円形	1.04	1.06	0.3	
SK02	K-L-3	VII層(地山)	楕円形	1.6	2.04	0.42	
SK03	K-3	VII層(地山)	円形	1.3	1.4	0.72	
SK04	L-2	VII層(地山)	楕円形	0.71	1.12	0.11	被熱部あり
SK05	K+L-2	VII層(地山)	不定形	1.46	1.5	0.18	2次利用あり
SK06	K-2	VII層(地山)	方形	1.46	1.64	0.36	琥珀出土
SK07	K-3-4	VII層(地山)	楕円形	1.32	2.09	0.33	
SK08	K-1	VII層(地山)	円形	0.98	1.08	0.13	
SK09	L-3	VII層(地山)	不定形	1.26	1.6	0.26	
SK10	P-18	VII層(地山)	円形	1.17	1.31	0.65	$3,215 \pm 20$ (yrBP) I層は包含層VII-a層
SK11	P-12	VII層(地山)	不定形	1.3	2.05	0.19	I層は包含層VII-a層が堆積
SK12	O-13	VII層(地山)	円形	1.74	1.75	0.78	I層は包含層VII-a層が堆積
SK13	Q-13	VII層(地山)	楕円形	0.9	1.23	0.37	I層は包含層VII-b層が堆積
SK14	P-17	VII層(地山)	円形	1.18	1.27	0.9	I層は包含層VII-a層が堆積
SK15	O-15	VII層(地山)	楕円形	0.95	1.25	0.64	I層は包含層VII-a層が堆積
SK16	N-12	VII-a層	円形	1.21	1.29	0.4	

土坑1号 (SK01) (第32図・第63・64表)

検出状況: L-3 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模: 短軸 1.04m×長軸 1.06m×深さ 0.3mで、平面形状は円形を呈する。

堆積状況等: 単層である。埋土中から歯骨小片が散在して出土している。

出土遺物: 砂質土器96点、泥質土器6点、石器4点(1,355g)、鍬 16点(404g)が出土した。このうち、砂質土器6点、石器2点を実測した。

土器は、II-a-c類やIII-a類が出土している。

動物遺体については、サメ類の歯やハタ科などの魚骨が出土している。また、植物遺体については、堅果皮?が出土している。

土坑2号 (SK02) (第33図・第65・66表)

検出状況: K-L-3 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

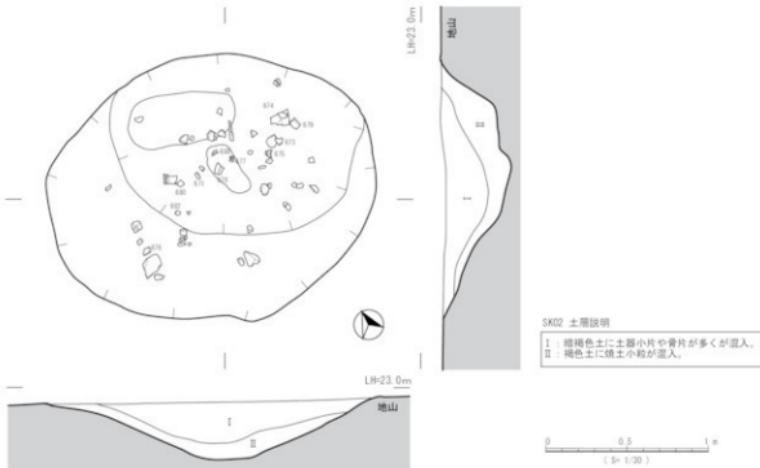
形状と規模: 短軸 1.6m×長軸 2.04m×深さ 0.42mで、平面形状は楕円形を呈する。

堆積状況等: 土器小片や歯骨小片が散在して出土する。

出土遺物: 砂質土器210点、泥質土器1点、石器3点(1,147g)、鍬 71点(1,394g)が出土した。このうち、砂質土器18点、石器2点を実測した。

土器は、II-a-c類やIII-a-c類が出土している。

動物遺体については、サメ類の歯、ハタ科、エフキダイ科、アオダイ属、ブダイ科、モンガラカワハギ科、ハリセンボン科などの魚骨やクジラ類の歯骨が出土している。



第33図 SK02 実測図

第63表 SK01出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	I類			II類					III類					IV類					Ⅵ Ⅶ 計			
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'	a	b	e			
				総数	-	5	-	1	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK01	円形	橢型	I層 内訳 一括	5		1							3												
			分類外 内訳 一括																						
			押引文																						
			凹線文																						
			細末線文																						
			砂質土器																						
			泥質土器																						
			不明																						
			計																						
			I層 内訳 一括																						
			1																						

第64表 SK01出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	内形状石器	磨礫石	内形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイバー	石製品	梯状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	種 (琥珀を除く)	骨製品	計			
SK01	總計		-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	20		
	内訳 一括		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14	2		
	1																										
	I層 内訳 一括																										
	1																										
	2																										

第65表 SK02出土土器集計表

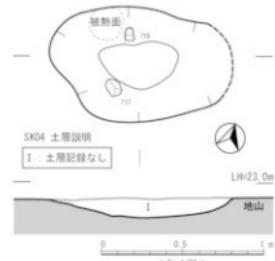
遺構名	分類	I類	II類			III類					IV類					V類					Ⅵ Ⅶ 計					
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'	a	b	c	d	e			
			総数	-	3	-	3	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK02	内形 内形 橢型	I層 内訳 一括	3	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	16
		分類外 内訳 一括			3	2																				
		押引文																								
		凹線文																								
		細末線文																								
		砂質土器																								
		泥質土器																								
		不明																								
		計																								
		I層 内訳 一括			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		1																								
		2																								

第66表 SK02出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	内形状石器	磨礫石	内形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイバー	石製品	梯状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	種 (琥珀を除く)	骨製品	計			
SK02	總計		-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	71	-	81	
	内訳 一括		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	7	49	22		
	1																										
	I層 内訳 一括																										
	1																										
	2																										



第34図 SK03 実測図



第35図 SK04 実測図

第67表 SK03出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類		I類					II類					III類					IV類					V類					Ⅵ類	Ⅶ類	計
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'	b''	a'	b'	b''	a'	b'	b''	a'	b'	b''					
SK03	円形	鉢型	总数	-	1	7	2	2	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	19		
			内訳			1	7	2	2		1		2																3			
			分類外																													
			总数																												283	
			I層																													
			一括																													

第68表 SK03出土石器・骨製品集計表

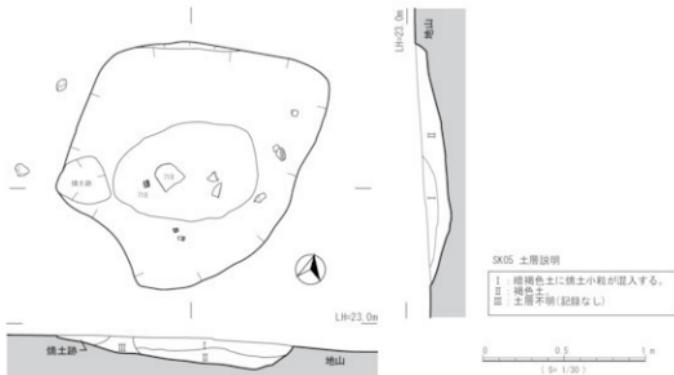
遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	磁石	有溝磁石	状石器	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計		
SK03		総計	-	2	-	4	-	1	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	96	-	123	
		I層		2		2		1	3		3												13	89		
		一括				2																		1	7	

第69表 SK04出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類		I類					II類					III類					IV類					V類					Ⅵ類	Ⅶ類	計
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'	b''	a'	b'	b''	a'	b'	b''	a'	b'	b''					
SK04	横円形	鉢型	总数	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2				
			I層																													
			一括																													
			分類外																													
			总数																											108		
			I層																													
			一括																													

第70表 SK04出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	磁石	有溝磁石	状石器	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計		
SK04		総計	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	3	25	-	32	
		I層		1		1								1					1			3	16			
		一括																					9			



第36図 SK05 実測図

第71表 SK05出土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類		I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅵ類	Ⅶ類	計		
					a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'				
			分類外	内訳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
SK05	不定形	横型	内訳		I層 一括			II層 一括			III層 一括			IV層 一括			V層 一括							
			分類外					押引文			凹線文			細沈線文			砂質土器			泥質土器		不明	計	
			内訳		内訳			内訳			内訳			内訳			内訳			内訳		62	計	
			内訳		内訳			内訳			内訳			内訳			内訳			内訳		1	計	
			内訳		内訳			内訳			内訳			内訳			内訳			内訳		51	計	

第72表 SK05出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨・磨	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクリレイバー	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	骨製品	計	
		総計	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	15	-	16
		内訳	I層	II層	III層	IV層	V層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	VI層	
SK05		内訳		内訳			内訳			内訳			内訳			内訳			内訳		4	計	
		内訳		内訳			内訳			内訳			内訳			内訳			内訳		11	計	
		内訳		内訳			内訳			内訳			内訳			内訳			内訳		1	計	

土坑3号(SK03) (第34図・第67・68表)

検出状況: K-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模: 短軸1.3m×長軸1.4m×深さ0.72mで、平面形状は円形を呈する。

堆積状況等: 単層である。埋土中から獸骨小片が散在して出土するが、中央部へ落ち込むにつれてその密度が高くなる状況が見られた。

出土遺物: 砂質土器301点、石器13点(28,416g)、礫96点(1,338g)が出土した。このうち、砂質土器18点、石器5点を実測した。

土器は、II-b類が7点出土するが、その他のII類やIII-a-c類、IV-b類が1~2点ずつ出土している。またV類に分類したものも3点ある。

動物遺体については、アナゴ科、ウツボ科、ハタ科、アオ

ブダイ属、ニザダイ科などの魚骨やクジラ類、ウミガメ類、イノシシなどの歯骨が出土している。また、植物遺体については、堅果皮が出土している。

土坑4号(SK04) (第35図・第69・70表)

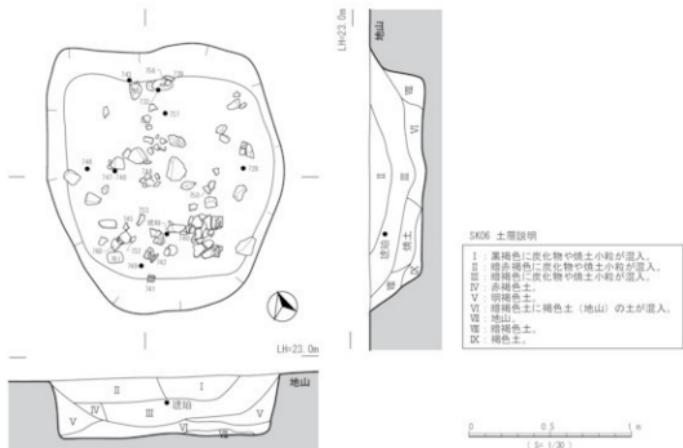
検出状況: L-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模: 短軸1.71m×長軸1.12m×深さ0.11mで、平面形状は幅円形を呈する。

堆積状況等: 単層である。I層を掘り下げた後、地山面から赤色化した被熱面を1基検出した。

出土遺物: 砂質土器94点、泥質土器16点、石器4点(1,215g)、礫25点(239g)が出土した。このうち、砂質土器2点、石器3点を実測した。

土器は、III-c類とV類に分類したものが1点ずつ出土した



第37図 SK06 実測図

第73表 SK06出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	II類			III類					IV類					V類					Ⅵ	Ⅶ'	計
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'					
SK06	方形	鉢型	総数	-	1	-	1	-	-	-	1	3	4	4	-	-	-	-	-	4	1	19		
			I層	1																				
			内訳																					
			II層																					
			一括				1					1	3	2	2						2	1		
			分類外																					
			総数					2			4			52			646	36	-			740		
			I層								1			13			232	18						
			II層								3			18			180	9						
			一括					1						21			234	9						

第74表 SK06出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砾石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石圓	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石	不明	石核	琥珀	剥片	(破損除去)	骨製品	計
SK06	内訳	総計	1	1	-	2	-	1	1	-	2	-	-	12	-	-	-	4	-	1	21	212	-	258
		I層												1								6	54	
		II層												1				1		1		7	74	
		III層												10				3		1				
		一括	1	1	-	2	-	1	1	-	2							3		8	84			

ほか、細粒線文を持つ脚部も出土している。

動物遺体については、サメ類の歯やアオダライ属などの魚骨が出土している。また、植物遺体については、堅果類子葉? や堅果皮? が出土している。

土坑5号(SK06)(第36図・第71・72表)

検出状況: K・L2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模: 短軸1.46m×長軸1.5m×深さ0.18mで、平面形状は不定形を呈する。

堆積状況等: 被熱面がIII層上面で検出されていることから、III層が埋まった後に再度掘り込まれ、遺構の2次利用がされ

ている可能性がある。

他の土坑に比べ浅いことから、上部が耕作等で削平された可能性がある。遺構の用意は不明である。

出土遺物: 砂質土器64点、泥質土器1点、石器2点(1,781g)、鐵15点(440g)が出土した。このうち、砂質土器2点、石器2点を実測した。

土器は、IIIe類が2点とIVd類が1点出土している。また、押引文や細粒線文が施された土器脚部が出土した。

土坑6号（SK06）（第37図・第73・74表）

検出状況：K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の構造と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模：短軸1.46m×長軸1.64m×深さ0.36mで、平面形状は方形を呈する。

堆積状況等：1層～III層の埋土中から獸骨小片や土器小片が散在する状況である。

III層を掘り下げる面で赤色化した被熱面を検出しており、土坑がある程度埋まつた時点で、何かしら火を使用する行為がなされたと考えられる。

出土遺物：砂質土器722点、泥質土器37点、石器24点（5,949g）、未加工の琥珀1点、礫212点（4,345g）が出土した。このうち、砂質土器24点、石器15点を実測した。

土器は、IV-b-c類の出土比率が高く、II-a-c類、III-e類、IV-a類なども出土している。また、VII類に分類したものが4点、VIII類が1点ある。

動物遺体については、ブダイ科、アオブダイ属、ハリセンボン科などの魚骨やイノシシなどの獸骨が出土している。また、植物遺体については、堅果皮？が出土している。

III層出土の琥珀は、FTIR（赤外分光）分析を行い、瑞浪市や奈義市、高梁市、三次市産の琥珀に近い値を得たが、同定するための標準資料がない少量産地や未発見の産地。あるいは消滅した産地である可能性も否定できないとの結果を得た。

土坑7号（SK07）（第38図・第75～77表）

検出状況：K-3-4区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。中世の焼土跡（焼土跡01号）に切られている。

形状と規模：短軸1.32m×長軸2.09m×深さ0.33mで、平面形状は橢円形を呈する。

堆積状況等：土器片や貝殻片がまとまって出土する状況みられる。構造は浅く、上部は耕作などで削平された可能性が考えられる。

出土遺物：砂質土器184点、土製品2点、石器3点（4,773g）、礫93点（1992g）が出土した。このうち、砂質土器4点、土製品2点、石器3点を実測した。

土器は、I類とIV-b類が1点ずつ出土している。また、VII類に分類したものが2点ある。また、押引文や胆線文、細沈線文が施された土器脚部も出土している。

動物遺体については、メジロサメ科の歯、ウツボ科、ハタ科、アオブダイ属、ブダイ科、ニザダイ科などの魚骨やウミガメ類、イノシシなどの獸骨が出土している。

自然遺物としての貝は、マガキガイやタカラガイ、イガレイシなどが出土している。

土坑8号（SK08）（第39図・第78・79表）

検出状況：K-1区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。中世のピット1基に切られている。

形状と規模：短軸0.98m×長軸1.08m×深さ0.13mで、平面形状は円形を呈する。

堆積状況等：単層である。検出時に焼土塊の溜りが見られたが、被熱による赤色化や硬化は検出されなかつたため、焼土塊が吹き込んで堆積したものと判断した。

理土からの出土遺物は少なく、構造の用途の特定には至らなかつた。

出土遺物：砂質土器28点、泥質土器5点、石器1点（2,350g）、礫21点（47g）が出土したが、実測は行わなかつた。

分類可能な土器口縁部は出土していないが、押引文や胆線文を施した脚部が出土している。

土坑9号（SK09）（第40図・第80・81表）

検出状況：L-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。遺構北側は、土坑（SK29）に切られている。

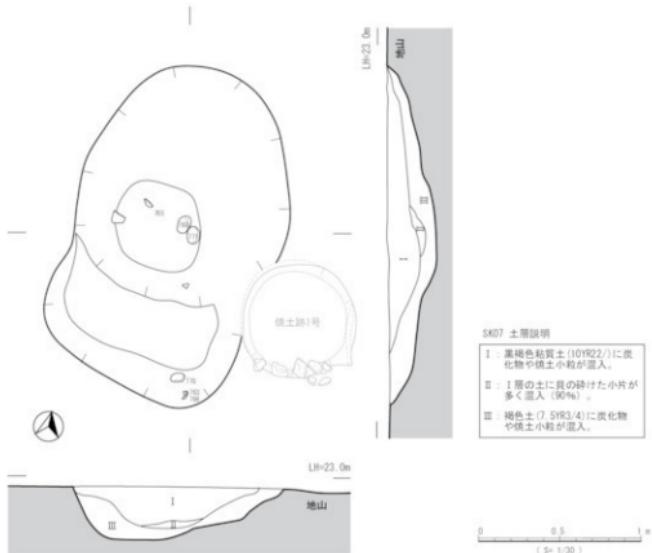
形状と規模：短軸1.26m×長軸1.6m×深さ0.26mで、平面形状は長方形に近いが不定形である。北側はステップ状で2段になっている。

堆積状況等：2層の堆積層を確認したが、いずれの層も遺物は少量であった。

出土遺物：砂質土器69点、泥質土器20点、石器5点（616g）、礫32点（624g）が出土した。このうち、砂質土器2点、石器1点を実測した。

土器は、IV-d類2点と、細沈線文系の土器脚部が出土している。

動物遺体については、サメ類の歯などの魚骨が出土している。また、植物遺体については、堅果皮？が出土している。



第38図 SK07 実測図

第75表 SK07出土土器集計表

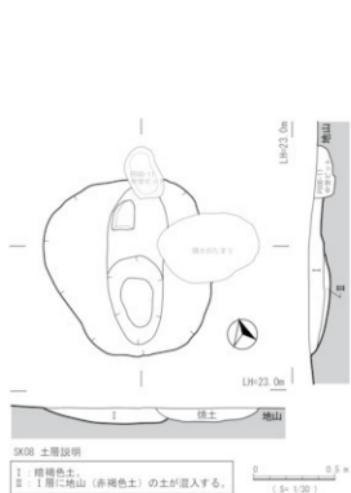
遺構名	平面形状	断面形状	分類		I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅳ	Ⅳ'	計
			a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	a'	b'	b''				
SK07	横円形	縄型	总数	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	
			I層	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-		
			内訳																			
			III層																			
			一括																			
			分類外																			
			总数						2	5	10	163	-	-	-	-	-	-	180			
			I層						2	5	2	96	-	-	-	-	-	-				
			内訳									1	-	-	-	-	-	-				
			III層									8	66	-	-	-	-	-				
			一括																			

第76表 SK07出土石器・骨製品集計表

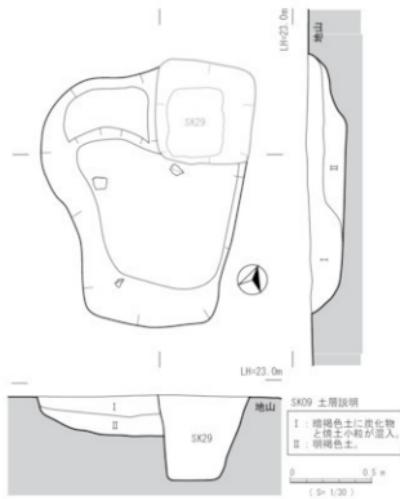
遺構名	器種	磨石	敲石	敲石	磨石	磨石	凹形状石器	台石	台石	石片	石片	砾石	有溝砾石	スクレイパー	石製品	棒状石製品	状石器	磨石器	不明石器	石核	琥珀	骨製品	計
		-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK07	総計	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	93	-
	I層				1	1	1															53	
	内訳																					2	
	III層																					38	
	一括																						

第77表 SH07出土貝集計表

遺構名	報告書層位	ガラス	アカガイ	アラヌメ	イガガイ	クモガイ	サラサバダイ	シャコガイ	タカラガイ	チヨウエセン	マガキガイ	ヤコウガイ	リュウマスキュー	巻貝	イモガイ	計
		アカガイシ	アラヌメ	イガガイシ	クモガイ	サラサバダイ	シャコガイ	タカラガイ	チヨウエセン	マガキガイ	ヤコウガイ	リュウマスキュー	計			
SK07	総数	1	1	9	1	1	5	12	6	46	14	1	2	1	100	
	I層	1		5	1	1	1	4	5	30	1	2	1			
	II層		1	4			4	8	1	16	13	1				
	III層															



第39図 SK08 実測図



第40図 SK09 実測図

第78表 SK08出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	II類			III類				IV類			V類			Ⅵ類	Ⅶ類	計
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'
SK08	円形	橢型	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
			内訳	一括															0
			分類外				押引文		凹線文		細沈線文		砂質土器		泥質土器		不明		計
			総数				1		-		4		23		5		-	33	
			内訳	一括			1		-		4		23		5				

第79表 SK08出土石器・骨製品集計表

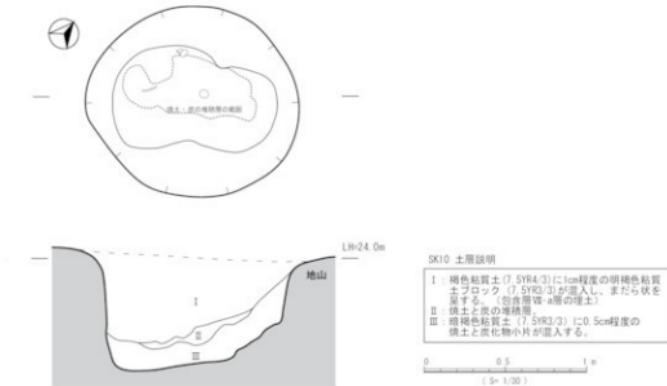
遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨歯石	凹凸石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SK08	総計	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	21	-	26
	内訳	一括					1													4	21		

第80表 SK09出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	II類			III類				IV類			V類			Ⅵ類	Ⅶ類	計
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'
SK09	不定形	橢型	内訳	一括															2
			分類外				押引文		凹線文		細沈線文		砂質土器		泥質土器		不明		計
			内訳	一括															87

第81表 SK09出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨歯石	凹凸石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SK09	総計	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	32	-	40
	内訳	一括	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	32		



第41図 SK10 実測図

第82表 SK10出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅵ類	Ⅶ類	計
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'		
			総数	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	
SK10	円形	鉢型	内訳	Ⅲ層	1																
			一括	2														1			
			分類外																		
			総数															27	69	96	
			内訳	Ⅲ層														27	69		
			一括																		

第83表 SK10出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	鬱石	鬱石・砥石	磨盤石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(破損を除く)	骨製品	計
		総計	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43	-	44		
SK10	内訳	一括								1												43			

土坑10号(SK10) (第41図・第82・83表)

検出状況：P-18区で検出された。検出面はⅦ-a層を掘り下げる前の地表面である。遺構内に堆積するⅠ層は包含層Ⅶ-a層の上であり、当初は「地表面の墓地」と捉えていた。しかし、中層より赤色化した被熱面も検出され、形状も人為的だと判断し、遺構として扱うこととした。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

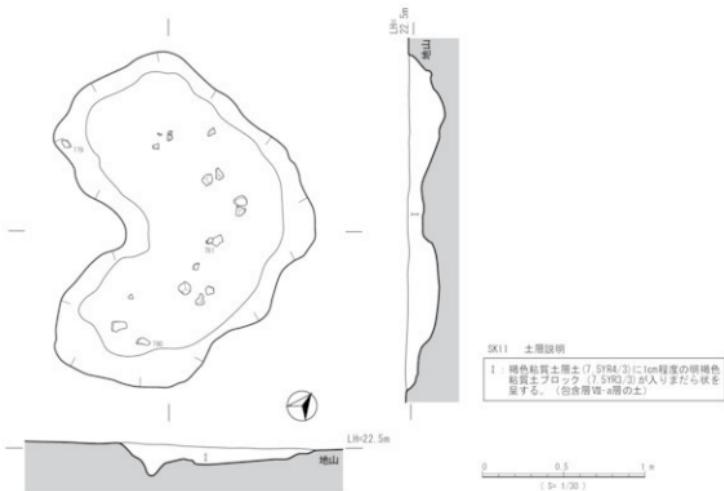
形状と規模：幅約1.17m×長軸1.31m×深さ0.65mで、平面形状が円形を呈する。

堆積状況等：Ⅱ層は焼土と炭の堆積であり、その最下面では赤色化した被熱面も検出された。Ⅲ層堆積後に何かしら火を使用する作業が土坑内で行なっていたようである。

出土遺物：砂質土器3点、泥質土器28点、石器1点(222g)、礫43点(1,016g)が出土した。このうち、砂質土器3点、石器1点を実測した。分類可能な土器口縁部は、I類が3点

とV-b'類が1点であるが、泥質土器脚部も出土している。

Ⅲ層より採取した炭化物を用い、放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。放射性年代測定は、¹⁴C年代(年)3,215±20の値を得た。樹種同定につきまでは、クスノキ科と同定された。



第42図 SK11 実測図

第84表 SK11出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類			Ⅰ類					Ⅱ類					Ⅲ類					Ⅳ類					Ⅵ・Ⅶ類		計
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'	a	b	c	d	e	a'	b	b'		
SK11	不定形	内訳	総数			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
			I層			一括																						
			分類外									押引文			凹線文			細沈線文			砂質土器			泥質土器			不明	
			紀数																								計	
			I層																								49	
			内訳			一括																					1	

第85表 SK11出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石												石器												計	
		鼓石	點石	點石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨圓石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品			
SK11	内訳	総計												-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	-	26
		I層												-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24		

土坑11号(SK11)(第42図・第84・85表)

検出状況:P-12区で検出された。検出面はVIIb層を掘り下げた後の地山である。他の遺構と切合は見られず、単独で検出された。

形状と規模: 短軸1.3m×長軸2.05m×深さ0.19mで、平面形状及び断面形状とともに不定形である。

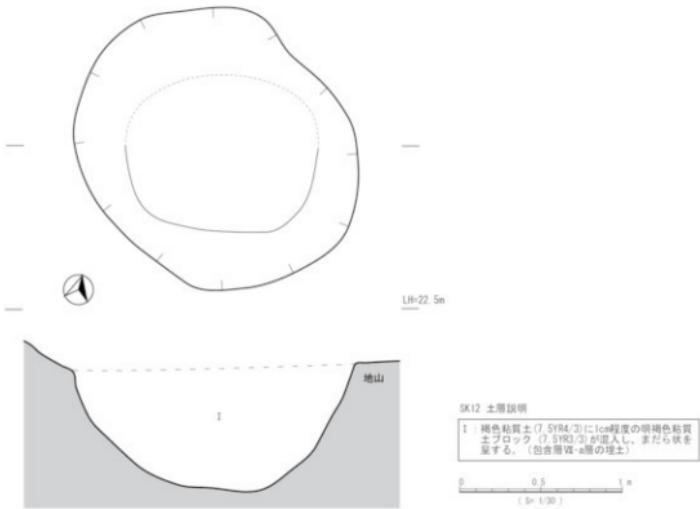
堆積状況等: 単層である。堆積する埋土は包含層VIIa層の土である。土器がわずかに出土するが、遺構の用途の特定には至らなかった。地山面の崖地に包含層VII層が堆積した自然地形の可能性も考えられる。

出土遺物: 砂質土器25点、泥質土器23点、石器2点(476g)、鍾24点(872g)が出土した。このうち、泥質土器3

点を実測した。

分類可能な口縁部土器は出土しなかつたが、細沈線文を持つ胸部が1点と無文の砂質土器と泥質土器が出土した。

自然遺物としては、ヤコウガイ片が1点遺構内一括で出土している。



第43図 SK12 実測図

第86表 SK12出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類		Ⅱ類			Ⅲ類			Ⅳ類			Ⅴ類			Ⅶ	Ⅷ'	計		
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'			
SK12	円形	椭型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
内訳			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
分類外			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
総数			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
内訳			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
I層			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
一括			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		

第87表 SK12出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイバー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	種類	骨製品	計		
SK12	I層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	4	
内訳	一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	4

土坑12号 (SK12) (第43図・第86・87表)

検出状況: O-13区で検出された。検出面はVIIa層を掘り下げた後の凹山面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模: 短軸1.74m×長軸1.75m×深さ0.78mで、平面形状は円形を呈する。

堆積状況等: 堆積するI層は包含層VIIa層の埋土である。遺物はオブジェに出土する。

出土遺物: 泥質土器2点、石器1点(280g)、鍍3点(43g)が出土した。このうち、泥質土器1点、石器1点を実測した。

分類可能な土器口縁部はV-a'類1点のみである。

土坑13号 (SK13) (第44図・第88・89表)

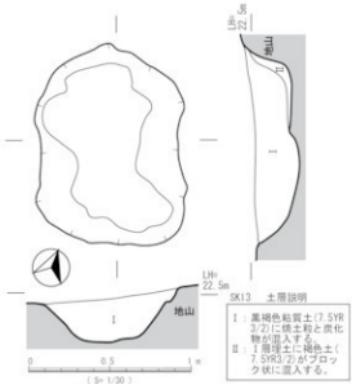
検出状況: Q-13区で検出された。検出面はVIIb層を掘り下げた後のVIIa層上面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模: 短軸0.9m×長軸1.23m×深さ0.37mで、平面形状は椭円形を呈する。

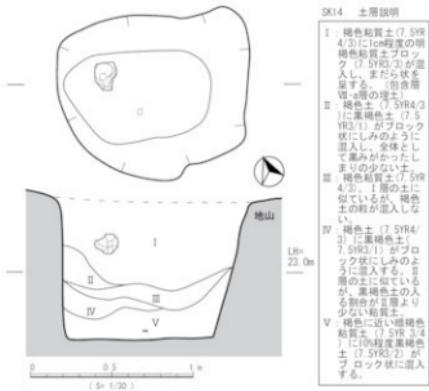
堆積状況等: I層の埋土は、上層に堆積していた包含層VIIb層の土である。遺物は、オブジェに出土する。

出土遺物: 泥質土器9点、鍍2点(48g)が出土した。このうち、泥質土器4点を実測した。

土器はV-b'類が5点と、V-a'類が1点出土している。また、泥質土器脚部も出土している。



第44図 SK13 実測図



第45図 SK14 実測図

第88表 SK13出土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	II類			III類			IV類			V類			面	面'	計
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e		
			总数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4
			I層 内訳 一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6
SK 13	横円形	輪型	分類外 总数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4
			内訳 I層 一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	29
				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	32

第89表 SK13出土石器・骨製品集計表

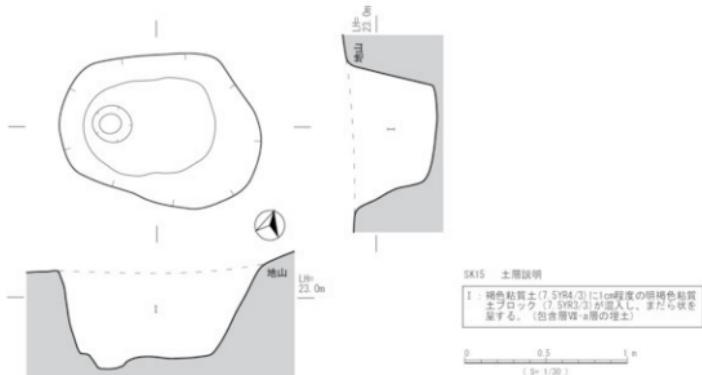
遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石斧	石斧	砥石	有溝砥石	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SK 13	總計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
	内訳 一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2

第90表 SK14出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	II類			III類			IV類			V類			面	面'	計	
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e			
			总数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
			内訳 一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
SK 14	円形	鉢型	分類外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3
			内訳 一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	8

第91表 SK14出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石斧	石斧	砥石	有溝砥石	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SK 14	總計	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	14	-	16
	内訳 一括	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	14	-	14



第46図 SK15 寒測図

第92表 SK15出土土器集計表

第93表 SK15出土石器・骨製品集計表

土坑 14 号 (SK14) (第 45 図・第 90・91 表)

検出状況: P-17 区で検出された。検出面はⅦa 層を掘り下げる前の地山面である。遺構内に堆積する 1 層は包含層Ⅶa 層の土であり、当初は「地山面の疊面」と捉えていた。しかし、中層より埋土が変わることや、形状も人為的だと判断し、遺構として扱うこととした。他の遺構と切合はない見られず、单独で検出された。

形状と規模: 短軸 1.18m × 長軸 1.27m × 深さ 0.9m で、平面形状は円形を呈する。

堆積状況等: 堆積するⅠ層は包含層Ⅶ-a層の土である。Ⅱ層以下は、遺物はオブザルバ出土實物: 砂質土器1点、泥質土器3点、石器2点(228g)、鐵14点(2,845g)が出土した。このうち、砂質土器1点、石器3点、鐵13点(2,839g)が出土した。

分類可能な土器口縁部や文様を持つ土器胴部などは出土しなかつたが、埋場に分類したものが 1 点ある。

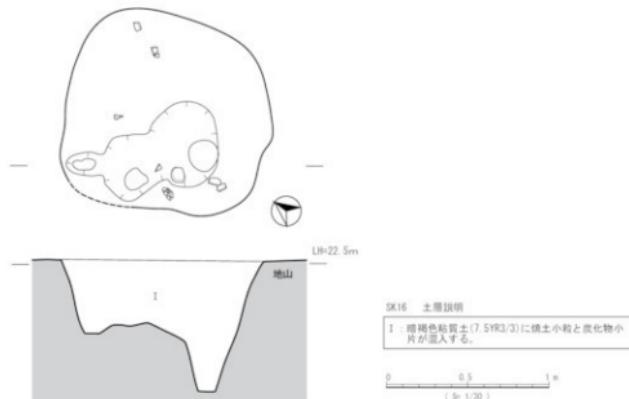
土坑 15 号 (SK15) (第 46 図・第 92・93 表)

検出状況: O-15 区で検出された。検出面はⅦa 層を掘り下がった後の地山面である。SK14 と同様に遺構内に堆積する I 層は包含層Ⅶa 層の上である。当初は「地山面の羅地」だと捉えていたが、形状が人為的と判断し、遺構として扱うこととした。他の遺構と重複したと思われる。出土で検出された

形状と規模: 短軸0.95m×長軸1.25m×深さ0.64mで、平面形状は橢円形を呈する。

堆積状況等: 単層である。遺物は縄が出土するのみで、遺構の用途の確定には至らなかった。

出土遺物：礪 2 点 (2g) が出土したのみで、実測は行っていない。



第94表 SK16出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類			I類					II類					III類					IV類					Ⅳ	Ⅳ'	計	
			a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'											
SK16	円形	不定形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	5	7							
			内訳			I層			一括																		4		
			分類外									押引文			凹線文			細沈線文			砂質土器			泥質土器			不明	計	
			総数																								3	68	71
			I層																										
			内訳			一括																					2	1	

第95表 SK16出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石レイバ	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計					
		統計	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	6						
SK16	内訳	I層			一括																					3			

土坑16号 (SK16) (第47図・第94・95表)

検出状況: N-12区で検出された。検出面はVI-b層を掘り下げた後のVI-a層上面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模: 短軸1.21m×長軸1.29m×深さ0.4mで、平面形状は円形を呈するが、断面形状は不定形である。

堆積状況: 単層である。遺物はI層の上部に集中する。

出土遺物: 泥質土器10点、石器3点(1,363g)、鍍3点(314g)が出土した。このうち、泥質土器5点、石器3点を実測した。

土器は、V-b'類が2点出土したほかは、VII'類に分類したもののが5点ある。また、泥質土器胴部が出土している。

(5) 溝状遺構 (SD)

縄文時代と考えられる溝状遺構（以下「SD」）は、15条検出した。すべてVf-b層を掘り下げた後のVf-a層上面で検出している。出土した遺物は「ア」であったが、土器37点と石器7点が出土した。時代を特定できるような文様が施された土器は出土しなかったが、遺構の検出状況から、縄文時代晚期の遺物と考えられる。

長さや幅は遺構によって異なっているが、深さは0.1m以下のものがほとんどである。検出した遺構の一覧を第96表にまとめた。

SD01・SD03・SD04・SD06から採取した埋土サンプルを用い、フローテーションを行ったが、植物遺体や動物遺体は検出されなかった。

溝状遺構 1号 (SD01) (第48図)

検出状況：P-Q-18区で検出された。遺構は、中世のビット5基と土坑 (SK17) 1基に切られている。

形状と規模：最大幅0.75m×長さ12.84m×最大深度0.07mを測る。

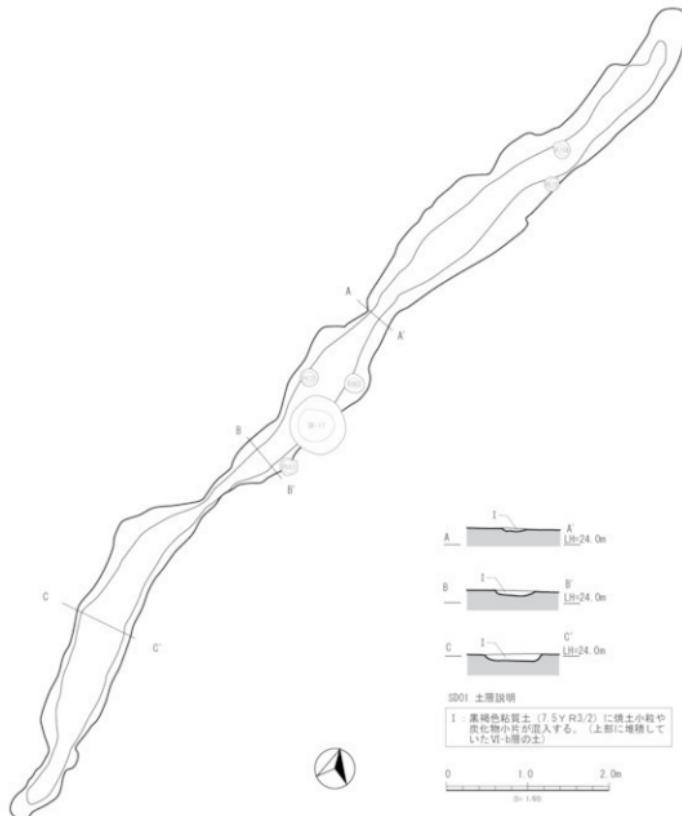
堆積状況等：単層である。

出土遺物：砂質土器36点、石器6点（77g）、繩21点（55g）が出土した。このうち、石器2点を実測した。

出土土器は全て小片の砂質土器であった。石器に関しては、石核片4点と磨石1点、敲石1点が出土した。

溝状遺構 2号 (SD02) (第49図)

検出状況：O-16区で検出された。他の遺構と重複は見られず、



第48図 SD01 実測図

単独で検出された。SD-3 と同軸上にあり、隣接していることから一連の遺構の可能性がある。

形状と規模: 最大幅 0.4m × 長さ 1.6m × 最大深度 0.07m を測る。

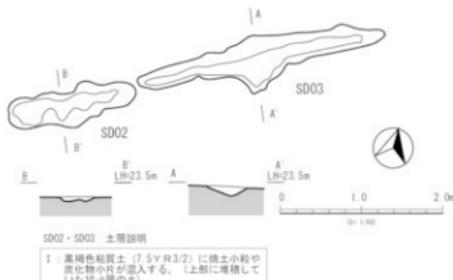
堆積状況等: 単層である。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

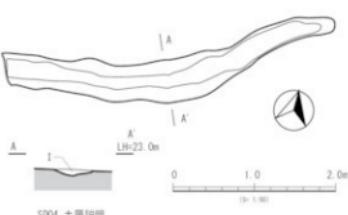
溝状遺構 3号 (SD03) (第49図)

検出状況: O-P-16 区で検出された。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。SD-2 と同軸上にあり、隣接していることから一連の遺構の可能性がある。

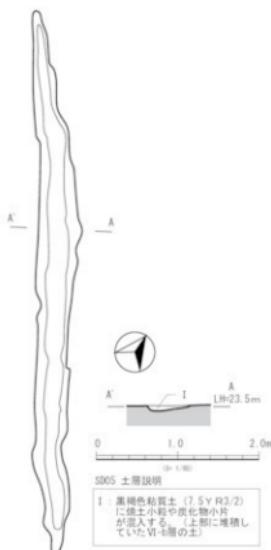
形状と規模: 最大幅 0.3m × 長さ 3.1m × 最大深度 0.15m を測る。



第49図 SD02・SD03 実測図



第50図 SD04 実測図



第51図 SD05 実測図

第96表 溝状遺構 (SD) 一覧

遺構名	検出区	検出面	最大幅 (m)	長さ (m)	最大深度 (m)	備考
SD01	P-Q-18	VII-a	0.75	12.84	0.07	
SD02	O-16	VII-a	0.4	1.6	0.07	
SD03	O-P-16	VII-a	0.3	3.1	0.15	
SD04	O-14	VII-a	0.45	4.1	0.07	
SD05	O-15	VII-a	0.4	6.7	0.1	
SD06	M-12	VII-a	0.45	4.1	0.07	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD07	M-13	VII-a	0.15	0.45	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD08	M-13	VII-a	0.22	2.7	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD09	M-13	VII-a	0.2	3.5	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD10	M-13	VII-a	0.25	1.55	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD11	M-13	VII-a	0.2	1.55	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD12	M-13	VII-a	0.25	3.7	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD13	N-13	VII-a	0.2	3.25	0.05	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD14	N-12	VII-a	0.2	3.3	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD15	N-12	VII-a	0.25	2.5	-	埋土は包含層VI-b層が堆積

堆積状況等：単層である。

出土遺物：土器・石器は出土せず、縁が1点出土したのみであった。

溝状遺構4号 (SD04) (第50図)

検出状況：O-14区で検出された。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模：最大幅0.45m×長さ4.1m×最大深度0.07mを測る。

堆積状況等：単層である。

出土遺物：遺物は出土しなかった。

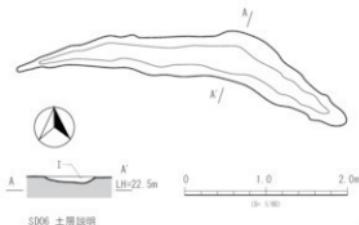
溝状遺構5号 (SD05) (第51図)

検出状況：O-15区で検出された。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

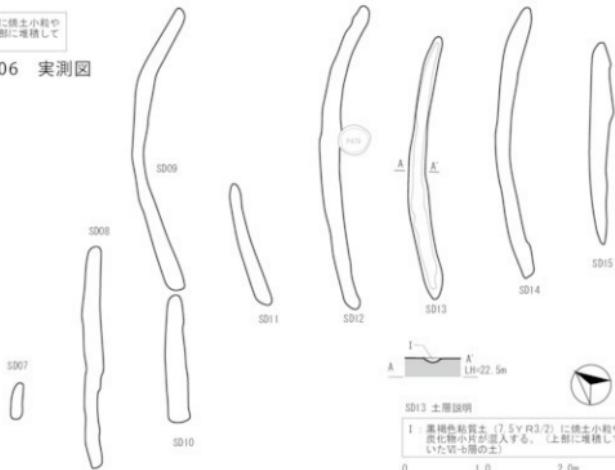
形状と規模：最大幅0.4m×長さ6.7m×最大深度0.1mを測る。

堆積状況等：単層である。

出土遺物：遺物は出土しなかった。



第50図 SD06 実測図



第53図 SD07～SD15 実測図

(6) 堆穴状遺構 (SH) 出土遺物

ここでは、SH からの出土遺物をまとめて紹介する。SH からは、遺物は24,268点出土し、そのうち図化したものは661点である。以下、遺構ごとに遺物の観察を記述する。また、遺物観察表一覧は末尾に一括して掲載することとする。

SH01 (第 54・55 図・第 97 表)

I 層 (1・2)

1 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が 2 面あり、合計 4 条の溝が観察できる。2 は中粒砂岩を石材とする敲石である。全面に敲打痕が見られる。

II 層 (3~10)

3・4 はIIIc 類土器である。5・6 は砂質土器の平底底部である。7 は頁岩を石材とする打製石器である。剥片を利用したと考えられる石器で、厚さが 4mm と薄い。実測図下側の側面はナイフのように鋸く、細かな剥離が見られる。使用による剥離か、加工によるものかの判断はできなかった。ナイフやスクレイバー的な用途の可能性がある。8 は頁岩を石材とする磨製の石製品である。厚さが 4mm と薄く、四角に近い形状をしているが、側面 3 面に加工痕がないことから完形ではないと考えられる。擦痕が観察でき石製品と判断したが、本来の形状や用途は不明である。9 は斑岩系の石材を使用した石皿である。この石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。10 は粗粒砂岩を石材とする敲石である。全面に敲打痕が見られる。

III 層 (11~17)

11・12 はIIIc 類土器である。13~15 は砂質土器の底部である。13・14 は平底で、15 は尖底である。16 は中粒砂岩を石材とする磨敵石である。この石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。17 は中粒砂岩を石材とする石皿である。この石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。

V 層 (18~22)

18 はIIIb 類土器である。内面にオサエによる器面調整が見られる。19 はIIIc 類土器である。内面には貝殻条痕が見られる。20・21 は砂質土器の脚部である。20 の外側には擦痕、21 の内・外側にはオサエとケズリの器面調整が見られる。22 は頁岩を石材とした磨製石斧である。石材の特性上、層状にはがれやすくなってしまっており、検出した時点では悪かった。

P174 (23)

23 は軽石を石材とする有溝砥石である。1 条の溝が観察できる。

SH02 (第 56 図・第 97 表)

I 層 (24)

24 は細粒砂岩を石材とする砥石である。長方形を呈する。

P5 (25)

25 はIIIc 類土器である。

SH03 (第 57・58 図・第 97 表)

I 層 (26・27)

26 は緑色岩を石材とする磨製石斧である。基部のみ残存する。27 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。1 条の溝が観察される。

I・II 層 (28~31)

28~31 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。28 は使用面が 3 面あり、合計 3 条の溝がある。29 は全面が使用されており、合計 15 条の溝がある。30 は使用面が 2 面あり、合計 2 条の溝がある。31 は使用面が 3 面あり、合計 3 条の溝がある。

II 層 (32~39)

32 はIIIc 類土器である。33 はIVb 類土器である。34 はIVc 類土器である。口唇部に連点が施されている。35・36 は砂質土器の平底底部である。35 の胎土には金色の雲母が混入する。37 は粗粒砂岩を石材とする磨敵石である。38 は中粒砂岩を石材とする台石である。39 は緑色岩を石材とする円形状石器である。

III 層 (40)

40 はIIIc 類土器である。

遺構内一括取り上げ (41~45)

41 は中粒砂岩製の磨敵石である。半分が欠損している。42 は泥岩を石材とする磨製石器である。片側を刃部のように整形し、スクレイバーのような形状を持つ。完形でないため本来の形状や用途は不明である。43~45 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。43 は使用面が 1 面あり、3 条の溝が観察できる。44 は使用面が 3 面あり、合計 9 条の溝が観察できる。45 は使用面が 3 面あり、合計 4 条の溝が観察できる。

SH04 (第 59・60 図・第 97 表)

I・A 層 (46~48)

46 はIVa 類土器である。口唇部に連点が施されている。47 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が 2 面あり、合計 2 条の溝がある。48 は細粒閃映岩を石材とする磨製石斧である。基部のみが残存する。

I 層 (49~67)

49 はII'a 類土器である。内・外側に貝殻条痕が観察できる。50 はIIIc 類土器である。51 は押印文系の土器脚部である。52~56 はIVa 類土器である。52~54 は口唇部に連点が施されている。53 は波状口縁である。57 はIVb 類土器である。口唇部に刻目が施されている。58・59 はIVc 類土器である。60 はⅦ類の砂質土器である。口縁部の下部に貼付突帯を施し疑似肥厚をさせている。肥厚部及びその下部に細い棒状の工具で押印文を施す。波状口縁である。61 はⅩ' 類の泥質土器

頭部である。粘土紐を輪状に貼り付け、凹線で文様を施している。壺の装飾部と考えられる。62・63は砂質土器の平底底部である。62は胎土に金色の雲母が混入する。64~66は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。64は使用面が1面あり、2条の溝がある。65は使用面が3面あり、合計19条の溝がある。66は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。67は粗粒砂岩を石材とする磨砥石である。

II層（68~72）

68はII-a類土器である。内・外面上に貝殻条痕が観察できる。69はIII-c類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。70は細沈線文系土器の胴部である。71は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が3面あり、合計6条の溝がある。72は緑色岩を石材とする磨砥石である。大部分が使用により剥離している。

床面上（73・74）

73は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。1条の溝がある。74は緑色岩を石材とする磨砥石である。側面に細かく歯打痕が見られる。

遺構内一括取り上げ（75~81）

75・76はIV-c類土器である。75は口唇部に鋸歯状の文様が施されている。59は波状口縁である。77・78はIV-d類土器である。口唇部に連点が施されている。79~81は砂質土器の平底底部である。

SH05（第61~68図・第98・99表）

I層（82~104）

82はI類土器である。内面上に貝殻条痕が見られる。83はII-a類土器である。口唇部に継続に粘土紐を貼り付け突起を作り、その部分に細沈線で施している。84はIII-c類土器である。内面上に貝殻条痕が観察できる。85はIV-d類土器である。86はIV-a類土器である。87~89はIV-b類土器である。90は凹線文系土器の胴部である。91・92はIV-c類土器である。91は波状口縁である。92は口唇部に連点が施されている。93・94はV類の砂質土器である。93は胴部に羽状文を施した胴部である。胎土は粗く、他の土器と比べ器壁は厚い。94は、二重口縁形の壺と考えられる口縁部である。口縁・口唇に細かな押引きで龍目文様を施している。いずれも文様の一部として貫通した穴が数箇所見られ、胎土に金色の雲母が混入する。VI類に分類したが、口縁の断面形状や施文方法はIV-a類である。95は砂質土器の平底底部である。96~101は有溝砥石である。101は軽石製であるが、それ以外は中粒砂岩製である。96は、有溝砥石の中で大きめの石材であるが、使用面は1面で、1条のみ溝がある。97は使用面が3面あり、合計6条の溝がある。98は使用面が3面あり、合計5条の溝がある。99は使用面が2面あり、合計5条の溝がある。100・101は使用面が1面あり、1条の溝が確認できる。102はたまご

型に形成した磨製の石製品である。上部は欠損しているが、貫通孔が1点施されている。装飾品の可能性がある。石材は頁岩である。103は中粒砂岩を石材とする敲石である。104は中粒砂岩を石材とする石皿である。

II層（105~115）

105はIII-a類土器である。106は押引文系土器の胴部である。107は、凹線文を有する砂質土器胴部である。胎土に金色の雲母が混入する。108はIV-a類土器である。口唇部及び口縁外面に角状の工具で押引文を施してある。器壁は他の物より厚く胎土は粗い。109~111はIV-b類土器である。111は胎土に金色の雲母が混入している。112は凹線文系土器の胴部である。113はIV-c類土器である。113は胎土に金色の雲母が混入する。114・115は砂質土器の平底底部である。

III層（116~123）

116・117はII-b類土器である。116は内面の口縁部に沿って連点が施され、その下には貝殻条痕が見られる。117は外面上に2条の沈線文が施されている。118はIV-b類土器である。119はVI類に分類した砂質土器である。波状文を外面向に施し、胎土には金色の雲母が混入する。120は砂質土器の平底底部である。立ちあがり部分がきれいに欠けており、円盤状土製品の製作途中のものも可能性もある。121・122は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。121は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。122は使用面が1面あり、2条の溝がある。また、その裏面は擦痕を伴って平滑面となっている。通常の砥石としても使用されていたと考えられる。123は中粒砂岩を石材とする凹面である。

遺構内一括取り上げ（124~205）

124~127はII-a類土器である。124は外面上に、126は内・外面上に貝殻条痕が見られる。128・129はII-b類土器である。128は外面上に沈線文、内面上に口縁部に沿って連点が施され、貝殻条痕が観察できる。129は外面上に細沈線を組み合わせひし形状の文様を施し、内面上に口縁に沿って凹線文を1条施している。また、口唇部には斜め平行に刻み目文を施している。胎土には金色の雲母が混入している。130・131はIV-c類土器である。130は舟形壺の可能性がある。131は波状口縁であり、口唇部に粘土紐を継続に貼り付けて肥厚させ、その部分及び口唇、口縁に押引文を施している。内面には、口縁に沿って連点が施されている。132はIII-a類土器である。胎土に金色の雲母が混入している。133は波状口縁である。134はIII-c類土器である。内面上に貝殻条痕が観察できる。134~136はIII-e類土器の深体である。134は胎土に金色の雲母が混入する。137~140はIV-a類土器である。137は口唇部に連点文を施している。胴部の押引文は、連点文に近い。138は波状口縁である。141~149はIV-b類土器である。141は波状口縁である。144・145の内面にはオサエによる調整が観察できる。150・151はIV-c類土器である。150は胎土に金色の雲母が混入す

る。152～154 はIV-d 類土器である。153・154 は口唇部に連点が施されている。152 の胎土に金色の雲母が混入する。

155・156 は押印文を施した砂質土器胴部である。157～167 は、凹線文を有する砂質土器胴部である。168 は無地線文を有する砂質土器胴部である。胎土に金色の雲母が混入する。169～176 は、VII類の砂質土器である。169 は外面に凹線を施している。口縁は丸みを帯び、波状口縁である。胎土に金色の雲母が混入する。170 は口縁部に半月状の施文具で 2 条の連点を施した口縁部である。口縁丸みを帯び、器壁は薄くしっかりとをしている。171・172 は、二重口縁形の盃と考えられる口縁部である。口縁・口唇に細かな押引きで籠目文様を施している。いずれも文様の一部として貫通した穴が数ヶ所見られ、胎土に金色の雲母が混入する。VII類に分類したが、口縁の断面形状や施文方法は IV-a 類である。173 は深目の口縁装飾部分と考えられる口縁突起部である。肥厚させた口縁部に押印文を施している。VII類に分類したが、口縁の断面形状や施文方法は II-e 類に近い。174 は格子目状の連点と凹線文で施文された胴部である。波状口縁と考えられる。胎土は粗く、金色の雲母が混入している。175 は胴部に羽状文を施した胴部である。胎土は粗く、他の土器と比べ器壁は厚い。176 は内面に凹線文が 2 条施されている胴部である。177～183 は砂質土器の平底底部である。177 は底径が 8.9cm を測る。182 は立ちあがり部分がきれいに欠けており、円盤状土器製品の製作途中のもの可能性もある。184～190 は有溝砥石である。184 は軽石製であるが、それ以外は中粒砂岩製である。184 は使用面が 1 面あり、それ以外は中粒砂岩製である。184 は使用面が 1 面あり、2 条の溝が観察できる。185 は使用面が 1 面あり、平行した 2 条の溝が見られる。186 は使用面が 3 面あり、合計 4 条の溝が確認できる。小さな石材を有效活用している。187 は使用面が 3 面あり、合計 9 条の溝がある。いずれの使用面も平滑面となっており、通常の砥石としても利用していたと考えられる。188 は使用面が 2 面あり、合計 5 条の溝がある。189 は使用面が 1 面あり、1 条の溝がある。190 は 1 条の溝があり、溝のある面の裏側は中央に敲打痕や擦痕が見られる。磨歎石としても使用されたと考えられる。191・192 は中粒砂岩を石材とする敲石である。191 は全面に敲打痕があり、球形を呈する。193・194 は中粒砂岩を石材とする凹石である。195～200 は磨歎石である。石材は、195 が緑色岩で、196 が緑色片岩、197 が玄武岩起源の変成岩、198 が粗粒砂岩、199 が細粒凹線岩、200 が粗粒砂岩である。201・202 は緑色岩を石材とする磨製石斧である。201 は両端に刃部を作っている。202 は基部のみ残存する。203・204 は中粒砂岩を石材とする石皿である。203 は敲打痕も観察される。204 は完形と考えられる。上面中央付近に比較的浅い敲打痕と、端に盃状の凹みが 1 か所ある。裏面中央部にも同様の凹みがあり、凹みの深さは 8mm 程度である。205 は中粒砂岩を石材とする、用途不明の大型の石製品である。

形状は石皿に似るが、全面に敲打による形成痕が残る。

SH06 (第 69 図・第 99 表)

遺構内一括取り上げ (206～213)

206 は II-a 類土器である。口唇部に文様はみられない。207 は II-b 類土器である。口唇部に沈線と連点が施され、外面には浅い沈線が見られる。208 は IV-a 類土器である。口唇部が欠損している。209 は IV-c 類土器である。口唇部に連点が施されている。210 は IV-d 類土器である。平行沈線による区画内に凹線に近い押引きが施されている。211 は VII類の砂質土器である。口唇部から内・外面口縁部に斜め平行沈線を施している。212 は、頁岩を石材とする小型の磨製石製品である。湧状の形をしており、厚さは 8mm である。表面には整形時の細かな擦痕が見られる。213 は中粒砂岩を石材とする台石である。全体に敲打痕が観察できる。

SH07 (第 70 図・第 99 表)

I 層 (214～223)

214 は III-c 類土器である。215・216 は IV-d 類土器である。216 は胎土に金色の雲母が混入している。217 は四線文系の土器胴部である。218 は砂質土器の平底底部である。立ち上がり部分がきれいに欠けており、円盤状土器製品に加工する途中的可能性がある。219～221 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。219 は小さい石材ながら 4 面を使用しており、合計 5 条の溝が確認できる。220 は使用面が 2 面あり、合計 3 条の溝がある。221 は使用面が 3 面あり、計 10 条の溝がある。222 はホルンフェルスを石材とする石核である。223 は粗粒砂岩を石材とする敲石である。

II 層 (224)

224 は IV-d 類土器である。波状口縁で、胎土に金色の雲母が混入している。

遺構内一括取り上げ (225～227)

225 は IV-a 類土器である。半月状の工具による押印文がやや浅く施されている。226 は中粒砂岩を石材とする台石である。227 は緑色岩を石材とする磨製石斧である。側面には敲打痕が見られ、大部分が剥離している。

SH06・SH07一括取り上げ (第 71 図・第 99 表)

228 は II-a 類土器である。229 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。全面を使用しており、合計 11 条の溝がある。

SH08 (第 72 図・第 99 表)

230 は頁岩を石材とする磨製石器である。実測図下側を刃部のように整形している。ナイフなどの用途が考えられる。I 層から出土した。

SH08・SH09一括取り上げ (第 73 図・第 99 表)

231 は II-c 類土器である。232 は III-c 類土器である。233・234 は IV-b 類の砂質土器である。233 は、口縁部がすこし丸みを帯びた三角形に近い形状で、口唇部から口縁内面にかけてに斜め平行細沈線文。外面に破線のような文様を沈線で施している。234 は、口縁が丸みを帯びた形状で、外面に縱位と横位の凹線を組み合わせた文様を施す。器體は 4mm と薄いが、胎土は緻密でしっかりとをしている。

SH10 (第 74・75 図・第 99・100 表)

遺構内一括取り上げ (235)

235 は IV-b 類の砂質土器である。口縁部外面を細沈線文で網目状の文様を施した深鉢である。口縁断面形は舌状である。I 層 (236~240)

236・237 は III-d 類土器である。幅の広い丸型の工具で浅く押引文が施されている。238 は IV-b 類の砂質土器である。口唇部に又状の連点文を施し、外面には口縁と並行する細い突帯を 1 条貼り付けその両端に連点文を施している。口縁の断面形内は丸形で、他の土器に比べ器壁が厚めである。239・240 は緑色岩を石材とする磨礫石である。

床面上出土 (241)

241 は粗粒砂岩を石材とする敲石である。両平坦面中央付近にくぼみが見られる。また、敲打痕は他のものより深く、かなり使い込まれた製品と考えられる。

P3 (242・243)

242 は中粒砂岩を石材とする凹石である。敲打による局部的な凹みが 3か所あり、擦痕を伴う平滑面が 2 面確認できる。台石や石皿として使用するには不安定な形状である。243 は中粒砂岩を石材とする台石・石皿である。片面は敲打による局部的な凹みがあり、裏面は縦やかぶせ状の平滑面と敲打痕が観察される。

SH11 (第 76・77 図・第 100 表)

I 層 (244~259)

244 は III-c 類土器である。245~250 は IV-b 類土器である。凹線による文様は、籠目状や錐衛状のものなど様々であるが、すべて口唇に連点を施している。また、246・250 は、胎土に金色の雲母が混入する。251・252 は IV-c 類土器である。251 は内面にオサエによる調整が見られる。253 は IV-d 類土器である。波状口縁で口唇部に連点を施している。254・255 は、凹線文系の砂質土器脚部である。胎土に金色の雲母が混入する。255 は、外面に見て、内面にオサエによる調整が見られる。256・257 は砂質土器の平底底部である。底径は 256 が 8.2cm、257 が 4.6cm を測る。258 は中粒砂岩を石材とする敲石である。259 は緑色岩を石材とする磨礫石である。両平坦面よりも側面の方に敲打痕が集中している。

II 層 (260)

260 は砂質土器の平底底部である。底径は 7.6cm を測る。内面にはオサエによる調整が観察できる。

遺構内一括取り上げ (261~263)

261 は IV-d 類土器である。262・263 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。262 は使用面が 1 面で、1 条の溝が確認できる。溝は浅く、かすかに見える程度である。263 は全面に溝が観察され、合計 18 条の溝がある。

SH12 (第 78~81 図・第 100 表)

I 層 (264~297)

264・265 は II-a 類土器である。265 の外面上には貝殻条痕が残る。266~269 は IV-a 類土器である。口唇部には連点や刻み目が施され、266 は内面の口縁部にも連点による施文が見られる。267 の押引文は細い工具を用いている。268 は連点に近い押引きである。269 は凹線に近い押引きであり、胎土には金色の雲母が混入している。270 は IV-b 類土器である。凹線による羽状の文様が施されている。271・272 は IV-c 類土器である。273 は IV-d 類土器である。波状口縁で、胎土には金色の雲母が混入する。274 は押引文系の土器脚部である。275・276 は IV-b 類の砂質土器である。275 は口縁部周囲に連点文を施している。口縁の断面形は丸形で、胎土には金色の雲母が混入する。波状口縁である。276 は二重口縁系の蓋などの疑似口縁部と考えられる。粘土を貼り付けて肥厚させた部分に凹線による文様を施している。277~284 は平底底部である。284 は泥質土器であるが、それ以外は砂質土器である。282 は胴部外面にはケズリ、内面にはオサエによる器面調整が観察できる。283 の底径は 5.8cm に復元できる。284 は底径が 6.5cm を測り、内面はオサエによる器面調整が観察できる。285~294 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。285 は使用面が 2 面あり、合計 3 条の溝がある。286 は使用面が 2 面あり、合計 2 条の溝がある。287 は使用面が 1 面で、合計 2 条の溝が観察できる。288 は使用面が 1 面で、1 条の溝が観察できる。289 は使用面が 3 面あり、深さや大きさが様々な溝が合計 8 条観察できる。290 は 2 面に合計 3 条の溝がある。また、溝のない面のうち 1 面は擦痕を伴う平滑面であり、通常の砥石としても使用されていたと考えられる。291 は使用面が 4 面あり、幅や深さが様々な 7 条の溝が観察できる。292 は全面に溝があり、合計で 25 条の溝がある。293 は使用面が 3 面あり、合計 4 条の溝がある。294 は使用面が 4 面あり、合計 11 条の溝がある。

295~297 は磨礫石である。297 は安山岩製であるが、その他は粗粒砂岩製である。これらの石器を用い、残存デンプン粒分析を行った。

II層 (298・299)

298・299は中粒砂岩を石材とする台石である。

床面直上 (300~310)

300・301は砂質土器の平底底部である。302~306は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。302は小片であるが、1条の溝がある。303は使用面が3面あり、合計7条の溝がある。304は3面に合計10条の溝がある。そのうちの1面は溝とともに擦痕を伴う平滑面であり、通常の砥石としても使用されていたと考えられる。305は2面に合計7条の溝がある。また、溝のない面のうち、1面は敲打痕がみられ、敲石としても使用されていたと考えられる。306は3面に合計4条の溝が確認できる。また、平滑面が2面あり、通常の砥石としても使用されていたと考えられる。307は緑色岩を石材とする円形状器である。308・309は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。309の石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。310は泥岩を石材とする磨製の小型石製品である。石斧のような形状をしており、全面に擦痕が観察できる。

遺構内一括取り上げ (311~313)

311はⅣ類の砂質土器である。311は、口縁外面に直線的な四回線文によって籠目文様を施している。また、口縁部に沿って一定の間隔で、貫通した小さな穴を開けている。Ⅲe類土器に近いが、口縁の断面形状が舌状で肥厚も見られないことからⅢd類に分類した。312・313は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。312は3面に合計11条の溝がある。313は2面に合計6条の溝が観察できる。

SH13 (第82~86図・第100・101表)

II層 (314~331)

314はIVc類土器である。315~317は細沈線文系の土器胴部である。317は内面にナデ・オサエによる器面調整が残る。

318~320はV類の砂質土器である。318は連点文が施された胴部である。肥厚により段差をつけ文様帶とし、連点で埋めている。319は外面に細沈線文で文様を施した土器である。文様は、横位の平行線を数本施し、その間を3本1組の斜め平行沈線で施している。口縁部の断面形状は舌状である。

320は口縁部直下に細沈線文を複数施し、その下部を連点文で文様を施した土器である。321は泥質土器の平底底部である。322~324は中粒砂岩の有溝砥石である。322は使用面が1面だが、2条の溝がある。323・324はそれぞれ1条ずつ溝がある。324は細凹凸線岩を石材とする磨製石斧の基部である。側面は細かな敲打痕が見られる。326は中粒砂岩を石材とする石皿である。この石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。327・328は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。328の石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。329~331は粗粒砂岩を石材とする台石である。329は両平坦面に敲打痕が観察できる。この石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。

331は、両面に平滑面も見られることから石皿としても使用されたと考えられる。

床面直上 (332~337)

332は四回線文系の土器胴部である。器壁の厚みや断面形状からIV-b類の可能性が高い。333は泥質土器胴部である。外面上にナデ・オサエによる調整が見られる。文様は見られない。334・335は磨礫石である。334は、粗粒砂岩製で鉗針状を呈しており、平底部には擦痕が残る。335は緑色岩製で、側面に細かな敲打痕が見られる。336・337は台石である。336は中粒砂岩製で、石皿としても使用されている。この石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。337は、崩り跡地で出土した最大の石器であるが、擦痕や敲打痕がわずかに観察される程度である。石材は粗粒砂岩である。

P1 (338・339)

338はIV-c類土器である。339は中粒砂岩製の有溝砥石である。1条の溝が観察できる。

遺構内一括取り上げ (340~347)

340はII-a類土器である。341はIV'a類土器である。波状口縁である。342は細沈線文系の土器胴部である。343~345は中粒砂岩の有溝砥石である。343・344はそれぞれ1条ずつ溝が観察できる。345は使用面が2面あり、2条ずつ溝がある。346・347は中粒砂岩を石材とする石皿である。

SH14 (第87・88図・第101表)

I層 (348~353)

348はIV-b類土器である。348と後述の370は、接合しないが胎土や施文が同じであり、同一個体の可能性が高い。349は細沈線文系の土器である。断面形状や文様からIV-c類土器の可能性が高い。350は押印文系の土器である。細い輪状の工具で施している。351は砂質土器胴部である。内面にはオサエによる調整が見られる。壺と考えられるが、遺物の天・地の判断が難しく、後述する419のような怪の小さな深杯の可能性もある。353は粗粒砂岩製の磨礫石である。352は砂質土器の平底底部である。

II層 (354~366)

354はIII-a類土器である。波状口縁である。355はIV-b類土器である。356はⅤ類の砂質土器である。口縁部外面に押引きで文様が施され、器壁は薄くしっかりしている。形状から二重口縁系の壺の可能性も考えられる。357~363は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。357は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。358は使用面が1面であるが、合計3条の溝が観察される。また、溝のない面のうち1面が平滑面であり、通常の砥石としても使用されていたと考えられる。359は使用面が1面あり、合計2条の溝がある。360は1条の溝が観察できる。溝のない面のうち1面は平滑面で、通常の砥石としても使用されていたと考えられる。361は使用面

が3面あり、合計6条の溝がある。362は1条の溝がある。363は使用面が3面あり、合計6条の溝がある。364は緑色岩を石材とする磨礫石である。半分が欠損している。365は中粒砂岩を石材とする敲石である。石皿からの転用と考えられる。366は中粒砂岩石を石材とする台石である。

III層 (367・368)

367はIV類の砂質土器である。片口土器口縁部の取っ手部分と考えられる。口縁部土唇に粘土紐を貼り付けて波状にし、細い櫛状の工具を用いて押引きで施している。取っ手部分の施文は、中央部の押引きを最後に施している。内面は、口縁に沿って連点文が施されている。368は中粒砂岩石を石材とする台石である。

II・III層一括取り上げ (369)

369はIIIc類土器である。

遺構内一括取り上げ (370～373)

370はIV-b類土器である。348と胎土や施文が同じであり、接合しないが同一個体の可能性が高い。371はIV-c類土器である。波状口縁で、口唇部に連点が施されている。372・373は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。372は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。373は4面に合計5条の溝がある。

SH15 (第89・90図・第101表)

I層 (374～377)

374はII-b類土器である。外面に沈線文が見られる。375はIV-d類土器である。376はIV類の砂質土器である。織文様文で網目状に文様を施している。胎土は緻密で器壁は薄く、しっかりとしている。377は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は1面であるが、合計3条の溝がある。

遺構内一括取り上げ (378～392)

378はIII-c類土器である。379・380はIV-d類土器である。381は織文様文による鰐歯文を施した砂質土器胴部である。織文様文による鰐歯文は、VI類土器の口縁部から胴部にかけての文様帶下部に施されていることが多く、これらもIV類土器に相当する土器の可能性が高い。382・383は平底底部である。382は砂質土器で、383は泥質土器である。384～389は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。384は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。385は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。386は溝が1条ある。また、溝のない面のうち1面は平滑面で、通常の砥石としても利用されていたと考えられる。387は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。388は3面に合計5条の溝がある。また、溝のない面のうち1面は敲打痕があり、敲石としても利用されている。389は1条の溝がある。390はホルンフェルスを石材とした磨製の石製品である。梢円形に近い形状で、厚さは約1.2cmを測る。全面に擦痕が観察され、よく磨かれていている。貫通した穴が一つある

が、人為的な感じではなく自然石の穴を利用した可能性が高い。穴の周囲は一部欠損している。391は安山岩を石材とする磨礫石である。両平坦面中央部は敲打によるわずかな凹みが見られる。392は中粒砂岩を石材とする凹石である。

SH16 (第91図・第101・102表)

I層 (393～405)

393はIII-a類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。394はIII-c類土器である。395はIV-a類土器である。口唇部に連点が施されている。396はIV-b類土器である。口唇部に連点が施されている。397は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が3面あり、合計4条の溝がある。398は中粒砂岩を石材とする敲石である。

遺構内一括取り上げ (399～405)

399はIV-a類土器である。口唇部に連点が施されている。400は円盤状土製品である。砂質土器の底部からの転用と考えられる。401～403は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。401は使用面が2面あり、合計3条の溝が観察できる。402は使用面が2面あり、合計7条の溝がある。403は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。404は中粒砂岩を石材とする砥石である。405は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。全面に敲打痕があり、かなり使い込まれた製品と考えられる。

SH17 (第92・93図・第102表)

I層(406～410)

406はII-c類土器である。内・外面に貝殻条底が見られる。407はIVの泥質土器である。細化線文を施した壺形土器胴部と考えられる。文様的にはIV-c類やV-b類であるが、IV-c類に相当する泥質土器が他に出土していないことや突端などもないことから細分類ができる。今回はIV類に分類した。408は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は3面あり、合計8条の溝がある。小さな石材を最大限に利用している。409は斑岩系の石を石材とする台石である。全面に敲打痕が見られ、局所的な凹みや平滑面も伴った石器である。砥石や敲石としても利用されたと考えられる。410は中粒砂岩を石材とする棒状の磨製石製品である。角に丸みを持たせた四角柱に整形しているが、完形ではないため、本来の形状や用途は不明である。

I・II層 (411～415)

411・412はII-c類土器である。411は外面に2条の押引き文がみられる。412は口縁部の装飾部分と考えられ、口唇部に粘土紐を縱に張り付けて波状にしている。413はIII-a類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。414・415は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。414は使用面が1面だが合計4条の溝がある。415は2面に合計3条の溝がある。

床面上直上(416・417)

416 は II-a 類土器である。内・外面ともに貝殻条痕が見られる。417 は IV-c 類の砂質土器である。貼り付け粘土で立体的に籠を作り、その部に細かな押引ぎによって施している。蓋の羽部の装飾部分の可能性が高い。

遺構内一括取り上げ (418~423)

418 は III-c 類土器である。419 は埋^レの泥質土器である。小型の深鉢で、口縁付近に櫛状の細い道具で連点に近い押引ぎ文を施している。断面形状や文様構成は IV-a 系であるが、押引ぎ文を持つ泥質土器が他に出土していないことから IV-c 類に分類した。420 は泥質土器の平底底部・刪部である。残存する部分に施は見られない。421 は中粒砂岩製の凹石である。両平坦部に敲打による凹みがある。422・423 は粗粒砂岩を石材とする磨歯石である。両平坦面には敲打による凹みがある。

SH18 (第 94~96 図・第 102 表)

I 層 (424~448)

424 は IV-a 類土器である。425 は IV-b 類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。426~429 は IV-c 類土器である。426 は波状口縁で、鋸歯状の文様が施されている。428 は内面に貝殻条痕が見られる。430~435 は IV-d 類土器である。430~434 は口唇部に連点が施されている。435 は波状口縁部の一部分の可能性が考えられるが、器種などは定かでない。436~438 は土器の平底底部である。436・437 は胎土が砂質で、438 は泥質である。439 は円盤状土製品である。砂質土器の刪部を加工したものと考えられる。440~442 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は 1 面であるが、440 は 2 条、441 は 3 条、442 は 4 条の溝がある。443・444 は緑色岩を石材とする円形状石器である。445 は中粒砂岩を石材とする磨歯石である。446 は緑色岩を石材とする磨製石斧である。基部には、打ち欠いた平坦面が見られ、柄などを固定しやすいように加工した可能性がある。447 は軽石を加工した石製品である。中央部分が大きく凹み、器のような形を呈しているが、用途不明である。448 は台石と石皿の両方の特徴を持つ石器である。上面・側面の 2 面に盃状を呈する凹みが 2 か所見られる。凹みの深さはそれぞれ異なるが、1.2cm 程度である。使用によるものか、意図的なもののかは不明である。それぞれの面に平滑面がある。

II 層 (449)

449 は緑色岩を石材とする磨製石斧である。側面に敲打による剥離があり、刃部は欠損している。

床面直上 (450~453)

450 は IV-c 類土器である。胎土には金色の雲母が混入する。451 は円盤状土製品である。泥質土器の刪部を加工したものと考えられる。452 は緑色岩を石材とする磨製石斧である。刃部が欠損している。453 は緑色岩を石材とする磨歯石である。

遺構内一括取り上げ (454~459)

454 は IV-c 類土器である。455・456 は円盤状土製品である。土器の刪部を加工したものと考えられる。455 は IV-d 類の砂質土器、456 は IV-c 類などの細沈線文を有する砂質土器を加工したものと考えられる。457 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は 2 面で、合計 4 条の溝がある。458・459 は磨歯石である。石材は、458 が緑色岩で 459 が中粒砂岩である。

SH19 (第 97~98 図・第 102 表)

遺構内一括取り上げ (460~468)

460~463 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。460 は使用面が 2 面あり、合計 4 条の溝がある。461 は使用面が 2 面あり、合計 2 条の溝がある。462 は使用面が 1 面であるが、合計 4 条の溝がある。463 は使用面が 2 面あり、合計 2 条の溝がある。464 は中粒砂岩を石材とする凹石である。465 は中粒砂岩を石材とする凹石である。3 面を使用しており、それぞれ中央部に凹みがある。466~468 は磨歯石である。466 は粗粒砂岩製で、たまご型に近い形を呈しており、全面に敲打痕が見られる。467 は緑色岩製で、敲打痕が各面の中央付近に集中している。468 は中粒砂岩製である。

SH20 (第 99~101 図・第 102・103 表)

I 層 (469~491)

469・470 は IV-b 類土器である。469 の口唇部文様は、IV-b 類土器の大部分を占める連点ではなく、1 条の沈線で施されている。470 の口唇部には連点が施されている。471・472 は IV-d 類土器である。472 は波状口縁である。473 は IV-e 類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。474・475 は細沈線で鋸歯文が施された刪部である。IV 類土器の文様帯下部に施された鋸歯文の可能性が高い。476~478 は土器の平底底部である。胎土は、476・477 が砂質で、478 が泥質である。479~481 は円盤状土製品である。479 は泥質土器の刪部を加工したものと考えられる。480 は細沈線文と押引ぎ文を組み合わせた文様があり、IV-d 類土器刪部を加工したものと考えられる。481 は砂質土器の底部を加工したものと考えられる。中央部に凹みを作っている。482~487 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。482 は使用面が 2 面あり、合計 2 条の溝がある。溝のない 1 面は平滑面となっており、砥石として使用したと考えられる。483 は使用面が 4 面あり、幅や深さが様々な溝が合計 34 条ある。484 は使用面が 4 面あり、合計 6 条の溝がある。485 は全面を使用しており、合計 11 条の溝がある。486 は使用面が 3 面あり、合計 4 条の溝がある。487 は使用面が 2 面あり、合計 3 条の溝がある。488・489 は緑色岩を石材とする磨歯石である。490 は緑色岩を石材とする円形状石器である。剥離面には細かな敲打痕が見られる。491 は中粒

砂岩を石材とした角の丸い三角錐状の石製品である。用途は不明である。

II層（492～496）

492・493は押引文系の土器脚部である。断面形状から、492はIII-c類に、493はIV-a該当する土器の可能性が高い。494はVII類の砂質土器である。細沈線により鋸歯状の文様を施した土器である。口縁の断面形状は舌状であり、波状口縁である。器壁は薄くしっかりとしており、胎土に金色の雲母が混入している。495は砂質土器の平底底部である。496は中粒砂岩を石材とする凹石である。2面の中央部に凹みが見られ、側面には敲打痕が全体的に観察される。

III層（497）

497はIV-d類土器である。

IV層（498～501）

498はIV-b類土器である。波状口縁である。499・500はV類の砂質土器である。499は押引文を施した土器である。口縁部は丸みを帯び、器壁は薄くしっかりとしている。蓋の可能性がある。500は土器口部の可能性があるが、不明の土器である。口唇部と考えられる部分に爪型の文様や連点を施している。501は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が2面あり、合計9条の溝がある。

遺構内一括取り上げ（502～524）

502はII-b類土器である。内・外間に2枚貝を押し当てたような文様が施されている。503はIV-a類土器と分類したが、外面に施された押引文は連点に近い。口唇部には連点が施されている。504はIV-c類土器である。通常の同類土器に比べ、器壁が厚い。505～509はIV-d類土器である。505・506は波状口縁であり、胎土に金色の雲母が混入している。508は口唇部に連点が施されている。509は胎土に金色の雲母が混入している。510・511は細沈線で鋸歯文が施された脚部である。IV類土器の文様帯下部に施された鋸歯文の可能性が高い。512～514はV類の砂質土器である。512は口縁部を楔形三角形に肥厚させた文様帯に四角い工具で口縁に沿って横位に連点を施した深鉢である。口縁形状としてはIII類土器であるが、文様構成に違いが見られる事から今回V類に分類した。513は細沈線により鋸歯状の文様を施した土器である。口縁の断面形状は舌状である。器壁は薄くしっかりとしており、胎土に金色の雲母が混入している。波状口縁である。514は壺形土器の装飾部と考えられる。口唇部から口縁にかけて緻密に粘土を貼り付け凸状を作っている。また、口唇部及び口縁付近に、短い細沈線を組み合わせて施している。515～521は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。515は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。516は使用面が3面あり、合計3条の溝がある。517は使用面が3面あり、合計3条の溝がある。518は1条の溝がある。溝のある面の裏側は擦痕があり、緩やかに皿状の凹みとなることから、石皿からの転用と考え

られる。519は使用面が4面あり、合計5条の溝がある。520は使用面が4面あり、合計11条の溝がある。521は使用面が3面あり、合計5条の溝がある。522は中粒砂岩を石材とする敲打石である。523は中粒砂岩を石材とする砥石である。524は台石と石皿の特徴を併せ持つ中粒砂岩製の石器である。敲打によってできたと考えられる小さな凹みや、擦痕を伴った平滑面がある。

SH21（第102・103図・第103表）

I層（525～533）

525～527はIV-c類土器である。525は口唇部に斜位の平行沈線文が施されている。接合はしないが、胎土や文様が同じであることから同一の個体の可能性が高い。528は緑色岩を石材とする円形状石器である。529は緑色岩を石材とする磨製の棒状石製品である。全体的に丸みを帯びている。側面には細かい敲打痕が見られる。530・531は粗粒砂岩を石材とする石皿である。532は中粒砂岩を石材とする石皿である。533は台石と石皿の両方の特徴を持つ細粒砂岩製の石器である。敲打痕が各面に見られるほか、2面は皿状の緩やかに凹みとなっている。

II層（534）

534は安山岩を石材とする磨敲石である。

床面上直上（535）

535は泥岩を石材とする石製品である。中央に貫通した穴が2つあっているが、自然のものを利用したのか、穿ったもののか判断ができない。外面には擦痕や敲打による剥離が観察されるが、用途不明である。

遺構内一括取り上げ（536～539）

536・537はIV-b類土器である。536は口唇部に押引文が1条施してある。

538は細沈線で鋸歯状の文様を施した砂質土器脚部である。IV類土器の文様帯下部に施された鋸歯文の可能性が高い。539は骨製品である。表面を研磨し、中央に貫通した穴が1つあけられている。装飾品と考えられる。獸骨であるが種の同定はできなかった。

SH16～21一括取り上げ（第104図・第103表）

遺構内一括取り上げ（540～553）

540～546は円盤状土製品である。540～543は泥質土器脚部を、544・545は砂質土器脚部を加工した製品と考えられる。546は細沈線文と連点文を組み合わせた文様があり、IV-d類土器を加工した製品と考えられる。547は緑色岩を石材とする円形状石製品である。548～551は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。548は使用面が4面あり、合計7条の溝がある。549は幅が広く浅い溝が1条あり、溝の反対側の面は平

滑面で、砥石として使用したと考えられる。550は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。551は使用面が3面あり、合計3条の溝がある。552・553は泥岩を石材とする磨製石製品である。552は丸みを帯びた四角形を呈する。553は石斧のような形状を呈し、刃部も作られている。

SH22 (第105図・第103表)

I層 (554~558)

554は押引文系土器側部である。断面形状から、IV-a類あるいはIV-d類土器の可能性が高い。555は砂質土器の平底底部である。556~558は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。556・557は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。558は1条の溝が観察される。

遺構内一括取り上げ (559~562)

559は土製品である。片面凹線文で文様を施し、裏面は1ヶ所突起を作っており、全体としてスタンプのような形状である。完形であるが、用途は不明である。

560は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。1条の溝が観察される。561は粗粒砂岩を石材とする磨敲石である。562は台石と石皿の特徴を併せ持つ中粒砂岩製の石器である。上下2面と側面1面に使用痕がある。

SH23 (第106~108図・第104表)

I層 (563~570)

563・564はIV-d類土器である。563は波状口縁である。565・566は織状線文系の土器である。567・568は、V類の砂質土器である。567は、口縁の断面形状丸形で、口唇部に縦位の刻み目を施している。外面上には貝殻条痕が観察される。568は脣部に施された肥厚部分に細沈線と連点で文様を施している。また、その下部に羽状に近い文様を細沈線文で施している。壺の可能性がある。569は砂質土器の平底底部である。570は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。570は使用面が4面あり、合計8条の溝がある。

II層 (571~573)

571・572はIV-d類土器である。波状口縁である。573は緑色岩を石材とする磨製石斧である。基部のみが残存する。裏面は大部分が摩耗している。

遺構内一括取り上げ (574~613)

574・575はIV-a類土器である。波状口縁で、口唇部に連点を施している。576・577はIV-c類土器である。いずれも波状口縁である。578~587はIV-d類土器である。578は口唇部に連点が施されている。581は波状口縁である。586は胎土に金色の雲母が混入する。587は織状線による鉛垂文と押引きに近い連点文が残る脣部である。588は織状線文系の土器である。胎土に金色の雲母が混入する。589・590は織状線文によって鉛垂文を施した砂質土器脣部である。IV類土器の文様帶

下部に施された鉛垂文の可能性が高い。591・592はⅤの泥質土器である。591は脣部に取り付けられる取っ手のような形を呈しているが、張り付けられているわけではなく、意図的にこの形状をしている。部位や全体形状は不明であり、また、土製品の一部の可能性もある。592は縫合に粘土を張り付けた壺の取っ手の部分である。593~600は砂質土器の平底底部である。600は底径が6.0cmを測る。601~605は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。601は使用面が4面あり、合計7条の溝がある。602・603は1条の溝がある。604は使用面が1面あり、合計2条の溝がある。605は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。606は粗粒砂岩を石材とする磨敲石である。大部分が欠損している。607は粗粒砂岩を石材とするスクレイバー状石器である。608は頁岩を石材とする磨製石器である。縦長のナイフのような形状をしている。厚さは0.5cmと薄い。609・610は磨敲石である。石材は、609が粗粒砂岩で、610が中粒砂岩である。いずれも両平坦面に浅い凹みがある。611は中粒砂岩を石材とする台石である。612は中粒砂岩を石材とする敲石である。613は黒色泥質片岩の礫である。人為的な加工は見られない。石器等に加工する前の原礫と考えられる。

SH22・SH23一括取り上げ (第109図・第104表)

I層 (614~621)

614は押引文系の土器である。615は凹線文系の土器である。616~619はIV-d類土器である。617~619の口唇部には連点が施されている。618は波状口縁である。620は織状線文で鉛垂文を施した砂質土器脣部である。IV類土器の文様帶下部に施された鉛垂文の可能性が高い。621は砂質土器の平底底部である。

遺構内一括取り上げ (622~624)

622はIII-c類土器である。623は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は4面あり、合計6条の溝がある。624は中粒砂岩を石材とする石皿である。両平坦面中央付近にわずかに敲打痕が見られる。

SH24 (第110図・第104表)

I層 (625~632)

625は押引文系の土器である。連点に近い押引文を施し、下部には鉛垂文が観察できる。IV-a類土器に相当する可能性が高い。626はIV-c類土器である。627~629はIV-d類土器である。627・628は波状口縁である。630・631は織状線文で鉛垂文を施した砂質土器脣部である。IV類土器の文様帶下部に施された鉛垂文の可能性が高い。632は安山岩を石材とする敲石である。

遺構内一括取り上げ (633)

633は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。1条の溝があ

る。

SH25 (第 111~112 図・第 104・105 表)

I 層 (634~638)

634 は IV-d 類土器である。635 は細沈文系の土器脚部である。断面形状や文様構成から IV-e 類土器の可能性が高い。636 は細沈線で網目文を施した砂質土器脚部である。IV 類土器の文様帶下部に施された網目文の可能性が高い。胎土には金色の雲母が混入する。637 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。1 面のみを使用しており、合計 3 条の溝がある。638 は緑色岩を石材とする円形状石器である。

遺構内一括取り上げ (639~648)

639 は IV-d 類土器である。波状口縁である。640 は細沈線で網目文を施した砂質土器脚部である。IV 類土器の文様帶下部に施された網目文の可能性が高い。641 は W' 類の泥質土器である。臺や鉢などの口縁装飾部と考えられる。波状に突起させた部分の内面・外面・口唇部と考えられる部分に、三角形を呈する小さな連点を施している。642 は泥質土器の一部と考えられるが、部位などが不明のものである。鍋などに取り付ける横立の耳のような形状をしている。643 は砂質土器の平底底部である。644 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である 3 面を使用しており、合計 8 条の溝がある。

645・646 は中粒砂岩を石材とする磨礲石である。645 は中粒砂岩製で、645 は粗粒砂岩製である。647・648 は台石と石皿の両方の特徴を持つ中粒砂岩製の石器である。いずれも盃状を呈する凹みが数か所見られる。凹みの深さはそれぞれ異なるが、おおよそ 1.1cm で、深いものは 1.6cm 程度ある。これらの石器を用い、残存デンブン分析を行った。

SH26 (第 113 図・第 105 表)

遺構内一括取り上げ (649~656)

649 は II-b 類土器である。口唇部に 1 条の沈線を施し、外側には口縁部沿って連点を施す。その他の II 類土器に比べ胎土が緻密でしっかりとしている。650 は W' 類の泥質土器である。舟形口縁を持つ臺の一部と考えられる。651・652 は平底底部である。胎土は、651 が砂質で、652 が泥質である。653~655 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。653 は使用面が 2 面あり、合計 2 条の溝がある。654・655 は使用面が 3 面あり、合計 3 条の溝がある。656 は粗粒砂岩を石材とする敲石である。

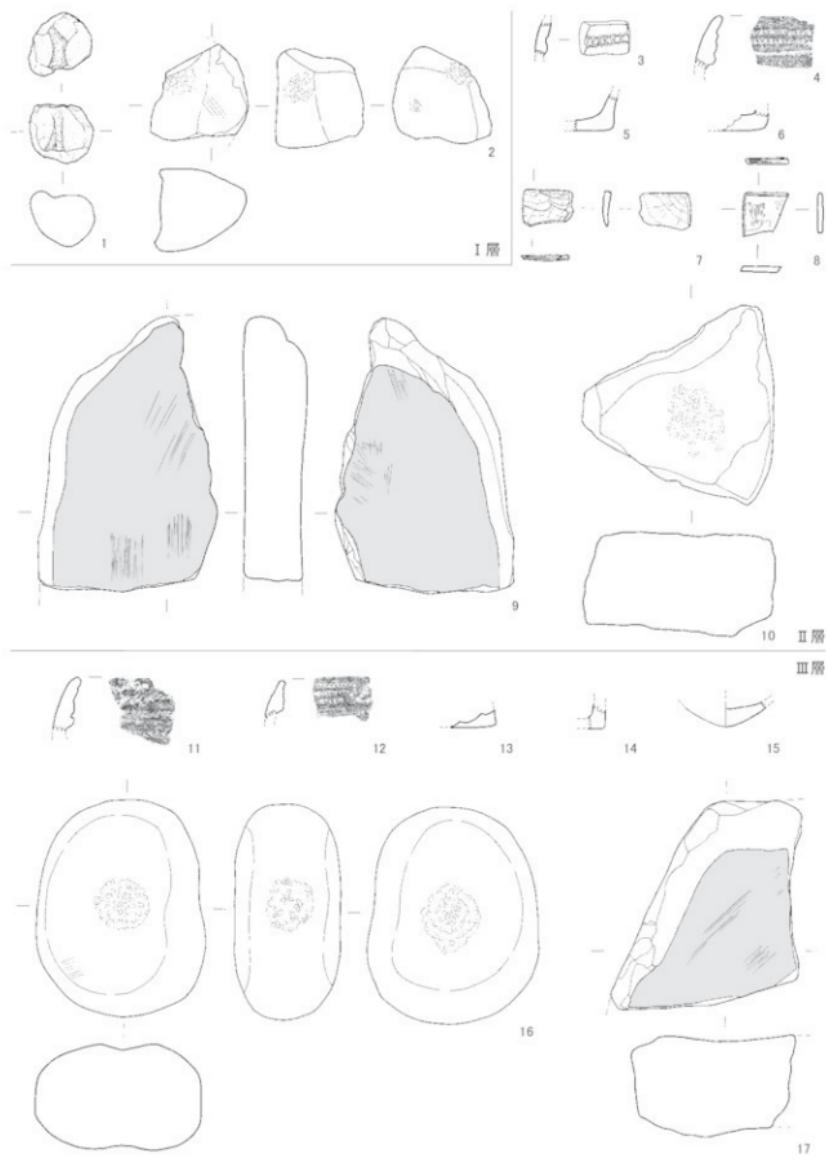
SH27 (第 114 図・第 105 表)

I 層 (657)

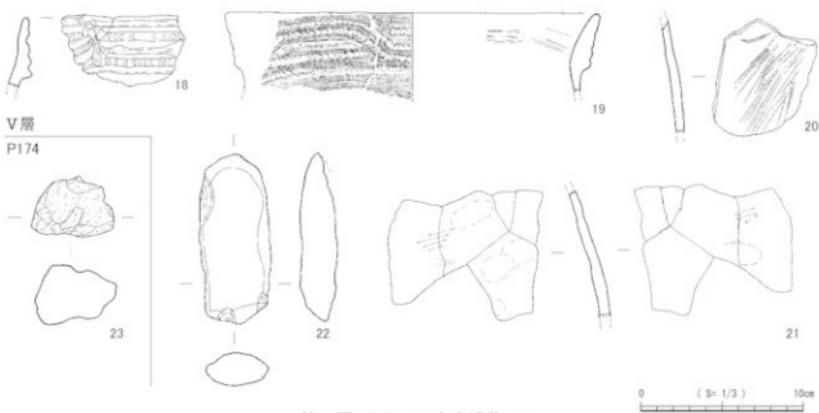
657 は粗粒砂岩を石材とする台石である。

SH 一括取り上げ (第 115 図・第 105 表)

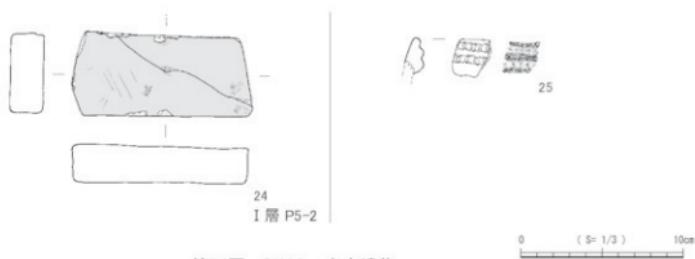
658 は IV-b 類土器である。貫通した穴が 1 つあけられている。659 は泥質土器の平底底部である。内・外面にオサエによる調整が見られる。660 は中粒砂岩を石材とする磨礲石である。全面に敲打痕が見られ、両平坦面は凹んでいる。661 はホルンフェルスを石材とする磨製の石製品である。四角い形状を呈し、中は空洞である。空洞は人為的な痕跡は見られず、自然石を利用したものと考えられる。外面には擦痕が観察されるが、用途は不明である。



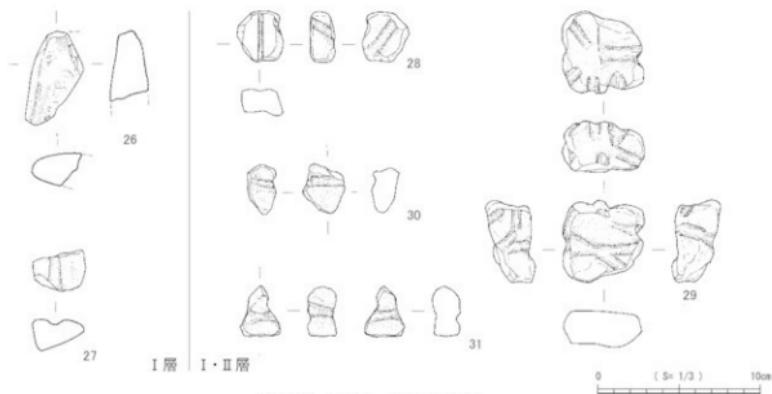
第54図 SH01 出土遺物(1)



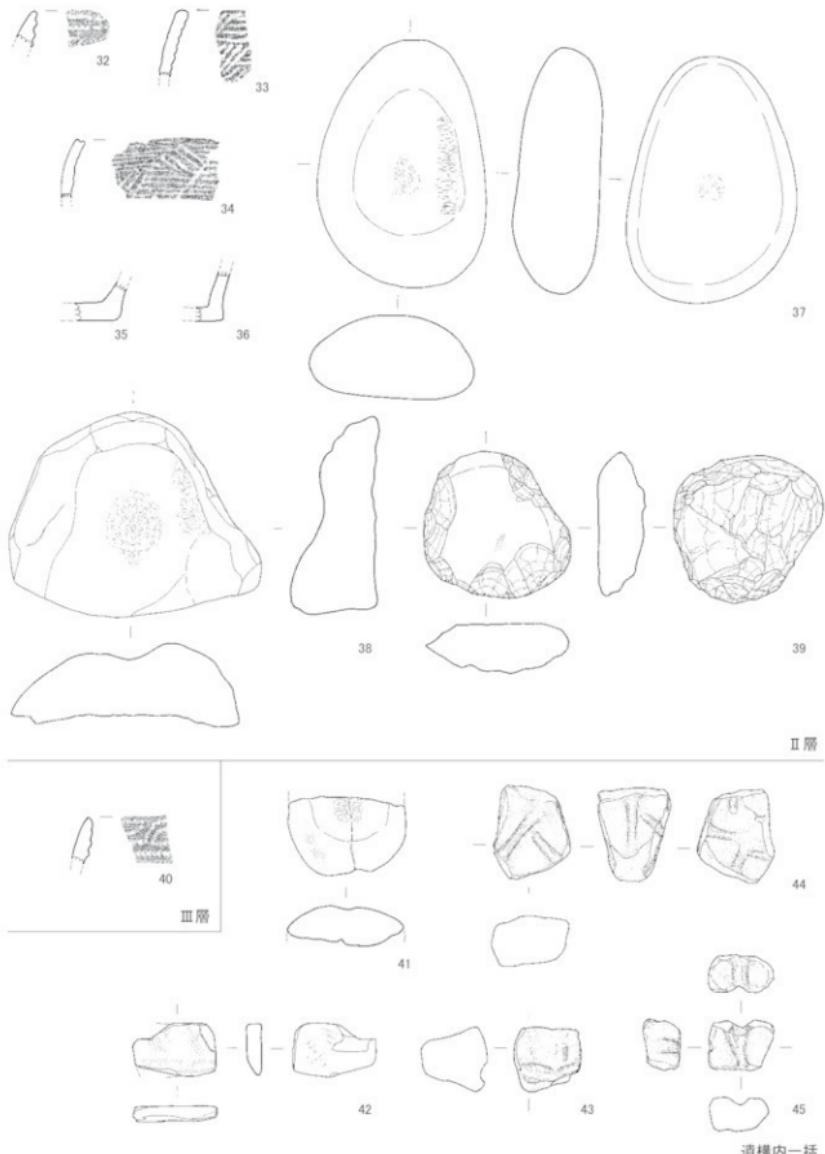
第55図 SH01 出土遺物(2)



第56図 SH02 出土遺物



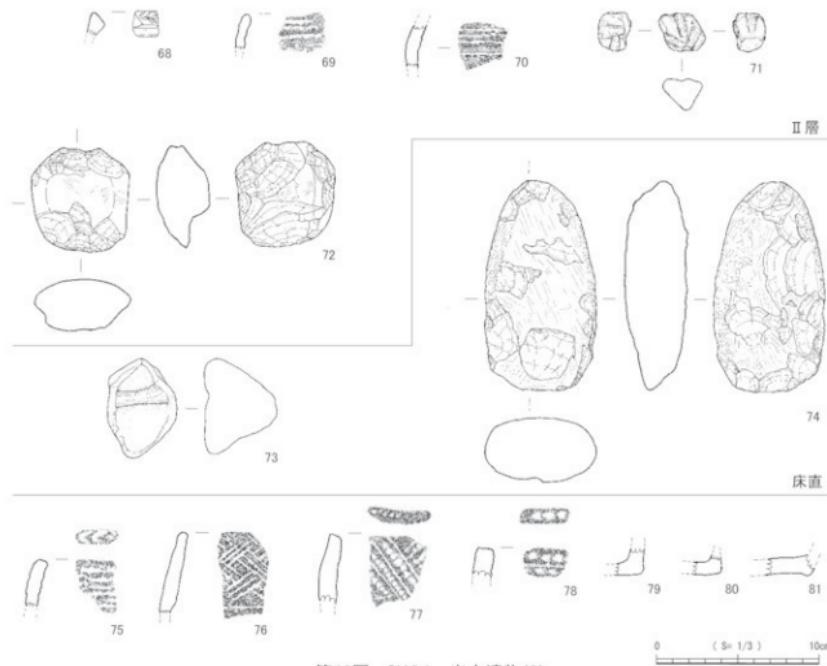
第57図 SH03 出土遺物(1)



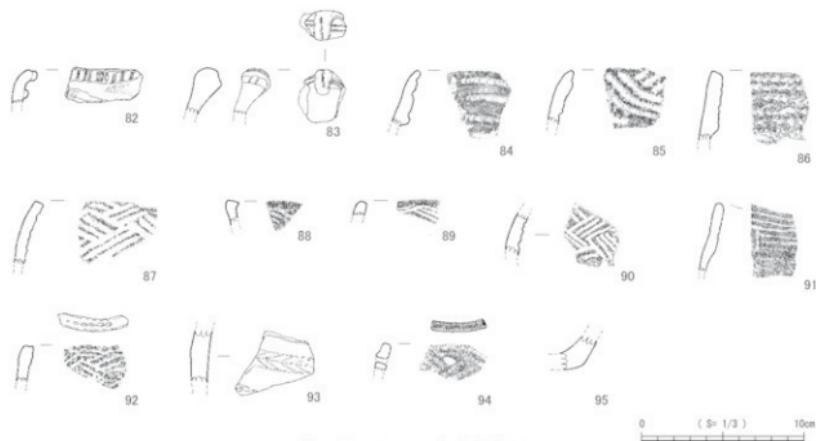
第58図 SH03 出土遺物(2)



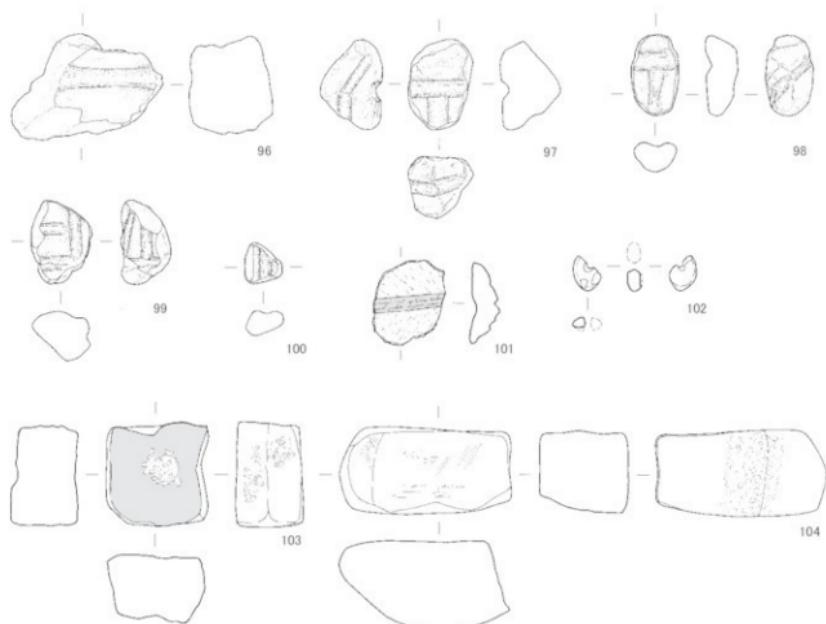
第59図 SH04 出土遺物(1)



第60図 SH04 出土遺物(2)



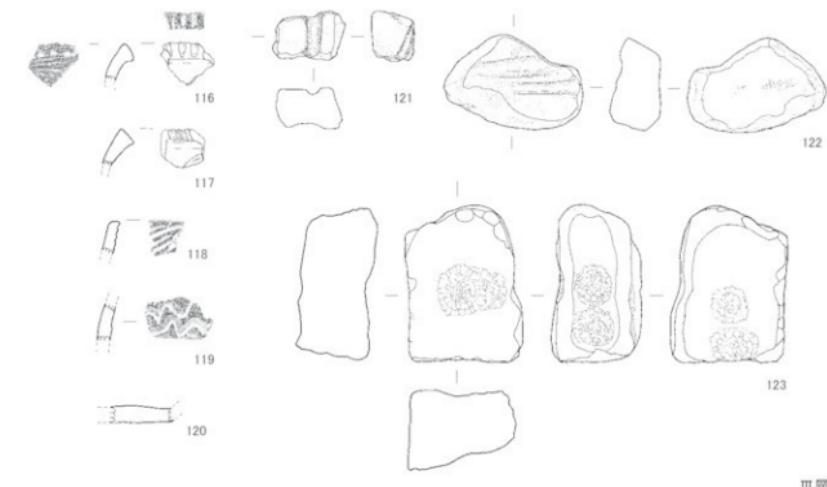
第61図 SH05 出土遺物(1)



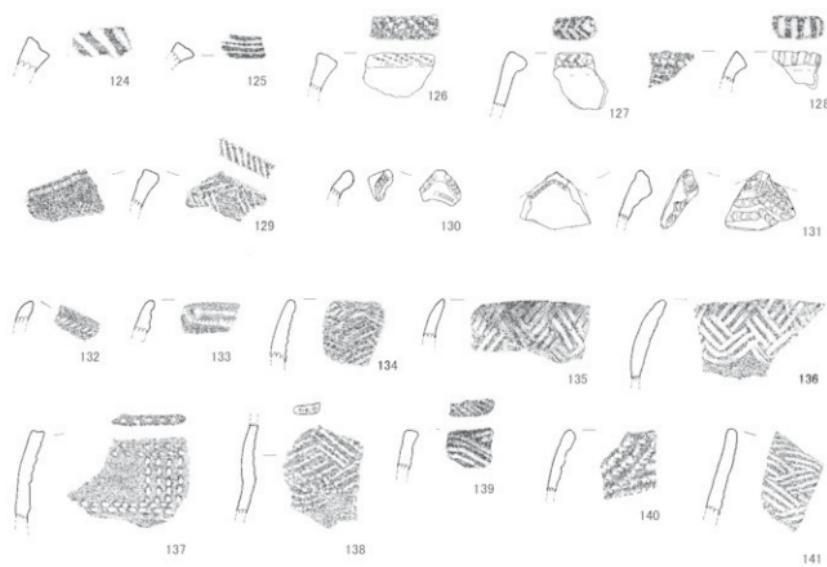
I層

0 (S=1/3) 10cm

第62図 SH05 出土遺物(2)



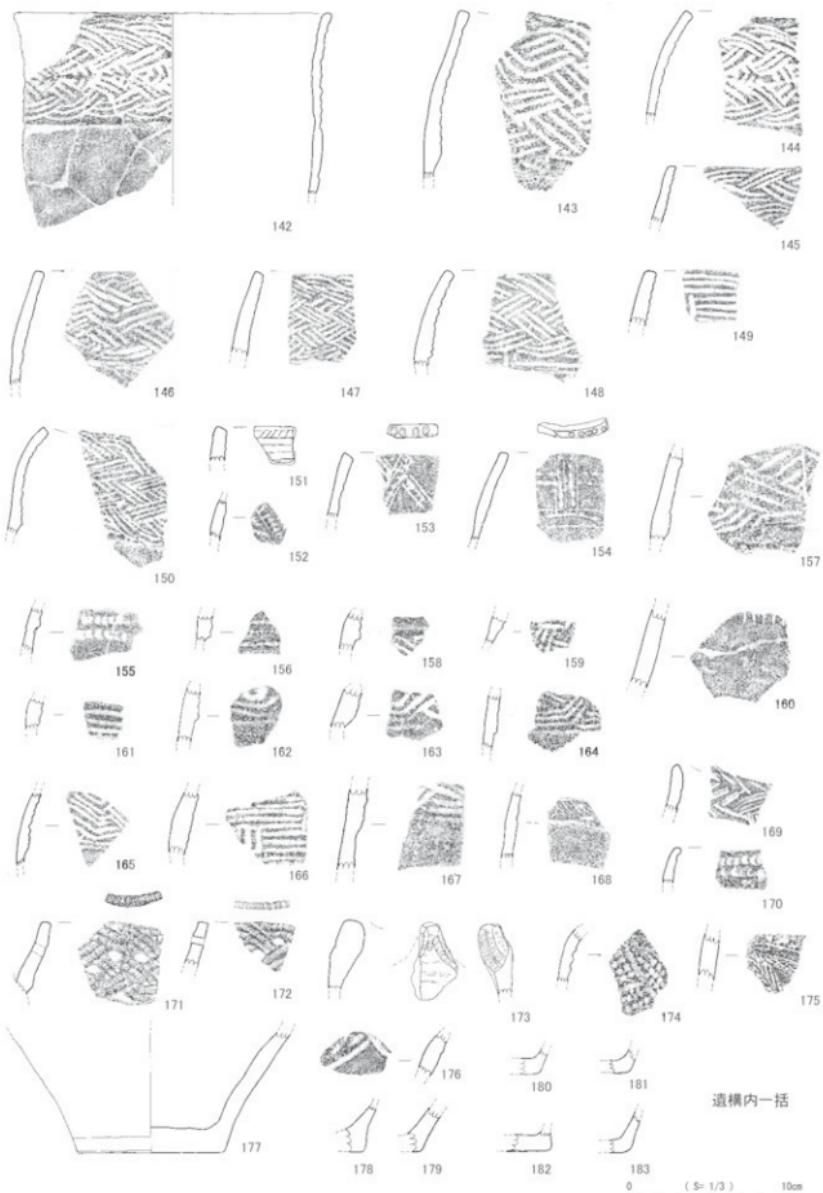
III層



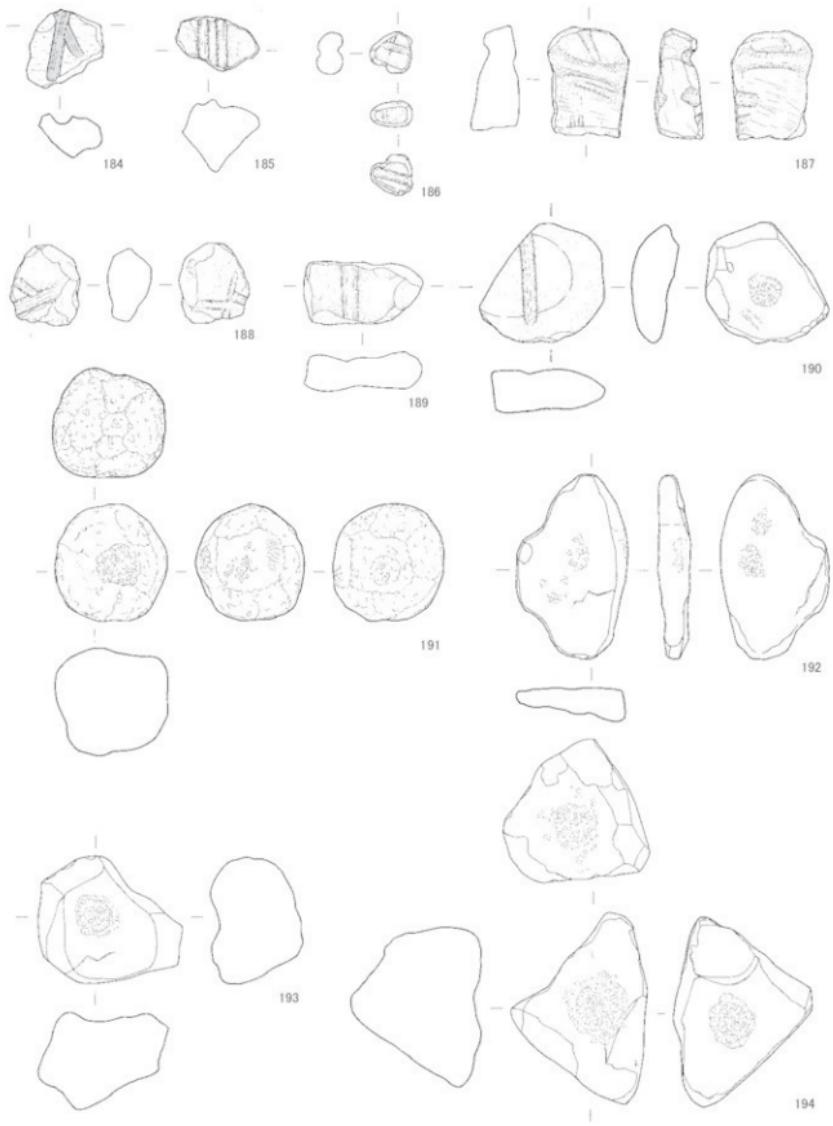
遺構内一括

0 (S= 1/3) 10cm

第63図 SH05 出土遺物(3)



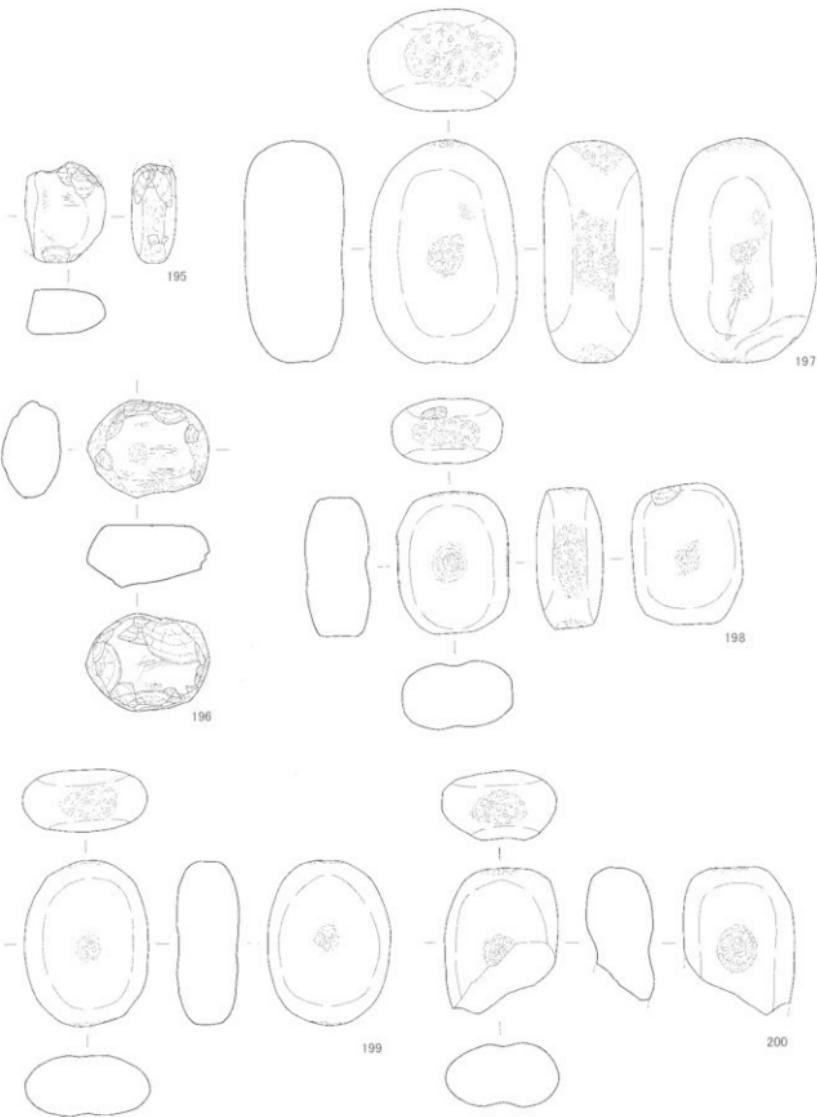
第64図 SH05 出土遺物(4)



遺構内一括

第65図 SH05 出土遺物(5)

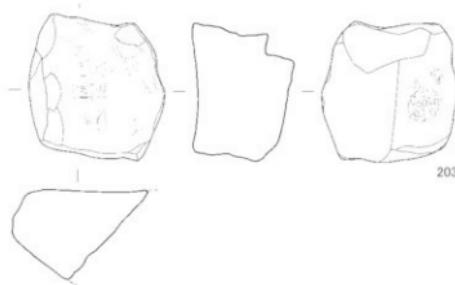
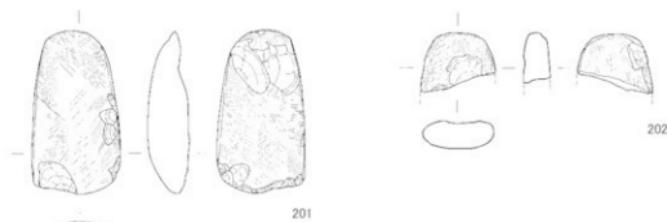
0 (S= 1/3) 10cm



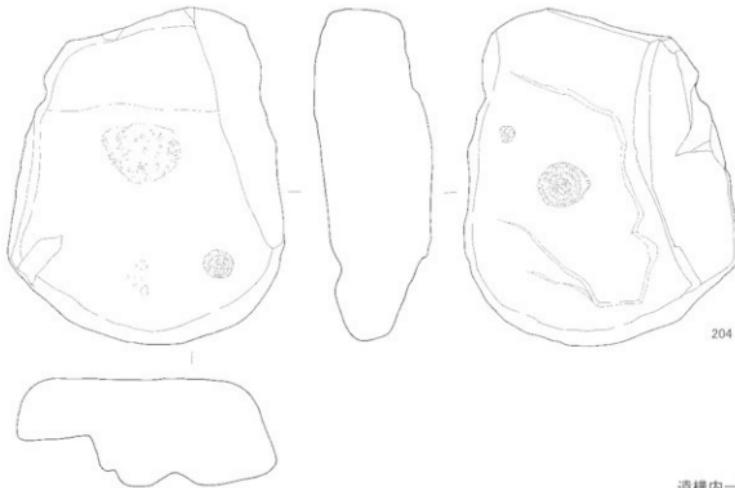
遺構内一括

第66図 SH05 出土遺物(6)

0 (S= 1/3) 10cm



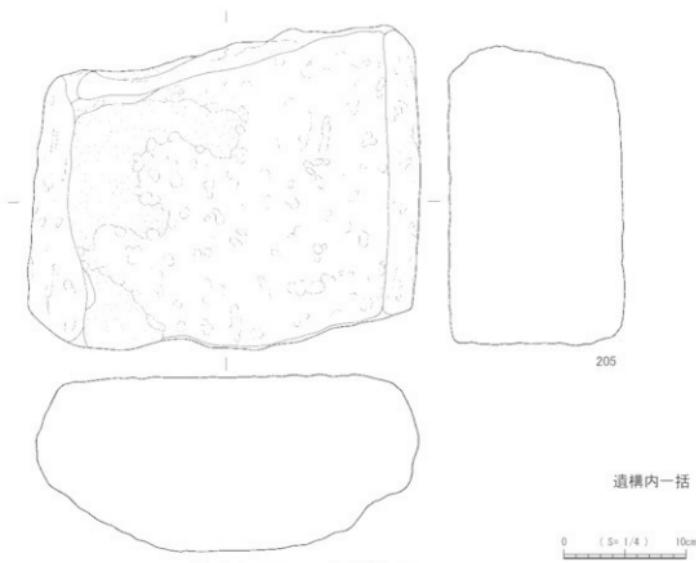
0 (S=1/3) 10cm



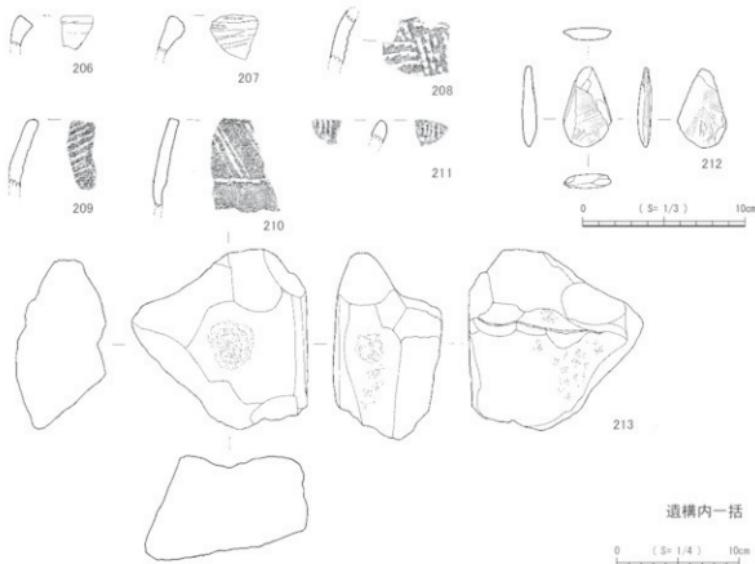
遺模内一括

0 (S=1/4) 10cm

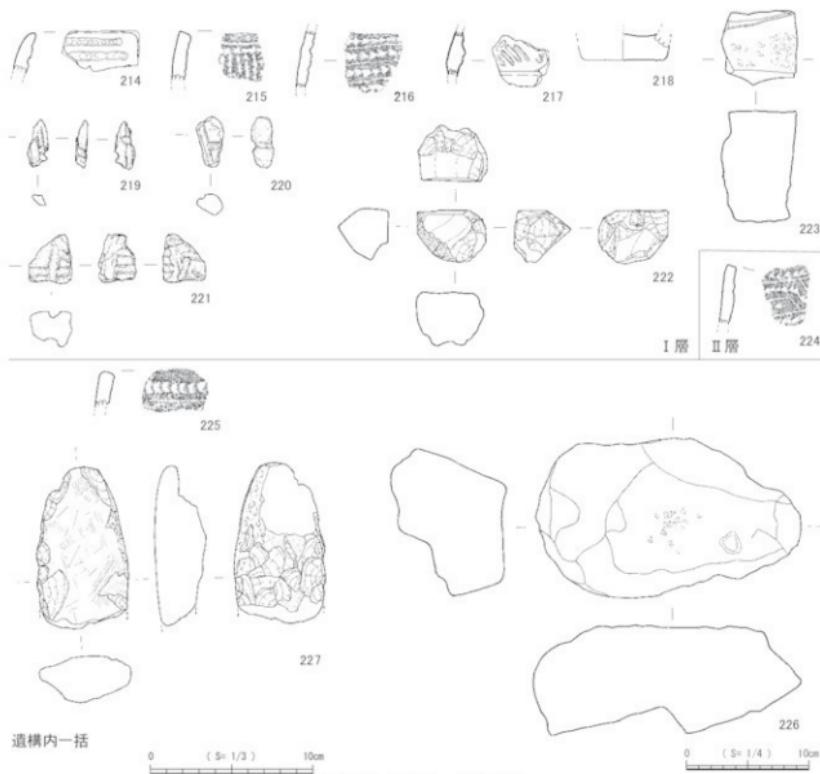
第67図 SH05 出土遺物(7)



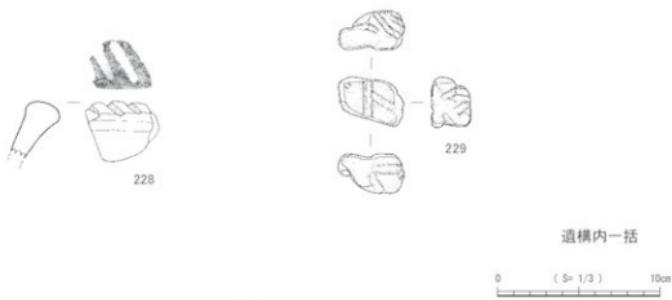
第68図 SH05 出土遺物(8)



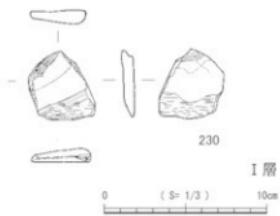
第69図 SH06 出土遺物



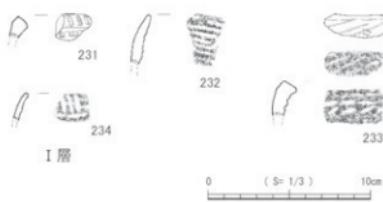
第70図 SH07 出土遺物



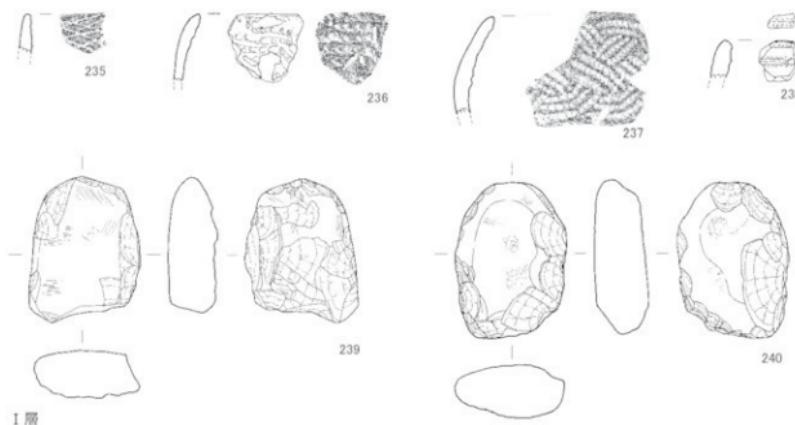
第71図 SH06・SH07 出土遺物



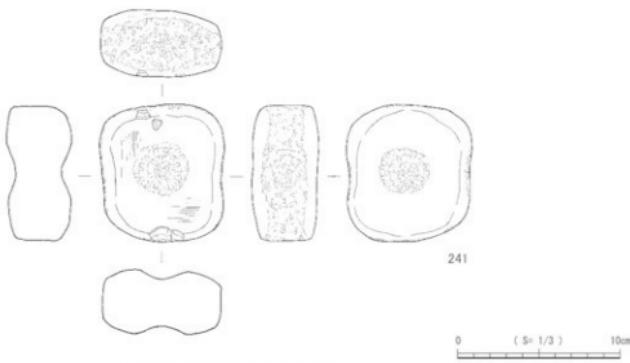
第72図 SH08 出土遺物(1)



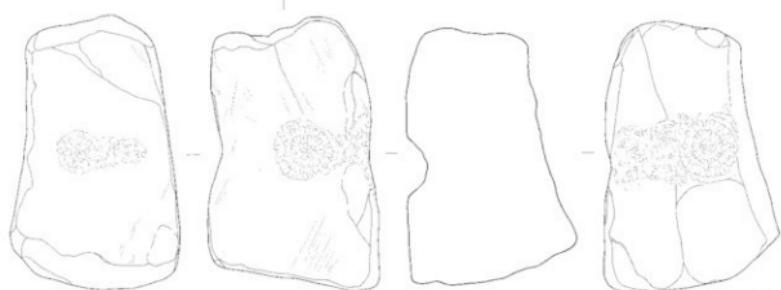
第73図 SH08+SH09 出土遺物



床直



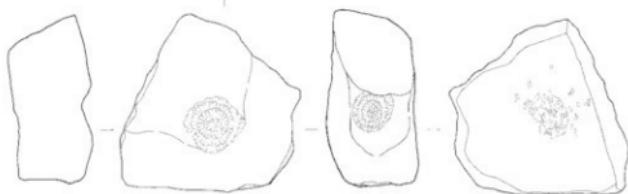
第74図 SH10 出土遺物(1)



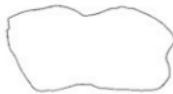
242



0 (S= 1/3) 10cm



243



P3

0 (S= 1/4) 10cm

第75図 SH10 出土遺物(2)



244

245

246

247



248

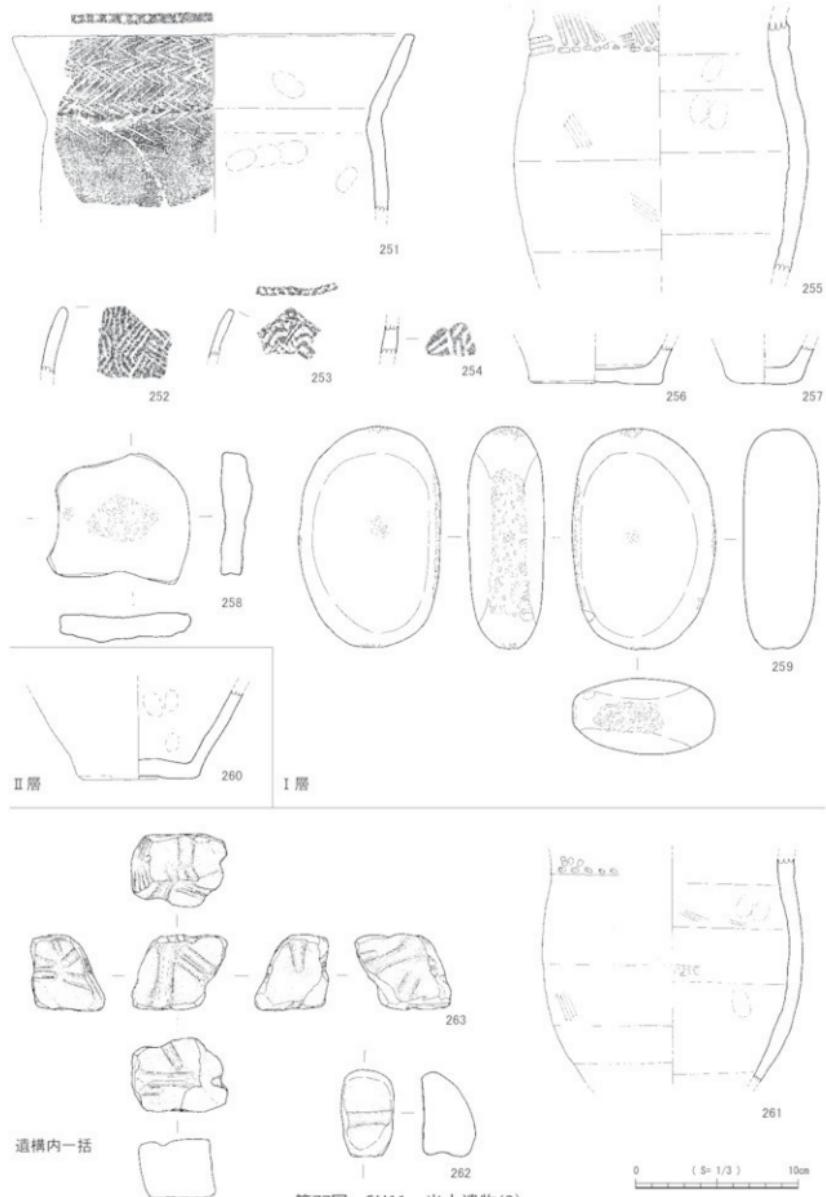
249

250

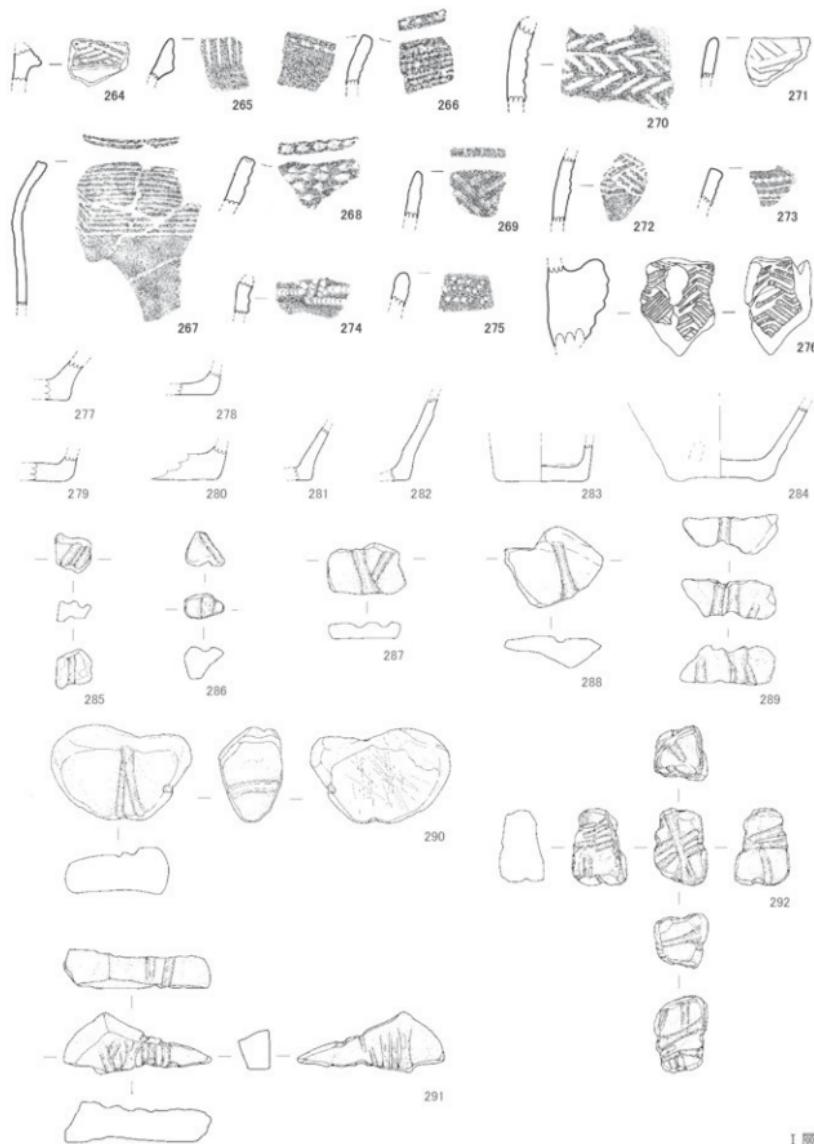
I層

0 (S= 1/3) 10cm

第76図 SH11 出土遺物(1)



第77図 SH11 出土遺物(2)



第78図 SH12 出土遺物(1)

0 (S=1/3) 10cm

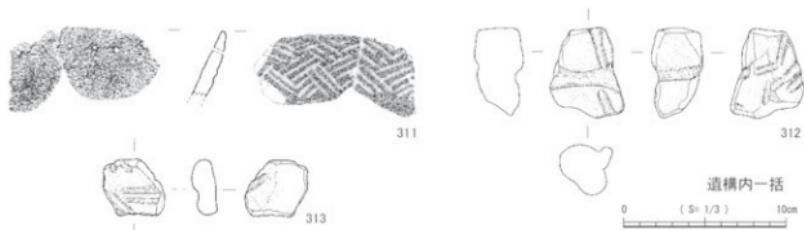
I層



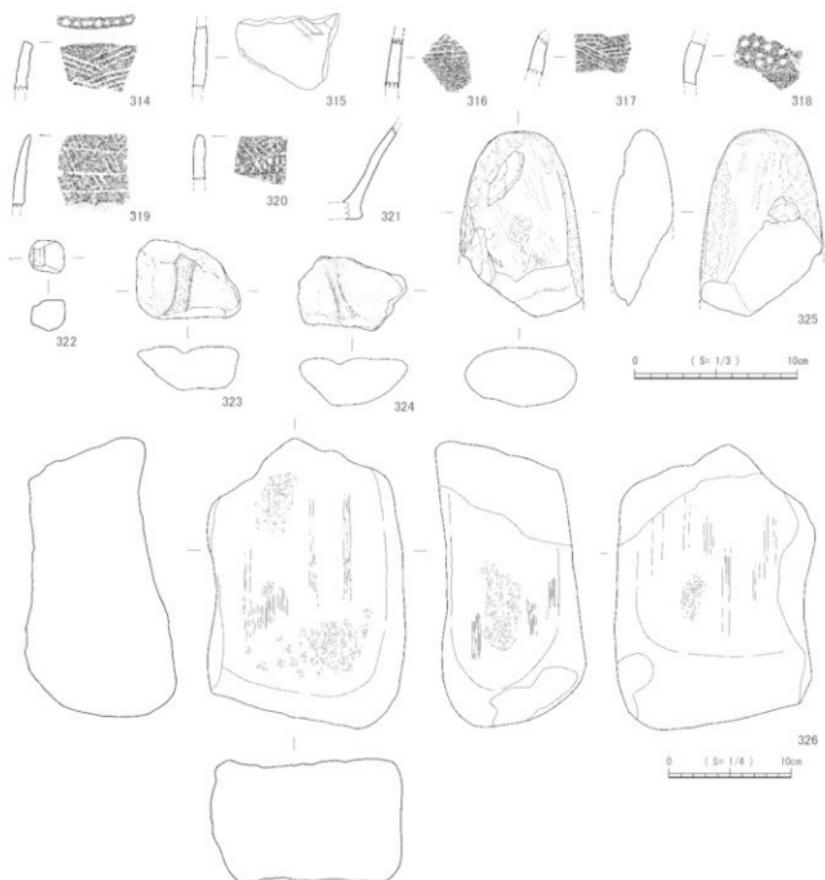
第79図 SH12 出土遺物(2)



第80図 SH12 出土遺物(3)

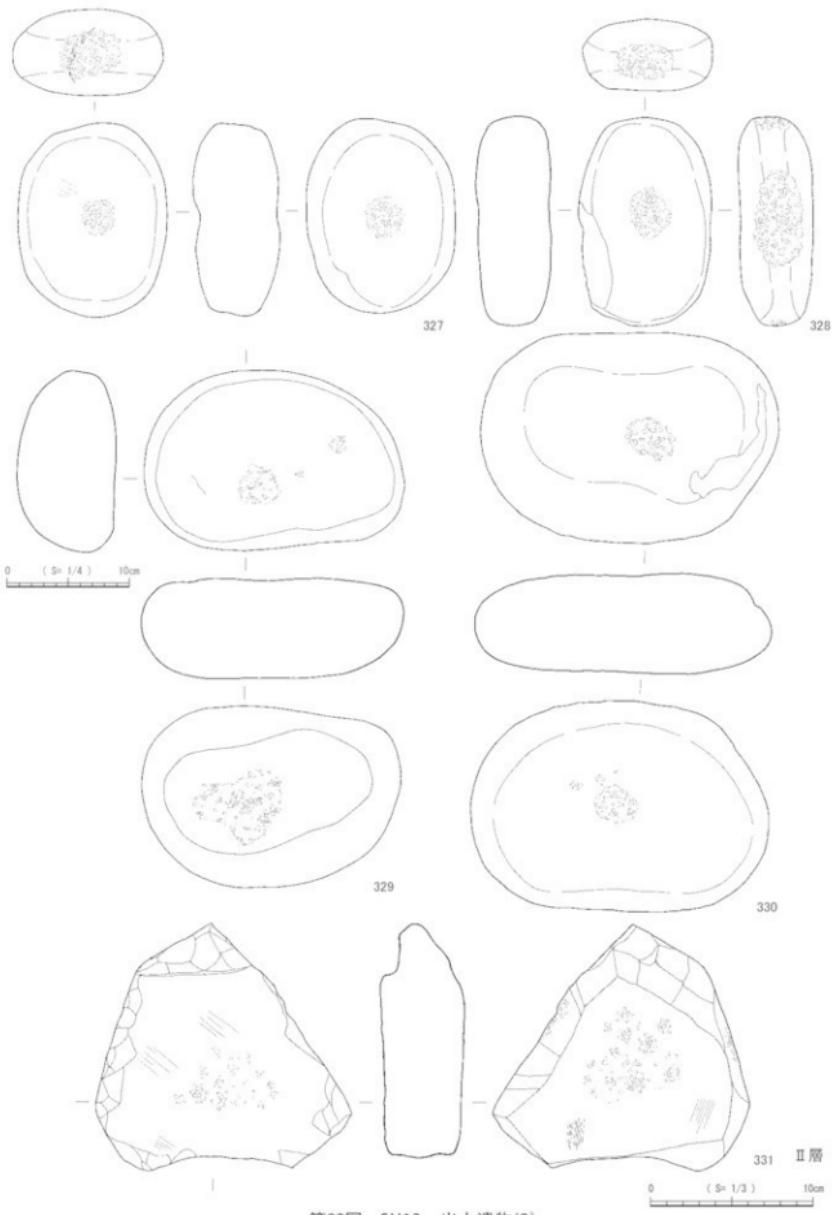


第81図 SH12 出土遺物(4)

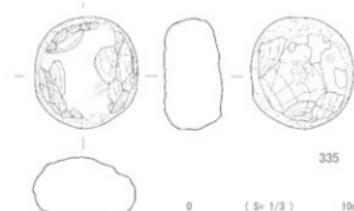
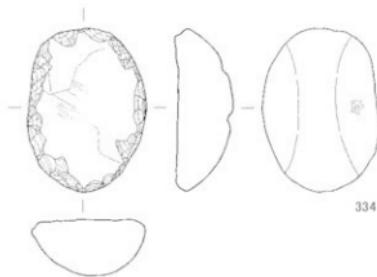
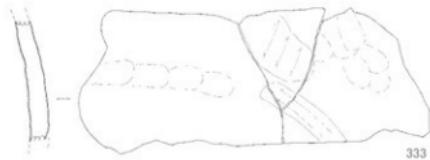
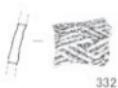


第82図 SH13 出土遺物(1)

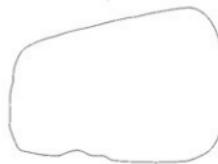
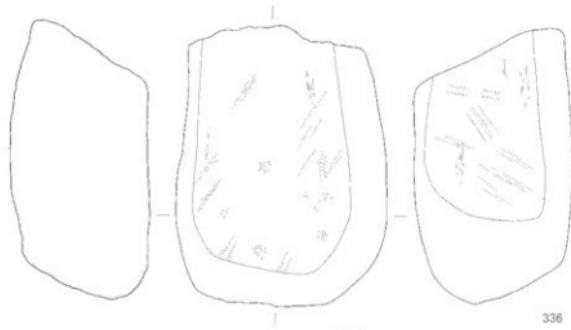
II層



第83図 SH13 出土遺物(2)



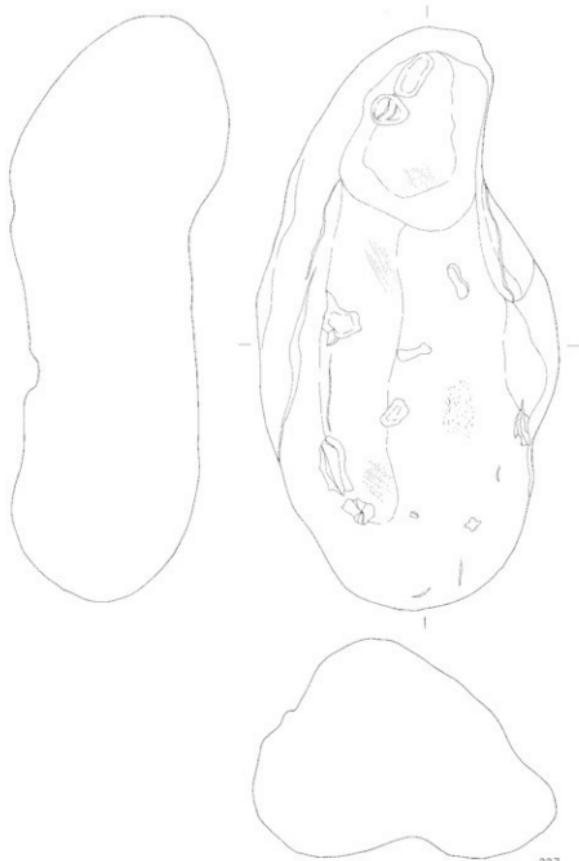
0 (5= 1/3) 10cm



0 (5= 1/4) 10cm

床直

第84図 SH13 出土遺物(3)

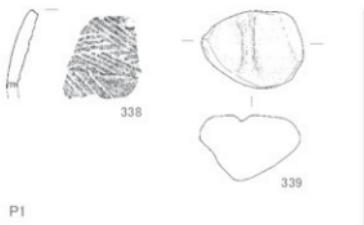


337

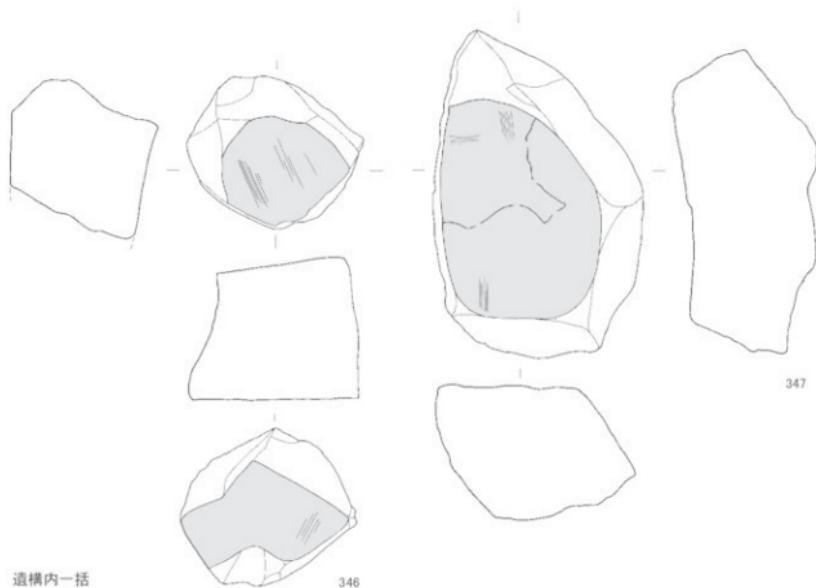
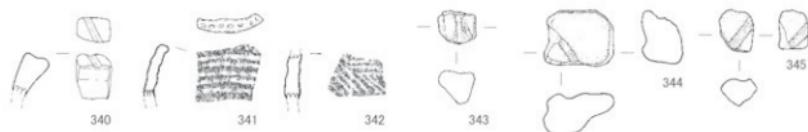
床直

0 (5=1/4) 10cm

第85図 SH13 出土遺物(4)

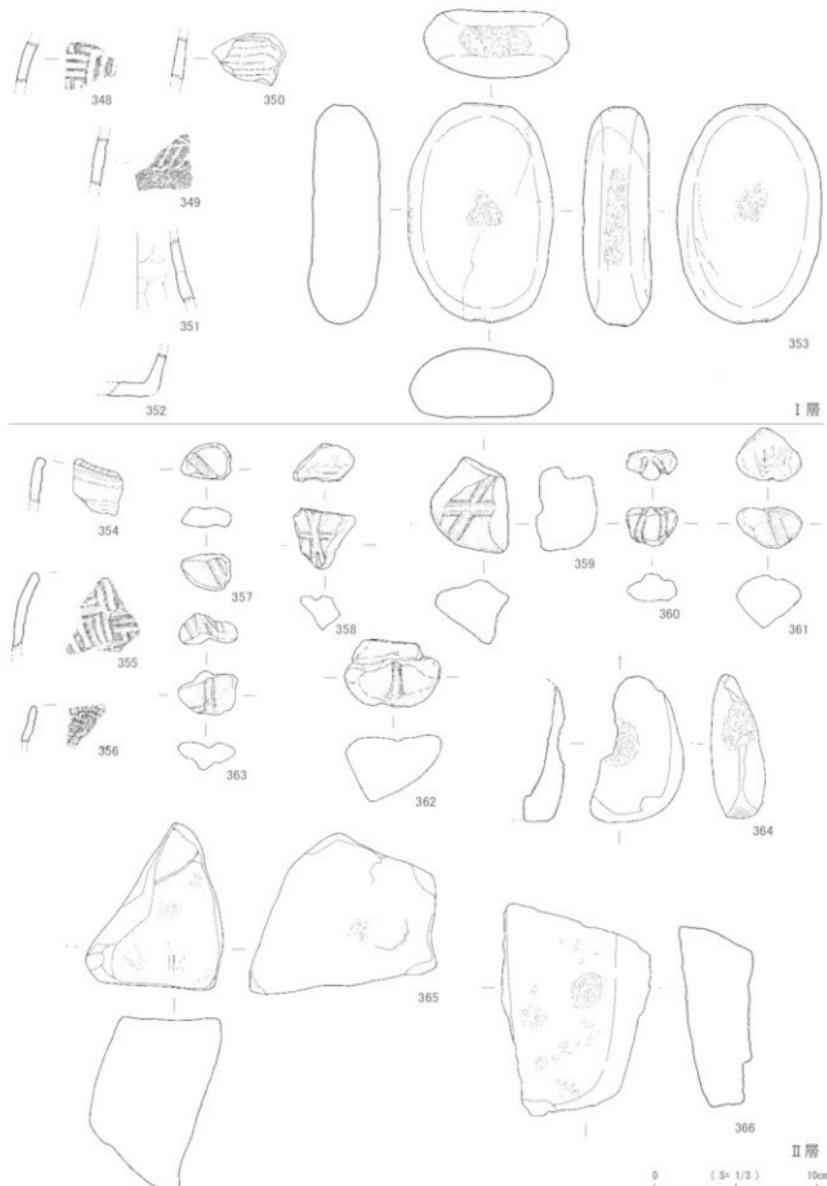


P1



遺構内一括

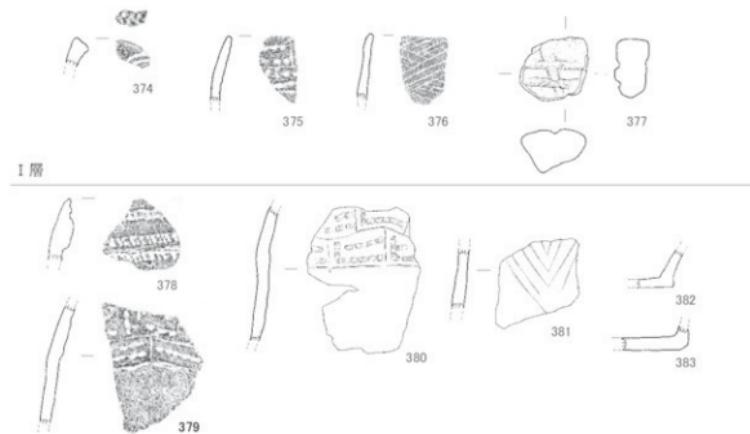
第86図 SH13 出土遺物(5)



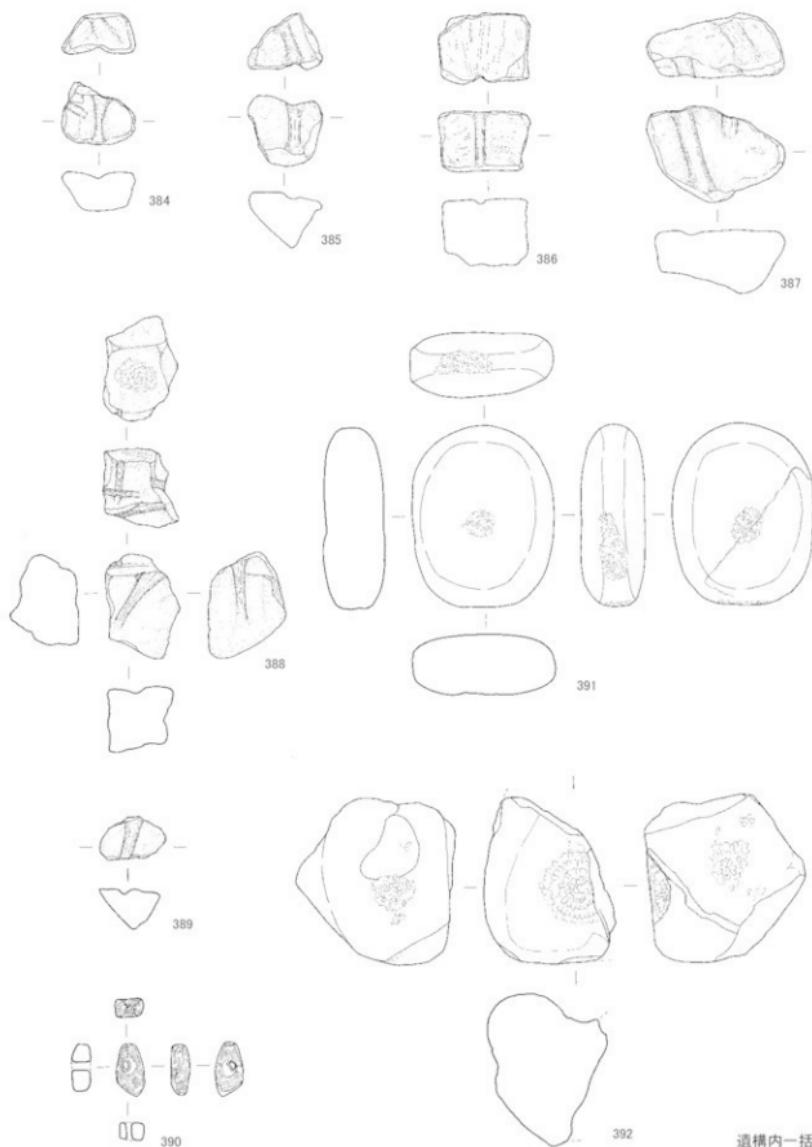
第87図 SH14 出土遺物(1)



第88図 SH14 出土遺物(2)

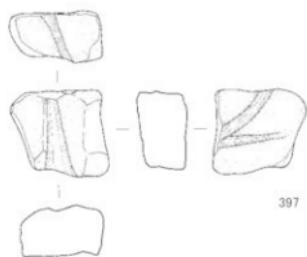


第89図 SH15 出土遺物(1)

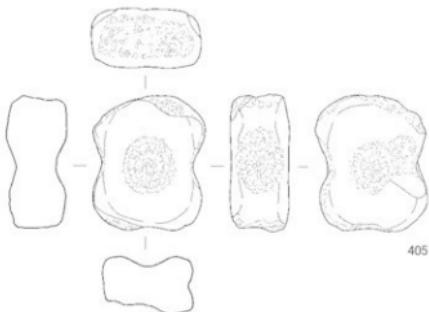
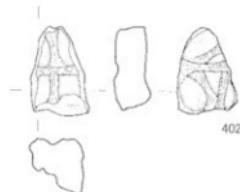
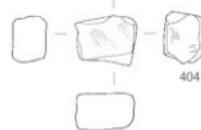
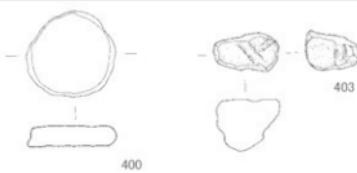
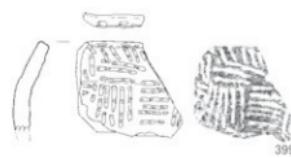


第90図 SH15 出土遺物(2)

0 (S= 1/3) 10cm



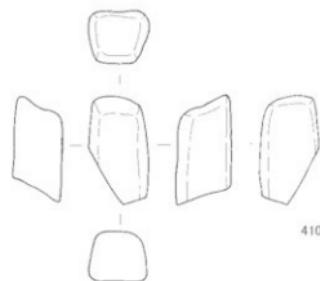
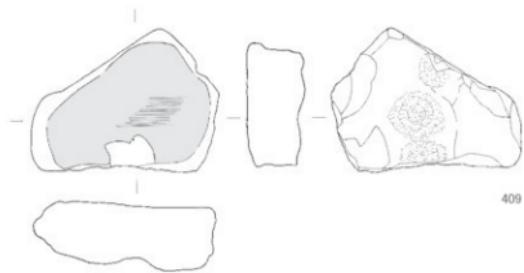
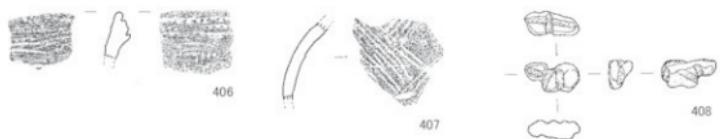
1層



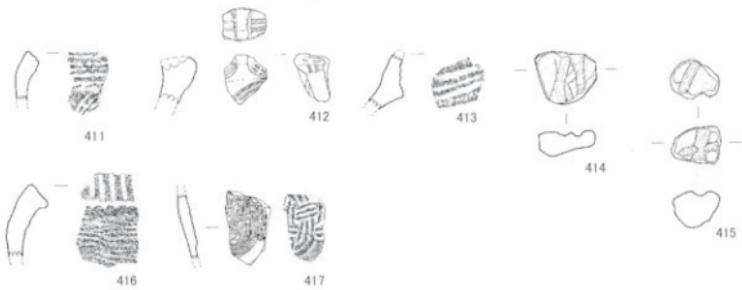
遺構内一括

第91図 SH16 出土遺物

0 (S= 1/3) 10cm



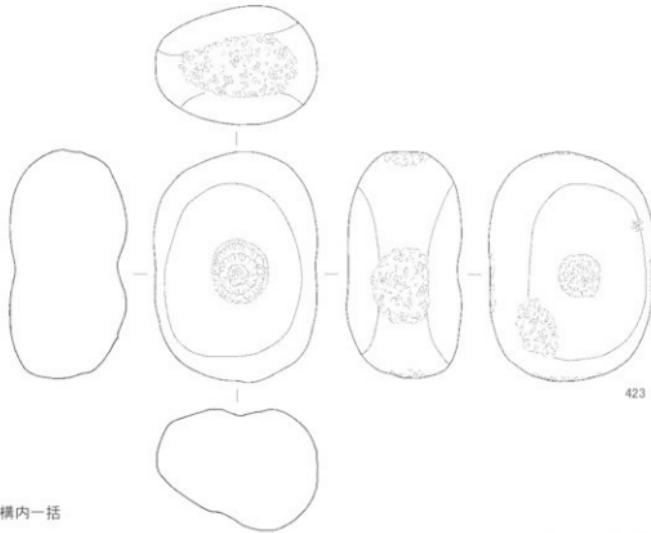
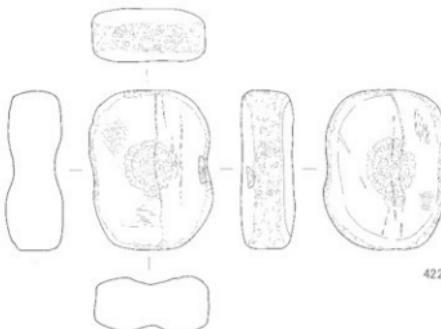
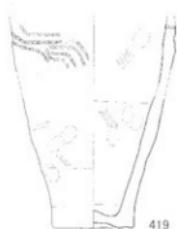
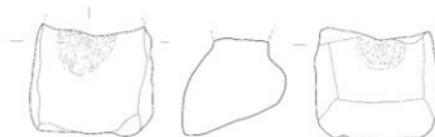
I層



I・II層

第92図 SH17 出土遺物(1)





造構内一括

第93図 SH17 出土遺物(2)

0 (S= 1/3) 10cm



第94図 SH18 出土遺物(1)

0 (S= 1/3) 10cm



443



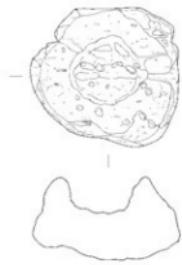
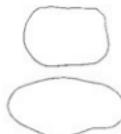
444



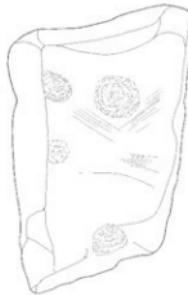
445



446



447



448

0 (S: 1/3) 10cm

0 (S: 1/4) 10cm

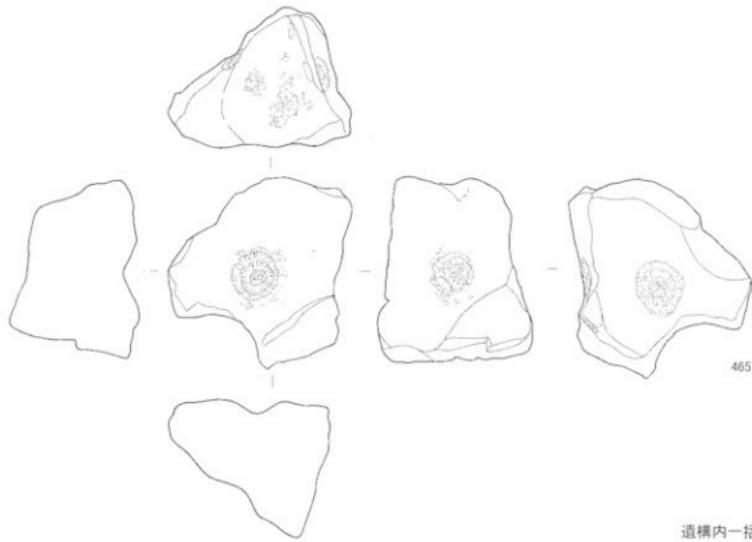
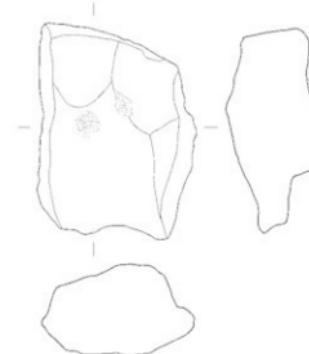
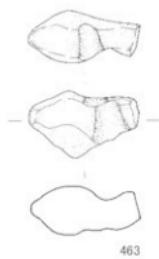
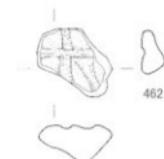
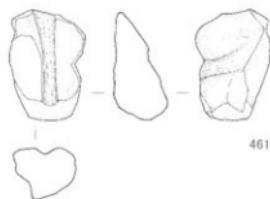
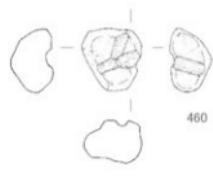


I層

第95図 SH18 出土遺物(2)



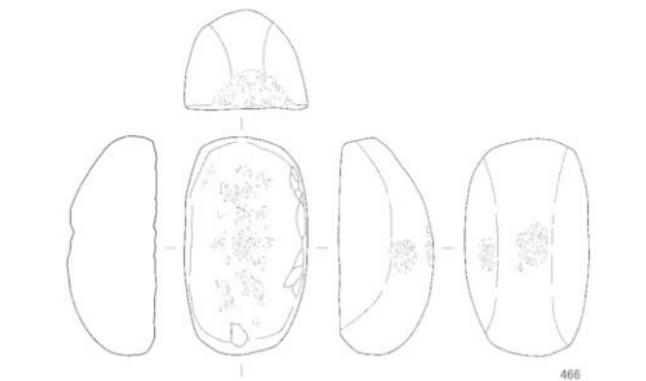
第96図 SH18 出土遺物(3)



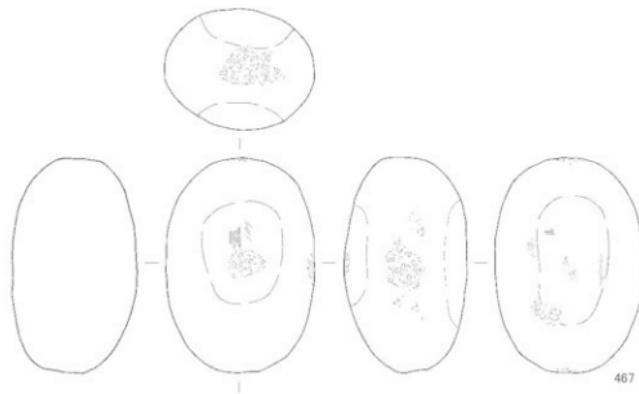
遺構内一括

0 (S = 1/3) 10cm

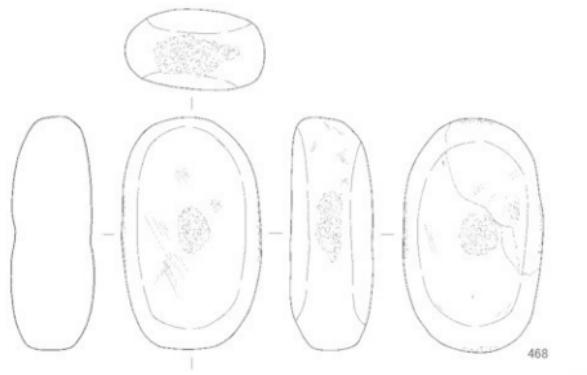
第97図 SH19 出土遺物(1)



466



467



468

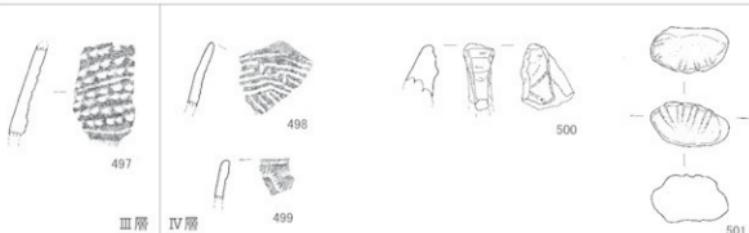
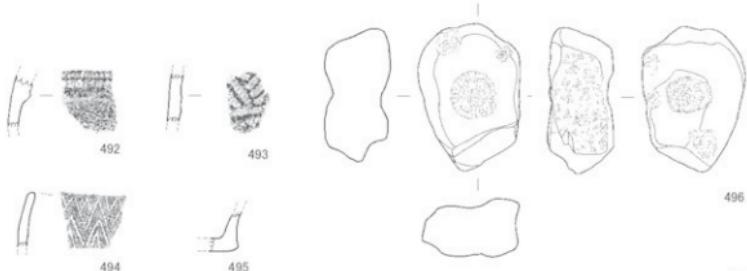
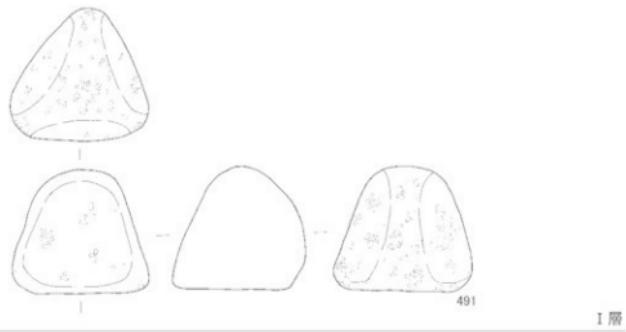
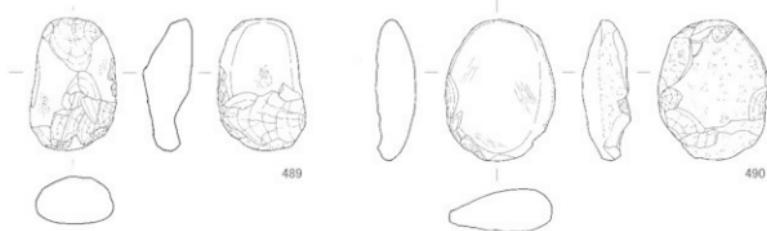
遺構内一括

0 (S= 1/3) 10cm

第98図 SH19 出土遺物(2)



第99図 SH20 出土遺物(1)

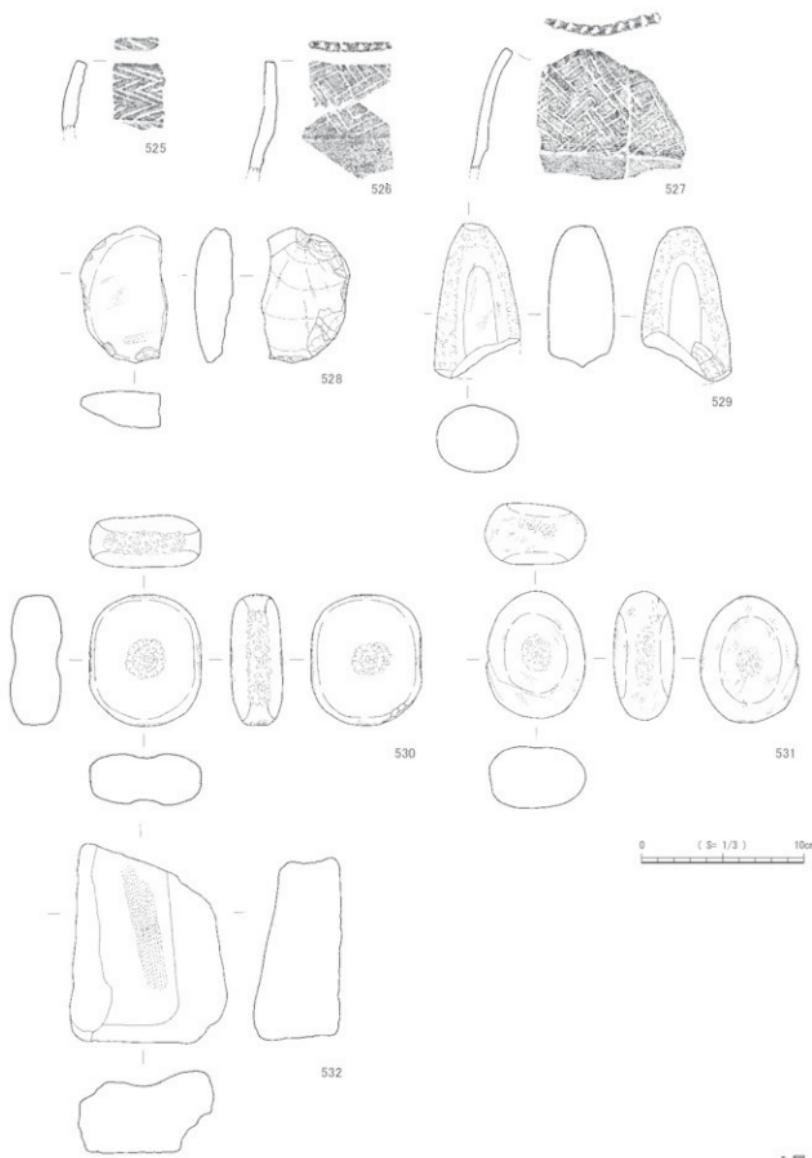


第100図 SH20 出土遺物(2)

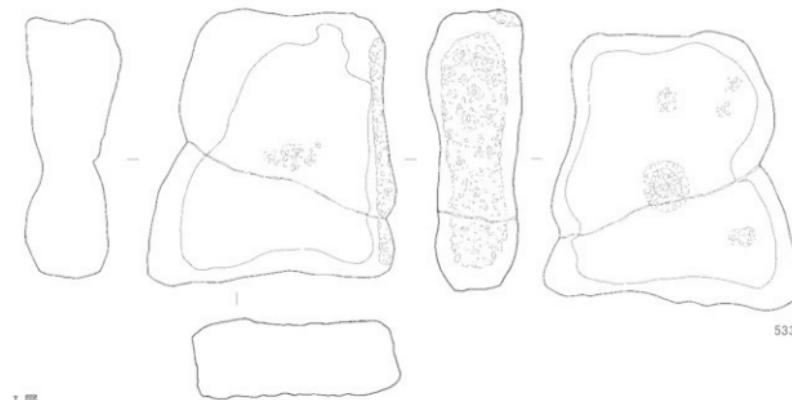
0 (S=1/3) 10cm



第101図 SH20 出土遺物(3)

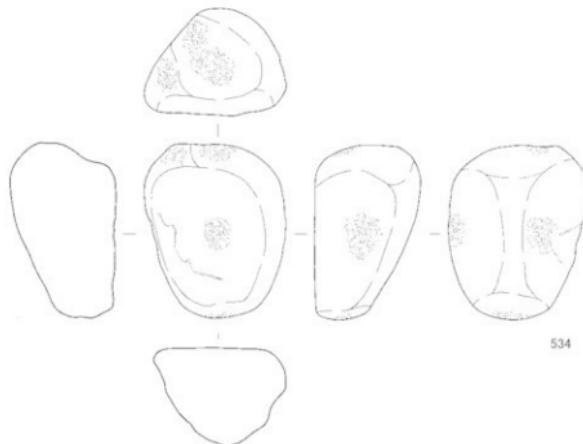


第102図 SH21 出土遺物(1)



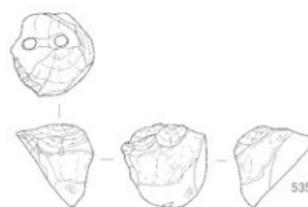
533

I層



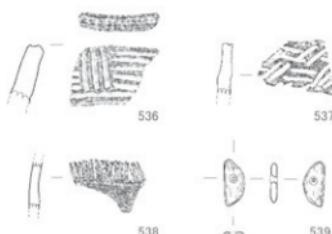
534

II層



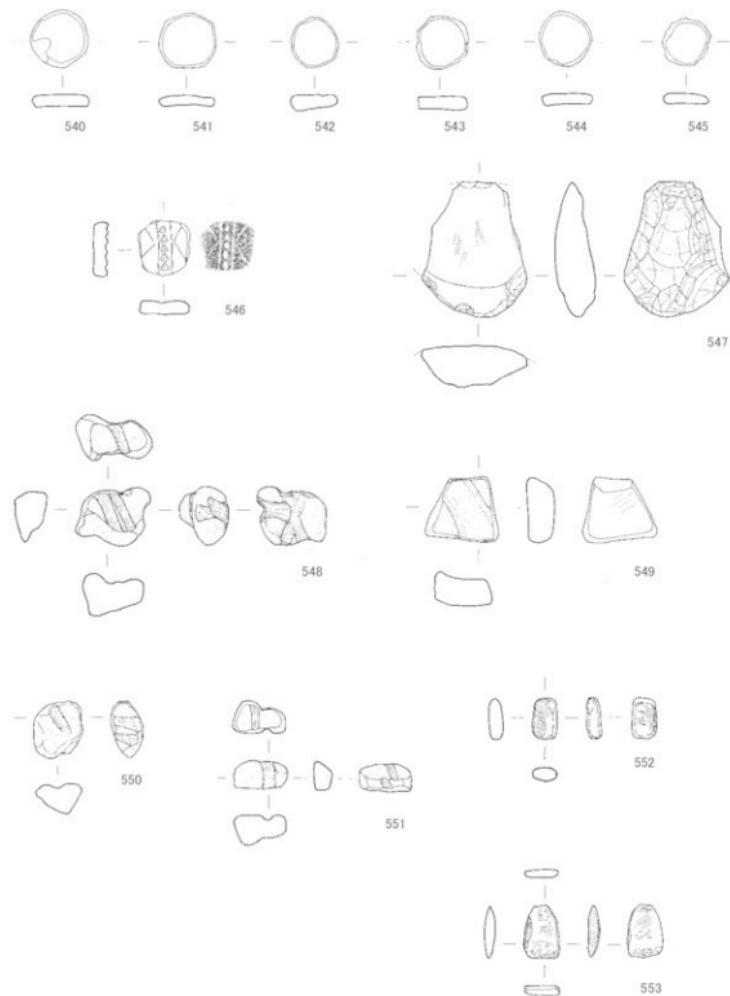
床底

遺構内一括



0 (S=1/3) 10cm

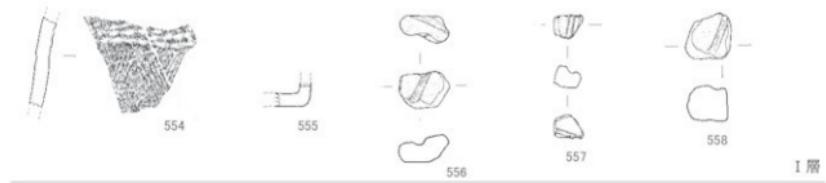
第103図 SH21 出土遺物(2)



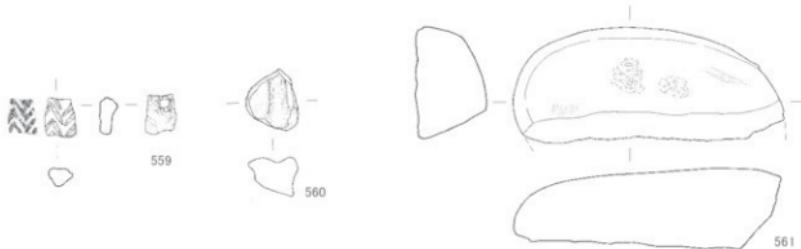
遺構内一括

0 (S= 1/3) 10cm

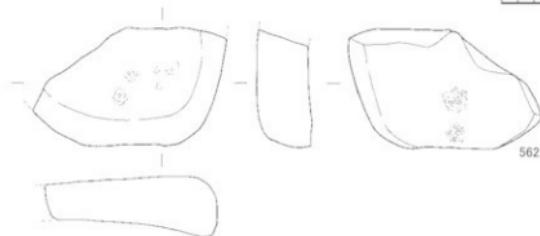
第104図 SH16～SH21 出土遺物



I 層



0 (S= 1/3) 10cm



0 (S= 1/4) 10cm

遺構内一括

第105図 SH22 出土遺物

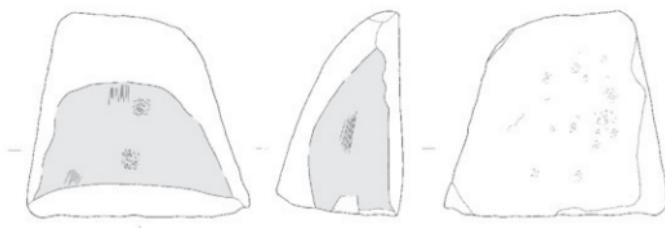


第106図 SH23 出土遺物(1)

遺構内一括
0 (S=1/3) 10cm

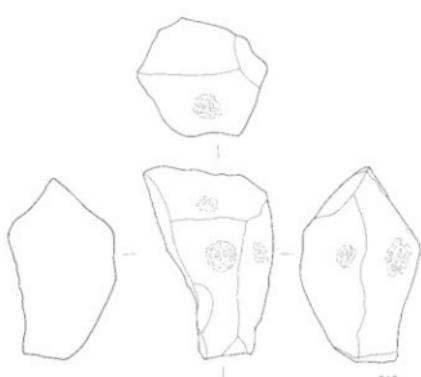
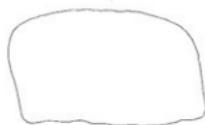


第107図 SH23 出土遺物(2)



611

0 (S=1/4) 10cm



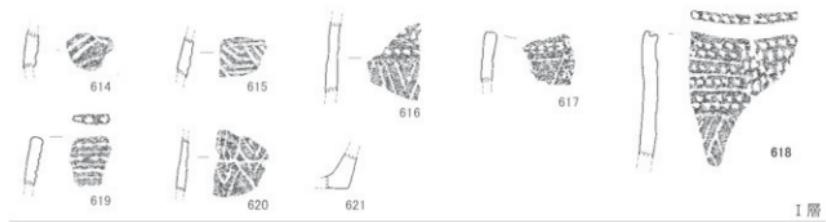
612



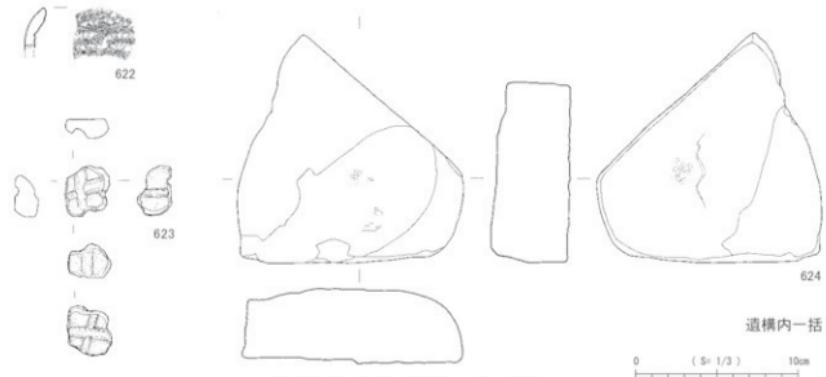
613

遺構内一括
0 (S=1/3) 10cm

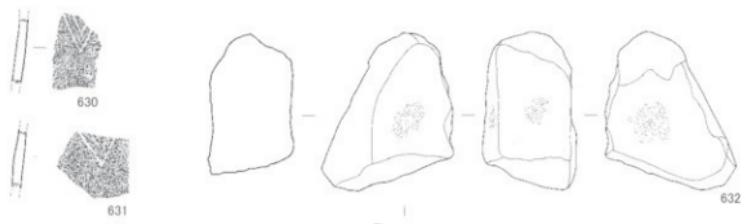
第108図 SH23 出土遺物(3)



I層



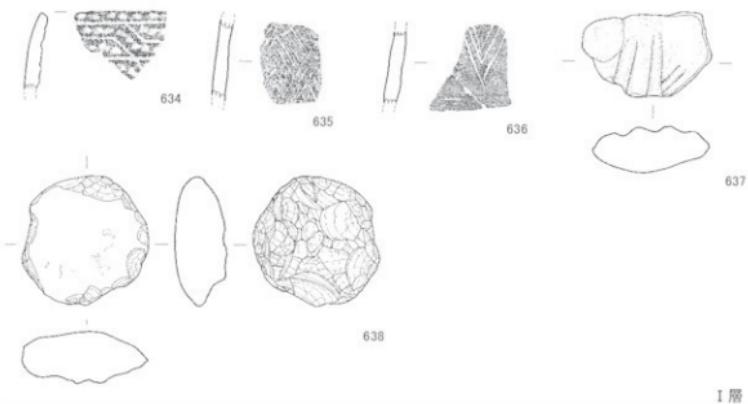
第109図 SH22・SH23 出土遺物



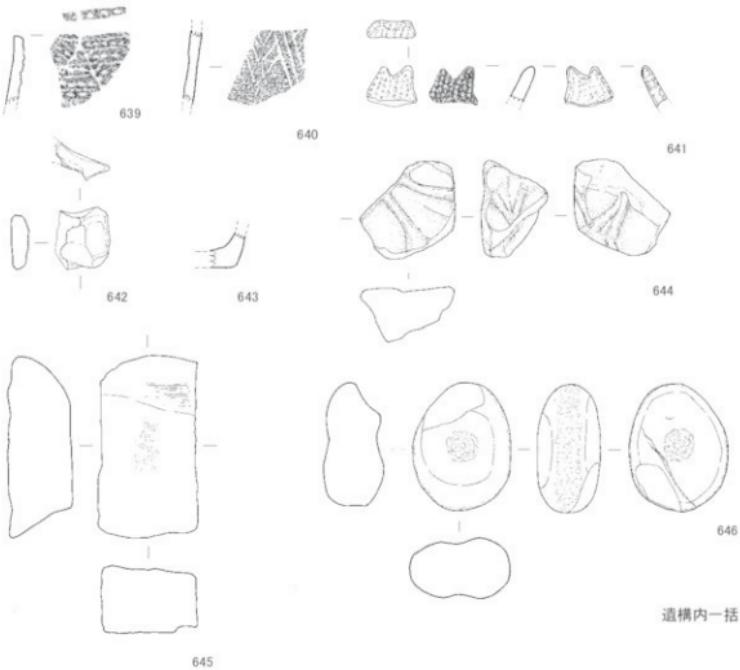
遺構内一括



第109図 SH22・SH23 出土遺物



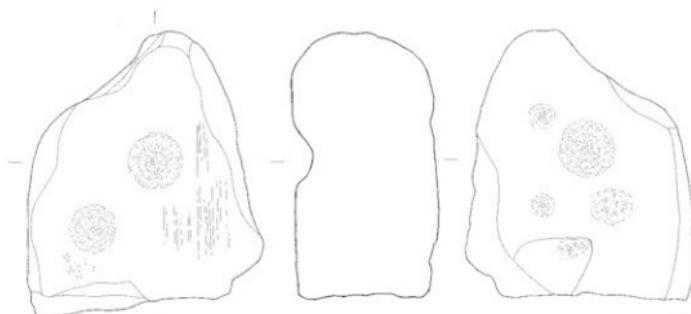
I 層



遺構内一括

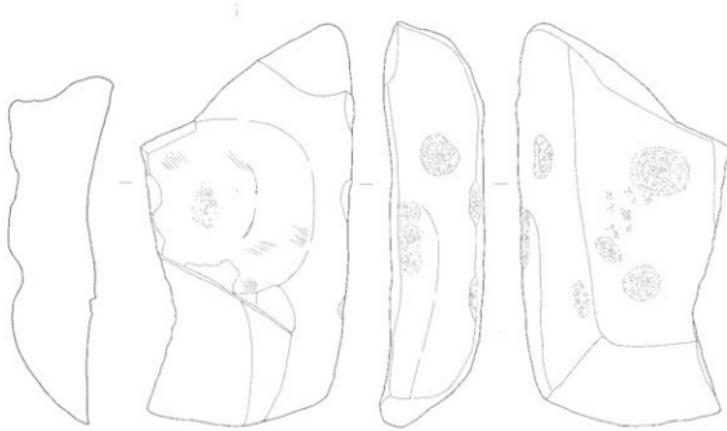
第111図 SH25 出土遺物(1)





647

0 (Scale 1/4) 10cm

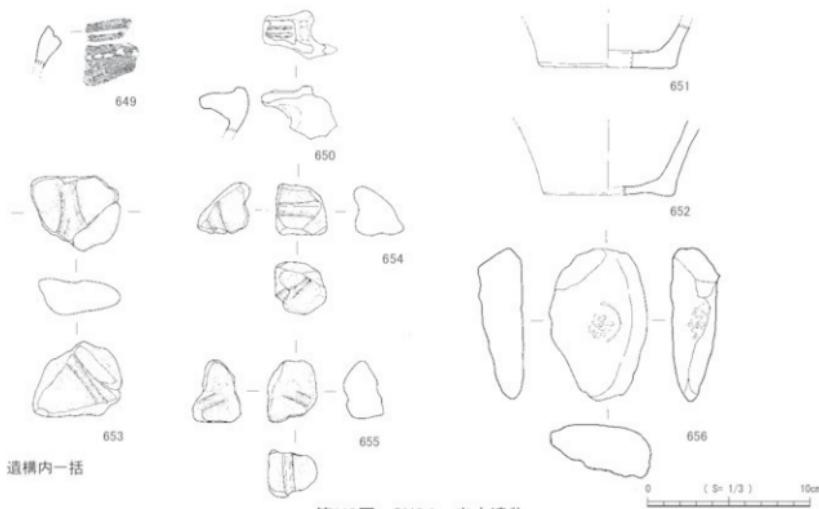


648

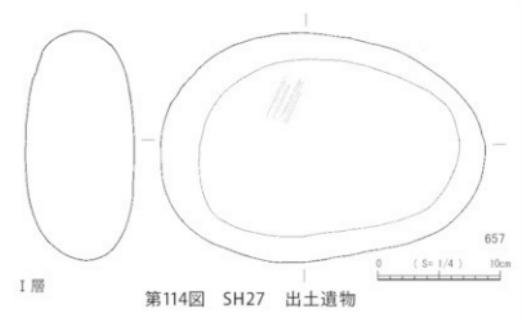
遺構内一括

0 (Scale 1/4) 10cm

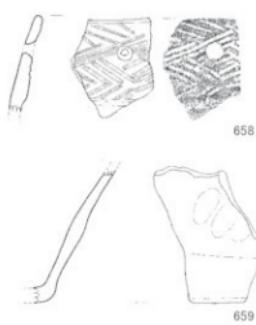
第112図 SH25 出土遺物(2)



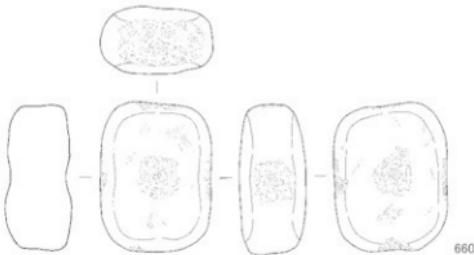
第113図 SH26 出土遺物



第114図 SH27 出土遺物



第115図 SH一括 出土遺物



(7) 土坑（SK）出土遺物

ここでは、SKからの出土遺物をまとめて紹介する。SKからは、遺物は3,327点出土し、そのうち図化したものは137点である。以下、遺構ごとに遺物の観察を記述する。

SK01 (第116図・第105表)

1層 (662~669)

662~666はII-a類土器である。662は内面に、663~664・666は内・外面ともに貝殻条痕が観察できる。667はII-c類土器である。668は中粒砂岩を石材とする回石である。669は中粒砂岩を石材とする敲石である。

SK02 (第117図・第105表)

1層 (670~682)

670~672はII-a類土器である。口唇部には斜め平行の深くはつきりとした刻目文が施されている。671は内・外面に貝殻条痕が見られる。673はIII-a類土器である。674~679はIII-c類土器である。680は砂質土器の平底底部である。681は中粒砂岩を石材とする磨敲石である。平面面1面のみ使用痕がある。682は中粒砂岩を石材とする回石である。

遺構内一括取り上げ (683~689)

683~685はII-c類土器である。683は口唇部に網目状に粘土紐を貼り付け波状にしている。外面には貝殻条痕が見られる。685は壺の口縁部である。686・687はIII-a類土器である。688はV類土器である。粘土紐を輪状に貼り付け、その内部を細かに押引文で施している。壺の胴部装飾部と考えられる。689は砂質土器の平底底部である。

SK03 (第118~119図・第105表)

1層 (690~712)

690はII-a類土器の深体である。外面にはナデ、内面には貝殻条痕が観察できる。691~697はII-b類土器である。692の内面には貝殻条痕が観察できる。外面は沈線に近い無い押引文が施されている。693は内・外面に貝殻条痕が観察できる。695は口唇部に網目状の文様、外面にひし形状の文様を沈線で施している。内面には貝殻条痕が見られる。壺と考えられるが、他の同類の土器に比べ丁寧に作られている。696・697は口唇部及び口縁部に深い刻み目が施されている。II-b類に分類したが、胴部に深い刻み目が施されている土器はこの2点のみである。698はIII-a類土器の深体である。699・700はIII-e類土器の深体である。701は印線文が施された口縁付近と考えられる砂質土器胴部である。わずかに肥厚させた文様部に網目状の印線文を連続して文様を施している。702~704はV類の砂質土器である。702は細沈線を平行に引いて区画した内面に、短い細沈線を連続して文様を施した胴部である。器壁は薄く、しっかりとしており、他の沈線文系土

器に比べ胎土が異質であることからV類に分類した。703は口縁端を肥厚させ、細沈線で文様を施した土器である。沈線は不規則に施されている。また、口唇部には連点が施されている。IV-c類に近いが、口縁の形状や施文が異なることから今回V類に分類した。704は口縁近くを「く」の字に外湾させた形状を持ち、口唇から口縁内面にかけて斜め平行沈線、内面には横位の2条の沈線文を施している。外面に細沈線を平行に引き区画した中に沈線で破線を施している。文様構成はIV-d類土器に似るが、口縁の断面形状は丸形で、器壁は厚くぼってりしており他のIV-d類とは異なることからV類に分類した。705・706は砂質土器の平底底部である。707は砂質土器の尖底底部である。内・外間にハケメによる器面調整がみられる。708は粗粒砂岩を石材とする磨敲石である。709は中粒砂岩を石材とする回石である。710~712は中粒砂岩を石材とする台石である。

SK04 (第120図・第105表)

1層 (713~717)

713はIII-c類土器の壺である。深めに施された押引文は凹線に近い。714はIV-c類土器である。器壁は薄く、口唇の断面形状は丸形に近い。715は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は1面で1条の溝がある。716は中粒砂岩を石材とする磨敲石である。半分が欠損している。717は中粒砂岩を石材とする敲石である。各面の中央部に敲打痕が集中している。

SK05 (第121図・第105表)

1層 (718)

718はIII-c類土器の深体である。内面には貝殻条痕が観察できる。

II層 (719)

719は中粒砂岩を石材とする台石である。側面にも敲打痕が観察される。大きさや重さから台石と分類した。
遺構内一括取り上げ (720・721)

720はIII-c類土器の深体である。721は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は2面あり、合計2条の溝がある。

SK06 (第122~124図・第106表)

1層 (722~726)

722はII-a類土器である。723はIV-c類土器である。724は印線文系土器の胴部である。籠目状の文様を施している。725は砂質土器の平底底部である。726は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が2面あり、合計4条の溝がある。

II層 (727~737)

727・728はIV-b類土器である。727は口唇部に刻み目、外面に凹線による籠目状の文様を施している。内面土、斜位の平行沈線が外面の施文範囲と同じ高さまで施され、それより下部は貝殻条痕が観察できる。729はIV-c類土器である。730・731は凹線文系の砂質土器の胴部である。732・733は細沈線文が施された砂質土器胴部である。733の細沈線文は凹線に近い。734・735はV類の砂質土器である。734は、外面に凹線文を組み合わせ、錐術文を施している。口縁の断面形状は舌状である。735は、口縁装飾部と考えられる丸みを帯びた突起部である。突起は粘土をつまみあげて整形しており、外面に細かい凹線が数条見られる。736はV'類の泥質土器の胴部である。凹線文を組み合わせて文様を構成するが、残存部においては文様の規則性は見られない。凹線文を施した泥質土器は他に出土しておらず、今回はV'類に分類した。737は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は3面あり、合計5条の溝がある。

遺構内一括取り上げ (738~762)

738はII-c類土器である。内・外面に貝殻条痕が見られる。739はIII-e類土器である。内面にオサエによる調整が見られる。740はIV-b類土器である。口唇部に連点が施され、内・外面に凹線文が施されている。内面の文様は幾何学的で、その下部には貝殻条痕が見られる。741~743はIV-a類土器である。742は口唇部に連点文が施されている。743は縦位に押引文が施されている。744はIV-b類土器である。錐術状の文様施されている。文様土胴部から口縁部に向かって施している。また、胎土には金色の雲母が混入している。745・746はIV-c類土器である。746は波状口縁である。747は沈線文が施された砂質土器胴部である。沈線紋は凹線に近い。748はV類の砂質土器である。文様帶下部に薄い粘土紐を貼り付け肥厚させ、錐術文を施している。749は砂質土器の平底底部である。750~759は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。750は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。751は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。752は使用面が1面あり、3条の溝がある。753は使用面が4面あり、合計6条の溝がある。754は使用面が4面あり、合計8条の溝がある。755は使用面が2面あり、合計5条の溝がある。756は、1条の溝がある。757は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。758は使用面が1面だけだが、5条の溝がある。759は使用面が2面あり、合計4条の溝がある。760・761は磨礫石である。石材は、760が中粒砂岩で、761が粗粒砂岩である。761は各面の中央部をよく使用しており、回んでいる。762は中粒砂岩を石材とする石皿である。

SK07 (第125・126図・第106表)

I層 (763~771)

763はI類土器の胴部である。横位に張り付けた突帯に細かな刻み目を施している。また、その下にも斜めに取り付けられた同様の突帯が一部まだ残っている。764はIV-b類土器である。口唇には、縦位と横位を組み合わせた細沈線文が施されている。内面にオサエによる調整が観察できる。765・766はIV類土器である。いずれも口縁部の装飾部と考えられる。765は縦位に粘土紐を貼り付けて輪を作った後、口縁部とその下に突帯を貼り付けている。突帯には細かな刻み目が施されている。壺型土器の一部と考えられる。766は口縁部に縦位に粘土紐を貼り付け口縁部を波状にし、口唇部、口縁外側に押引文や連点で施したものである。深鉢型土器の一部と考えられる。767・768は円盤状土製品である。767は砂質土器の平底底部からの転用と考えられる。768は沈線文が施されており、IV-c類などの沈線を持つ砂質土器胴部からの転用品と考えられる。769は中粒砂岩を石材とする回石である。2か所に凹みが見られる770は緑色岩を石材とする円形状石器である。771は安山岩を石材とする台石である。側面にも敲打痕が観察される。

SK09 (第127図・第106表)

I層 (772~774)

772・773はIV-d類土器の胴部である。胎土に金色の雲母が混入する。772は内面にナデ・オサエによる調整が観察できる。区画沈線文下部には錐術文が施されている。774は頁岩を石材とする販石である。

SK10 (第128図・第106表)

III層 (775)

775はI類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。

遺構内一括取り上げ (776~778)

776~777はI類土器である。776は胎土に金色の雲母が混入する。778は中粒砂岩を石材とする石皿である。

SK11 (第129図・第106表)

I層 (779~781)

779は泥質土器の胴部である。磨滅して明瞭ではないが、肥厚部分に刻み目が残る。V類の可能性が高い。780は皿の形状をした泥質土器である。残存部に文様は施されていない。781は泥質土器の平底底部である。

SK12 (第130図・第106表)

I層 (782・783)

782はV'a類土器である。壺と考えられる。783は緑色岩を石材とする円形状石器である。

SK13 (第131図・第106表)

1層 (784)

784はV-a'類土器である。

遺構内一括取り上げ (785~787)

785はV-a'類土器である。786はV-b'類土器である。刻目突帯を2条貼り付け、その間に細沈線文で锯齒文を施す。内面にナデとオサエによる調整が見られる。787は泥質土器の平底底部である。

SK14 (第132図・第106表)

遺構内一括取り上げ (788~790)

788はVb類の砂質土器である。土器の注口部分と考えられる。胎土に金色の雲母が混入する。789はチャートを石材とする石核である。790は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。

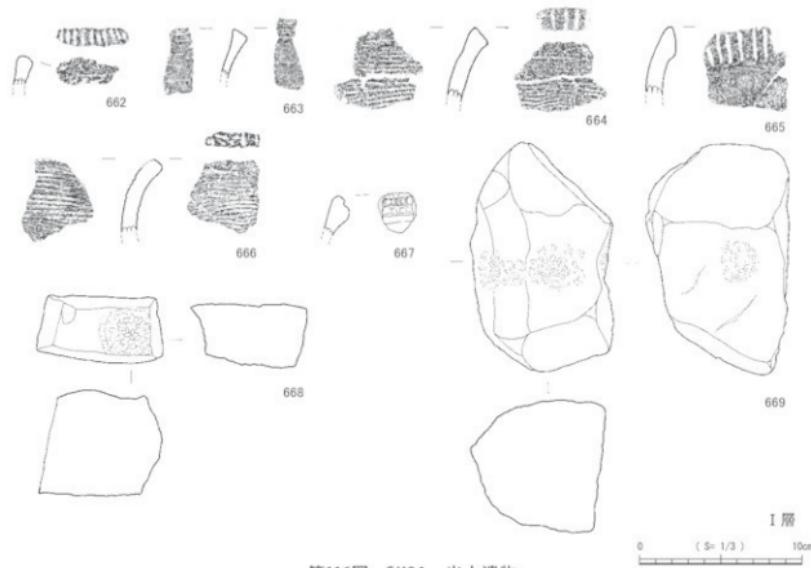
SK16 (第133図・第106表)

1層 (791~796)

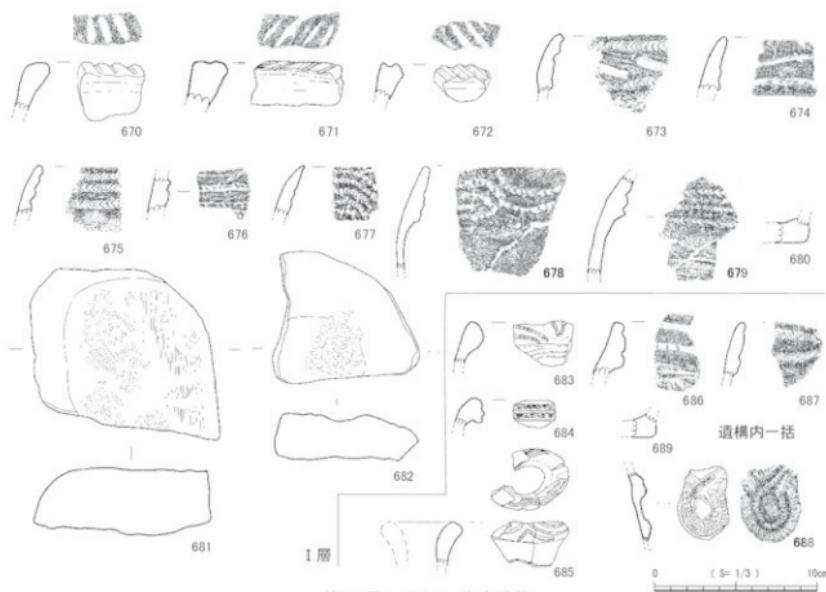
791~793はVb'類の泥質土器である。791・792は残存部には文様が見られず、無文と考えられる。793は、口縁部に横立の突帯を1条貼り付け、その下部に横位の取っ手を取り付けた土器である。突帯は、太さの強弱を一定の間隔でつけている。794は泥質土器の平底底部である。崩り遺跡で出土している他の泥質土器底部に比べ、薄手である。795は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。796は頁岩を石材とする石斧である。側面には敲打による剥離が見られる。

遺構内一括取り上げ (797・798)

797は斜め平行沈線文が見られる泥質土器である。文様は磨滅しており明瞭ではないが、V-b'やVf'a類の可能性がある。798は緑色岩を石材とする磨製石斧である。刃部のみが残存する。



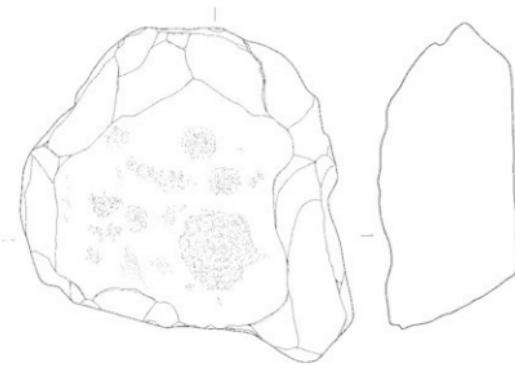
第116図 SK01 出土遺物



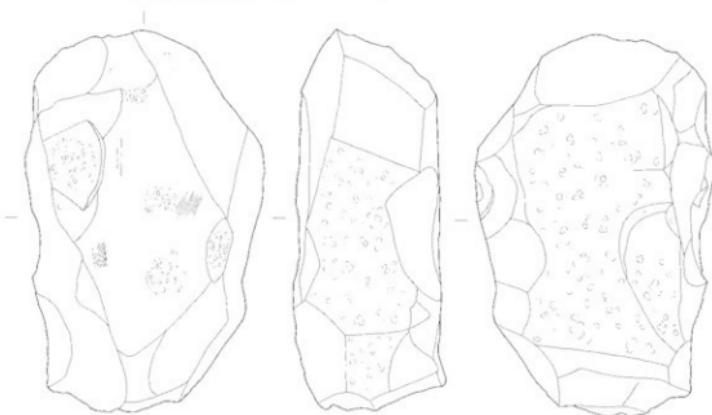
第117図 SK02 出土遺物



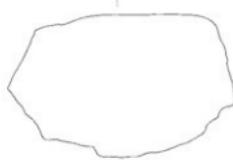
第118図 SK03 出土遺物(1)



711



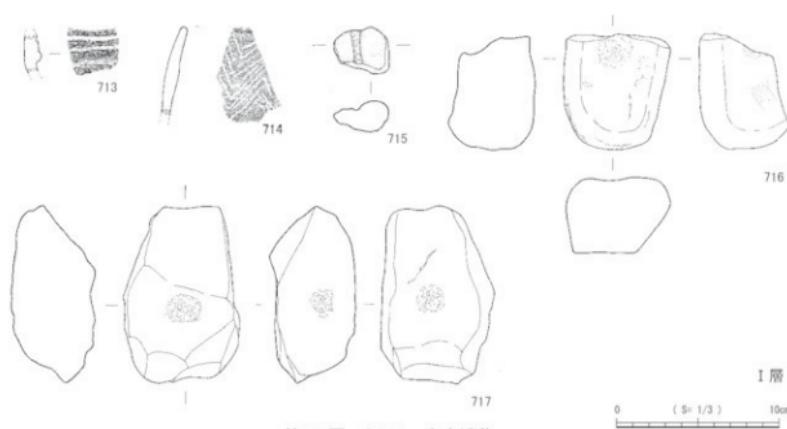
712



I層

0 (Scale 1/4) 10cm

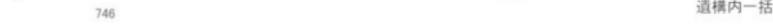
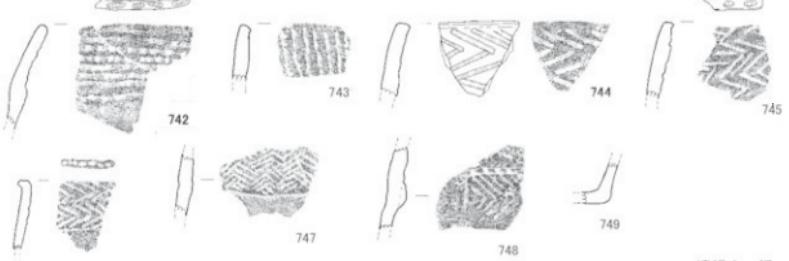
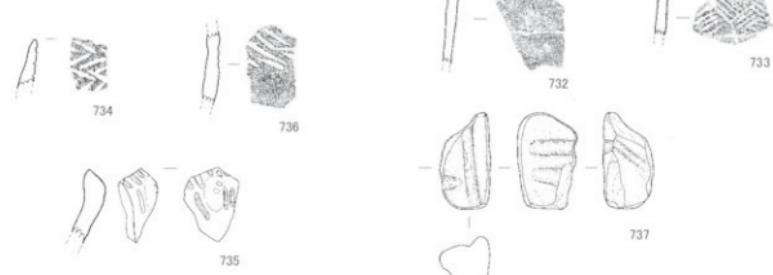
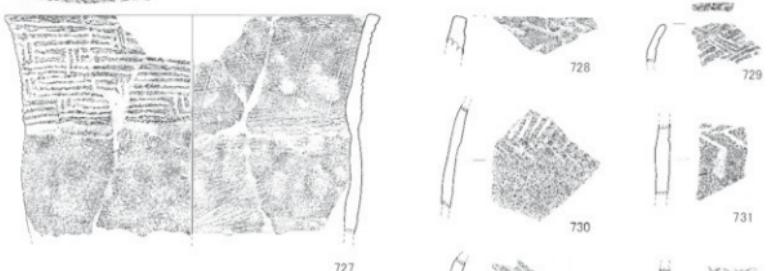
第119図 SK03 出土遺物(2)



第120図 SK04 出土遺物

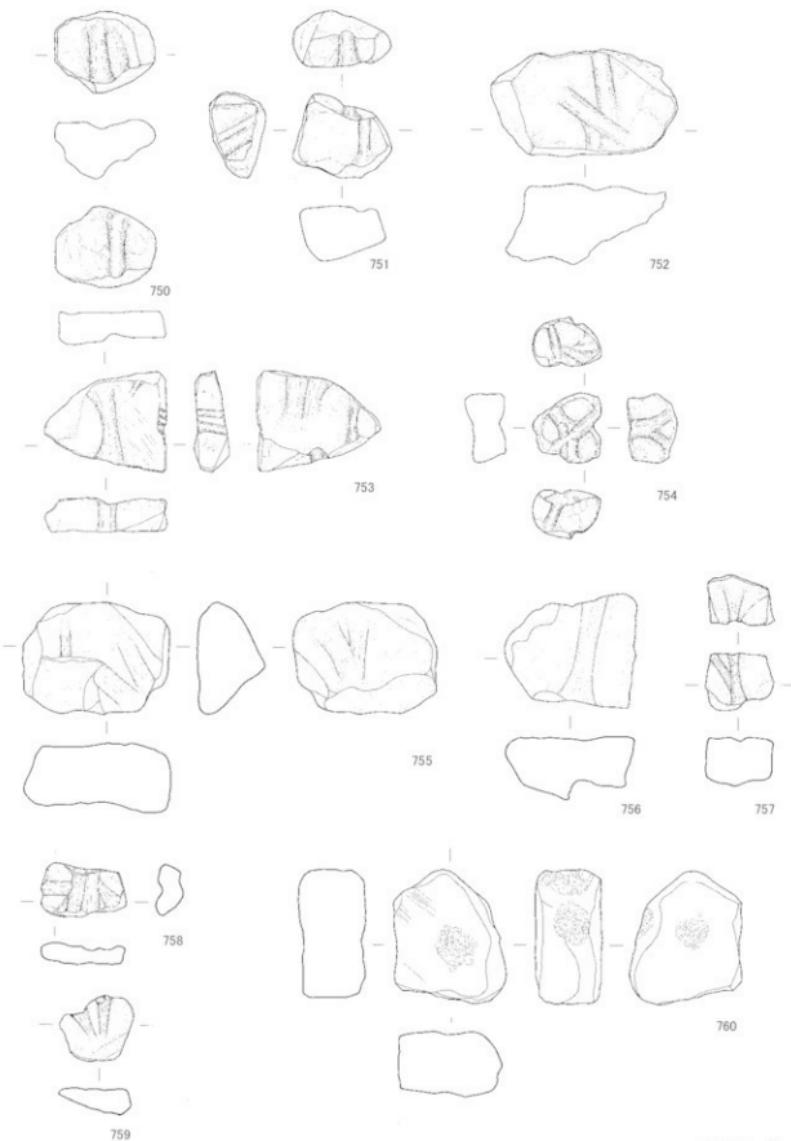


第121図 SK05 出土遺物



第122図 SK06 出土遺物(1)

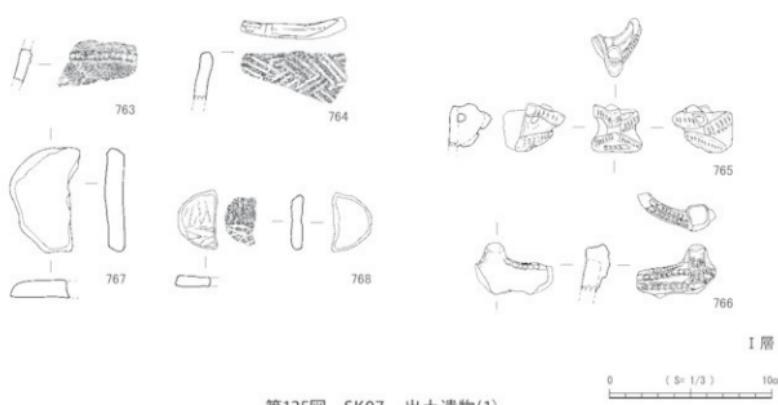
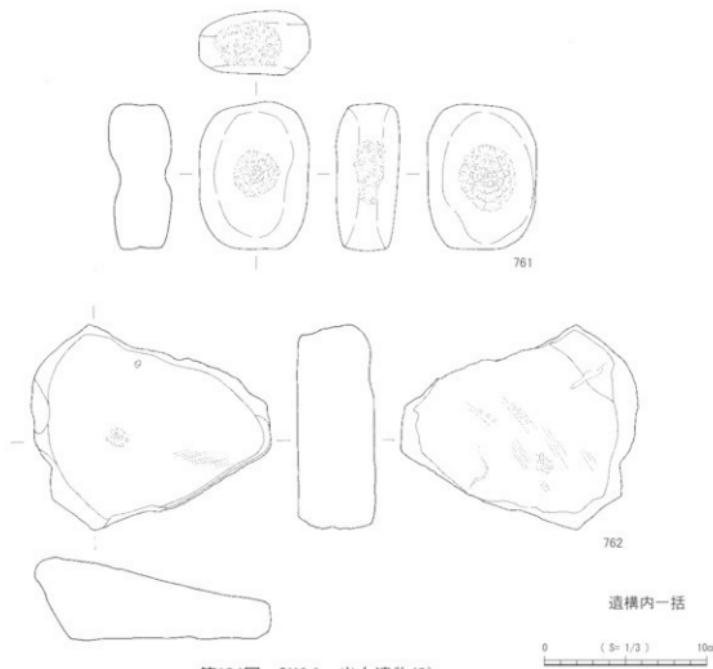
0 (S=1/3) 10cm

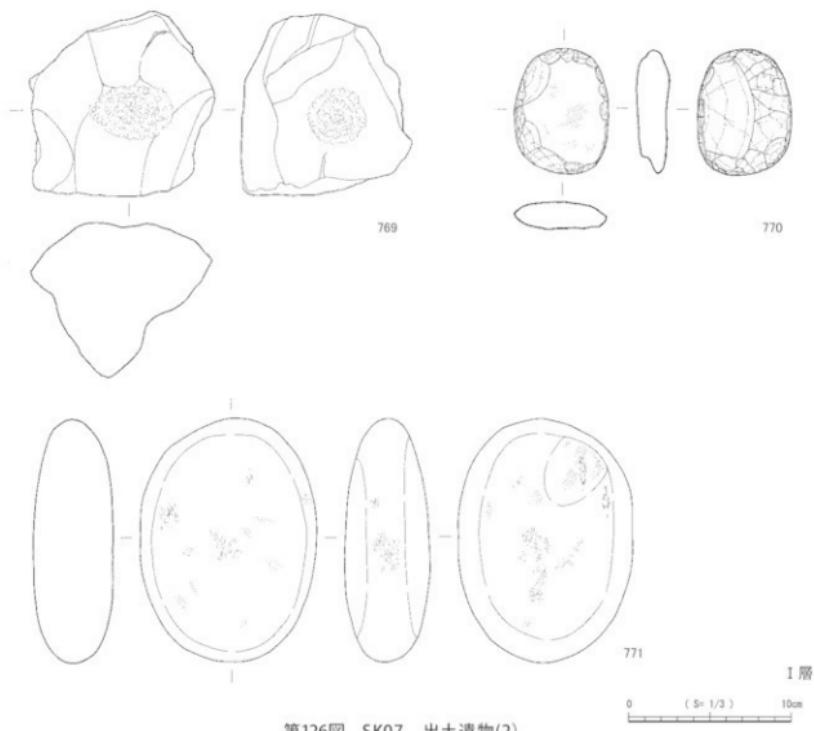


遺構内一括

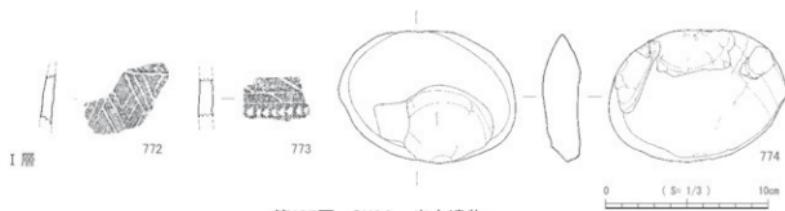
0 (S = 1/3) 10cm

第123図 SK06 出土遺物(2)

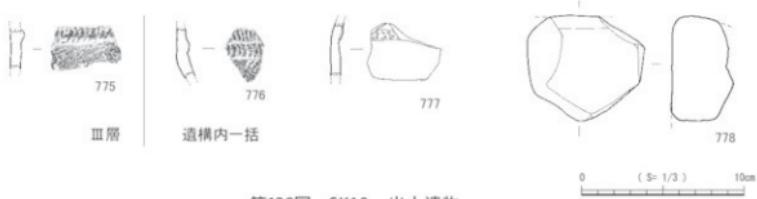




第126図 SK07 出土遺物(2)



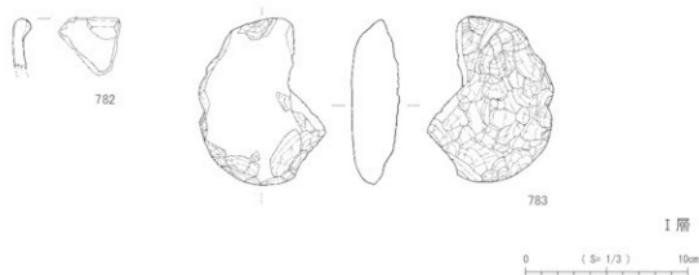
第127図 SK09 出土遺物



第128図 SK10 出土遺物



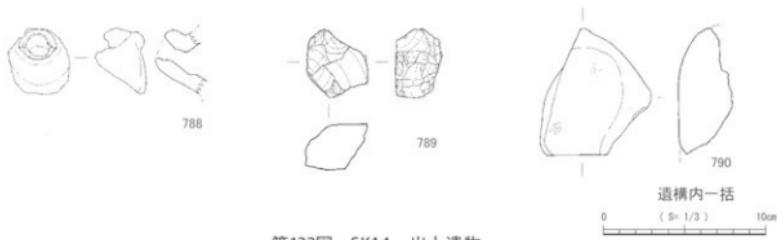
第129図 SK11 出土遺物



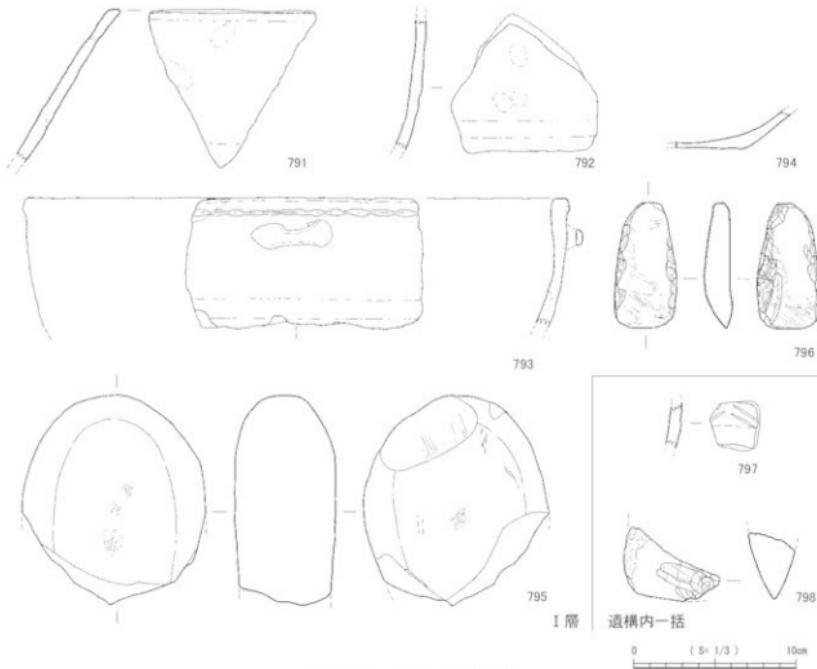
第130図 SK12 出土遺物



第131図 SK13 出土遺物



第132図 SK14 出土遺物



第133図 SK16 出土遺物

(8) 溝状遺構 (SD) 出土遺物

ここでは、SD からの出土遺物をまとめて紹介する。SD からは、遺物は 79 点出土し、そのうち図化したものは 3 点である。以下、遺構ごとに遺物の観察を記述する。

SD01 (第134図・第106表)

1層 (799・800)

799 は中粒砂岩を石材とする敲石である。800 は中粒砂岩を石材とする砥石である。



第134図 SD01 出土遺物

SD06 (第135図・第106表)

遺構内一括取り上げ (801)

801 は斑状玄武岩を石材とする磨敲石である。大部分が欠損している。



第135図 SD06 出土遺物

第97表 崩り遺跡出土遺物観察表(1)

規番 番号	遺物名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(cm)			文様・調整		重量 (g)	備考	牌回 数
								口幅 (最大幅)	底幅 (最大幅)	高さ (最大厚)	(外) (内)	(外)			
1 SH01	J-2	I層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(3.5) (3.4) (3.3)	-	-	-	54	2面に計4条の溝。			
2 SH01	J-2	I層	石器	敲石	中粒砂岩	-	(5.6) (6.0) (6.0)	-	-	-	224				
3 SH01	J-2	II層	砂質土器	深鉢	III-a	脛	-	-	-	-	-	-			
4 SH01	J-2	II層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-			
5 SH01	J-2	II層	砂質土器	深鉢	-	平底	-	-	-	-	-	-			
6 SH01	J-2	II層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-			
7 SH01	J-2	II層	石器	打製石器	頁岩	-	(2.8) (2.8) (0.4)	-	-	-	4				
8 SH01	J-2	II層	石器	磨製石器	頁岩	-	(2.2) (3.2) (0.4)	-	-	-	3				
9 SH01	J-2	II層	石器	石皿	斑状系	-	(16.8) (10.8) (3.9)	-	-	-	1095	残存デンブン粒分析(K2R-SRPB1)	第54回		
10 SH01	J-2	II層	石器	敲石	粗粒砂岩	-	(1.17) (12.3) (6.5)	-	-	-	1046				
11 SH01	J-2	III層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-			
12 SH01	J-2	III層	砂質土器	深鉢	-	口縁	-	-	-	-	-	-			
13 SH01	J-2	III層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-			
14 SH01	J-2	III層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-			
15 SH01	J-2	III層	砂質土器	-	-	尖底	-	-	-	-	-	-			
16 SH01	J-2	III層	石器	磨製石	中粒砂岩	-	(13.4) (10.4) (6.6)	-	-	-	1448	残存デンブン粒分析(K2R-SRP4)			
17 SH01	J-2	III層	石器	石皿	中粒砂岩	-	(12.7) (11.5) (6.2)	-	-	-	1032	残存デンブン粒分析(K2R-SRP9)			
18 SH01	J-2	V層	砂質土器	深鉢	III-b	口縁	-	-	-	-	-	オサエ			
19 SH01	J-2	V層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	貝殻多面			
20 SH01	J-2	V層	砂質土器	壺?	-	脣	-	-	-	-	-	摩擦			
21 SH01	J-2	V層	砂質土器	壺?	-	脣	-	-	-	-	-	オサエ・ナテ	オサエ・ナテ		
22 SH01	J-2	V層	石器	磨製石器	頁岩	-	(10.3) (4.2) (2.2)	-	-	-	122				
23 SH01	J-2	P174	石器	有溝底石	鈍石	-	(3.8) (5.1) (3.6)	-	-	-	23				
24 SH02	J-3	I層	石器	磨製石	粗粒砂岩	-	(11.0) (5.0) (2.4)	-	-	-	262				
25 SH02	J-3	P5-2	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-			
26 SH03	J-2-3	I層	石器	磨製石斧	綠色岩	-	(6.2) (3.6) (2.4)	-	-	-	43	基部のみ残存。			
27 SH03	J-2-3	I層	石器	石斧	中粒砂岩	-	(2.2) (3.4) (1.9)	-	-	-	21	1条の溝。			
28 SH03	J-2-3	I- II層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(3.1) (2.9) (1.6)	-	-	-	15	3面に計3条の溝。			
29 SH03	J-2-3	I- II層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(4.7) (5.0) (3.1)	-	-	-	83	全面に計15条の溝。			
30 SH03	J-2-3	I- II層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(3.1) (2.6) (1.8)	-	-	-	4	2面に計2条の溝。			
31 SH03	J-2-3	I- II層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(3.1) (1.7) (2.1)	-	-	-	15	3面に計3条の溝。			
32 SH03	J-2-3	II層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-			
33 SH03	J-2-3	II層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-			
34 SH03	J-2-3	II層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-			
35 SH03	J-2-3	II層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	地土に貝殻母混入。			
36 SH03	J-2-3	II層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-			
37 SH03	J-2-3	II層	石器	磨製石斧	粗粒砂岩	-	(15.1) (10.4) (5.2)	-	-	-	1164				
38 SH03	J-2-3	II層	石器	台石	中粒砂岩	-	(12.5) (15.5) (5.3)	-	-	-	1098				
39 SH03	J-2-3	II層	石器	円錐状石器	綠色岩	-	(8.9) (8.9) (2.9)	-	-	-	348				
40 SH03	J-2-3	II層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-			
41 SH03	J-2-3	-	石器	磨製石器	粗粒砂岩	-	(4.9) (7.3) (2.5)	-	-	-	99				
42 SH03	J-2-3	-	石器	磨製石器	頁岩	-	(3.3) (5.1) (1.0)	-	-	-	21				
43 SH03	J-2-3	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(4.0) (4.0) (4.3)	-	-	-	81	1面に計3条の溝。			
44 SH03	J-2-3	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(5.7) (4.4) (4.4)	-	-	-	127	3面に計9条の溝。			
45 SH03	J-2-3	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(2.7) (3.9) (2.2)	-	-	-	34	3面に計4条の溝。			
46 SH04	K-2	I-A層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-			
47 SH04	K-2	I-A層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(2.5) (4.4) (2.3)	-	-	-	19	2面に計2条の溝。			
48 SH04	K-2	I-A層	石器	磨製石斧	粗粒砂岩	-	(8.8) (5.7) (2.5)	-	-	-	183	基部のみ残存。			
49 SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	貝殻多面	貝殻多面		
50 SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
51 SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縫	-	-	-	-	-	-			
52 SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
53 SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縫	-	-	-	-	-	-	-		
54 SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縫	-	-	-	-	-	-	-		
55 SH04	K-2	I層	砂質土器	脣?	IV-a	口縫	-	-	-	-	-	-	-		
56 SH04	K-2	I層	砂質土器	-	IV-a	脣	-	-	-	-	-	-	-		
57 SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縫	-	-	-	-	-	-	-		
58 SH04	K-2	I層	砂質土器	脣?	IV-c	口縫	-	-	-	-	-	-	波状口縫。		
59 SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縫	-	-	-	-	-	-	波状口縫。		
60 SH04	K-2	I層	砂質土器	脣?	IV-c	口縫	-	-	-	-	-	-	地土に貝殻母混入。		
61 SH04	K-2	I層	泥質土器	壺?	IV-c	脣	-	-	-	-	-	-	地土に貝殻母混入。		
62 SH04	K-2	I層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	地土に貝殻母混入。		
63 SH04	K-2	I層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
64 SH04	K-2	II層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(3.1) (3.9) (1.8)	-	-	-	24	1面に計2条の溝。			
65 SH04	K-2	II層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(8.1) (4.6) (3.0)	-	-	-	120	3面に計19条の溝。			
66 SH04	K-2	II層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(4.7) (6.4) (4.6)	-	-	-	157	3面に計4条の溝。			
67 SH04	K-2	II層	石器	磨製石	粗粒砂岩	-	(9.6) (7.0) (3.8)	-	-	-	418				
68 SH04	K-2	II層	砂質土器	深鉢	II-a	口縫	-	-	-	-	-	貝殻多面	貝殻多面		
69 SH04	K-2	II層	砂質土器	小型壺	III-c	口縫	-	-	-	-	-	-	地土に貝殻母混入。		
70 SH04	K-2	II層	砂質土器	深鉢	細沈縞文系	脣	-	-	-	-	-	-	地土に貝殻母混入。		
71 SH04	K-2	II層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(2.4) (2.3) (2.0)	-	-	-	13	3面に計6条の溝。			
72 SH04	K-2	II層	石器	磨製石	綠色岩	-	(6.4) (6.0) (3.2)	-	-	-	161	大部分が剥離している。			
73 SH04	K-2	II層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(4.3) (6.1) (4.4)	-	-	-	103	1面に計1条の溝。			
74 SH04	K-2	II層	石器	磨製石	綠色岩	-	(12.8) (6.8) (4.0)	-	-	-	556				
75 SH04	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縫	-	-	-	-	-	-			
76 SH04	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縫	-	-	-	-	-	-			
77 SH04	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縫	-	-	-	-	-	-			
78 SH04	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縫	-	-	-	-	-	-			
79 SH04	K-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-			
80 SH04	K-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-			
81 SH04	K-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-			

第98表 崩り遺跡出土遺物観察表(2)

測組 番号	通構名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(cm)			文様・調整		重量(g)	備考	排因No.
								口径 最大長	底径 最大幅	高さ 最大厚	(外)	(内)			
82	SH05	K-2	1層	砂質土器	西	I	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
83	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
84	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
85	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	III-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
86	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
87	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
88	SH05	K-2	1層	砂質土器	西?	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
89	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
90	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
91	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
92	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
93	SH05	K-2	1層	砂質土器	西?	壠	崩	-	-	-	-	-	-	-	
94	SH05	K-2	1層	砂質土器	-	壠	口縁	-	-	-	-	-	-	二重口縁系? 脱土に金管母混入。	
95	SH05	K-2	1層	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	
96	SH05	K-2	1層	石器	有理端石	中粒砂岩	-	(9.3)	(6.0)	(5.0)	-	-	284	1面に計1条の溝。	
97	SH05	K-2	1層	石器	有理端石	中粒砂岩	-	(3.7)	(5.4)	(3.7)	-	-	76	3面に計6条の溝。	
98	SH05	K-2	1層	石器	有理端石	中粒砂岩	-	(5.0)	(2.9)	(2.3)	-	-	34	3面に計5条の溝。	
99	SH05	K-2	1層	石器	有理端石	中粒砂岩	-	(5.1)	(3.8)	(3.1)	-	-	53	2面に計5条の溝。	
100	SH05	K-2	1層	石器	有理端石	中粒砂岩	-	(2.5)	(2.3)	(1.5)	-	-	9	1面に計1条の溝。	
101	SH05	K-2	1層	石器	有理端石	軽石	-	(4.3)	(5.3)	(1.7)	-	-	10	1条の溝。	
102	SH05	K-2	1層	石製品	装飾品?	貝殻	-	(2.1)	(1.7)	(0.9)	-	-	3	-	
103	SH05	K-2	1層	石器	砾石	中粒砂岩	-	(6.4)	(6.2)	(4.2)	-	-	284	-	
104	SH05	K-2	1層	石器	砾石	中粒砂岩	-	(5.2)	(10.5)	(5.4)	-	-	488	-	
105	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
106	SH05	K-2	1層	砂質土器	-	押印文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
107	SH05	K-2	1層	砂質土器	-	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	ナデ	脱土に金管母混入。	
108	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
109	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
110	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
111	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	脱土に金管母混入。	
112	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
113	SH05	K-2	2層	砂質土器	小形深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	脱土に金管母混入。	
114	SH05	K-2	2層	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	
115	SH05	K-2	2層	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	
116	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	貝型条痕	
117	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
118	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
119	SH05	K-2	2層	砂質土器	-	壠	崩	-	-	-	-	-	-	-	
120	SH05	K-2	2層	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	
121	SH05	K-2	2層	石器	有理端石	中粒砂岩	-	(3.0)	(3.8)	(2.5)	-	-	42	3面に計4条の溝。	
122	SH05	K-2	2層	石器	有理端石	中粒砂岩	-	(8.5)	(5.3)	(3.9)	-	-	187	1面に計2条の溝。平滑面あり。	
123	SH05	K-2	2層	石器	砾石	中粒砂岩	-	(9.4)	(7.2)	(4.6)	-	-	509	-	
124	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	貝型条痕	
125	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
126	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	貝型条痕	
127	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	貝型条痕	
128	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	貝型条痕	
129	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。脱土に金管母混入。	
130	SH05	K-2	-	砂質土器	舟形壠?	II-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
131	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-c	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
132	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	III-a	口縁	-	-	-	-	-	-	皮状口縁。脱土に金管母混入。	
133	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	貝型条痕	
134	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	III-e	口縁	-	-	-	-	-	-	脱土に金管母混入。	
135	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	III-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
136	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	III-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
137	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
138	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
139	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
140	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
141	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
142	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	19.5	-	-	-	-	-	-	
143	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
144	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	オサエ	
145	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	オサエ	
146	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	脱土に金管母混入。	
147	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
148	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
149	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
150	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。脱土に金管母混入。	
151	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
152	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	崩	-	-	-	-	-	-	脱土に金管母混入。	
153	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
154	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
155	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
156	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
157	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
158	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
159	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
160	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
161	SH05	K-2	-	砂質土器	-	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	

第61回

第63回

第64回

第99表 崩り遺跡出土遺物觀察表(3)

掲載番号	遺物名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(cm)			文様・調整		重量(g)	備考	検査No.
								口縁 最大径	底縁 最大幅	高さ (奥深さ)	(内)	(内)			
162 SHOS	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縫文系	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
163 SHOS	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縫文系	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
164 SHOS	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縫文系	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
165 SHOS	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縫文系	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
166 SHOS	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縫文系	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
167 SHOS	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縫文系	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
168 SHOS	K-2	-	砂質土器	小型深鉢?	細沈文系	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
169 SHOS	K-2	-	砂質土器	深鉢	輪	口縁	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁。胎土に金管母混入。	
170 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	輪	口縁	-	-	-	-	-	-	-	二重口縁か? 胎土に金管母混入。	
171 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	輪	口縁	-	-	-	-	-	-	-	二重口縁か? 胎土に金管母混入。	
172 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	輪	口縁	-	-	-	-	-	-	-	第64回	
173 SHOS	K-2	-	砂質土器	深鉢?	輪	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
174 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	輪	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
175 SHOS	K-2	-	砂質土器	深鉢	輪	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
176 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	輪	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
177 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	輪	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
178 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	平底	-	8.7	-	-	-	-	-	-	-	
179 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
180 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
181 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
182 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	円盤状土製品未完成?	
183 SHOS	K-2	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
184 SHOS	K-2	-	石器	有溝延石	輕石	-	(4.9) (4.7) (2.6)	-	-	-	-	17	1面に2つの溝。		
185 SHOS	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.4) (5.1) (4.4)	-	-	-	-	61	1面に2つの溝。		
186 SHOS	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.6) (2.6) (1.6)	-	-	-	-	107	3面に計4条の溝。		
187 SHOS	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(6.6) (5.0) (2.8)	-	-	-	-	133	3面に計4条の溝。平滑面あり。		
188 SHOS	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.9) (4.3) (2.7)	-	-	-	-	67	2面に計5条の溝。		
189 SHOS	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.9) (7.3) (2.4)	-	-	-	-	85	1面に計1条の溝。	第65回	
190 SHOS	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(7.3) (7.7) (2.4)	-	-	-	-	183	1条の溝。敲打痕あり。		
191 SHOS	K-2	-	石器	敲石?	中粒砂岩	-	(7.2) (7.0) (6.8)	-	-	-	-	430	-		
192 SHOS	K-2	-	石器	敲石	中粒砂岩	-	(11.2) (6.8) (6.6)	-	-	-	-	141	-		
193 SHOS	K-2	-	石器	凹石	中粒砂岩	-	(7.8) (8.9) (6.0)	-	-	-	-	435	-		
194 SHOS	K-2	-	石器	凹石	中粒砂岩	-	(11.6) (8.7) (8.2)	-	-	-	-	580	-		
195 SHOS	K-2	-	石器	磨擦石	綠色岩	-	(6.3) (4.8) (2.8)	-	-	-	-	146	-		
196 SHOS	K-2	-	石器	磨擦石	綠色片岩	-	(7.5) (6.0) (3.9)	-	-	-	-	243	-		
197 SHOS	K-2	-	石器	磨擦石	玄武岩系	-	(15.5) (9.2) (6.2)	-	-	-	-	1245	軽い変成作用が見られる石材。	第66回	
198 SHOS	K-2	-	石器	磨擦石	利松砂岩	-	(6.6) (6.8) (4.0)	-	-	-	-	414	-		
199 SHOS	K-2	-	石器	磨擦石	細粒閃長岩	-	(10.0) (7.6) (3.8)	-	-	-	-	542	-		
200 SHOS	K-2	-	石器	磨擦石	粗粒砂岩	-	(8.9) (7.0) (3.9)	-	-	-	-	347	-		
201 SHOS	K-2	-	石器	磨製石斧	綠色岩	-	(10.0) (5.4) (2.5)	-	-	-	-	224	双刃石斧。		
202 SHOS	K-2	-	石器	磨製石斧	綠色岩	-	(3.6) (4.6) (1.7)	-	-	-	-	39	基部のみ残存。	第67回	
203 SHOS	K-2	-	石器	石器	中粒砂岩	-	(8.9) (8.4) (6.3)	-	-	-	-	469	-		
204 SHOS	K-2	-	石器	石器	中粒砂岩	-	(27.7) (22.5) (10.1)	-	-	-	-	7440	壺形の凹み2つ。		
205 SHOS	K-2	-	石器	不明	中粒砂岩	-	(26.4) (32.2) (14.6)	-	-	-	-	18390	全体に整形の為の削打痕がみられる。	第68回	
206 SH06	K-3	-	砂質土器	深鉢?	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
207 SH06	K-3	-	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
208 SH06	K-3	-	砂質土器	深鉢	IV-a	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
209 SH06	K-3	-	砂質土器	深鉢	IV-c	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
210 SH06	K-3	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
211 SH06	K-3	-	砂質土器	-	輪	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
212 SH06	K-3	-	砂質土器	-	輪	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
213 SH06	K-3	-	砂質土器	-	輪	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
214 SH07	K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
215 SH07	K-3	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
216 SH07	K-3	I層	砂質土器	-	IV-d	脇	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金管母混入。	
217 SH07	K-3	I層	砂質土器	深鉢	凹縫文系	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
218 SH07	K-3	I層	砂質土器	-	平底	-	5.2	-	-	-	-	-	-	円盤状土製品未完成品か。	
219 SH07	K-3	I層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.9) (1.2) (0.7)	-	-	-	-	2	4面に計5条の溝。		
220 SH07	K-3	I層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.0) (2.6) (2.2)	-	-	-	-	16	3面に計10条の溝。		
221 SH07	K-3	I層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.1) (1.7) (1.2)	-	-	-	-	6	2面に計3条の溝。		
222 SH07	K-3	I層	石器	石核	カルンフルート	-	(3.2) (4.2) (3.0)	-	-	-	-	61	-		
223 SH07	K-3	I層	石器	粗粒砂岩	綠色岩	-	(4.6) (4.4) (6.7)	-	-	-	-	210	-		
224 SH07	K-3	II層	砂質土器	深鉢?	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁。胎土に金管母混入。	
225 SH07	K-3	II層	砂質土器	深鉢?	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
226 SH07	K-3	II層	石器	台石	中粒砂岩	-	(21.8) (13.3) (9.2)	-	-	-	-	3090	-		
227 SH07	K-3	II層	石器	磨製石斧	綠色岩	-	(9.8) (5.5) (3.2)	-	-	-	-	248	-		
228 SH06-07	K-3	-	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
229 SH06-07	K-3	-	砂質土器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.0) (4.0) (2.4)	-	-	-	-	30	全面使用。計11条の溝。	第71回	
230 SH08	L-3	I層	石器	磨製石斧	綠色岩	-	(4.3) (4.0) (0.9)	-	-	-	-	16	ナイフ型?	第72回	
231 SH08-09	L-3	I層	砂質土器	深鉢?	II-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
232 SH08-09	L-3	I層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
233 SH08-09	L-3	I層	砂質土器	深鉢	III-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
234 SH08-09	L-3	I層	砂質土器	小口の鉢?	輪	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
235 SH10	J-1-2	-	砂質土器	深鉢?	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
236 SH10	J-1-2	-	砂質土器	深鉢	II-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
237 SH10	J-1-2	-	砂質土器	深鉢	III-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
238 SH10	J-1-2	-	砂質土器	深鉢?	輪	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
239 SH10	J-1-2	-	石器	磨擦石	綠色岩	-	(8.8) (6.3) (2.8)	-	-	-	-	293	-		
240 SH10	J-1-2	-	石器	磨擦石	綠色岩	-	(9.4) (6.6) (3.2)	-	-	-	-	319	-		
241 SH10	J-1-2	-	床面	磨擦石	粗粒砂岩	-	(8.3) (7.7) (4.1)	-	-	-	-	451	-		

第100表 崩り遺跡出土遺物観察表(4)

編組 番号	遺物名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(cm)			文様・調整		重量(g)	備考	検査No.
								口径 最大長	底径 最大幅	高さ 最大厚	(外)	(内)			
242 SH10 J-1-2 P3	石器	凹石	中粒砂岩	-	(16.7) (10.6) (9.0)	-	-	2250							第75回
243 SH10 J-1-2 P3	石器	台石・石皿	中粒砂岩	-	(14.3) (14.2) (6.5)	-	-	2010							
244 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	■~c	口縁	-	-	-	-	-	-					
245 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~b	口縁	-	-	-	-	-	-					
247 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~b	口縁	-	-	-	-	-	-					
248 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~b	口縁	-	-	-	-	-	-					
249 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~b	口縁	-	-	-	-	-	-					
250 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~b	口縁	-	-	-	-	-	-					
251 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~c	口縁	24.5	-	-	-	-	-	オサエ				
252 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~c	口縁	-	-	-	-	-	-					
253 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~d	肩	-	-	-	-	-	-	波状口縁。				
254 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~d	肩	-	-	-	-	-	-					
255 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~d	肩	-	-	-	-	-	-	ナデ	オサエ			
256 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~d	肩	-	-	-	-	-	-	オサエ	胎土に金雲母混入。			
257 SH11 J-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	8.2	-	-					
258 SH11 J-2 1層	石器	台石・敲石	中粒砂岩	-	(8.0) (8.3) (1.2)	-	-	160							
259 SH11 J-2 1層	石器	磨耗石	緑色岩	-	(13.5) (8.6) (4.7)	-	-	1020							
260 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~d	口縁	-	-	平底	7.6	-	-	オサエ				
261 SH11 J-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~d	口縁	-	-	ナデ	オサエ・条痕			波状口縁。				
262 SH11 J-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	-	(3.2) (5.3) (2.3)	-	-	-	-	-	82	1条の溝。			
263 SH11 J-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	-	(4.6) (4.3) (4.2)	-	-	-	-	-	139	全面に計18条の溝。			
264 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	II~a	口縁	-	-	-	-	-	-					
265 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	II~a	口縁	-	-	-	-	-	-	貝殻集散				
266 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~a	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。				
267 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~a	口縁	-	-	-	-	-	-					
268 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~a	口縁	-	-	-	-	-	-					
269 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~a	口縁	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母混入。				
270 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~b	肩	-	-	-	-	-	-					
271 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~c	口縁	-	-	-	-	-	-					
272 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~c	口縁	-	-	-	-	-	-					
273 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。 胎土に金雲母混入。				
274 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~d	口縁	-	-	-	-	-	-					
275 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	深鉢	IV~d	口縁	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母混入。				
276 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	壺?	壺?	口縁	-	-	-	-	-	-	二重口縁系か?				
277 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	-	-	-					
278 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	-	-	-					
279 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	-	-	-					
280 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	-	-	-					
281 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	-	-	-					
282 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	-	-	-	ケズリ	オサエ			
283 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	-	5.8	-					
284 SH12 J-K-2 1層	泥質土器	-	-	-	-	-	平底	-	6.5	-	オサエ				
285 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(2.5) (2.2) (1.3)	-	-	-	-	-	-	7	2面に計3条の溝。			
286 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(1.6) (2.4) (2.1)	-	-	-	-	-	-	7	2面に計2条の溝。			
287 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(3.2) (4.8) (1.0)	-	-	-	-	-	-	21	1面に計2条の溝。			
288 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(5.0) (6.0) (1.9)	-	-	-	-	-	-	44	1面に計1条の溝。			
289 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(2.4) (5.8) (2.4)	-	-	-	-	-	-	33	3面に計6条の溝。			
290 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(5.5) (6.4) (3.8)	-	-	-	-	-	-	223	2面に計3条の溝。 平滑面あり。			
291 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(3.8) (9.2) (2.5)	-	-	-	-	-	-	60	4面に計7条の溝。			
292 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(3.1) (4.6) (2.8)	-	-	-	-	-	-	58	全面に計25条の溝。			
293 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(6.6) (3.1) (2.9)	-	-	-	-	-	-	59	3面に計4条の溝。			
294 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(5.5) (6.8) (4.0)	-	-	-	-	-	-	164	4面に計11条の溝。			
295 SH12 J-K-2 1層	石器	磨耗石	粗粒砂岩	(10.4) (9.2) (5.0)	-	-	-	-	-	-	786	残存テンブン粉分析(KZR-5RP2),			
296 SH12 J-K-2 1層	石器	磨耗石	粗粒砂岩	(9.7) (8.1) (4.1)	-	-	-	-	-	-	502	残存テンブン粉分析(KZR-5RP3),			
297 SH12 J-K-2 1層	石器	磨耗石	安山岩	(10.8) (8.3) (4.1)	-	-	-	-	-	-	635	残存テンブン粉分析(KZR-5RP5),			
298 SH12 J-K-2 1層	石器	台石	中粒砂岩	(14.8) (12.0) (6.0)	-	-	-	-	-	-	1721				
299 SH12 J-K-2 1層	石器	台石	中粒砂岩	(10.7) (17.2) (5.3)	-	-	-	-	-	-	1275				
300 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	-	-	-					
301 SH12 J-K-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	-	-	-					
302 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(3.5) (2.6) (1.3)	-	-	-	-	-	-	13	1条の溝。			
303 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(6.1) (4.8) (3.7)	-	-	-	-	-	-	119	3面に計7条の溝。			
304 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(6.6) (6.1) (2.8)	-	-	-	-	-	-	109	3面に計10条の溝。 平滑面あり。			
305 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(5.4) (4.3) (5.4)	-	-	-	-	-	-	163	2面に計7条の溝。 平滑面あり。			
306 SH12 J-K-2 1層	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(5.4) (5.1) (4.2)	-	-	-	-	-	-	161	3面に計4条の溝。 平滑面あり。			
307 SH12 J-K-2 1層	石器	円形状石器	綠色岩	(8.3) (7.1) (2.7)	-	-	-	-	-	-	227				
308 SH12 J-K-2 1層	石器	磨耗石	粗粒砂岩	(15.3) (6.2) (5.0)	-	-	-	-	-	-	550				
309 SH12 J-K-2 1層	石器	磨耗石	粗粒砂岩	(18.4) (10.5) (7.5)	-	-	-	-	-	-	1110	残存テンブン粉分析(KZR-5RP1),			
310 SH12 J-K-2 1層	小型石製品	小石斧	灰岩	(2.4) (1.7) (0.3)	-	-	-	-	-	-	2				
311 SH12 J-K-2 -	砂質土器	深鉢	■	口縁	-	-	-	-	-	-					
312 SH12 J-K-2 -	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(5.5) (4.5) (3.1)	-	-	-	-	-	-	70	3面に計11条の溝。			
313 SH12 J-K-2 -	石器	有溝砥石	中粒砂岩	(3.5) (3.4) (1.5)	-	-	-	-	-	-	23	2面に計6条の溝。			
314 SH13 K-2 1層	砂質土器	深鉢	■	口縁	-	-	-	-	-	-					
315 SH13 K-2 1層	砂質土器	深鉢	細波紋文系	肩	-	-	-	-	-	-					
316 SH13 K-2 1層	砂質土器	深鉢	細波紋文系	肩	-	-	-	-	-	-					
317 SH13 K-2 1層	砂質土器	深鉢	細波紋文系	肩	-	-	-	-	-	-	ナデ・オサエ				
318 SH13 K-2 1層	砂質土器	深鉢	肩	-	-	-	-	-	-	-					
319 SH13 K-2 1層	砂質土器	深鉢	肩	-	-	-	-	-	-	-					
320 SH13 K-2 1層	砂質土器	深鉢	肩	-	-	-	-	-	-	-					
321 SH13 K-2 1層	砂質土器	-	-	-	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	

第101表 崩り跡遺出土遺物観察表(5)

掘削番号	遺物名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(cm)			文様・調整		重量(g)	備考	揮因No.
								口径 (最大)	底径 (最大)	高さ (最大)	(外)	(内)			
322	SH13	K-2	II層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(1.7)	(2.2)	(1.9)	-	-	10	1面に計2条の溝。	
323	SH13	K-2	II層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.9)	(6.3)	(2.8)	-	-	99	1条の溝。	第62回
324	SH13	K-2	II層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.2)	(6.6)	(3.1)	-	-	99	1条の溝。	
325	SH13	K-2	II層	石器	磨製石斧	細粒閃长岩	-	(11.3)	(7.4)	(3.7)	-	-	429		
326	SH13	K-2	II層	石器	石皿	中粒砂岩	-	(23.7)	(16.4)	(12.4)	-	-	6510	残存デンブン粒分析(KZB-SRP13)。	
327	SH13	K-2	II層	石器	磨製石	粗粒砂岩	-	(11.8)	(9.1)	(4.9)	-	-	906		
328	SH13	K-2	II層	石器	磨製石	粗粒砂岩	-	(12.7)	(8.0)	(4.5)	-	-	772	残存デンブン粒分析(KZB-SRP6)。	
329	SH13	K-2	II層	石器	台石	粗粒砂岩	-	(21.3)	(14.9)	(8.2)	-	-	4160	残存デンブン粒分析(KZB-SRP7)。	第63回
330	SH13	K-2	II層	石器	台石	粗粒砂岩	-	(18.2)	(12.9)	(6.2)	-	-	2300		
331	SH13	K-2	II層	石器	台石・石皿	粗粒砂岩	-	(15.3)	(15.7)	(5.0)	-	-	1529		
332	SH13	K-2	床直	砂質土器	深鉢	細沈文系	削	-	-	-	-	-	-		
333	SH13	K-2	床直	砂質土器	壺	-	削	-	-	-	-	-	-	ナガ・オサエ	
334	SH13	K-2	床直	石器	磨製石	粗粒砂岩	-	(7.2)	(10.0)	(3.4)	-	-	333		第64回
335	SH13	K-2	床直	石器	磨製石	綠色岩	-	(6.6)	(6.3)	(3.6)	-	-	278		
336	SH13	K-2	床直	石器	台石・石皿	中粒砂岩	-	(22.7)	(17.3)	(11.2)	-	-	7440	残存デンブン粒分析(KZB-SRP12)。	
337	SH13	K-2	床直	石器	台石	粗粒砂岩	-	(48.1)	(25.0)	(18.0)	-	-	25000		第65回
338	SH13	K-2	P1	砂質土器	深鉢	N-a	口縁	-	-	-	-	-	-		
339	SH13	K-2	P1	石器	有溝延石	中粒砂岩	(4.7)	(6.2)	(4.0)	-	-	120	1条の溝。		
340	SH13	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-		
341	SH13	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
342	SH13	K-2	-	砂質土器	深鉢	細沈文系	削	-	-	-	-	-	-		
343	SH13	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.0)	(2.2)	(1.8)	-	-	8	1条の溝。	
344	SH13	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.4)	(4.3)	(2.3)	-	-	39	1条の溝。	
345	SH13	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.5)	(2.2)	(1.2)	-	-	10	2面に計2条の溝。	
346	SH13	K-2	-	石器	石皿	中粒砂岩	-	(10.7)	(9.0)	(9.0)	-	-	971		
347	SH13	K-2	-	石器	石皿	中粒砂岩	-	(19.9)	(12.8)	(8.8)	-	-	2620		
348	SH14	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	削	-	-	-	-	-	-		
349	SH14	K-2	I層	砂質土器	深鉢	細沈文系	削	-	-	-	-	-	-		
350	SH14	K-2	I層	砂質土器	深鉢	彌引文系	削	-	-	-	-	-	-		
351	SH14	K-2	I層	砂質土器	壺	-	削	-	-	-	-	-	-		
352	SH14	K-2	I層	砂質土器	深鉢	-	平底	-	-	-	-	-	-		
353	SH14	K-2	I層	石器	磨製石	粗粒砂岩	-	(13.3)	(8.8)	(4.3)	-	-	820		
354	SH14	K-2	II層	砂質土器	深鉢?	III-a	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
355	SH14	K-2	II層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-		
356	SH14	K-2	II層	砂質土器	壺	唯	口縫?	-	-	-	-	-	-	二重口縫? 1脚に食器母器入り。	第67回
357	SH14	K-2	II層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.1)	(2.2)	(1.2)	-	-	15	2面に計2条の溝。	
358	SH14	K-2	II層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.6)	(3.5)	(2.2)	-	-	25	1面に計3条の溝。平滑面あり。	
359	SH14	K-2	II層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(5.9)	(4.8)	(4.0)	-	-	91	1面に計2条の溝。	
360	SH14	K-2	II層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.6)	(4.0)	(3.3)	-	-	31	1面に計1条の溝。平滑面あり。	
361	SH14	K-2	II層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.2)	(3.1)	(1.7)	-	-	15	3面に計6条の溝。	
362	SH14	K-2	II層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.0)	(5.8)	(3.9)	-	-	102	1面に計1条の溝。	
363	SH14	K-2	II層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.8)	(3.6)	(1.9)	-	-	13	3面に計6条の溝。	
364	SH14	K-2	II層	石器	磨製石	綠色岩	-	(9.9)	(5.5)	(3.4)	-	-	177		
365	SH14	K-2	II層	石器	船石	中粒砂岩	-	(10.2)	(8.4)	(10.7)	-	-	819	石器からの転用。	
366	SH14	K-2	II層	石器	台石	中粒砂岩	-	(13.0)	(9.1)	(5.7)	-	-	740		
367	SH14	K-2	II層	砂質土器	壺?	唯	鰐部	-	-	-	-	-	-	片口土器。	
368	SH14	K-2	II層	石器	台石	中粒砂岩	(13.7)	(9.8)	(7.5)	-	-	1596			
369	SH14	K-2	II層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-		
370	SH14	K-2	II層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	第68回
371	SH14	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-		
372	SH14	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.2)	(2.7)	(2.0)	-	-	13	3面に計4条の溝。	
373	SH14	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(1.6)	(2.1)	(1.7)	-	-	6	4面に計5条の溝。	
374	SH15	L-1	I層	砂質土器	深鉢?	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-		
375	SH15	L-1	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
376	SH15	L-1	I層	砂質土器	深鉢	唯	口縫	-	-	-	-	-	-		
377	SH15	L-1	I層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.0)	(4.2)	(2.7)	-	-	44	1面に計3条の溝。	
378	SH15	L-1	I層	砂質土器	深鉢	III-c	口縫	-	-	-	-	-	-		
379	SH15	L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	削	-	-	-	-	-	-		
380	SH15	L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	削	-	-	-	-	-	-		
381	SH15	L-1	-	砂質土器	深鉢	細沈文系	口縫	-	-	-	-	-	-		
382	SH15	L-1	-	砂質土器	深鉢	口縫	平底	-	-	-	-	-	-		
383	SH15	L-1	-	泥質土器	壺?	唯	平底	-	-	-	-	-	-		
384	SH15	L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.9)	(4.5)	(2.4)	-	-	39	3面に計4条の溝。	
385	SH15	L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.1)	(4.5)	(3.0)	-	-	64	2面に計2条の溝。	
386	SH15	L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.6)	(5.3)	(4.2)	-	-	138	1面に計1条の溝。平滑面あり。	
387	SH15	L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(5.6)	(8.3)	(3.8)	-	-	179	2面に計3条の溝。	
388	SH15	L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.5)	(6.4)	(4.1)	-	-	146	3面に計5条の溝。1面には打痕。	
389	SH15	L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.6)	(4.0)	(2.4)	-	-	22	1条の溝。	
390	SH15	L-1	-	石器	不明	ガラス・フルゴ	-	(3.1)	(1.7)	(1.2)	-	-	9		
391	SH15	L-1	-	石器	磨製石	安山岩	-	(1.0)	(8.7)	(3.8)	-	-	716		
392	SH15	L-1	-	石器	凹石	中粒砂岩	-	(10.1)	(8.1)	(9.4)	-	-	741		
393	SH16	K-2	I層	砂質土器	深鉢	III-a	鰐部	-	-	-	-	-	-	胎土に食器母器入り。	
394	SH16	K-2	I層	砂質土器	深鉢	III-c	口縫	-	-	-	-	-	-		
395	SH16	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縫	-	-	-	-	-	-	波状口縫。	
396	SH16	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縫	-	-	-	-	-	-		
397	SH16	K-2	I層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(5.3)	(6.0)	(3.1)	-	-	136	3面に計4条の溝。	
398	SH16	K-2	I層	石器	磨製石	中粒砂岩	-	(11.8)	(7.9)	(6.5)	-	-	748		
399	SH16	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縫	-	-	-	-	-	-	オサエ	
400	SH16	K-2	-	土製品	円盤状陶器	磨製石	-	(5.3)	(5.5)	(1.2)	-	-	46		
401	SH16	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.9)	(6.4)	(2.6)	-	-	80	2面に計3条の溝。	

第102表 崩り遺跡出土遺物観察表(6)

編組番号	遺物名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(cm)			文様・調整		重量(g)	備考	掲出No.
								口径 最大長	底径 最大幅	高さ 最大厚	(外)	(内)			
402 SH16	K-L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(5.5) (3.5) (2.3)	-	-	-	60	2面に計7条の溝。			
403 SH16	K-L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.2) (3.9) (3.2)	-	-	30	2面に計3条の溝。				
404 SH16	K-L-2	-	石器	延石	中粒砂岩	-	(3.0) (3.8) (2.2)	-	-	40					
405 SH16	K-L-2	-	石器	磨削石	粗粒砂岩	-	(8.3) (6.7) (3.5)	-	-	340					
406 SH17	K-2	1層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	-		
407 SH17	K-2	1層	泥質土器	壺?	壺	肩	-	-	-	-	-	-	-		
408 SH17	K-2	1層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(1.8) (3.3) (1.2)	-	-	6	3面に計8条の溝。				
409 SH17	K-2	1層	石器	台石	斑岩系	-	(8.7) (11.7) (4.2)	-	-	495					
410 SH17	K-2	1層	石製品	複合石製品	中粒砂岩	-	(6.7) (3.7) (3.0)	-	-	105					
411 SH17	K-2	I-I 層	砂質土器	深鉢	II-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
412 SH17	K-2	I-I 層	砂質土器	深鉢	II-d	口縁	-	-	-	-	口縫延跡か?				
413 SH17	K-2	I-I 層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	胎土に金雲母混入。				
414 SH17	K-2	I-I 層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.4) (3.7) (1.5)	-	-	20	1面に計4条の溝。				
415 SH17	K-2	I-I 層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.2) (3.0) (2.2)	-	-	15	2面に計3条の溝。				
416 SH17	K-2	床面	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	-		
417 SH17	K-2	床面	砂質土器	壺?	壺	肩	-	-	-	-	-	-	-		
418 SH17	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
419 SH17	K-2	-	泥質土器	深鉢	II-a	口縫	-	-	-	-	-	-	-		
420 SH17	K-2	-	泥質土器	深鉢	II-a	口縫	-	-	-	-	-	-	-		
421 SH17	K-2	-	石器	台石	中粒砂岩	-	(6.8) (7.6) (5.2)	-	-	443					
422 SH17	K-2	-	石器	磨削石	粗粒砂岩	-	(9.6) (7.5) (3.5)	-	-	-					
423 SH17	K-2	-	石器	磨削石	粗粒砂岩	-	(14.0) (10.1) (7.4)	-	-	1644					
424 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
425 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縫	-	-	-	-	-	-	-		
426 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縫	-	-	-	-	-	-	-		
427 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縫	-	-	-	-	-	-	-		
428 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-e	口縫	-	-	-	-	-	貝殻条痕			
429 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-f	口縫	-	-	-	-	-	口縫に突起。			
430 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-g	口縫	-	-	-	-	-	波状口縫。			
431 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-h	平底	-	-	-	-	-				
432 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-i	口縫	-	-	-	-	-				
433 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-j	肩	-	-	-	-	-				
434 SH18	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-k	口縫	-	-	-	-	-				
435 SH18	K-2	1層	砂質土器	-	IV-l	-	-	-	-	-	-				
436 SH18	K-2	1層	砂質土器	-	IV-m	平底	-	-	-	-	-	9			
437 SH18	K-2	1層	砂質土器	-	IV-n	平底	-	-	-	-	-				
438 SH18	K-2	1層	泥質土器	-	IV-o	平底	-	-	-	-	-				
439 SH18	K-2	1層	土製品	円盤状土製品	砂質	-	(5.0) (4.8) (1.0)	-	-	-	28				
440 SH18	K-2	1層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(2.2) (5.1) (3.5)	-	-	45	1面に計2条の溝。				
441 SH18	K-2	1層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(5.9) (7.3) (3.9)	-	-	145	1面に計3条の溝。				
442 SH18	K-2	1層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(9.0) (7.7) (3.5)	-	-	357	1面に計4条の溝。				
443 SH18	K-2	1層	石器	円形片状石	緑色岩	-	(7.3) (7.3) (2.5)	-	-	217					
444 SH18	K-2	1層	石器	円形片状石	緑色岩	-	(7.0) (6.0) (3.1)	-	-	209					
445 SH18	K-2	1層	石器	磨削石	中粒砂岩	-	(9.4) (5.7) (3.2)	-	-	237					
446 SH18	K-2	1層	石器	磨削石斧	緑色岩	-	(12.7) (7.3) (3.7)	-	-	588					
447 SH18	K-2	1層	石器	不明	軽石	-	-	-	-	-		中孔削り跡をつくる。用途不明。			
448 SH18	K-2	1層	石器	台石	中粒砂岩	-	(15.0) (24.0) (10.8)	-	-	5610	孟宗の込み 2か所。				
449 SH18	K-2	1層	石器	磨削石斧	緑色岩	-	(10.3) (5.6) (3.3)	-	-	310					
450 SH18	K-2	床面	砂質土器	深鉢	IV-c	口縫	-	-	-	-	-	胎土に金雲母混入。			
451 SH18	K-2	床面	土製品	円盤状土製品	泥質	-	(4.5) (4.1) (0.7)	-	-	-	-				
452 SH18	K-2	床面	石器	磨削石斧	中粒砂岩	-	(9.3) (6.0) (2.6)	-	-	225					
453 SH18	K-2	床面	石器	磨削石	緑色岩	-	(12.3) (5.7) (5.1)	-	-	509					
454 SH18	K-2	-	砂質土器	小型深鉢	IV-d	口縫	-	-	-	-	-				
455 SH18	K-2	-	土製品	円盤状土製品	砂質	-	(2.9) (2.8) (0.6)	-	-	6					
456 SH18	K-2	-	土製品	円盤状土製品	砂質	-	(2.7) (2.9) (0.8)	-	-	7	胎土に金雲母混入。				
457 SH18	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(1.9) (1.5) (1.5)	-	-	14	2面に計4条の溝。				
458 SH18	K-2	-	石器	磨削石	緑色岩	-	(7.2) (5.9) (3.3)	-	-	247					
459 SH18	K-2	-	石器	磨削石	中粒砂岩	-	(6.5) (8.7) (5.7)	-	-	337					
460 SH19	L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.8) (4.7) (2.5)	-	-	33	2面に計4条の溝。				
461 SH19	L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(6.8) (4.6) (3.2)	-	-	88	2面に計2条の溝。				
462 SH19	L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.0) (4.5) (2.3)	-	-	3.2	1面に計4条の溝。				
463 SH19	L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.1) (6.7) (3.0)	-	-	72	2面に計2条の溝。				
464 SH19	L-2	-	石器	脚石	中粒砂岩	-	(12.8) (9.5) (5.6)	-	-	847					
465 SH19	L-2	-	石器	脚石	中粒砂岩	-	(11.7) (11.1) (8.2)	-	-	1014					
466 SH19	L-2	-	石器	磨削石	粗粒砂岩	-	(13.1) (9.0) (7.7)	-	-	1502					
467 SH19	L-2	-	石器	磨削石	粗粒砂岩	-	(14.2) (8.5) (5.1)	-	-	1101					
468 SH19	L-2	-	石器	磨削石	中粒砂岩	-	(13.3) (7.6) (5.9)	-	-	879					
469 SH20	L-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縫	-	-	-	-	-				
470 SH20	L-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縫	-	-	-	-	-				
471 SH20	L-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縫	-	-	-	-	-	波状口縫。			
472 SH20	L-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縫	-	-	-	-	-	胎土に金雲母混入。			
473 SH20	L-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-e	肩	-	-	-	-	-				
474 SH20	L-2	1層	砂質土器	深鉢	細波状文系	肩	-	-	-	-	-				
475 SH20	L-2	1層	砂質土器	深鉢	細波状文系	肩	-	-	-	-	-				
476 SH20	L-2	1層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-				
477 SH20	L-2	1層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-				
478 SH20	L-2	1層	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-				
479 SH20	L-2	1層	土製品	円盤状土製品	泥質	-	(2.8) (2.8) (0.8)	-	-	5					
480 SH20	L-2	1層	土製品	円盤状土製品	砂質	-	(2.8) (2.7) (0.7)	-	-	6					
481 SH20	L-2	1層	土製品	円盤状土製品	砂質	-	(6.1) (6.0) (1.5)	-	-	61					

第103表 崩り跡遺出土遺物観察表(7)

掲番 番号	遺物 名	出土区 域	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(cm)			文様・調整		重量 (g)	備考	検出No.	
								口径 (最大径) mm	底厚 (最大幅) mm	高さ (最大厚) mm	(外)	(内)				
482	SH20	L-2	I層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(6.2)	(4.9)	(2.8)	-	-	92	2面に計2条の溝。		
483	SH20	L-2	I層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(6.5)	(3.9)	(4.1)	-	-	88	4面に計34条の溝。		
484	SH20	L-2	I層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(6.2)	(3.6)	(3.2)	-	-	64	4面に計6条の溝。		
485	SH20	L-2	I層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(5.8)	(3.6)	(3.0)	-	-	88	全圓に計11条の溝。		
486	SH20	L-2	I層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(2.5)	(2.9)	(1.8)	-	-	9	3面に計4条の溝。		
487	SH20	L-2	I層	石器	有溝底石	中粒砂岩	口縁	(1.2)	(1.8)	(0.7)	-	-	2	2面に計3条の溝。		
488	SH20	L-2	I層	石器	原鉢石	綠色岩	-	(6.8)	(4.8)	(3.0)	-	-	165			
489	SH20	L-2	I層	石器	原鉢石	綠色岩	-	(8.2)	(5.3)	(3.0)	-	-	179			
490	SH20	L-2	I層	石器	円形状石器	綠色岩	-	(8.6)	(6.7)	(2.0)	-	-	214			
491	SH20	L-2	I層	石製品	不明	中粒砂岩	-	(7.6)	(8.3)	(7.8)	-	-	576			
492	SH20	L-2	II層	砂質土器	深鉢	押文式	腹	-	-	-	-	-				
493	SH20	L-2	II層	砂質土器	深鉢	押文式	腹	-	-	-	-	-				
494	SH20	L-2	II層	砂質土器	深鉢	押文式	口縁	-	-	-	-	-		波状口縁。胎土に金管母混入。		
495	SH20	L-2	II層	砂質土器	深鉢	押文式	平底	-	-	-	-	-				
496	SH20	L-2	II層	石器	白石	中粒砂岩	(9.0)	(6.5)	(3.5)	-	-	279				
497	SH20	L-2	III層	砂質土器	深鉢	IV-d	腹	-	-	-	-	-				
498	SH20	L-2	IV層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-		波状口縁。		
499	SH20	L-2	IV層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-				
500	SH20	L-2	IV層	砂質土器	特徴置?	口縫?	口縫?	-	-	-	-	-				
501	SH20	L-2	IV層	砂質土器	有溝底石	中粒砂岩	-	(2.7)	(4.7)	(2.9)	-	-	37	2面に計9条の溝。		
502	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-				
503	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-				
504	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-				
505	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-		波状口縁。胎土に金管母混入。		
506	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縫?	-	-	-	-	-		波状口縁。胎土に金管母混入。		
507	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢?	IV-d	口縁	-	-	-	-	-				
508	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縫?	-	-	-	-	-				
509	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	腹	-	-	-	-	-		胎土に金管母混入。		
510	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	細沈文式	腹	-	-	-	-	-				
511	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	細沈文式	腹	-	-	-	-	-				
512	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	細沈文式	腹	-	-	-	-	-				
513	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	細沈文式	腹	-	-	-	-	-		波状口縁。胎土に金管母混入。		
514	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	細沈文式	腹	-	-	-	-	-				
515	SH20	L-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(2.3)	(2.2)	(1.2)	-	-	5	2面に計3条の溝。		
516	SH20	L-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(1.8)	(1.8)	(1.9)	-	-	5	3面に計3条の溝。		
517	SH20	L-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(1.8)	(1.8)	(1.9)	-	-	5	3面に計3条の溝。		
518	SH20	L-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(2.8)	(3.0)	(1.3)	-	-	12	1条の溝。石皿からの転用か。		
519	SH20	L-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(2.9)	(2.1)	(1.4)	-	-	9	4面に計5条の溝。		
520	SH20	L-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(3.6)	(6.6)	(3.6)	-	-	72	4面に計11条の溝。		
521	SH20	L-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(3.2)	(4.7)	(2.6)	-	-	46	3面に計5条の溝。		
522	SH20	L-2	-	石器	鈍石	中粒砂岩	-	(6.2)	(7.0)	(2.1)	-	-	148			
523	SH20	L-2	-	石器	鈍石	中粒砂岩	-	(6.0)	(8.5)	(2.9)	-	-	216			
524	SH20	L-2	-	石器	鈍石	中粒砂岩	-	16.6	17.7	12.2	-	-	3500			
525	SH21	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縫?	-	-	-	-	-				
526	SH21	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縫?	-	-	-	-	-				
527	SH21	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縫?	-	-	-	-	-				
528	SH21	K-2	I層	石器	円形状石器	綠色岩	-	(8.2)	(5.3)	(2.3)	-	-	145			
529	SH21	K-2	I層	石製品	錐形石製品	綠色岩	-	(9.5)	(6.2)	(4.1)	-	-	298			
530	SH21	K-2	I層	石器	薄削石	粗粒砂岩	-	(7.9)	(6.8)	(3.1)	-	-	280			
531	SH21	K-2	I層	石器	薄削石	粗粒砂岩	-	(7.7)	(6.0)	(3.7)	-	-	250			
532	SH21	K-2	I層	石器	石皿	中粒砂岩	-	(12.0)	(9.5)	(4.9)	-	-	806			
533	SH21	K-2	I層	石器	石皿	中粒砂岩	-	(16.6)	(15.2)	(5.8)	-	-	1695			
534	SH21	K-2	II層	石器	薄削石	安山岩	-	(10.5)	(8.7)	(5.7)	-	-	789			
535	SH21	K-2	床置	石製品	不明	泥質	-	(5.0)	(4.6)	(5.2)	-	-	88			
536	SH21	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縫?	-	-	-	-	-				
537	SH21	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縫?	-	-	-	-	-				
538	SH21	K-2	-	砂質土器	深鉢	細沈文式	腹	-	-	-	-	-				
539	SH21	K-2	-	骨製品	装飾品?	鰐骨	-	(2.8)	(1.2)	(0.4)	-	-	1			
540	SH16-18	K-2	-	土製品	円筒状土製品	泥質	-	(3.5)	(3.6)	(0.7)	-	-	8			
541	SH16-18	K-2	-	土製品	円筒状土製品	泥質	-	(3.3)	(3.5)	(0.7)	-	-	8			
542	SH16-18	K-2	-	土製品	円筒状土製品	泥質	-	(3.1)	(2.9)	(1.0)	-	-	7			
543	SH16-18	K-2	-	土製品	円筒状土製品	泥質	-	(3.4)	(3.2)	(0.7)	-	-	9			
544	SH16-20	K-2	-	土製品	円筒状土製品	砂質	-	(3.4)	(3.3)	(0.7)	-	-	7			
545	SH16-20	K-2	-	土製品	円筒状土製品	砂質	-	(2.9)	(3.0)	(0.6)	-	-	7			
546	SH16-20	K-2	-	土製品	円筒状土製品	砂質	-	(3.4)	(3.3)	(0.8)	-	-	11			
547	SH16-20	L-2	-	石器	円形状石器	綠色岩	-	(8.2)	(6.5)	(2.5)	-	-	171			
548	SH16-18	K-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(3.5)	(4.5)	(2.6)	-	-	38	4面に計7条の溝。		
549	SH16-18	K-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(4.0)	(4.7)	(1.8)	-	-	44	1条の溝。平滑面あり。		
550	SH16-19	K-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(3.5)	(3.0)	(1.8)	-	-	19	2面に計3条の溝。		
551	SH16-20	L-2	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(1.8)	(3.3)	(1.9)	-	-	12	3面に計3条の溝。		
552	SH16-21	K-2	-	石製品	不明	泥質	-	(2.4)	(1.5)	(1.9)	-	-	4			
553	SH16-20	K-2	-	石製品	石削	泥質	-	(3.3)	(3.2)	(0.7)	-	-	6			
554	SM22	K-1	I層	砂質土器	深鉢	押文式	腹	-	-	-	-	-				
555	SM22	K-1	I層	砂質土器	深鉢	平底	-	-	-	-	-	-				
556	SM22	K-1	I層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(2.3)	(3.1)	(1.3)	-	-	13	2面に計2条の溝。		
557	SM22	K-1	I層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(1.5)	(1.8)	(1.3)	-	-	4	2面に計2条の溝。		
558	SM22	K-1	I層	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(2.7)	(2.6)	(2.2)	-	-	19	1条の溝。		
559	SM22	K-1	-	土製品	不明	砂質	-	(2.3)	(2.0)	(1.0)	-	-	4			
560	SM22	K-1	-	石器	有溝底石	中粒砂岩	-	(3.8)	(3.2)	(2.4)	-	-	30	1条の溝。		
561	SM22	K-1	-	石器	有溝底石	粗粒砂岩	-	(16.5)	(6.8)	(4.2)	-	-	739			
562	SH22	K-1	-	石器	石削	中粒砂岩	-	(9.8)	(15.8)	(5.0)	-	-	931			

第104表 崩り遺跡出土遺物観察表(8)

相組番号	遺物名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(cm)			文様・調整		重量(g)	備考	検出No.	
								口径 最大長	底径 最大幅	高さ 最大厚	(外)	(内)				
563	SH23	K+L-1	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
564	SH23	K+L-1	I層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-			
565	SH23	K+L-1	I層	砂質土器	深鉢	細次線文系	崩	-	-	-	-	-	-			
566	SH23	K+L-1	I層	砂質土器	-	細次線文系	崩	-	-	-	-	-	-			
567	SH23	K+L-1	I層	砂質土器	深鉢	Va	口縁	-	-	-	貝殻条痕	-	-			
568	SH23	K+L-1	I層	砂質土器	壺?	Va	崩	-	-	-	-	-	-			
569	SH23	K+L-1	I層	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-			
570	SH23	K+L-1	I層	石器	有溝延石	中粒砂岩	(4.0)	(3.6)	(4.3)	-	-	-	55	4面に計8条の溝。		
571	SH23	K+L-1	II層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
572	SH23	K+L-1	II層	砂質土器	深鉢	IV-d	崩	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
573	SH23	K+L-1	II層	石器	黒褐色石削	絆色岩	(7.9)	(5.8)	(2.7)	-	-	-	132	基部のみ。		
574	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	Va	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
575	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	Va	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
576	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	Vc	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
577	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-c	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
578	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
579	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-			
580	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-			
581	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
582	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-			
583	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-			
584	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-			
585	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-			
586	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-d	崩	-	-	-	-	-	-	陶土に金管母混入。		
587	SH23	K+L-1	-	砂質土器	深鉢	VI-d	崩	-	-	-	-	-	-	陶土に金管母混入。		
588	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	細次線文系	崩	-	-	-	-	-	-			
589	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	細次線文系	崩	-	-	-	-	-	-			
590	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	細次線文系	崩	-	-	-	-	-	-			
591	SH23	L-2	-	泥質土器	不明?	Va	-	-	-	-	-	-	-	口縁部装飾部?		
592	SH23	K+L-1	-	泥質土器	片口?	Va	取っ手	-	-	-	-	-	-			
593	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-			
594	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-			
595	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-			
596	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-			
597	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-			
598	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-			
599	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-			
600	SH23	K+L-1	-	砂質土器	-	平底	-	6.0	-	-	-	-	-			
601	SH23	K+L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(3.5)	(2.1)	(2.9)	-	-	-	30	4面に計7条の溝。		
602	SH23	K+L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(4.0)	(4.4)	(2.6)	-	-	-	45	1条の溝。		
603	SH23	K+L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(3.1)	(3.0)	(12.4)	-	-	-	25	1条の溝。		
604	SH23	K+L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(3.3)	(3.6)	(2.1)	-	-	-	23	1面に計2条の溝。		
605	SH23	K+L-1	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(2.8)	(3.0)	(3.7)	-	-	-	19	2面に計2条の溝。		
606	SH23	K+L-1	-	石器	磨削石	粗粒砂岩	(10.3)	(5.3)	(6.6)	-	-	-	340			
607	SH23	K+L-1	-	石器	スクリュー?	粗粒砂岩	(3.8)	(6.7)	(2.2)	-	-	-	46			
608	SH23	K+L-1	-	石器	磨削石器	真白	(6.0)	(2.6)	(0.5)	-	-	-	9			
609	SH23	K+L-1	-	石器	磨削石	粗粒砂岩	(11.4)	(8.6)	(4.6)	-	-	-	696			
610	SH23	K+L-1	-	石器	磨削石	中粒砂岩	(7.3)	(6.2)	(2.2)	-	-	-	169			
611	SH23	K+L-1	-	石器	台石	中粒砂岩	(16.8)	(18.3)	(10.2)	-	-	-	3920			
612	SH23	K+L-1	-	石器	研磨石	中粒砂岩	(11.7)	(8.0)	(6.5)	-	-	-	380			
613	SH23	K+L-1	-	石器	黑曜岩	中粒砂岩	(21.0)	(16.8)	(2.1)	-	-	-	1091			
614	SH23	K+L-2	I層	砂質土器	深鉢	Va	押し文系	崩	-	-	-	-	-			
615	SH23	K+L-2	I層	砂質土器	深鉢	Va	巴線文系	崩	-	-	-	-	-			
616	SH23	K+L-2	I層	砂質土器	深鉢	VI-d	崩	-	-	-	-	-	-			
617	SH23	K+L-2	I層	砂質土器	深鉢?	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-			
618	SH23	K+L-2	I層	砂質土器	深鉢?	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
619	SH23	K+L-2	I層	砂質土器	深鉢?	VI-d	口縁	-	-	-	-	-	-			
620	SH23	K+L-2	I層	砂質土器	深鉢	VI-d	細次線文系	崩	-	-	-	-	-			
621	SH23	K+L-2	I層	砂質土器	-	平底	-	-	-	-	-	-	-			
622	SH23	K+L-2	-	砂質土器	深鉢?	Vc	口縁	-	-	-	-	-	-			
623	SH23	K+L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(2.7)	(2.8)	(1.9)	-	-	-	17	4面に計6条の溝。		
624	SH23	K+L-2	-	石器	石器	中粒砂岩	(13.8)	(13.9)	(4.8)	-	-	-	1273			
625	SH24	L-2	I層	砂質土器	深鉢	Va	押し文系	崩	-	-	-	-	-			
626	SH24	L-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-			
627	SH24	L-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
628	SH24	L-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
629	SH24	L-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	崩	-	-	-	-	-	-			
630	SH24	L-2	I層	砂質土器	深鉢	細次線文系	崩	-	-	-	-	-	-			
631	SH24	L-2	I層	砂質土器	深鉢	細次線文系	崩	-	-	-	-	-	-			
632	SH24	L-2	I層	石器	刮石	安山岩	(9.6)	(8.0)	(5.0)	-	-	-	486			
633	SH24	L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(2.1)	(2.4)	(2.2)	-	-	-	11	1条の溝。		
634	SH25	L-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-			
635	SH25	L-2	I層	砂質土器	深鉢	細次線文系	崩	-	-	-	-	-	-			
636	SH25	L-2	I層	砂質土器	深鉢	細次線文系	崩	-	-	-	-	-	-	陶土に金管母混入。		
637	SH25	L-2	I層	石器	有溝延石	中粒砂岩	(5.3)	(8.0)	(2.7)	-	-	-	122	1面に計3条の溝。		
638	SH25	L-2	I層	石器	円筒状石器	絆色岩	(7.8)	(7.9)	(3.3)	-	-	-	258			
639	SH25	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。		
640	SH25	L-2	-	砂質土器	深鉢	細次線文系	崩	-	-	-	-	-	-			
641	SH25	L-2	-	泥質土器	-	Va	-	-	-	-	-	-	-	装飾部か?		
642	SH25	L-2	-	泥質土器	-	Va	-	2手手?	-	-	-	-	-	-		

第105表 崩り遺跡出土遺物観察表(9)

掘削番号	遺物名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(cm)			文様・調整		重量(g)	備考	揮因No.	
								口縁 最大径	底面 最大幅	高さ (奥深)	(外)	(内)				
643	SH25	L-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
644	SH25	L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(5.9) (5.8) (4.1)	-	-	-	-	-	11	3面に計8条の溝。	第111回	
645	SH25	L-2	-	石器	磨歯石	中粒砂岩	(6.2) (11.2) (3.9)	-	-	-	-	-	455	-		
646	SH25	L-2	-	石器	磨歯石	粗粒砂岩	(7.8) (6.1) (3.7)	-	-	-	-	-	247	-		
647	SH25	L-2	-	石器	台石・石皿	中粒砂岩	(23.4) (19.3) (12.0)	-	-	-	-	-	7740	残存テンブン粉分析(KZB-SRP11)。	第112回	
648	SH25	L-2	-	石器	台石・石皿	中粒砂岩	(33.2) (17.4) (8.2)	-	-	-	-	-	6080	残存テンブン粉分析(KZB-SRP10)。		
649	SH26	K-L-2	-	砂質土器	深鉢?	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
650	SH26	K-L-2	-	泥質土器	壺?	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	舟型口縁。	
651	SH26	K-L-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	8.5	-	-	-	-	-	-	
652	SH26	K-L-2	-	泥質土器	-	-	平底	-	8.2	-	-	-	-	-	-	
653	SH26	K-L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(4.6) (5.4) (2.3)	-	-	-	-	-	63	2面に計2条の溝。	第113回	
654	SH26	K-L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(3.1) (3.1) (3.2)	-	-	-	-	-	30	3面に計3条の溝。		
655	SH26	K-L-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(2.9) (3.8) (2.9)	-	-	-	-	-	29	3面に計3条の溝。		
656	SH26	K-L-2	-	石器	磨歯石	粗粒砂岩	(9.3) (6.0) (3.1)	-	-	-	-	-	193	-		
657	SH27	K-2	I層	石器	台石	中粒砂岩	(26.5) (18.6) (8.9)	-	-	-	-	-	6990	-	第114回	
658	SH	-	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	1点穴が穿たれてい。	
659	SH	-	-	泥質土器	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-		第115回
660	SH	-	-	石器	磨歯石	中粒砂岩	(9.2) (6.7) (3.8)	-	-	-	オサエ	オサエ	444	-		
661	SH	-	-	石器	不明	カシラフリル	(4.7) (2.8) (1.7)	-	-	-	-	-	29	-		
662	SK01	L-3	I層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
663	SK01	L-3	I層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
664	SK01	L-3	I層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
665	SK01	L-3	I層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
666	SK01	L-3	I層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
667	SK01	L-3	I層	砂質土器	深鉢	II-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
668	SK01	L-3	I層	砂質土器	深鉢	II-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
669	SK01	L-3	I層	石器	刮石	中粒砂岩	(4.2) (7.9) (6.6)	-	-	-	-	-	353	-		
670	SK01	L-3	I層	石器	刮石	中粒砂岩	(14.0) (8.9) (7.9)	-	-	-	-	-	1280	-		
670	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
671	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕
672	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
673	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
674	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-c	脇	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
675	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
676	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-c	脇	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
677	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
678	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
679	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-e	脇	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
680	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	第117回
681	SK02	L-K-3	I層	石器	磨歯石	中粒砂岩	(10.4) (8.4) (4.7)	-	-	-	-	-	797	-		
682	SK02	L-K-3	I層	石器	刮石	中粒砂岩	(9.0) (8.2) (4.7)	-	-	-	-	-	289	-		
683	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
684	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
685	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
686	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
687	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
688	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-e	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
689	SK02	L-K-3	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	ナデ	貝殻条痕
691	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
692	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
693	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
694	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
695	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
696	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	997と同一個体か?	
697	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	996と同一個体か?	
698	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
699	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
700	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	III-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	第118回
701	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢?	四辺文系	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
702	SK03	K-3	I層	砂質土器	-	稚	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	器壁は薄くしっかりしている。
703	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	稚	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
704	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	稚	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
705	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	稚	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
706	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	稚	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
707	SK03	K-3	I層	砂質土器	深鉢	稚	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
708	SK03	K-3	I層	石器	磨歯石	粗粒砂岩	(7.2) (7.6) (2.4)	-	-	-	-	-	154	-		
709	SK03	K-3	I層	石器	刮石	中粒砂岩	(7.4) (10.0) (7.3)	-	-	-	-	-	563	-		
710	SK03	K-3	I層	石器	台石	中粒砂岩	(22.5) (15.4) (9.7)	-	-	-	-	-	4460	-		
711	SK03	K-3	I層	石器	台石	中粒砂岩	(27.3) (27.3) (11.2)	-	-	-	-	-	11650	-		
712	SK03	K-3	I層	石器	台石	中粒砂岩	(31.2) (19.6) (12.2)	-	-	-	-	-	10600	-		
713	SK04	L-2	I層	砂質土器	壺?	III-c	脇	-	-	-	-	-	-	-	-	
714	SK04	L-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
715	SK04	L-2	I層	石器	有溝延石	中粒砂岩	(3.8) (3.4) (1.8)	-	-	-	-	-	17	1面に計1条の溝。	第120回	
716	SK04	L-2	I層	石器	磨歯石	中粒砂岩	(7.0) (6.5) (5.3)	-	-	-	-	-	349	-		
717	SK04	L-2	I層	石器	刮石	中粒砂岩	(10.2) (7.3) (5.2)	-	-	-	-	-	504	-		
718	SK05	K-C-2	I層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	貝殻条痕	
719	SK05	K-C-2	II層	石器	台石	中粒砂岩	(15.1) (16.0) (5.2)	-	-	-	-	-	-	1750	-	第121回
720	SK05	K-C-2	-	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
721	SK05	K-C-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	(2.5) (4.8) (2.7)	-	-	-	-	-	31	2面に計2条の溝。		

第106表 崩り遺跡出土遺物観察表(10)

規範番号	通様名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(c.m.)			文様・調整		重量(g)	備考	検査No.
								横幅 最大長	縦幅 最大幅	高さ (新高)	(外)	(内)			
722	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
723	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
724	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
725	SK06	K-2	I層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	
726	SK06	K-2	I層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.2)	(3.6)	(2.0)	-	-	28	2面に計4条の溝。	
727	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
728	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	23.0	-	-	貝殻条痕	-	-	-	
729	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
730	SK06	K-2	I層	砂質土器	-	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
731	SK06	K-2	I層	砂質土器	-	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
732	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	凹線文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
733	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	地紋文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
734	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	圓	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
735	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢?	圓	口縁?	-	-	-	-	-	-	-	第122回
736	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	圓	崩	-	-	-	-	-	-	-	
737	SK06	K-2	I層	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.9)	(3.6)	(3.5)	-	-	68	3面に計5条の溝。	
738	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-c	口縁	-	-	-	貝殻条痕	-	-	-	
739	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-e	口縁	-	-	-	オサエ	-	-	-	
740	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	貝殻条痕	-	-	-	
741	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
742	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
743	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
744	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縫	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母混入。	
745	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縫	-	-	-	-	-	-	-	
746	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縫	-	-	-	-	-	-	波状口縫。	
747	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	細縞文系	崩	-	-	-	-	-	-	-	
748	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	圓	崩	-	-	-	-	-	-	-	
749	SK06	K-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	
750	SK06	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.9)	(6.1)	(3.3)	-	-	108	2面に計3条の溝。	
751	SK06	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(5.2)	(6.1)	(3.5)	-	-	107	3面に計4条の溝。	
752	SK06	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(6.6)	(11.4)	(4.9)	-	-	447	1面に計3条の溝。	
753	SK06	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(6.2)	(7.4)	(2.1)	-	-	83	4面に計6条の溝。	
754	SK06	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.0)	(4.2)	(3.0)	-	-	55	4面に計8条の溝。	
755	SK06	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(6.7)	(9.0)	(4.2)	-	-	348	2面に計5条の溝。	第123回
756	SK06	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(7.0)	(8.0)	(3.7)	-	-	248	1面に計1条の溝。	
757	SK06	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.4)	(4.0)	(3.0)	-	-	50	2面に計3条の溝。	
758	SK06	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(3.2)	(5.2)	(1.6)	-	-	28	1面に計5条の溝。	
759	SK06	K-2	-	石器	有溝延石	中粒砂岩	-	(4.0)	(4.5)	(1.6)	-	-	28	2面に計4条の溝。	
760	SK06	K-2	-	石器	磨歯石	中粒砂岩	-	(7.6)	(6.9)	(3.9)	-	-	336	-	
761	SK06	K-2	-	石器	磨歯石	粗粒砂岩	-	(9.0)	(6.7)	(4.0)	-	-	413	-	
762	SK06	K-2	-	石器	石皿	中粒砂岩	-	(12.7)	(14.7)	(5.2)	-	-	1063	-	第124回
763	SK07	K-3.4	I層	砂質土器	西?	I	崩	-	-	-	-	-	-	-	
764	SK07	K-3.4	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縫	-	-	-	オサエ	-	-	-	
765	SK07	K-3.4	I層	砂質土器	深鉢	圓	口縫?	-	-	-	-	-	-	口縫付近の装飾部か?	
766	SK07	K-3.4	I層	砂質土器	深鉢	圓	口縫?	-	-	-	-	-	-	-	
767	SK07	K-3.4	I層	土製品	円盤土製品	砂質	-	(6.5)	(4.3)	(1.1)	-	-	32	-	
768	SK07	K-3.4	I層	土製品	円盤土製品	砂質	-	(3.5)	(2.3)	(0.6)	-	-	7	-	
769	SK07	K-3.4	I層	石器	石器	中粒砂岩	-	(11.4)	(11.1)	(9.4)	-	-	1451	-	
770	SK07	K-3.4	I層	石器	円形状石器	綠色岩	-	(7.7)	(5.7)	(2.0)	-	-	112	-	第125回
771	SK07	K-3.4	I層	石器	白石	安山岩	-	(20.0)	(14.5)	(5.8)	-	-	3210	-	
772	SK09	L-3	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	崩	-	-	-	ナデ・オサエ	-	-	胎土に金雲母混入。	
773	SK09	L-3	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	崩	-	-	-	胎土に金雲母混入。	-	-	胎土に金雲母混入。	第127回
774	SK09	L-3	I層	石器	砾石	黄岩	-	(8.1)	(10.6)	(2.3)	-	-	353	-	
775	SK10	P-18	Ⅱ層	砂質土器	西?	I	崩	-	-	-	-	-	-	-	
776	SK10	P-18	Ⅱ層	砂質土器	西?	I	崩	-	-	-	-	-	-	-	第128回
777	SK10	P-18	Ⅱ層	砂質土器	-	I	口縫	-	-	-	-	-	-	-	
778	SK10	P-18	Ⅱ層	石器	石皿	中粒砂岩	-	(6.5)	(7.0)	(3.3)	-	-	222	-	
779	SK11	P-12	I層	泥質土器	西?	V-b?	崩	-	-	-	-	-	-	-	
780	SK11	P-12	I層	泥質土器	西?	-	口縫	-	-	-	-	-	-	-	第129回
781	SK11	P-12	I層	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	
782	SK12	O-13	I層	泥質土器	西	V-a?	口縫	-	-	-	-	-	-	-	第130回
783	SK12	O-13	I層	石器	円形状石器	綠色岩	-	(10.5)	(7.1)	(3.1)	-	-	280	-	
784	SK13	Q-13	I層	泥質土器	西?	V-a?	口縫	-	-	-	-	-	-	-	
785	SK13	Q-13	-	泥質土器	西?	V-a?	崩	-	-	-	-	-	-	-	第131回
786	SK13	Q-13	-	泥質土器	深鉢	V-b?	口縫	-	-	-	ナデ・オサエ	-	-	-	
787	SK13	Q-13	-	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	
788	SK14	P-17	-	砂質土器	口注土器	圓	口縫	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母混入。	
789	SK14	P-17	-	石器	石核	チャット	-	(4.2)	(3.8)	(2.8)	-	-	47	-	第132回
790	SK14	P-17	-	石器	磨歯石	粗粒砂岩	-	(8.7)	(6.6)	(3.1)	-	-	181	-	
791	SK15	N-12	I層	泥質土器	深鉢?	圓	口縫	-	-	-	-	-	-	-	第133回
792	SK15	N-12	I層	泥質土器	磨?	西?	崩	-	-	-	-	-	-	-	
793	SK15	N-12	I層	泥質土器	磨?	西?	口縫	-	-	-	-	-	-	-	
794	SK15	N-12	I層	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	
795	SK15	N-12	I層	石器	磨歯石	粗粒砂岩	-	(12.7)	(11.3)	(6.7)	-	-	1231	-	
796	SK15	N-12	I層	石器	磨歯石	粗粒砂岩	-	(7.6)	(3.7)	(1.3)	-	-	66	-	
797	SK15	N-12	-	泥質土器	磨製石片	黃色岩	-	(4.4)	(5.9)	(2.3)	-	-	-	-	
798	SK15	N-12	-	石器	磨製石片	綠色岩	-	(4.3)	(3.4)	(1.6)	-	-	64	-	
799	S001	P-Q-18	I層	石器	磨石	中粒砂岩	-	(4.5)	(3.8)	(1.8)	-	-	31	-	第134回
800	S001	P-Q-18	I層	石器	磨石	中粒砂岩	-	(3.7)	(3.5)	(2.4)	-	-	39	-	
801	S006	M-12	石器	磨歯石	粗粒玄武岩	-	-	-	-	-	-	-	97	-	第135回

第3節 縄文時代の自然科学分析

(1) 崩り遺跡から出土した石器の残存デンブン粒分析

国立歴史民俗博物館 渋谷綾子

崩り遺跡出土の石器 13 点を対象として、残存デンブン粒の検出を試みた。結果として、4 点の石器から合計 8 個の残存デンブン粒を検出した。それぞれの石器における検出量自体が 1 個から 4 個と非常に少ないため、これらのデンブン粒の検出をもって石器の用途を植物の加工工具と提示することは非常に困難である。特に検出した残存デンブン粒のうち 2 個は円形で偏光十字の形状も明確に確認されたが、他の 6 個は分解・損傷が進んで原形を識別することができなかつた。どの試料においても、植物組織や細胞組織の微細な断片などの植物性物質は極めて少ないので、遺跡土壤からのデンブン粒の混入の可能性は低いが、本結果だけでは石器の用途の判断は困難である。

後期旧石器時代の石器 [渋谷, 2011a, 2011b]、縄文時代の石皿や磨石類の分析事例 [渋谷, 2009, 2010a, 2010b, 2012, 2013, 2014] においても、使用痕があるにもかかわらず、残存デンブン粒が検出されなかつた事例は存在する。今回の分析で残存デンブン粒が検出されなかつた石器についてはこれらの事例のように、(1)石器製作など植物加工以外に使用された可能性、(2)植物加工に使用されたが、デンブン粒自体は遺存しなかつた可能性、という 2 通りの解釈が提示でき、(3)出土後の整理作業を経て試料採取の時点までに付着物が失われた可能性も考えられる。

残存デンブン粒の検出量の少なさから、崩り遺跡の石器の用途を残存デンブン粒の検出にもとづいて検証するという当初の目的は達せられなかつたが、崩り遺跡の石器の用途を考える上で、また今後残存デンブン粒の研究を進めることで、本分析の結果は重要な事実である。そこで以下、分析試料の採取ならびに顕微鏡観察の方法を述べるとともに、検出されたデンブン粒の形態学的特徴を記することで本分析の報告とする。

分析対象とした石器は磨石・敲石 6 点、台石 1 点、石皿 3 点、台石・石皿 3 点である (第 136-137 図、第 107 図)。台石・石皿 3 点のうち 2 点 (ID648・ID647) は出土後洗浄されないまま保管されており、他はすべて水洗されていた。資料観察と分析試料の採取は喜界町埋蔵文化財センターで行った。この際、試料の採取部位は異物の混入を避けるため、白衣の着衣や資料ごとの手洗い等、採取条件に留意した。さらに、プレバーラートの作製と顕微鏡観察は国立歴史民俗博物館の第 1 室準備室で行った。

試料の採取では Fullagar [2006] が提案した方法を参考し、使用痕の有無にかかわらず、石器の全面から採取した。マイクロビペットにチップをはめて精製水を吸入し、採取する対

象に注入、洗浄しながら試料が 16 μl 以上 (複数枚のプレバーラートを作製する必要量) になるまで吸引した。1 資料につき試料を 2 箇所採取した。この方法は他の石器の分析事例 [渋谷, 2010a, 2010b, 2011a, 2011b, 2012, 2013, 2014] でも採用している。採取した試料はすべて、現生デンブン粒標本 [渋谷, 2006, 2010c] と同じ方法でプレバーラートを作製し、試料を遠心後 (13000rpm・1 分)、8 μl をスライド封入剤 (グリセロール・ゼラチン) 8 μl で封入し、1 試料につき 2 枚作製した。このとき、スライドグラスやカバーガラス、スライド封入剤の汚染の有無を確認するため、試料を入れないプランクスライドを毎回作製した。次に光学顕微鏡 (Olympus BX53-33Z, 簡易偏光装置付) を用いて、拡張レンズを 10 倍、対物レンズを 10~40 倍、総合倍率 100~400 倍の視野条件で観察し、写真記録を行った。

顕微鏡観察の結果、ID295 の磨石 2 の磨面から円形のデンブン粒 1 個と分解デンブン粒 1 個、ID297 の磨石 5 から分解デンブン粒 1 個、ID326 の石皿 1 から分解デンブン粒 1 個、ID647 の台石・石皿 3 については、使用痕が確認できない部位から分解デンブン粒 2 個と四角形のデンブン粒 1 個、磨面から損傷デンブン粒 1 個を検出した (第 108 図)。磨石 2 の円形のデンブン粒は長径 22.75 μm ・短径 22.63 μm のほぼ正円形をなし、偏光十字 (十字状の暗線) は粒子のほぼ中央で垂直に交わるが、やや幅広くなっているため、形成長角 (偏光十字の交差範囲、ヘソ hilum) の位置は不明瞭である (第 136 図)。円形のデンブン粒をもつ植物種は非常に多くため、デンブン粒の形態だけではどの植物種に該当するか判断することはできなかつた。そのため、植物種について不明とする。台石・石皿 3 の四角形のデンブン粒 (第 137 図: 2a・2b) は、偏光十字の交差のしかたを基準として縦 18.22 μm ・横 18.05 μm の丸みをおびた形であり、偏光十字は粒子の中央で垂直に交わるが、交差範囲が少しくぼんでおり、不明瞭である。さらに、このデンブン粒は細胞組織に包含されている。アミロプラスチと呼ばれる細胞内構造体の中や植物細胞に包含された状態のデンブン粒は鱗茎・根茎類に由来する可能性があり、植物種については不明だが、このデンブン粒も鱗茎・根茎類に由来する可能性が高いデンブン粒であると指摘できる。

分解・損傷デンブン粒については、偏光十字が消失。粒子も膨張して外縁が損傷したもの、十字の暗線の幅が拡大し、形成長角の位置が不明瞭なもののが確認された。磨石 2 と台石・石皿 3 からは分解デンブン粒と無傷のデンブン粒の両方が検

出されている(第108表)。デンプン粒の残存条件を考えると、これらのデンプン粒は石器での磨り潰し作業の際に植物のセルロースごと部分的に損壊され、土壌での埋没中にその壊れた部がから酵素反応が進んで原形の識別ができなくなったこと、一方の無傷のデンプン粒はセルロースに、いわば守られる形で損傷を受けずに石器に残留したこと、つまり、デンプン粒が損壊した植物とそうでない植物の両方が砾石や石皿で磨り潰されたという可能性を考えることができる。

これと関連して、考古資料の分析結果と実験用石皿で磨り潰した植物のデンプン粒を比較検討した報告[Liu et al., 2013]がある。実験結果によると、加工作製時にデンプン粒が損壊する植物種と、損壊せずに無傷のままの植物種が存在するという。この結果を参照すると、磨歯石2について、(1)種類のみの磨り潰し、(2)種類以上の磨り潰し(ただし、他の植物のデンプン粒が損壊した)、という2つの可能性を示しているといえる。台石・石皿3については、同じ使用痕の確認されない宿位の試料から検出された分解デンプン粒と無傷のデンプン粒はコントラクションの可能性がある。今回の分析では未洗浄の状態で試料を探取し、水洗後の試料を探取しなかったため、検出したデンプン粒が土蔵に由来する可能性は否定できない。もしこれらが加工対象物の残率であるならば、デンプン粒が損壊した植物と壊れなかった植物の加工に用いた石器であると用途を提示することができるだろう。

今回検出された残存デンプン粒は検出量自体が非常に少なく、無傷のデンプン粒2個だけで石器の用途を検証することは非常に難しい。今回分析した資料以外の他の石器を分析するなど、本分析の結果とあわせてさまざまな角度から崩り遺跡の石器の用途が検討されれば、同遺跡における植物利用活動を明らかにできると考える。

本稿は2013年7月に資料調査・分析を行ひ、2014年3月に分析結果を報告したものである。本稿を執筆するにあたり、喜界町埋蔵文化財センターの方々をはじめ、下記の方々に多くのご教示やご協力をいただいた。末筆ながら記して深く感謝申し上げます(敬称略)。

Sheahan Bestel, Richard Fullagar, 上條信彦,
工藤雄一郎, 林危鳴, 横林啓介, Peter J. Matthews, 中村大,
西田泰民, 濱口真司, Robin Torrence, 近江具塚研究会,
国立歴史民俗博物館

引用文献

- Fullagar, R. 2006. Starch on artifacts. *Ancient starch research* (Torrence, R. & Barton, H. eds.), 177-203. Left Coast Press, INC., Walnut Creek.
- Liu, L., Bestel, S., Shi, J., Song, Y. & Chen, X. 2013. Paleolithic human exploitation of plant foods during the last glacial maximum in North China. *Proceedings of the National Academy of Science (PNAS)* 110: 1-6.
- 渋谷綾子. 2006. 日本の現存植物を用いた参照デンプン標本 新潟県立歴史博物館研究紀要 No. 7: 7-16.
- 渋谷綾子. 2009. 旧石器時代および縄文時代の石器残存デンプンの分析的研究 まなぶ: 吉田学記念文化財科学研究助成基金研究論文誌 No. 2: 169-201.
- 渋谷綾子. 2010a. 高山寺貝塚、溝ノ口、市駒、下芳養、丁の町・妙寺遺跡から出土した縄文時代石器の残存デンプン粒分析。和歌山市立博物館研究紀要 No. 25: 105-117.
- 渋谷綾子. 2010b. 石器残存デンプンからみた三内丸山遺跡の植物利用の変遷。「特別史跡三内丸山遺跡年報」13 (青森県教育文化財保護課三内丸山遺跡対策室編). 79-88. 青森県教育委員会, 青森。
- 渋谷綾子. 2010c. 日本列島における現生デンプン粒標本と日本考古学研究への応用—残存デンプン粒の形態分類をめざして。植生史研究 18 (1): 13-27.
- 渋谷綾子. 2011a. 鹿児島県西多羅ヶ迫遺跡から出土した石器の残存デンプン粒と後期旧石器時代前半期における遺跡内の植物利用。広島大学総合博物館研究報告 No. 3: 73-88.
- 渋谷綾子. 2011b. 飛田給北遺跡から出土した石器の残存デンプン粒分析。「講布市飛田給北遺跡 第9地点」(比田井民子・田中輔男・杉原重夫・渋谷綾子・上條朝宏・武笠多恵子編)。東京都埋蔵文化財センター調査報告第250集. 192-203. 財团法人東京都スポーツ文化事業団・東京都埋蔵文化財センター, 多摩市。
- 渋谷綾子. 2012. 鹿児島県水迫遺跡出土石器の残存デンプン粒と縄文時代草創期・早期における植物利用。植生史研究 21 (2): 55-66.
- 渋谷綾子. 2013. 井出上ノ原遺跡出土の石器の残存デンプン分析結果。「井出上ノ原遺跡-2006・2007年度発掘調査」(中央大学文学部考古学研究室編)。中央大学文学部考古学研究室調査報告書1. 64-71. 中央大学文学部考古学研究室, 東京。
- 渋谷綾子. 2014. 縄文土器付着植物遺体と石器の残存デンプン粒分析からみた東京都下七谷遺跡の植物利用。国立歴史民俗博物館研究報告 187: 357-386.

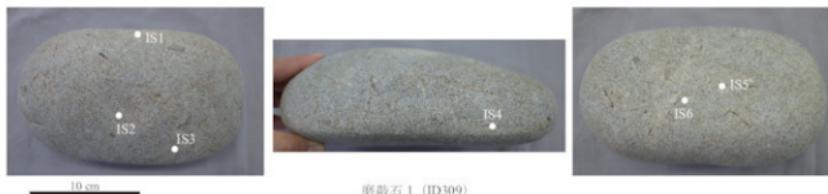
第107表 石器の分析試料と残存デンブン粒の検出個数
(IS: 第1次試料、使用痕の識別は筆者自身の観察による)

分析番号	石器	ID (実割番号)	遺構等	グリッド	層位	ドット	採取部位	使用痕 の種類	検出個数
KZR-SRP1	磨敲石 1	309	SH-12	J-K-2	床直	197	IS1	無	0
							IS2	敲打痕	0
							IS3	磨面	0
							IS4	磨面	0
							IS5	敲打痕	0
							IS6	磨面	0
KZR-SRP2	磨敲石 2	295	SH-12	J-K-2	I	188	IS1	敲打痕	0
							IS2	磨面	0
							IS3	敲打痕	0
							IS4	敲打痕	0
							IS5	磨面	2
							IS6	敲打痕	0
KZR-SRP3	磨敲石 3	296	SH-12	J-K-2	I	189	IS1	磨面	0
							IS2	無	0
							IS3	磨面	0
							IS4	敲打痕	0
							IS5	敲打痕	0
KZR-SRP4	磨敲石 4	16	SH-01	J-2	V	62	IS1	磨面	0
							IS2	無	0
							IS3	敲打痕	0
							IS4	敲打痕	0
KZR-SRP5	磨敲石 5	297	SH-12	J-K-2	I	79	IS1	磨面	1
							IS2	敲打痕	0
							IS3	敲打痕	0
							IS4	敲打痕	0
KZR-SRP6	磨敲石 6	328	SH-13	K-2	II	95	IS1	磨面	0
							IS2	無	0
							IS3	敲打痕	0
							IS4	敲打痕	0
KZR-SRP7	台石 1	329	SH-13	K-2	II	104	IS1	磨面	0
							IS2	磨面	0
							IS3	磨面	0
							IS4	磨面	0
KZR-SRP13	石皿 1	326	SH-13	K-2	II	101	IS1	敲打痕	1
							IS2	磨面	0
							IS3	磨面	0
							IS4	磨面	0
							IS5	磨面	0
KZR-SRP8	石皿 2	9	SH-01	J-2	II	60	IS1	磨面	0
							IS2	磨面	0
							IS3	磨面	0
							IS4	磨面	0
KZR-SRP9	石皿 3	17	SH-01	J-2	III	61	IS1	磨面	0
							IS2	磨面	0
							IS3	無	0
KZR-SRP12	台石・石皿 1	336	SH-13	K-2	床直	119	IS1	磨面	0
							IS2	無	0
							IS3	無	0
							IS4	無	0
							IS5	無	0
							IS6	無	0
KZR-SRP10	台石・石皿 2 (未洗浄)	648	SH-25	L-2	-	46	IS1	磨面	0
							IS2	磨面	0
							IS3	磨面	0
							IS4	無	0
KZR-SRP11	台石・石皿 3 (未洗浄)	647	SH-25	L-2	-	37	IS1	無	3
							IS2	磨面	0
							IS3	磨面	1
							IS4	敲打痕	0
							IS5	無	0

第108表 石器から検出した残存デンブン粒（単位：個）

分析した 石器	円形主体			半円・三角・ 四角形			多角形			D	計
	A I	A II	A III	B I	B II	B III	C I	C II	C III		
磨歯石1											0
磨歯石2				1						1	2
磨歯石3											0
磨歯石4											0
磨歯石5										1	1
磨歯石6											0
台石											0
石皿1										1	1
石皿2											0
石皿3											0
台石・石皿1											0
台石・石皿2(未洗)											0
台石・石皿3(未洗)				1						3	4
計	0	0	1	0	1	0	0	0	0	6	8

※ A：円形・いびつな円形・橢円形、B：半円形・三角形・四角形、C：多角形、D：分解して原形の識別が困難なもの。I：10 μm未満、II：10～20 μm、III：20 μm以上

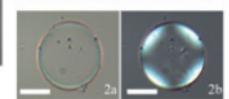


磨歯石 1 (ID309)



磨歯石 2 (ID295)

IS5 から検出した円形のデンプン粒

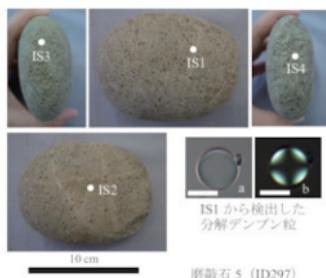


IS5 から検出した分解デンプン粒



磨歯石 3 (ID296)

磨歯石 4 (ID16)

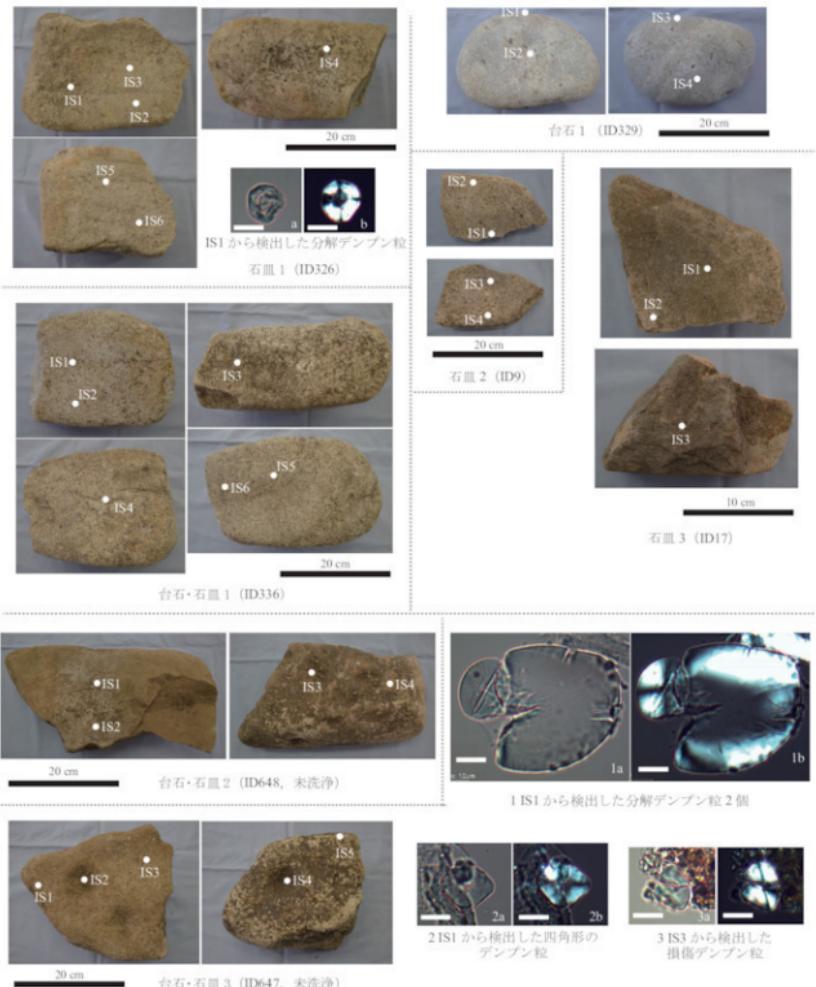


磨歯石 5 (ID297)



磨歯石 6 (ID328)

第136図 分析した磨り遺道の石器と検出された残存デンプン粒、白丸は試料採取箇所、IS：第1次試料、
IS2：第2次試料、IS3：第3次試料、IS4：第4次試料、IS5：第5次試料、IS6：第6次試料。写真のスケールバーは
10μmを示す。デンプン粒の写真はすべて400倍；a：開放ニコル、b：直交ニコルで撮影。



第137図 分析した崩り遺跡の石器と検出された残存デンブン粒。白丸は試料採取箇所。IS: 第1次試料、残存デンブン粒写真のスケールバーは10μmを示す。デンブン粒の写真はすべて400倍;a: 開放ニコル、b: 直交ニコルで撮影。

(2) 崩り遺跡出土遺物の科学分析

(公財)元興寺文化財研究所

1.はじめに

琥珀と思われる樹脂様遺物は第 138 図に示したように、細片に割れた状態で表面はかなり劣化が進み粉状化しているように見られたが、破断面は比較的透明度が高く健全な状態であると観察された。まず、この遺物が琥珀であるか半化石樹脂(コバール樹脂)かそれ以外のものであるかをフーリエ変換赤外分光により確認した。琥珀であることが分かれば琥珀の主な産出地から採取した地質学的標準資料(以下標準琥珀)¹⁾の分析結果と比較することによって産地推定を行うことが可能となる。そこで今回、フーリエ変換赤外分光、熱分析によりこれらの資料の科学分析を行ったのでその結果を報告する。

さらに、24 年度に分析した川寺遺跡出土遺物¹⁾、25 年度に分析した川尻遺跡出土遺物、26 年度に分析した川寺・中増遺跡出土遺物さらに 27 年度に分析した上才遺跡出土遺物とも比較した。



第 138 図 分析資料

2. 分析試料

分析試料は小破片から比較的健全であると見られる部分を探取し分析用に用いた。

同時に標準琥珀として、久慈市、いわき市、銚子市、瑞浪市から出した資料から分析試料を採取し、同様の条件・方法で分析し、結果を比較した。さらに近年採取・分析された標準資料(奈義町、高梁市、三次市産)についても同様に比較した²⁾。

3. 分析方法および条件

分析装置は全反射フーリエ変換赤外分光(以下 ATR-FTIR)光度計 (SENSIR TECHNOLOGIES 製

Travel IR)と熱分析(以下 TGA・DTA)装置(㈱島津製作所製 DTG-60)を使用した。

ATR-FTIR では、試料に赤外線を照射することにより得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定することができる。主に有機物の分子構造を解析する手段として用いられることが多く、琥珀を形成する樹脂の種類など植物の種類によって分子構造が異なると考えられる。そのため、産地によってスペクトルに差が生じ、それを利用して産地推定に応用してきた^{3) 4) 5)}。

TGA・DTA は試料に熱を加え、得られる質量変化から気化や熱分解などの現象を知ることができる熱重量測定(TGA)と、試料の融解などの状態の変化や化学反応の温度を知ることができる示差熱分析(DTA)があり、これらから試料の熱に対する挙動を調べることができる。

ATR-FTIR 測定は破片から極微量(約 0.1~0.3mg)の試料を採取しそのまま測定部に置き、検出器に DLATGS を用い、分解能 4 cm⁻¹ で測定した。また、TGA・DTA は試料の碎片(約 1mg)をアルミニウムセルに入れ、200ml/分の流量の窒素ガスを流しながら 10°C/分で昇温させ、その時の重量変化と熱量変化を測定した。

4. 結果および考察

ATR-FTIR と TGA・DTA は有機化合物の分子構造を反映するため、劣化によりその構造が変化すると、本来のスペクトルや挙動には異なる結果となる場合がある。特に劣化が激しいと、ATR-FTIR では全体的に吸収はブロードとなり特徴的な吸収が消失し、新たに異なった位置にピークが表れることがある。また、TGA・DTA は低温度から重量減少が始まり、分解温度も低温化する。そのため琥珀であるかどうかの判断および产地推定は、できるだけ健全な部分を選んで分析を行った。

その結果、ATR-FTIR による 2 回の分析ではいずれもほぼ同じ位置に吸収ピークを示し、スペクトルの 3500~2800cm⁻¹、1500~800cm⁻¹ 付近の吸収位置や強度より琥珀やコバール樹脂のような樹脂様の有機物であることが確認できた(第 139 図)。なお、今回もできるだけ健全な部分から試料を採取して分析を実施したが 3500 cm⁻¹ および 1000 cm⁻¹ 付近の吸収が強いこと、1700 cm⁻¹ 付近の吸収がブロードであることなどから劣

化が進行している可能性が高いと思われた。次に指紋領域と呼ばれる有機化合物を同定する際の目安となる $1300\text{~}750\text{cm}^{-1}$ 付近のスペクトルの吸収位置および強度と、产地の判断している標準琥珀から得られたスペクトルとを比較し、产地推定を試みた(第139・140・141図)。本資料は劣化の影響であると推測しているが、指紋領域内の $1000\text{~}1000\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収強度が増加し、产地を判断するための目安となる吸収の一部が隠れてしまい確認できなかつた。しかし、国内の主産地である久慈市、いわき市、銚子市、瑞浪市、また近年確認された奈義町、高梁市、三次市産のスペクトルと比較した結果、 $1250\text{~}850\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収位置と強度が瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市産に比較的近いスペクトルであることがわかつた。さらに近隣に位置する川寺遺跡、川尻遺跡、中増遺跡、上才遺跡と比較した結果、ほぼ近似したスペクトルが得られ、これら全ての遺物は同一の分子構造を持つものであると推測された(第141図)。以上の結果と、これまで発表された文献を参考に外国産、および国内産の分析結果もあわせて検討したが瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市産以外のスペクトルと近似する結果は確認できなかつた。今回報告した瑞浪市産を含め奈義町、高梁市、三次市産と同様の分子構造を持つと推定される琥珀は同じ地質年代の地層中に存在し、由来する植物が同じであると考えられる。この地層は国内の各地で確認され、まだ琥珀が発見されていない産地や現在では消滅し確認できない産地の存在も考えられ。今回分析した産地のいずれの産地であるかは特定できなかつた。

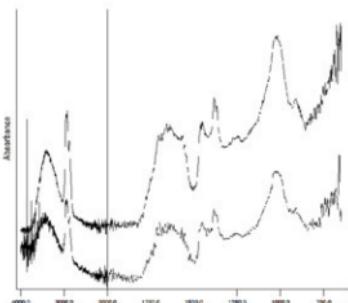
次に、TGA-DTAの結果と標準琥珀と比較した結果、久慈市、いわき市、銚子市産の琥珀より低い温度で分解し、半化石樹脂(コバール樹脂)の分解温度や半動に類似していることがわかつた(第142・143図)。また、この結果はATR-FTIRと同様に瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市産琥珀および喜界町内の遺跡出土遺物と非常に良く似たものであった(第144・145図)。これらの地域の地層は全て前・中紀中新世に属し、年代的にはばかり新いため、高分子化が進んでいたコバール樹脂とよく似た性質を持つと考えられる。また、これらの琥珀は有機溶媒(アセトン、エタノールなど)にはほぼ溶解し、性質から分類するとコバールに近いと考えられるが、国内では琥珀と認識されており、出土品では古墳時代の琥珀製品が瑞浪産であるとの分析結果も報告されている^⑩。以上の結果よりこれら喜界町内の5遺跡出土遺物の分子構造は同じである可能性が高いと考えられた。

以上、ATR-FTIR、TGA-DTAの結果より今回の分析対象遺物は、現時点では瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市産と同じ分子構造をもつと推定した。ただ、これまでには瑞浪市以外の产地の報告例がなく产地推定は瑞浪市産の琥珀と同じ分子構造を持つと報告してきたが、今後は瑞浪市も含め同じ地質時代に含まれる琥珀であれば同様の結果が得られる可能性が高く、それらの中のいざれの产地であるかを特定することは非常に難しがなつたと考えられる。

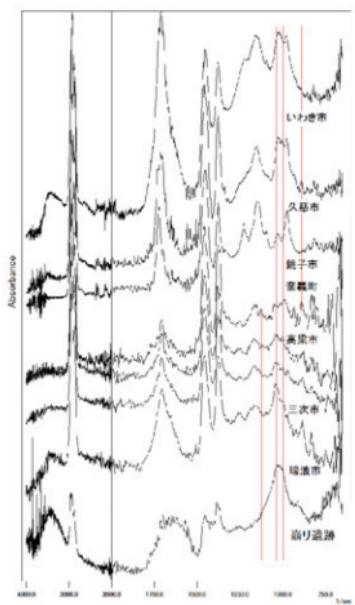
5. さいごに

出土琥珀は劣化状態が様々でそれによってATR-FTIR や TGA-DTA による分析結果が異なることがある。今回の分析資料は劣化が進行しており ATR-FTIR では吸収位置や強度が幾分異なった結果となつたが、TGA-DTA の結果と合わせて瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市産琥珀と同じ分子構造を持つ可能性が高いことが確認できた。これまで分析した喜界町内出土遺物は全て同じ分子構造を持つと推定でき、今回報告した产地のいざれか、あるいはこれらと同じ年代の琥珀が含まれる地層が存在する地域が产地である可能性が高くなる結果となつた。

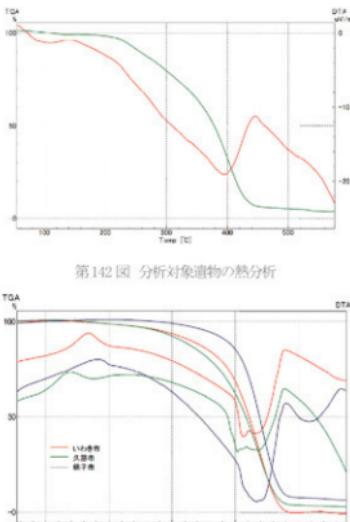
产地の標準琥珀については様々な分析方法による多くの基礎データが揃っており、比較検討できる環境は整ってきた。一方、少量産地は科学分析がほとんど行なわれていないことも多く、今回の資料をもつていった地域やまだ発見されていない琥珀産地、あるいはすでに消滅した産地である可能性は否定できない。今後、分析が実施されていない产地の琥珀については基礎データを収集し、さらにこれまでに行ってきた分析方法以外に新たな方法も導入することで产地の特定に繋げていきたい。



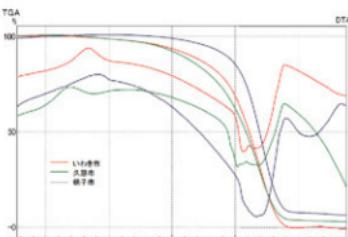
第139図 分析対象遺物の赤外吸収スペクトル



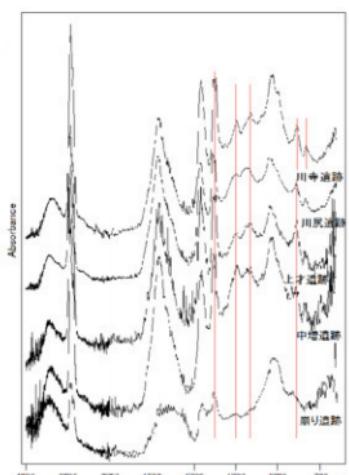
第140図 標準琥珀と分析対象遺物の赤外吸収スペクトル



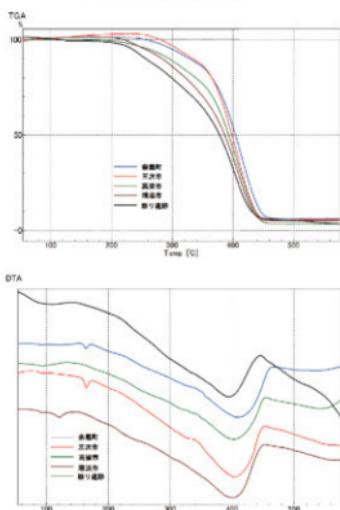
第142図 分析対象遺物の熱分析



第143図 標準琥珀の熱分析

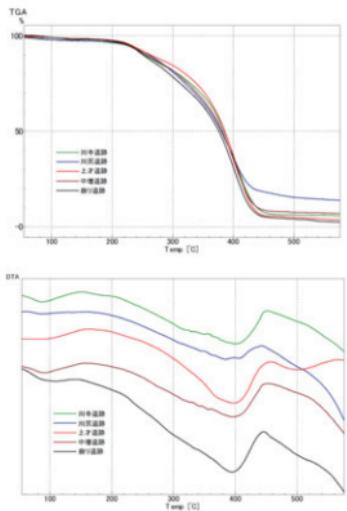


第141図 喜界町出土遺物の赤外吸収スペクトル



第144図 標準琥珀と分析対象遺物の熱分析

(上:TGA 下:DTA)



第145図 喜界町内遺跡出土遺物の熱分析
(上:TGA 下:DTA)

参考文献

- 1) 植田直見、渡邊綏子、澄田直敏、日本文化財科学会第31回大会講演要旨集、214(2014)
- 2) 水村直人、植田直見、青谷上寺地遺跡出土の琥珀、青谷上寺地遺跡出土調査報告書 11 石器(2)、170 (2016)
- 3) 室賀照子、赤外吸収スペクトルによる琥珀の産地分析、考古学と自然科学、第9号、59(1976)
- 4) 植田直見、銚子産琥珀の赤外分光分析、こはく、第4号、15(2002)
- 5) 植田直見、いわき地方産琥珀の科学分析、こはく、第5号、13(2004)
- 6) 室賀照子、奈良県曾我遺跡および御坊山古墳出土琥珀の産地同定(第1報)、研究記要、由良大和古代文化研究協会、第1集、111(1988)

(文責) 植田直見

(3) 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹

小林紘一・Zaur Lomtatidze・小林克也

1.はじめに

鹿児島県大島郡喜界町の手久津久集落付近に位置する、崩リ遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて樹種同定が行われている（樹種同定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、J・K-2 区の SH12 から 1 点（サンプル①：PLD-29671）、K-2 区の SH14 から 1 点、（サンプル②：PLD-29672）、K-2 区の SH05 から 1 点（サンプル③：PLD-29673）、P-18 区の SK10 から 1 点（サンプル④：PLD-29674）の、計 4 点の出土炭化材である。いずれの試料でも、最終形成年輪は残っていないかった。時期については、SH12、SH14、SH05 は縄文時代後期頃と考えられ、SK10 は縄文時代後期～晩期頃と考えられている。測定試料の情報、調製データは第 109 表のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンバクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

第 110 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{14}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って

第 109 表 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-29671	調査区：J・K-2 区 遺構：SH12 層位：床面 試料 No.：サンプル①	種類：炭化材（ツツジ属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 醸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-29672	調査区：K-2 区 遺構：SH14 層位：床面 試料 No.：サンプル② その他：ドット No.74	種類：炭化材（イヌノキ） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 醸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-29673	調査区：K-2 区 遺構：SH05 層位：埴層 試料 No.：サンプル③ その他：ドット No.201	種類：炭化材（ツツジ属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 醸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-29674	調査区：P-18 区 遺構：SK10 層位：Ⅲ層 試料 No.：サンプル④	種類：炭化材（クスノキ科） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 醸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）

代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。

4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正および曆年較正を行った。なお、曆年代と縄文土器との対応については、小林（2008）、工藤（2012）、前迫（2008）、水之江（2008）を参照した。

SH12 のサンプル①（PLD-29671）は、¹⁴C 年代が 3565 ± 20 ¹⁴C BP、 2σ 曆年代範囲（確率 95.4%）が 2011–2000 cal BC(1.4%)、1977–1877 cal BC(90.8%)、1840–1826 cal BC(2.3%)、1792–1785 cal BC(0.9%)であった。また SH14 のサンプル②（PLD-29672）は、¹⁴C 年代が 3535 ± 20 ¹⁴C BP、 2σ 曆年代範囲が 1937–1864 cal BC(50.7%) および 1850–1773 cal BC(44.7%) であった。これは、縄文時代後期前葉へ中葉に相当する。SH12、SH13 は縄文時代後期と考えられており、測定結果と整合的であった。

SH05 の試料 No. 3（PLD-29673）は、¹⁴C 年代が 3940 ± 20 ¹⁴C BP、 2σ 曆年代範囲が 2557–2537 cal BC(2.7%) および 2491–2343 cal BC(92.7%) であった。これらは、縄文時代後期初頭に相当する。SH05 は縄文時代後期と考えられており、測定結果と整合的であった。

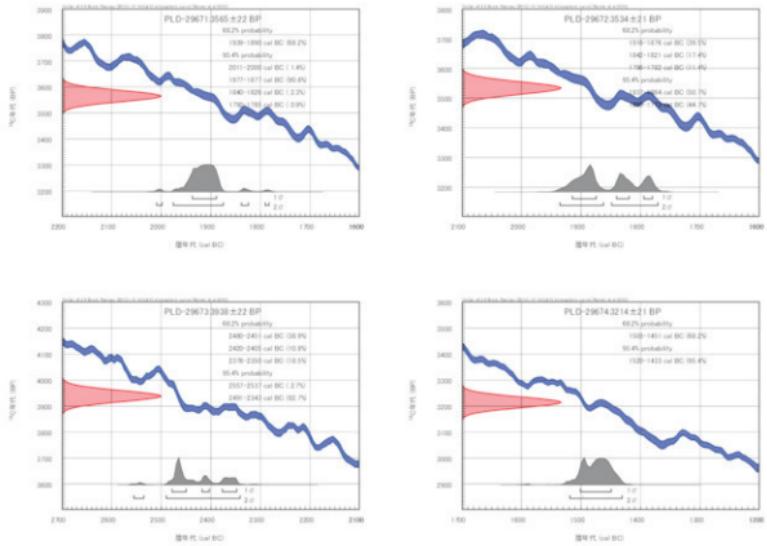
SK10 の試料 No. 4（PLD-29674）は、¹⁴C 年代が 3215 ± 20 ¹⁴C BP、 2σ 曆年代範囲が 1520–1433 cal BC(95.4%) であった。これは、縄文時代後期後葉に相当する。SK10 は縄文時代後期へ晚期以前と考えられていたが、測定によって縄文時代後期後葉であると、時期の絞り込みができた。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337–360.
- 工藤雄一郎 (2012) 旧石器・縄文時代の環境文化史. 373p, 新泉社.
- 小林謙一 (2008) 縄文時代の曆年代. 小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学 2 歴史のものさし」: 257–269, 同成社.
- 前迫亮一 (2008) 市来式土器. 小林達雄編「総覧 縄文土器」: 674–681, アム・プロモーション.
- 水之江和同 (2008) 九州磨削縄文系土器. 小林達雄編「総覧 縄文土器」: 666–673, アム・プロモーション.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」: 3–20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869–1887.

第 110 表 放射性炭素年代測定および曆年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	曆年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C 年代を曆年代に較正した年代範囲	
				1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲
PLD-29671 SH12 サンプル①	-26.65 \pm 0.17	3565 \pm 22	3565 \pm 20	1939–1890 cal BC (68.2%)	2011–2000 cal BC (1.4%) 1977–1877 cal BC (90.8%) 1840–1826 cal BC (2.3%) 1792–1785 cal BC (0.9%)
PLD-29672 SH14 サンプル②	-26.70 \pm 0.16	3534 \pm 21	3535 \pm 20	1916–1876 cal BC (39.5%) 1842–1821 cal BC (17.4%) 1796–1782 cal BC (11.4%)	1937–1864 cal BC (50.7%) 1850–1773 cal BC (44.7%)
PLD-29673 SH05 サンプル③	-27.01 \pm 0.19	3938 \pm 22	3940 \pm 20	2480–2451 cal BC (38.9%) 2420–2405 cal BC (10.8%) 2378–2350 cal BC (18.5%)	2557–2537 cal BC (2.7%) 2491–2343 cal BC (92.7%)
PLD-29674 SK10 サンプル④	-27.58 \pm 0.19	3214 \pm 21	3215 \pm 20	1503–1451 cal BC (68.2%)	1520–1433 cal BC (95.4%)



第146図 历年較正結果

崩り遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1.はじめに

喜界島西南部の河岸段丘上に立地する崩り遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定が行なっている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、J・K-2 区の SH12（サンプル①）、K-2 区の SH14（サンプル②）と SH05（サンプル③）、P-18 区の土坑である SK10（サンプル④）から出土した炭化材計 4 点である。時期については、サンプル③は縄文時代後期初頭、サンプル①と②は縄文時代後期前葉～中葉、サンプル④は縄文時代後期後葉であった。

炭化材の樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接觸面（板目）、放射断面（極目）について、カミソリと手で削断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子（株）製 JSM-5900LV）にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、広葉樹のツツジ属が 2 点、クスノキ科とイスノキが各 1 点みられた。同定結果を表 1 に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、第 147 図に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1)クスノキ科 Lauraceae 第 147 図 1a-1c(No.4)

小型の道管が單独ないし 2~3 個複合し、やや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は周開状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織が異性で、1~2 列となる。木部組織内には、油細胞が認められる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属などがあり、暖帯を中心に分布する、主に常緑性の高木または低木である。

(2)イスノキ Distylium racemosum Siebold et Zucc. マンサク科 第 147 図 2a-2c(No.2)

小型の道管が単独でやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は 1~3 列程度の帶状となる。道管は単穿孔を有

する。放射組織は上下端 1~3 列が方形ないし立方となる異性で、1~2 列となる。放射組織の單列部と多列部は、同じ大きさになる。

イスノキは本州の東海や南近畿、山陽の本州南部、四国、九州などの温帯中南部に分布する、常緑高木の広葉樹である。材は非常に重硬で強度が大きく、切削加工等は困難で割れにくい。

(3)ツツジ属 Rhododendron ツツジ科 第 147 図 3a-3d(No.1)

小型の道管が単独で密に散在する散孔材である。道管は 10~20 度程度の斜穿孔となり、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端 1~4 列が直立する異性で、幅 1~5 列となる。單列の放射組織は、レンズ状となる。

ツツジ属にはヤマツツジやサツキなどがあり、代表的のヤマツツジは北海道南部、本州、四国、九州に生育する、高さ 1~5m になる半落葉低木の広葉樹である。材は堅くて緻密で、ねばり強い。

4. 考察

SH12 の炭化材と SH05 の炭化材は、共にツツジ属であった。また SH14 の炭化材は、イスノキであった。いずれも焼けた建築材や燃料材の残渣であったと考えられるが、詳細は不明である。イスノキとツツジ属は、ともに堅硬な樹種であるが、燃料材としては頗るには利用されていない（伊東ほか、2011）。堅硬な樹種を伐採利用していたと考えられる。

土坑である SK10 の用途不明の炭化材は、クスノキ科であった。クスノキ科は堅軟へやや堅硬と、材質の幅が広い樹種であるが、現在でも器具材や建築材のほか、薪炭材としても利用される樹種である（平井、1996）。

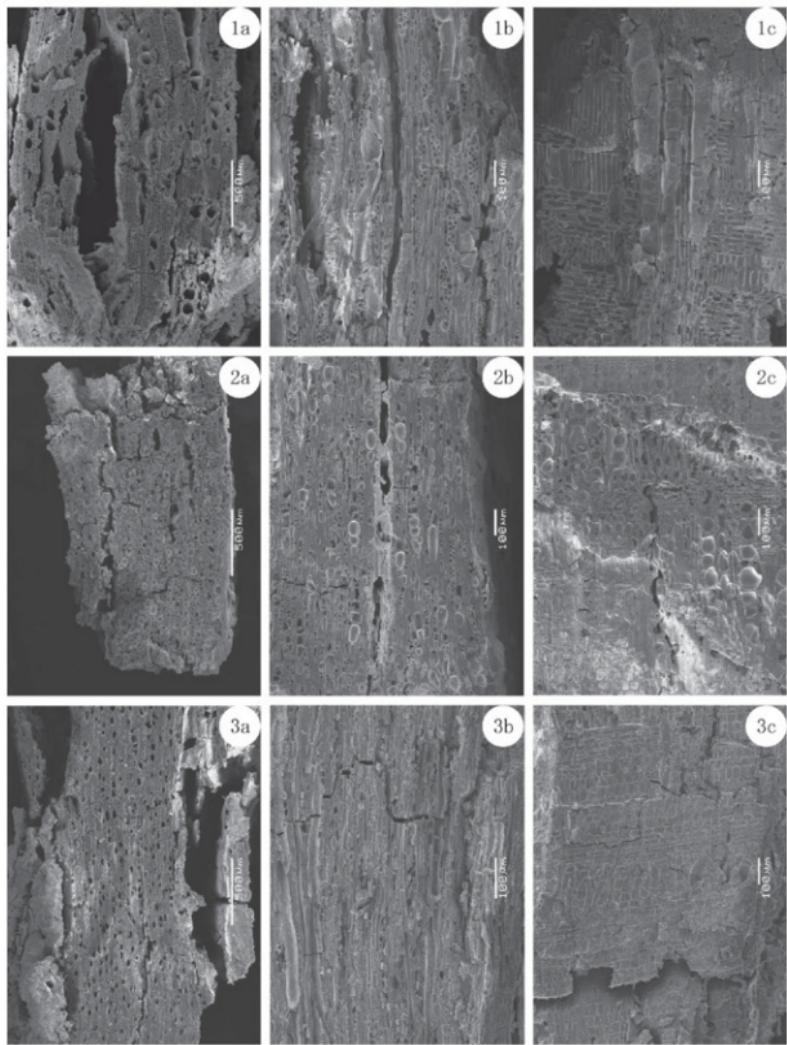
またクスノキ科とイスノキ、ツツジ属は、いずれも遺跡周辺に普遍的に生育する樹種である（平井、1996）。よってこれらの樹種は、遺跡周辺に生育していた樹種を伐採利用していく可能性が考えられる。

引用・参考文献

- 平井信二（1996）木の大百科一解説編一、642p、朝倉書店。
伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内浦泰弘・山口和恵（2011）
日本有用樹木誌、238p、海青社。

第 111 表 出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料 No.	取上 No.	地区	遺構	層位	樹種	木取り	年代測定番号
サンプル①	-	J・K-2 区	SH12	床面	ツツジ属	割れ	PLD-29671
サンプル②	74	K-2 区	SH14	床面	イスノキ	割れ	PLD-29672
サンプル③	201	K-2 区	SH05	VII 層	ツツジ属	割れ	PLD-29673
サンプル④	-	P-18 区	SK10	III 層	クスノキ科	割れ	PLD-29674



第147図 崩り遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. クスノキ科 (No. 4)、2a-2c. イスノキ (No. 2)、3a-3c. ツツジ属 (No. 1)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

喜界町埋蔵文化財発掘報告書（16）

—遺跡総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴う埋蔵文化財発掘報告書—

崩り遺跡Ⅰ 第1分冊

発行日 2018年1月22日

編集・発行 喜界町教育委員会
〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746

印刷 株式会社 銀座コーポレーション
〒891-6201 鹿児島県大島郡喜界町赤連 2650-1